

令和5年度

宮古市総合計画策定に係る市民意識調査業務

令和5年11月
(株) 邑計画事務所

目次

第1章 調査の概要	1
1 調査の目的.....	1
2 調査の方法.....	1
3 回答結果.....	1
4 報告書の見方.....	2
第2章 回答者の属性	3
第3章 調査結果の分析	7
1 身近な生活環境への評価.....	7
(1) 生活環境に対する満足度.....	8
(2) 年代別にみた生活環境に対する満足度.....	13
(3) 地区別にみた生活環境に対する満足度.....	16
(4) 生活環境に対する必要度.....	19
(5) 年代別にみた生活環境に対する必要度.....	24
(6) 地区別にみた生活環境に対する必要度.....	27
(7) 行政施策の類型化.....	30
(8) 地域への愛着度.....	34
(9) 市への愛着度.....	36
(10) 定住意向.....	38
(11) くらしやすさについて.....	40
(12) くらしやすさの時系列比較.....	43
2 地域や社会とのかかわりに対する意識.....	45
(1) 地域や社会への参加意識.....	45
(2) 年代別にみた地域や社会への参加意識.....	46
(3) 地区別にみた地域や社会への参加意識.....	48
(4) 社会活動への参加状況.....	50
(5) 年代別にみた社会活動への参加状況.....	51
(6) 地区別にみた社会活動への参加状況.....	55
(7) 社会活動への関心と参加意向.....	59
(8) 年代別にみた社会活動への参加意向.....	60
(9) 地区別にみた社会活動への参加意向.....	64
(10) 近所付き合いの状況.....	68
(11) 住みよい地域社会を実現していくうえでの問題点.....	71
(12) 災害における避難時の心配事.....	74
3 行政への関心と行政サービス.....	76
(1) 施政への関心度.....	76
(2) 広報紙「広報みやこ」の利用状況.....	78
(3) 広報紙の内容についての意見.....	79
(4) 市のホームページや公式 SNS の利用状況.....	80
(5) コミュニティエフエム放送（みやこハーバーラジオ）の利用状況.....	94
(6) 行政サービスについての感想.....	95
(7) インターネットの利用.....	96

(8) キャッシュレス決済の利用状況	99
(9) デジタル技術を活用した行政サービス	100
4 今後の宮古市のまちづくり	101
(1) 各種施策に対する意識.....	101
(2) 年代別にみた各種施策に対する意識.....	104
(3) 地区別にみた各種施策に対する意識.....	111
(4) 安全な地域づくり	118
(5) 自宅での防災対策	122
(6) 人口を増やすための取り組み	127
(7) 今後のまちづくりについて	130
第4章 前回調査との比較.....	131
1 身近な生活環境への評価.....	131
(1) 生活環境に対する満足度（分野別・項目別）	131
(2) 生活環境に対する必要度（分野別・項目別）	136
(3) 行政施策の類型化	141
(4) 地域への愛着度	142
(5) 市への愛着度.....	142
(6) 定住意向	143
2 地域や社会とのかかわりに対する意識.....	144
(1) 地域や社会への参加意識.....	144
(2) 社会活動への参加状況.....	145
(3) 社会活動への参加意向.....	146
3 市政への関心と行政サービス.....	147
(1) 市政への関心度	147
(2) 広報紙「広報みやこ」の利用状況.....	147
(3) 行政サービスについての感想	148
(4) インターネットの利用状況	149
(5) インターネットの利用手段.....	149
(6) インターネットを利用しない理由.....	150
(7) 市のホームページの利用状況	150
4 今後の宮古市のまちづくり	151
(1) 各種施策に対する意識.....	151
資料編.....	154

第1章 調査の概要

1 調査の目的

本調査は、令和6年度に予定している宮古市総合計画後期基本計画（2025～2029年度）の策定に係る基礎資料とするため、行政全般及び個々の取組に対する市民の満足度やニーズを把握することを目的として実施する。

2 調査の方法

- (1) 調査実施期間：令和5年9月1日（金）から9月30日（土）
- (2) 調査対象：18歳以上の宮古市民
- (3) 配布数：3,000人
- (4) 抽出方法：住民基本台帳から無作為に抽出
- (5) 調査方法：郵送配布・郵送回答及びWEBによる回答

3 回答結果

有効回答数：1,049件（回答率28.1%（調査票での回答のみ））

【地区別回答結果】

地域	調査票 配布数	回答数		調査票のみ 回答率	
		調査票	WEB		
宮古市	3,000件	1,049件	842件	207件	28.1%
宮古地区	2,550件	789件	622件	167件	24.4%
田老地区	180件	53件	46件	7件	25.6%
新里地区	150件	44件	39件	5件	26.0%
川井地区	120件	35件	33件	2件	27.5%
無回答	—	115件	91件	24件	—
不明	—	13件	11件	2件	—

※調査項目「Q4住まいの地区」に対する回答により、旧市町村の区域ごとに集計した。

4 報告書の見方

- ①集計は、小数点以下第2位を四捨五入している。従って、回答比率の合計は必ずしも100%にならない場合がある。
- ②2つ以上の回答（複数回答）を要する質問の場合、その回答比率の合計は100%を超える場合がある。
- ③図表中においては、見やすさを考慮し、回答割合が極端に少ない数値（例：0.0%、0.1%など）は、図中標記から割愛している場合がある。
- ④自由記述の集計においては、1つの意見に複数の内容が記述してある場合、それぞれの項目でカウントしている。
- ⑤経年変化の比較として以下の調査結果と比較をする。
・「宮古市市民意識調査（平成30年度）」※本調査結果：今回調査（R5）
- ⑥身近な生活環境に対する満足度と必要度の評価を行うため、問1における回答を点数化している。点数化の方法は、選択肢毎にウエイトを設定し、回答数にウエイトを乗じることを基本としている。また、得点の評価を100点満点とするため、乗じた値の合計値を全回答数で割っている。

選択肢	ウエイト
満足している	100
必要である	100
まあ満足している	75
どちらともいえない	50
上記以外	0

点数化の例)

以下のような回答があった場合

選択肢	ウエイト
満足している	476
まあ満足している	432
どちらともいえない	98
あまり満足していない	27
満足していない	12
無回答	28
合計	1,073

点数→ $476 \times 100 = 47,600$

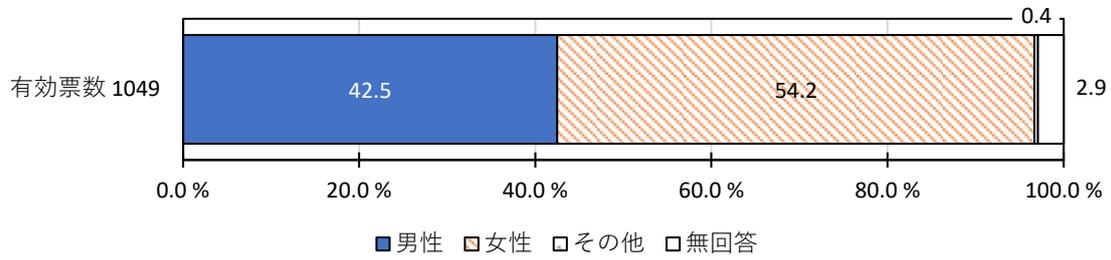
点数→ $432 \times 75 = 32,400$

点数→ $98 \times 50 = 4,900$

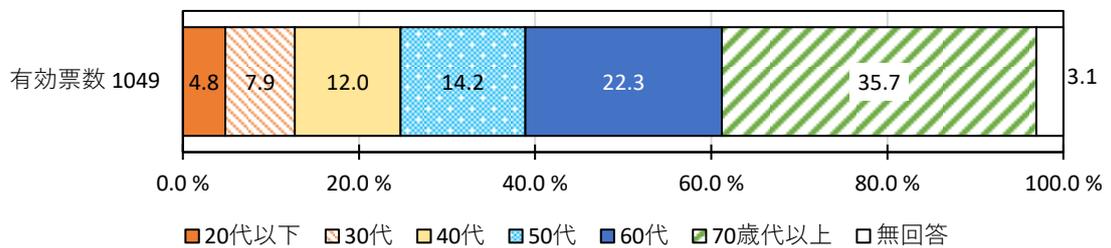
評価点 = $(47,600 + 32,400 + 4,900) \div 1,073$
 $= 84,900 \div 1,073$
 $= 79.1$

第2章 回答者の属性

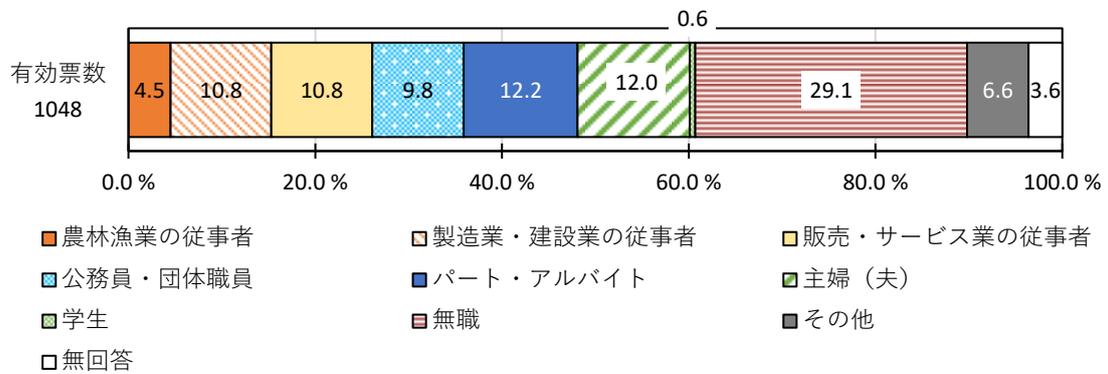
■ 性別



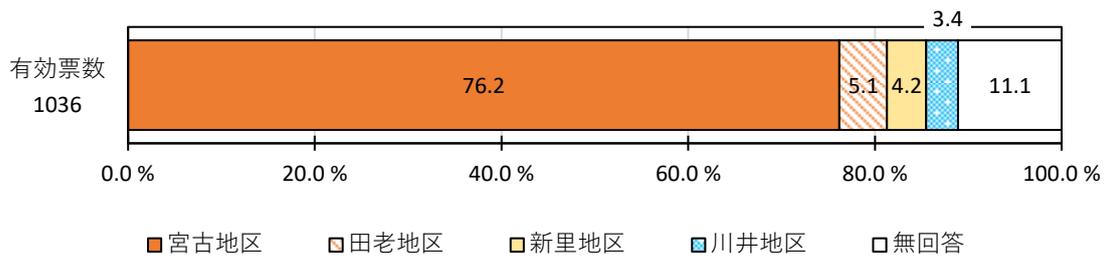
■ 年齢



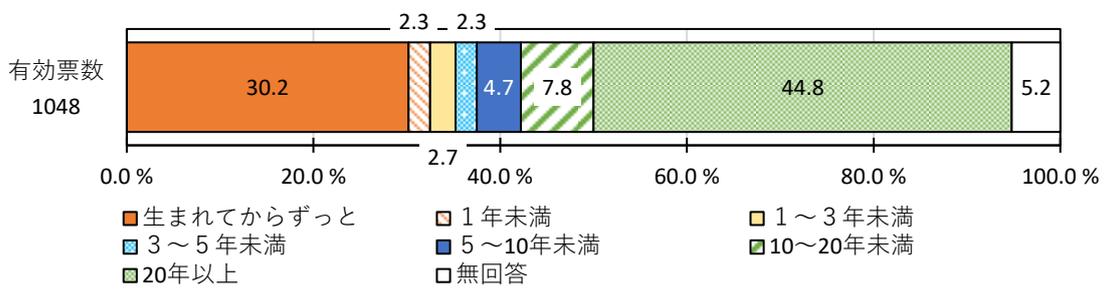
■ 職業



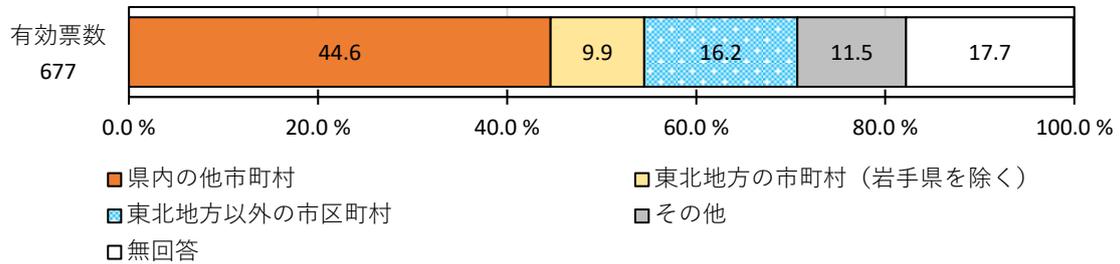
■ 地域



■ 居住年数

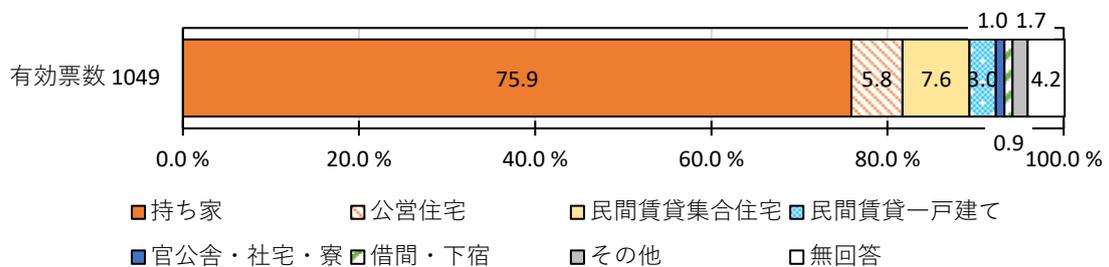


■ 前居住地

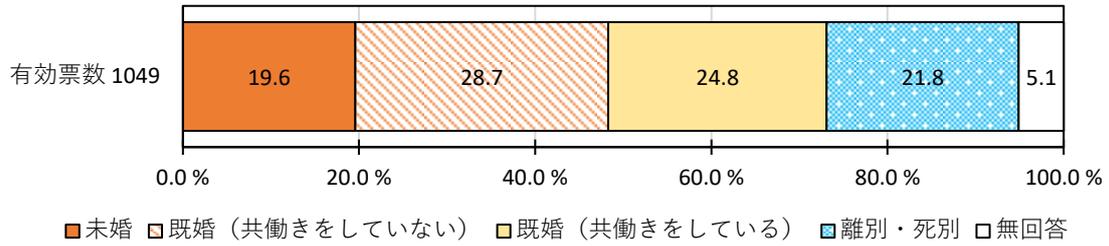


※2.5 居住年数で「生まれてからずっと」「無回答」以外を回答した方を対象。

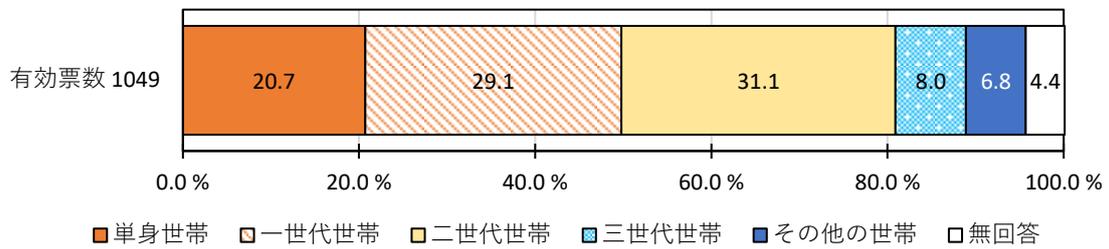
■ 住居形態



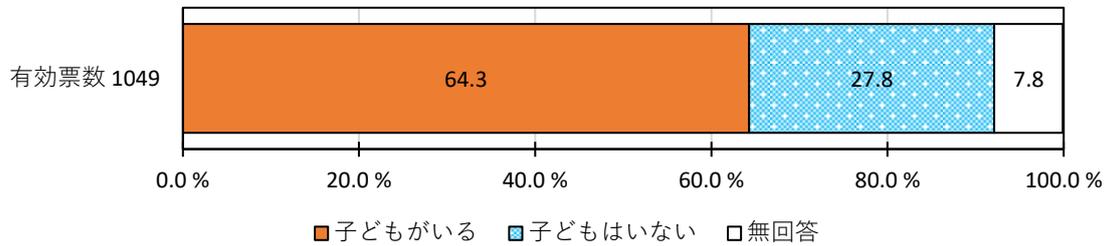
■ 婚姻状況



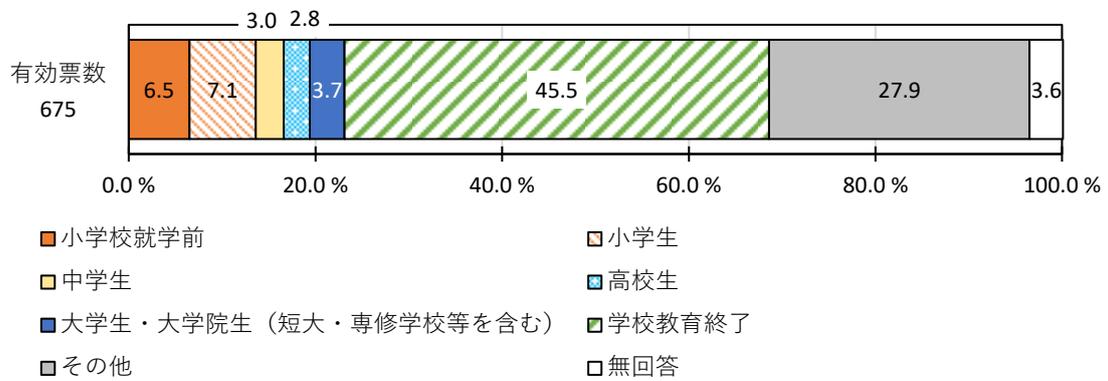
■ 家族構成



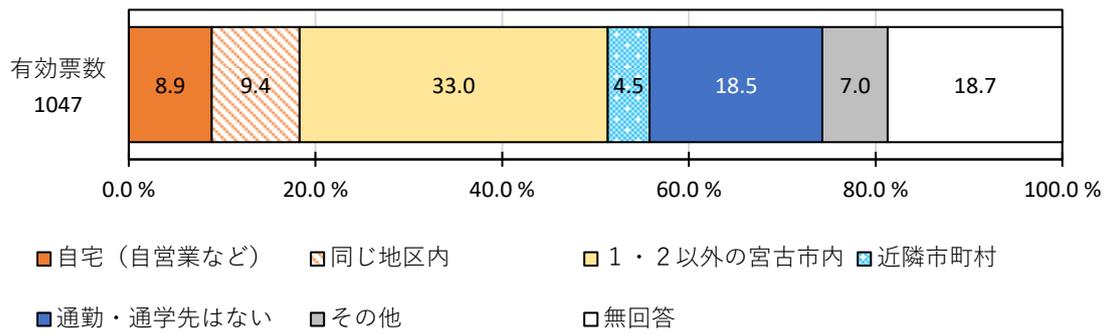
■ 子どもの有無



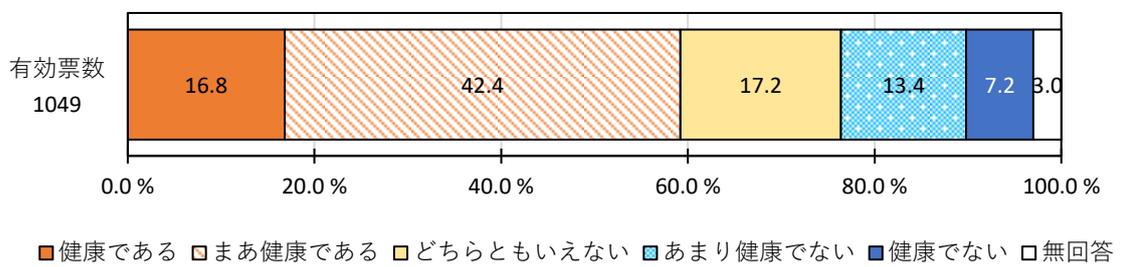
■ 子どもの就学状況



■ 通勤・通学先



■ 健康状況



第3章 調査結果の分析

1 身近な生活環境への評価

市で現在展開している各種の施策が、市民生活の中でどの程度「満足されているか」、また、市民生活にとってどの程度「必要とされているか」を知るため、具体的に63の項目を提示し、その各々について「日頃の生活の中でどのように感じているか」（満足度）を5段階評価で、「あなた自身の生活にとってどの程度必要なことか」（必要度）を3段階評価の形式で聞いた。

結果の分析に関しては、満足度や必要度を項目間で比較するために、回答を点数化（100点満点）した。点数化の方法については、「第1章調査の概要」における報告書の見方を参照のこと。

なお、提示している63の施策項目は大きく分けて5つの分野からなり、分野の内訳は「自然・都市環境」に関するもの10項目、「教育・文化」に関するもの10項目、「福祉・健康」に関するもの12項目、「産業・就労」に関するもの14項目、「基盤整備」に関するもの17項目である。

分野・項目一覧

分野	項目	分野	項目
自然・都市環境	海や山などの恵まれた自然環境	産業 就 労	魅力的な商業ゾーンである末広町、中央通などの地元商店街
	自然に親しみ学ぶことのできる機会や場所		賑わいのある商業ゾーンである小山田や宮町、長町などの沿道沿い
	親しみがもてるまちの雰囲気		娯楽やレジャー施設
	人情味や人とのふれあい		おいしい店や楽しく飲食できる店
	気軽に散歩やサイクリングを楽しめる環境		食品や日用品などの買い物のしやすさ
	ごみやし尿の収集処理の状況		魅力ある観光スポットや特産品
	ごみの分別収集やリサイクルの状況		魅力ある伝統文化や文化財
	清掃や環境美化が行き届いた清潔感のあるまち		新しい産業や創造的な企業が生まれる土壌
きれいで親しみがもてる河川	パートやアルバイトを含めた多様な就労の場		
公害の少なさ	担い手が多く、盛んな農業		
教育・文化	気軽に、自由な学習や文化活動が行える機会や場所		担い手が多く、盛んな林業
	様々な芸術・文化や歴史的資産に触れられる機会や場所		担い手が多く、盛んな水産業
	身体を動かしたりスポーツができたりする場所		魚価の安定や消費拡大のための対策
	地域の集会施設の整備状況		多くの市民の就労の場となり、盛んな工業
	自主的な活動を行う機会や場所	様々なことに有効活用されている港湾	
	青少年をのびのびとすこやかに育む環境	宮古駅周辺における生活に必要な施設や機能の充実	
	学校における整った教育環境	鉄道・バスなどの公共交通が利用しやすい環境	
	充実した情操教育	国道や県道などの幹線道路の整備状況	
福祉・健康	市民に開放された学校	幹線となる市道の整備状況	
	国際化の理解活動（学習、交流、定住者支援など）の状況	身近な生活道路の整備状況	
	生活上の課題を相談できる機会や場所	駐輪・駐車場の整備状況	
	必要ときに手助けをしてもらえる環境	公園・緑地などの整備・保全状況	
	高齢者に対する在宅サービス制度	公営住宅の整備状況	
	老人ホームなどの介護施設の整備状況	年をとっても安心して住める住まい	
	障がい者が社会参加しやすい環境	身近な情報や知りたい情報を入手する手段の豊富さ	
	保育園や幼稚園などの整備状況	適切な場所に設置された行政サービスの窓口	
	子どもを預けたいときに預けられる場所（保育園など）	民間・行政における市外他地域との盛んな交流活動	
	育児に関する悩みや不安を相談できる機会や場所	火災に対する消防体制	
	住民同士のつながりが広がる機会や場所	災害時に必要な情報が入手できる手段（防災行政無線など）	
	救急の場合も安心して利用できる医療機関	適切に指定された災害時の避難所・避難場所	
市民の健康づくりに対する活発な取り組み	自然災害（土砂崩れ・洪水・津波など）に対する防災体制		
仕事や地域活動などにおける女性の活動しやすさ			

(1) 生活環境に対する満足度

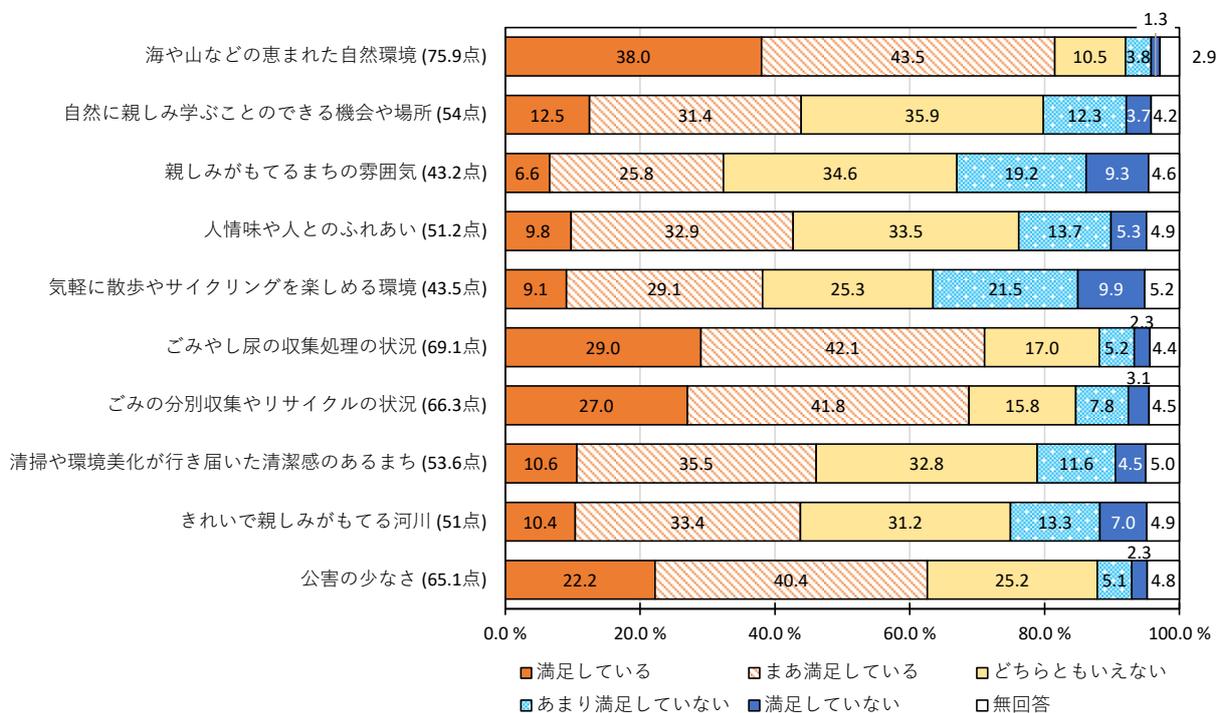
問1 あなたは次のことがらについて、日頃の生活の中でどのように感じていますか。また、あなた自身の生活にとってどの程度必要なことですか。あてはまるところに○をつけてください。(○印はそれぞれ1つずつ)

■「自然・都市環境」の満足度

自然・都市環境における満足度の得点をみると、「海や山などの恵まれた自然環境」が最も高く75.9点となっている。その他の項目で平均点(57.3点)を超えたものは、「ごみやし尿の収集処理の状況」(69.1点)、「ごみの分別収集やリサイクルの状況」(66.3点)、「公害の少なさ」(65.1点)の3項目となった。また、“満足している”と回答された割合の最も高い項目は「海や山などの恵まれた自然環境」の38.0%となったほか、「ごみやし尿の収集処理の状況」(29.0%)、「ごみの分別収集やリサイクルの状況」(27.0%)の順となっている。

一方、“満足していない”と回答された割合の最も高い項目は「気軽に散歩やサイクリングを楽しめる環境」の9.9%となったほか、「親しみがもてるまちの雰囲気」(9.3%)、「きれいで親しみがもてる河川」(7.0%)の順となっている。

<自然・都市環境の満足度>回答数1,049 平均57.3点(前回平均61.2点)

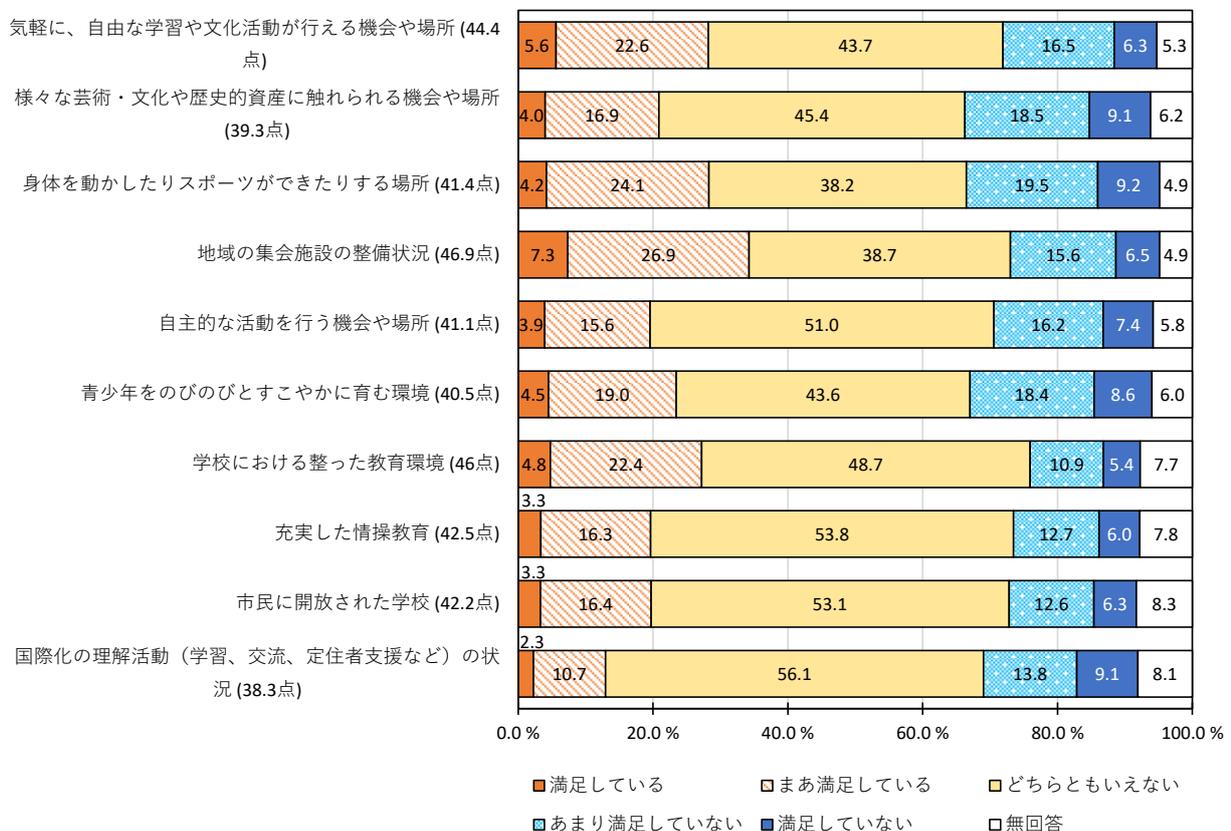


■「教育・文化」の満足度

教育・文化における満足度の得点をみると、「地域の集会施設の整備状況」が最も高く46.9%となっている。その他の項目で平均点（42.3点）をうい超えたものは、「学校における整った教育環境」（46.0%）、「気軽に、自由な学習や文化活動が行える機会や場所」（44.4%）、「充実した情操教育」（42.5%）の3項目となった。また、「満足している」と回答された割合の最も高い項目は「地域の集会施設の整備状況」の7.3%となったほか、「気軽に、自由な学習や文化活動が行える機会や場所」（5.6%）、「学校における整った教育環境」（4.8%）の順となっている。

一方、「満足していない」と回答された割合の最も高い項目は「身体を動かしたりスポーツができたりする場所」の9.2%となったほか、同数で「様々な芸術・文化や歴史的資産に触れられる機会や場所」、「国際化の理解活動（学習、交流、定住者支援など）の状況」（9.1%）の順となっている。

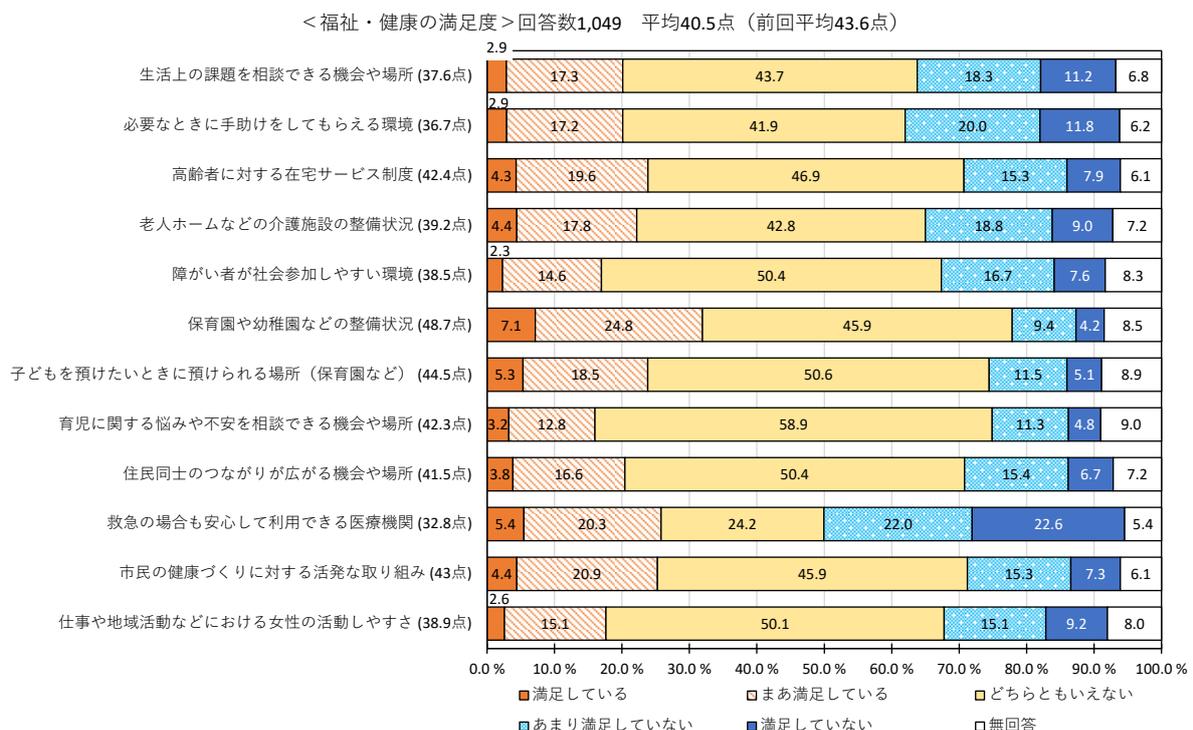
<教育・文化の満足度>回答数1,049 平均42.3点（前回平均44.6点）



■「健康・福祉」の満足度

健康・福祉における満足度の得点を見ると、「保育園や幼稚園などの整備状況」が最も高く48.7点となっている。その他の項目で平均点（40.5点）を超えたものは、「子どもを預けたいときに預けられる場所（保育園など）」（44.5点）、「市民の健康づくりに対する活発な取り組み」（43.0点）、「高齢者に対する在宅サービス制度」（42.4点）、「育児に関する悩みや不安を相談できる機会や場所」（42.3点）、「住民同士のつながりが広がる機会や場所」（41.5点）の5項目となった。また、“満足している”と回答された割合の最も高い項目は「保育園や幼稚園などの整備状況」の7.1%となったほか、「救急の場合も安心して利用できる医療機関」（5.4%）、「子どもを預けたいときに預けられる場所（保育園など）」（5.3%）の順となっている。

一方、“満足していない”と回答された割合の最も高い項目は「救急の場合も安心して利用できる医療機関」の22.6%となったほか、「必要なときに手助けをしてもらえる環境」（11.8%）、「生活上の課題を相談できる機会や場所」（11.2%）の順となっている。

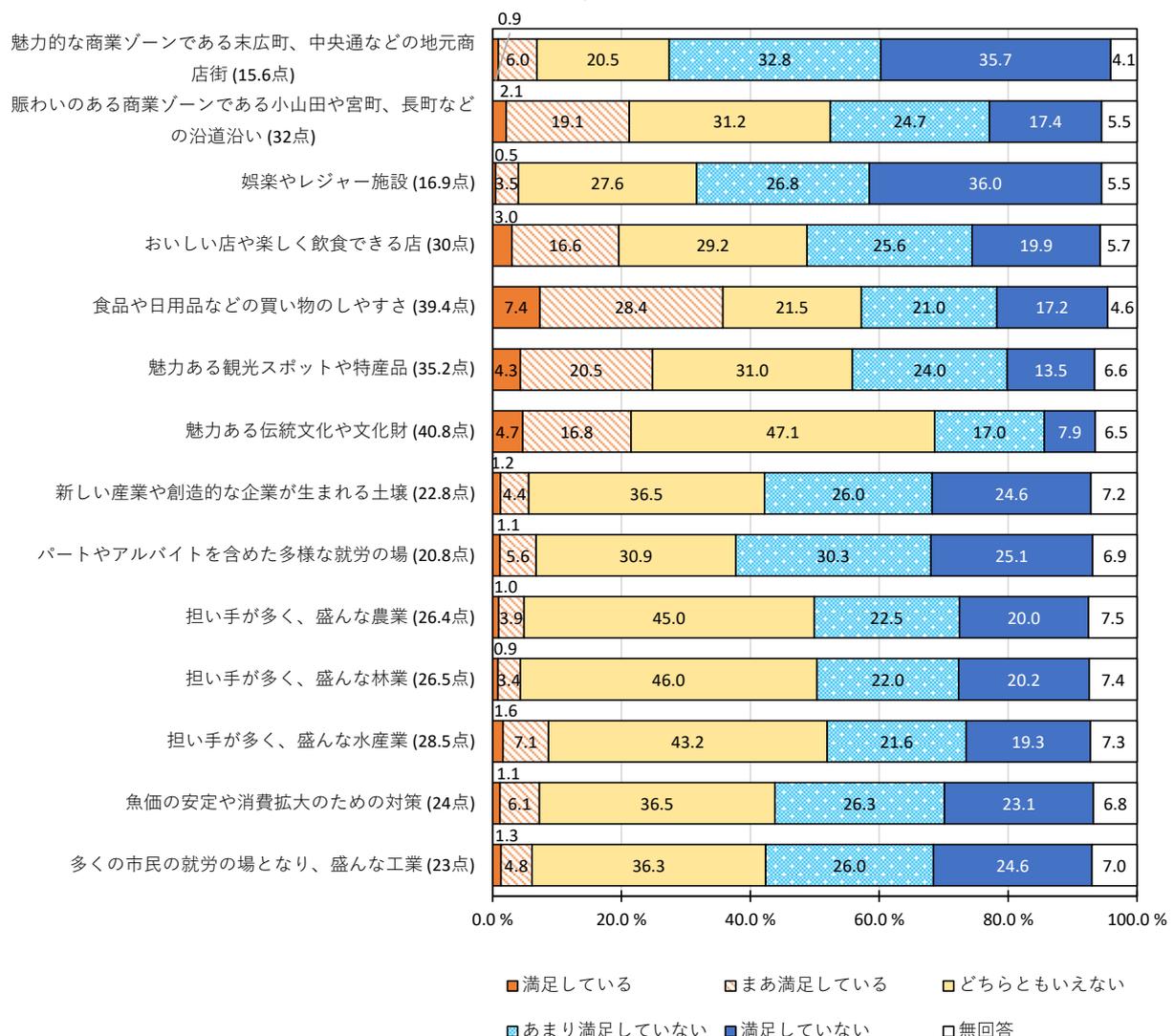


■「産業・就労」の満足度

産業・就労における満足度の得点を見ると、「魅力ある伝統文化や文化財」が最も高く 40.8 点となっている。その他の項目で平均点（27.3 点）を超えたものは、「食品や日用品などの買い物のしやすさ」（39.4 点）、「魅力ある観光スポットや特産品」（35.2 点）、「賑わいのある商業ゾーンである小山田や宮町、長町などの沿道沿い」（32.0 点）、「おいしい店や楽しく飲食できる店」（30.0 点）、「担い手が多く、盛んな水産業」（28.5 点）の 5 項目となった。また、“満足している”と回答された割合の最も高い項目は「食品や日用品などの買い物のしやすさ」の 7.4% となったほか、「魅力ある伝統文化や文化財」（4.7%）、「魅力ある観光スポットや特産品」（4.3%）の順となっている。

一方、“満足していない”と回答された割合の最も高い項目は「娯楽やレジャー施設」の 36.0% となったほか、「魅力的な商業ゾーンである末広町、中央通などの地元商店街」（35.7%）、「パートやアルバイトを含めた多様な就労の場」（25.1%）の順となっている。

<産業・就労の満足度> 回答数1,049 平均27.3点（前回平均28.4点）

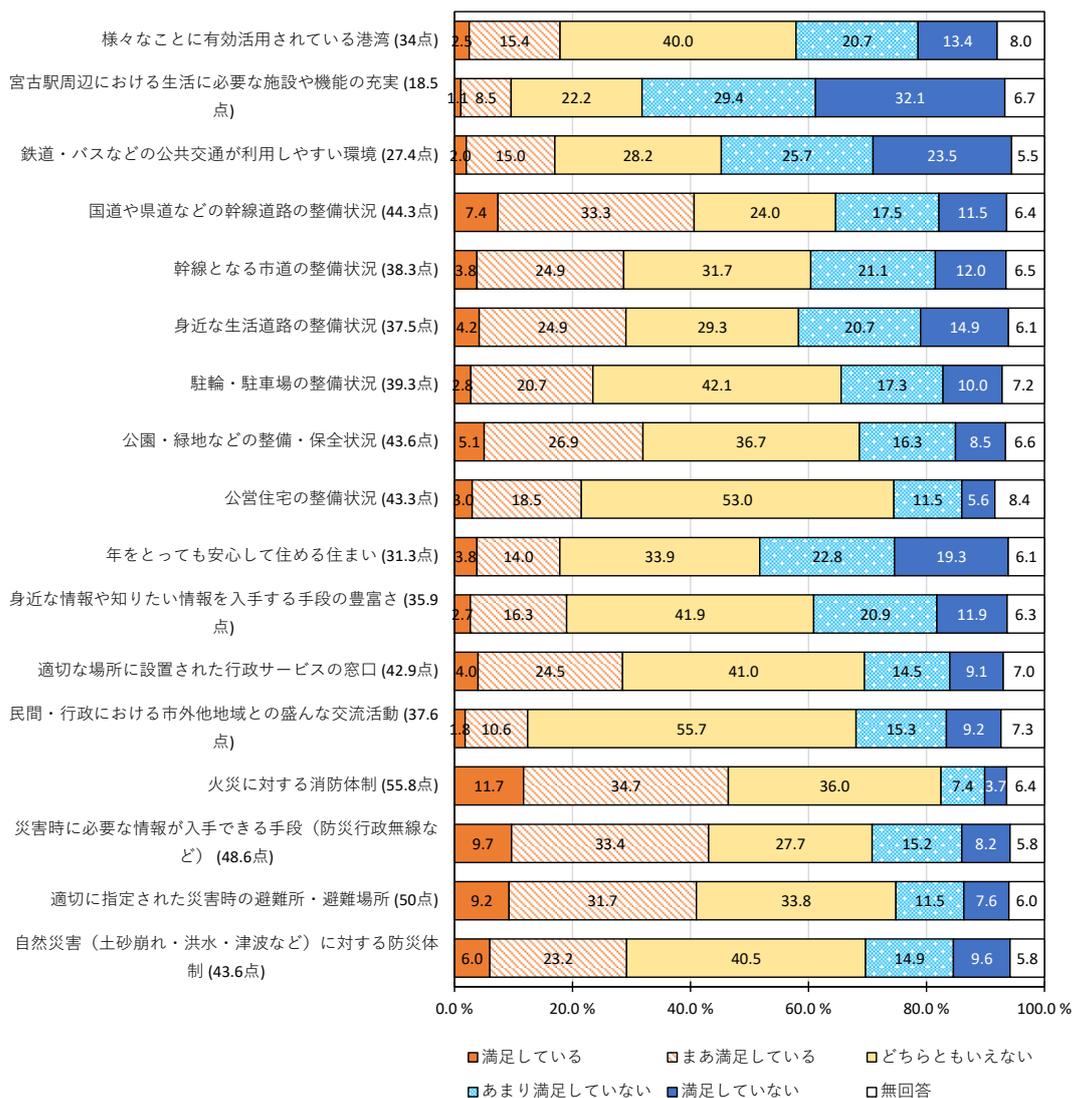


■「基盤整備」の満足度

基盤整備における満足度の得点をみると、「火災に対する消防体制」が最も高く55.8点となっている。その他の項目で平均点(39.5点)を超えたものは、「適切に指定された災害時の避難所・避難場所」(50.0点)、「災害時に必要な情報が入手できる手段(防災行政無線など)」(48.6点)、「国道や県道などの幹線道路の整備状況」(44.3点)、同数で「公園・緑地などの整備・保全状況」(43.6点)、「自然災害(土砂崩れ・洪水・津波など)に対する防災体制」(43.6点)、「公営住宅の整備状況」(43.3点)、「適切な場所に設置された行政サービスの窓口」(42.9点)の7項目となった。また、“満足している”と回答された割合の最も高い項目は「火災に対する消防体制」の11.7%となったほか、「災害時に必要な情報が入手できる手段(防災行政無線など)」(9.7%)、「適切に指定された災害時の避難所・避難場所」(9.2%)の順となっている。

一方、“満足していない”と回答された割合の最も高い項目は「宮古駅周辺における生活に必要な施設や機能の充実」の32.1%となったほか、「鉄道・バスなどの公共交通が利用しやすい環境」(23.5%)、「年をとっても安心して住める住まい」(19.3%)の順となっている。

<基盤整備の満足度> 回答数1,049 平均39.5点(前回平均42.2点)



(2) 年代別にみた生活環境に対する満足度

■ 「自然・都市環境」の満足度

自然・都市環境における満足度の得点を年代別にみると、「海や山などの恵まれた自然環境」がこの分野では最も高い平均点（79.9点）となっている。その内訳は“10・20代”が86.2点で最高点、“40代”が76.4点で最低点となっている。また、平均点の最も低い「親しみもてるまちの雰囲気」（45.9点）は“10・20代”が55.1点で最高点、“60代”が39.1点で最低点となった。

“10・20代”に最高点が多く、“40代”から“60代”に最低点が多かった。

「自然・環境都市」の満足度（年代別）	平均	10・20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
海や山などの恵まれた自然環境	79.9	86.2	78.3	76.4	80.4	76.8	77.0
自然に親しみ学ぶことのできる機会や場所	58.6	64.3	57.2	58.4	55.0	53.2	56.6
親しみもてるまちの雰囲気	45.9	55.1	43.3	42.9	41.2	39.1	50.1
人情味や人とのふれあい	54.7	59.2	50.3	53.0	49.8	50.6	57.6
気軽に散歩やサイクリングを楽しめる環境	47.3	55.6	44.3	38.1	40.1	41.6	52.5
ごみやし尿の収集処理の状況	73.4	79.6	75.6	67.6	70.9	70.5	74.0
ごみの分別収集やリサイクルの状況	69.6	75.0	70.4	66.5	65.2	67.7	71.5
清掃や環境美化が行き届いた清潔感のあるまち	58.6	64.8	57.5	57.3	53.4	55.0	56.1
きれいで親しみもてる河川	56.7	64.8	55.8	52.8	54.7	49.9	53.4
公害の少なさ	69.6	71.9	67.4	68.6	68.6	68.5	67.6
回答数	974	49	83	125	146	229	343
						最高点	最低点

※年代の無回答を除いて集計したため、市の平均点（p.8～11）とは異なる。

■ 「教育・文化」の満足度

教育・文化における満足度の得点を年代別にみると、「学校における整った教育環境」がこの分野では最も高い平均点（49.4点）となっている。その内訳は“70代以上”が52.8点で最高点、“30代”が42.5点で最低点となっている。また、平均点の最も低いのは同点で「様々な芸術・文化や歴史的資産に触れられる機会や場所」・「国際化の理解活動（学習、交流、定住者支援など）の状況」（41.9点）であり、「様々な芸術・文化や歴史的資産に触れられる機会や場所」は“10・20代”が46.4点で最高点、“60代”が38.2点で最低点、「国際化の理解活動（学習、交流、定住者支援など）の状況」は“10・20代”が45.4点で最高点、“30代”で最低点となった。

“10・20代”に最高点が多く、“60代”に最低点が多かった。

「教育・文化」の満足度（年代別）	平均	10・20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
気軽に、自由な学習や文化活動が行える機会や場所	46.3	49.0	45.8	45.0	43.6	45.0	49.6
様々な芸術・文化や歴史的資産に触れられる機会や場所	41.9	46.4	39.9	42.2	40.3	38.2	44.2
身体を動かしたりスポーツができたりする場所	42.1	48.0	33.1	41.5	40.9	40.5	48.5
地域の集会施設の整備状況	49.2	46.9	50.6	50.8	50.3	46.3	50.0
自主的な活動を行う機会や場所	43.6	51.5	36.4	41.0	45.2	41.6	45.9
青少年をのびのびとすこやかに育む環境	43.9	52.0	40.4	42.3	45.0	39.3	44.7
学校における整った教育環境	49.4	51.5	42.5	52.4	50.3	46.9	52.8
充実した情操教育	46.5	49.5	46.1	46.4	46.2	43.9	46.9
市民に開放された学校	47.2	54.2	46.1	48.6	45.7	42.3	46.2
国際化の理解活動（学習、交流、定住者支援など）の状況	41.9	45.4	38.6	43.8	41.6	39.1	43.0
回答数	954	49	83	125	146	227	325
						最高点	最低点

■「福祉・健康」の満足度

福祉・健康における満足度の得点を年代別にみると、「保育園や幼稚園などの整備状況」がこの分野では最も高い平均点（53.5点）となっている。その内訳は“40代”が57.8点で最高点、“60代”が46.2点で最低点となっている。また、平均点の最も低いのは「救急の場合も安心して利用できる医療機関」（33.0点）であり、“10・20代”が46.9点で最高点、“30代”が22.9点で最低点となった。

“10・20代”に最高点が多く、“60代”に最低点が多かった。

「福祉・健康」の満足度（年代別）	平均	10・20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
生活上の課題を相談できる機会や場所	40.4	46.4	35.1	39.5	41.8	36.6	42.7
必要なときに手助けをしてもらえる環境	38.6	44.8	32.6	37.3	37.8	35.4	43.4
高齢者に対する在宅サービス制度	45.6	51.0	45.1	43.6	45.5	40.1	48.3
老人ホームなどの介護施設の整備状況	43.1	49.0	44.0	46.0	37.5	37.3	44.7
障がい者が社会参加しやすい環境	44.0	53.6	45.4	45.0	41.4	37.6	41.3
保育園や幼稚園などの整備状況	53.5	56.6	54.5	57.8	49.0	46.2	56.7
子どもを預けたいときに預けられる場所（保育園など）	48.3	48.5	47.9	50.2	46.2	44.8	52.5
育児に関する悩みや不安を相談できる機会や場所	47.3	52.6	46.7	46.8	46.7	43.7	47.2
住民同士のつながりが広がる機会や場所	45.3	52.0	42.7	47.0	43.3	39.9	46.7
救急の場合も安心して利用できる医療機関	33.0	46.9	22.9	27.4	26.7	29.9	44.3
市民の健康づくりに対する活発な取り組み	45.5	53.6	40.4	42.2	44.7	42.2	50.0
仕事や地域活動などにおける女性の活動しやすさ	42.6	51.6	38.1	39.9	40.7	40.3	45.0
回答数	947	49	83	125	146	226	319
						最高点	最低点

■「産業・就労」の満足度

産業・就労における満足度の得点を年代別にみると、「魅力ある伝統文化や文化財」がこの分野では最も高い平均点（43.8点）となっている。その内訳は“10・20代”が49.0点で最高点、“60代”が41.0点で最低点となっている。また、平均点の最も低いのは「魅力的な商業ゾーンである末広町、中央通などの地元商店街」（15.0点）であり、“70代以上”が21.6点で最高点、“30代”が9.9点で最低点となった。

“10・20代”に最高点が多く、“60代”に最低点が多かった。

「産業・就労」の満足度（年代別）	平均	10・20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
魅力的な商業ゾーンである末広町、中央通などの地元商店街	15.0	20.4	9.9	10.5	13.9	13.5	21.6
賑わいのある商業ゾーンである小山田や宮町、長町などの沿道沿い	30.7	30.0	22.2	25.6	34.0	31.6	40.5
娯楽やレジャー施設	13.9	10.0	7.0	9.5	11.7	18.2	26.7
おいしい店や楽しく飲食できる店	32.6	41.8	32.9	32.1	28.2	26.4	34.3
食品や日用品などの買い物のしやすさ	43.1	57.0	44.6	35.3	40.9	39.1	41.5
魅力ある観光スポットや特産品	38.2	43.5	40.9	36.7	36.4	31.9	40.0
魅力ある伝統文化や文化財	43.8	49.0	42.2	42.4	42.2	41.0	45.7
新しい産業や創造的な企業が生まれる土壌	23.5	28.1	19.5	20.1	19.3	24.3	29.6
パートやアルバイトを含めた多様な就労の場	22.5	32.0	20.1	19.5	18.7	17.5	27.4
担い手が多く、盛んな農業	29.2	34.5	27.1	28.5	31.6	24.0	29.5
担い手が多く、盛んな林業	29.7	33.5	30.7	30.4	30.8	24.3	28.3
担い手が多く、盛んな水産業	31.7	36.5	31.6	34.9	30.1	26.0	31.2
魚価の安定や消費拡大のための対策	27.3	37.5	24.1	28.5	27.5	20.0	26.5
多くの市民の就労の場となり、盛んな工業	27.9	41.0	30.2	30.1	22.1	20.7	23.1
回答数	956	50	82	123	147	227	328
						最高点	最低点

■ 「基盤整備」の満足度

基盤整備における満足度の得点を年代別にみると、「火災に対する消防体制」がこの分野では最も高い平均点（59.4点）となっている。その内訳は“40代”が62.4点で最高点、“60代”が55.5点で最低点となっている。また、平均点の最も低いのは「宮古駅周辺における生活に必要な施設や機能の充実」（19.1点）であり、“70代以上”が23.8点で最高点、“30代”が13.6点で最低点となった。

“10・20代”に最高点が多く、“60代”に最低点が多かった。

「基盤整備」の満足度（年代別）	平均	10・20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
様々なことに有効活用されている港湾	36.7	43.9	35.5	33.7	33.5	31.8	41.9
宮古駅周辺における生活に必要な施設や機能の充実	19.1	21.4	13.6	19.2	20.0	16.4	23.8
鉄道・バスなどの公共交通が利用しやすい環境	27.2	33.5	18.7	23.4	24.7	28.7	34.2
国道や県道などの幹線道路の整備状況	47.4	55.0	44.6	43.1	46.9	45.1	49.6
幹線となる市道の整備状況	42.9	52.0	46.0	40.5	40.7	36.1	42.0
身近な生活道路の整備状況	41.7	51.5	43.6	40.7	37.5	35.3	41.3
駐輪・駐車場の整備状況	42.5	49.5	38.6	39.9	42.3	41.4	43.2
公園・緑地などの整備・保全状況	48.2	59.0	47.6	43.8	49.0	41.9	47.7
公営住宅の整備状況	48.2	58.0	47.0	46.4	44.0	45.5	48.5
年をとっても安心して住める住まい	30.9	35.2	23.2	28.6	25.7	33.1	39.6
身近な情報や知りたい情報を入手する手段の豊富さ	39.0	45.5	37.3	39.1	38.1	34.3	39.7
適切な場所に設置された行政サービスの窓口	46.9	55.0	46.4	43.5	47.0	40.6	48.9
民間・行政における市外他地域との盛んな交流活動	40.9	45.5	38.6	39.9	40.7	38.0	43.0
火災に対する消防体制	59.4	59.7	60.1	62.4	57.7	55.5	61.1
災害時に必要な情報が入手できる手段（防災行政無線など）	53.2	63.5	53.6	54.8	49.0	45.4	53.1
適切に指定された災害時の避難所・避難場所	54.6	62.0	58.5	54.6	51.4	45.3	55.9
自然災害（土砂崩れ・洪水・津波など）に対する防災体制	48.0	57.5	49.1	49.0	44.0	40.5	47.6
回答数	955	50	83	124	147	225	327
						最高点	最低点

(3) 地区別にみた生活環境に対する満足度

■「自然・都市環境」の満足度

自然・都市環境における満足度の得点を地区別にみると、「海や山などの恵まれた自然環境」がこの分野では最も高い平均点（79.2点）となっている。その内訳は“田老地区”が84.6点で最高点、“川井地区”が75.0点で最低点となっている。また、平均点の最も低い「親しみがもてるまちの雰囲気」（49.5点）は“田老地区”が59.2点で最高点、“新里地区”が43.3点で最低点となった。

“田老地区”に最高点が多く、“宮古地区”に最低点が多かった。

「自然・環境都市」の満足度（地区別）	平均	宮古地区	田老地区	新里地区	川井地区
海や山などの恵まれた自然環境	79.2	78.0	84.6	79.1	75.0
自然に親しみ学ぶことのできる機会や場所	60.5	55.7	68.1	56.1	62.1
親しみがもてるまちの雰囲気	49.5	44.1	59.2	43.3	51.6
人情味や人とのふれあい	58.0	53.2	65.3	56.1	57.3
気軽に散歩やサイクリングを楽しめる環境	52.2	45.4	57.0	51.3	55.2
ごみやし尿の収集処理の状況	76.3	72.5	79.5	78.2	75.0
ごみの分別収集やリサイクルの状況	71.5	69.3	78.0	72.0	66.7
清掃や環境美化が行き届いた清潔感のあるまち	59.5	55.5	64.0	62.2	56.3
きれいで親しみがもてる河川	58.9	52.4	56.5	66.5	60.2
公害の少なさ	73.8	67.8	75.0	74.4	78.1
回答数	888	766	50	41	31
				最高点	最低点

※地区の無回答を除いて集計したため、市の平均点（p.8～11）とは異なる。

■「教育・文化」の満足度

教育・文化における満足度の得点を地区別にみると、「地域の集会施設の整備状況」がこの分野では最も高い平均点（79.7点）となっている。その内訳は“田老地区”が81.7点で最高点、“宮古地区”が77.6点で最低点となっている。また、平均点の最も低い「国際化の理解活動（学習、交流、定住者支援など）の状況」（41.3点）は“田老地区”が46.4点で最高点、“川井地区”が34.8点で最低点となった。

“田老地区”に最高点が多く、“宮古地区”に最低点が多かった。

「教育・文化」の満足度（地区別）	平均	宮古地区	田老地区	新里地区	川井地区
気軽に、自由な学習や文化活動が行える機会や場所	49.4	46.6	51.5	49.4	50.0
様々な芸術・文化や歴史的資産に触れられる機会や場所	45.4	41.0	48.5	43.8	48.4
身体を動かしたりスポーツができたりする場所	47.7	42.4	52.0	47.1	49.2
地域の集会施設の整備状況	79.7	77.6	81.7	78.9	80.8
自主的な活動を行う機会や場所	49.0	43.0	56.1	47.0	50.0
青少年をのびのびとすこやかに育む環境	47.2	42.5	51.5	46.3	48.3
学校における整った教育環境	50.3	50.0	59.4	47.6	44.2
充実した情操教育	46.8	46.1	54.2	47.0	40.0
市民に開放された学校	47.4	45.9	52.1	47.6	44.2
国際化の理解活動（学習、交流、定住者支援など）の状況	41.3	42.0	46.4	42.1	34.8
回答数	872	752	49	41	30
				最高点	最低点

■「福祉・健康」の満足度

福祉・健康における満足度の得点を地区別にみると、「保育園や幼稚園などの整備状況」がこの分野では最も高い平均点（54.7点）となっている。その内訳は“田老地区”が63.0点で最高点、“新里地区”が49.4点で最低点となっている。また、平均点の最も低い「救急の場合も安心して利用できる医療機関」（35.9点）は“田老地区”が40.1点で最高点、“新里地区”が31.1点で最低点となった。

“田老地区”に最高点が多く、“新里地区”に最低点が多かった。

「福祉・健康」の満足度（地区別）	平均	宮古地区	田老地区	新里地区	川井地区
生活上の課題を相談できる機会や場所	43.1	39.8	50.0	43.1	39.5
必要なときに手助けをもらえる環境	44.1	38.3	51.0	44.4	42.7
高齢者に対する在宅サービス制度	48.6	45.2	53.6	45.8	50.0
老人ホームなどの介護施設の整備状況	48.1	41.8	51.5	47.6	51.7
障がい者が社会参加しやすい環境	46.6	41.4	47.9	43.8	53.3
保育園や幼稚園などの整備状況	54.7	53.1	63.0	49.4	53.4
子どもを預けたいときに預けられる場所（保育園など）	48.4	49.3	55.2	48.1	41.1
育児に関する悩みや不安を相談できる機会や場所	49.1	46.5	54.2	45.7	50.0
住民同士のつながりが広がる機会や場所	47.6	44.4	53.1	41.1	51.7
救急の場合も安心して利用できる医療機関	35.9	34.9	40.1	31.1	37.5
市民の健康づくりに対する活発な取り組み	49.4	45.5	52.1	42.7	57.5
仕事や地域活動などにおける女性の活動しやすさ	44.6	42.6	50.5	38.1	47.3
回答数	866	747	49	41	30
				最高点	最低点

■「産業・就労」の満足度

産業・就労における満足度の得点を地区別にみると、「魅力ある伝統文化や文化財」がこの分野では最も高い平均点（49.3点）となっている。その内訳は“川井地区”が56.7点で最高点、“宮古地区”が43.1点で最低点となっている。また、平均点の最も低い「パートやアルバイトを含めた多様な就労の場」（22.7点）は“田老地区”が28.2点で最高点、“川井地区”が19.4点で最低点となった。

“川井地区”に最高点が多く、“新里地区”に最低点が多かった。

「産業・就労」の満足度（地区別）	平均	宮古地区	田老地区	新里地区	川井地区
魅力的な商業ゾーンである末広町、中央通などの地元商店街	25.2	14.6	27.6	19.5	39.1
賑わいのある商業ゾーンである小山田や宮町、長町などの沿道沿い	38.5	33.4	42.2	33.5	45.0
娯楽やレジャー施設	25.2	16.4	28.6	16.3	39.5
おいしい店や楽しく飲食できる店	36.6	30.9	42.0	29.4	44.2
食品や日用品などの買い物のしやすさ	39.9	42.4	44.4	34.8	38.2
魅力ある観光スポットや特産品	43.4	36.9	48.4	36.5	51.7
魅力ある伝統文化や文化財	49.3	43.1	53.7	43.8	56.7
新しい産業や創造的な企業が生まれる土壌	29.2	23.9	33.0	25.6	34.2
パートやアルバイトを含めた多様な就労の場	22.7	22.7	28.2	20.5	19.4
担い手が多く、盛んな農業	27.1	29.1	28.6	17.8	33.1
担い手が多く、盛んな林業	26.2	29.3	25.0	19.9	30.6
担い手が多く、盛んな水産業	28.7	31.3	27.7	20.5	35.3
魚価の安定や消費拡大のための対策	27.9	25.6	28.7	19.2	37.9
多くの市民の就労の場となり、盛んな工業	27.3	24.6	29.3	21.9	33.3
回答数	877	759	47	40	31
				最高点	最低点

■ 「基盤整備」の満足度

基盤整備における満足度の得点を地区別にみると、「火災に対する消防体制」がこの分野では最も高い平均点（60.6点）となっている。その内訳は“田老地区”が68.6点で最高点、“新里地区”が53.7点で最低点となっている。また、平均点の最も低い「鉄道・バスなどの公共交通が利用しやすい環境」（24.7点）は“田老地区”が40.6点で最高点、“新里地区”が8.1点で最低点となった。

“田老地区”に最高点が多く、“新里地区”に最低点が多かった。

「基盤整備」の満足度（地区別）	平均	宮古地区	田老地区	新里地区	川井地区
様々なことに有効活用されている港湾	40.2	36.7	42.6	33.1	48.3
宮古駅周辺における生活に必要な施設や機能の充実	25.1	19.2	20.7	15.0	45.7
鉄道・バスなどの公共交通が利用しやすい環境	24.7	29.9	40.6	8.1	20.3
国道や県道などの幹線道路の整備状況	46.6	48.0	56.0	32.3	50.0
幹線となる市道の整備状況	39.7	42.2	46.7	27.5	42.5
身近な生活道路の整備状況	39.0	41.2	48.9	24.4	41.7
駐輪・駐車場の整備状況	43.1	42.5	53.8	29.5	46.6
公園・緑地などの整備・保全状況	46.1	47.5	57.6	32.5	46.7
公営住宅の整備状況	46.0	48.3	58.7	35.6	41.4
年をとっても安心して住める住まい	33.3	33.7	44.0	25.0	30.5
身近な情報や知りたい情報を入手する手段の豊富さ	40.9	38.4	45.1	29.3	50.8
適切な場所に設置された行政サービスの窓口	45.5	46.8	50.5	38.4	46.1
民間・行政における市外他地域との盛んな交流活動	38.9	41.7	40.2	31.1	42.7
火災に対する消防体制	60.6	59.3	68.6	53.7	60.9
災害時に必要な情報が入手できる手段（防災行政無線など）	54.6	51.9	57.1	47.0	62.5
適切に指定された災害時の避難所・避難場所	54.6	53.8	59.8	44.5	60.2
自然災害（土砂崩れ・洪水・津波など）に対する防災体制	46.1	47.0	48.4	39.6	49.2
回答数	874	757	46	40	31
				最高点	最低点

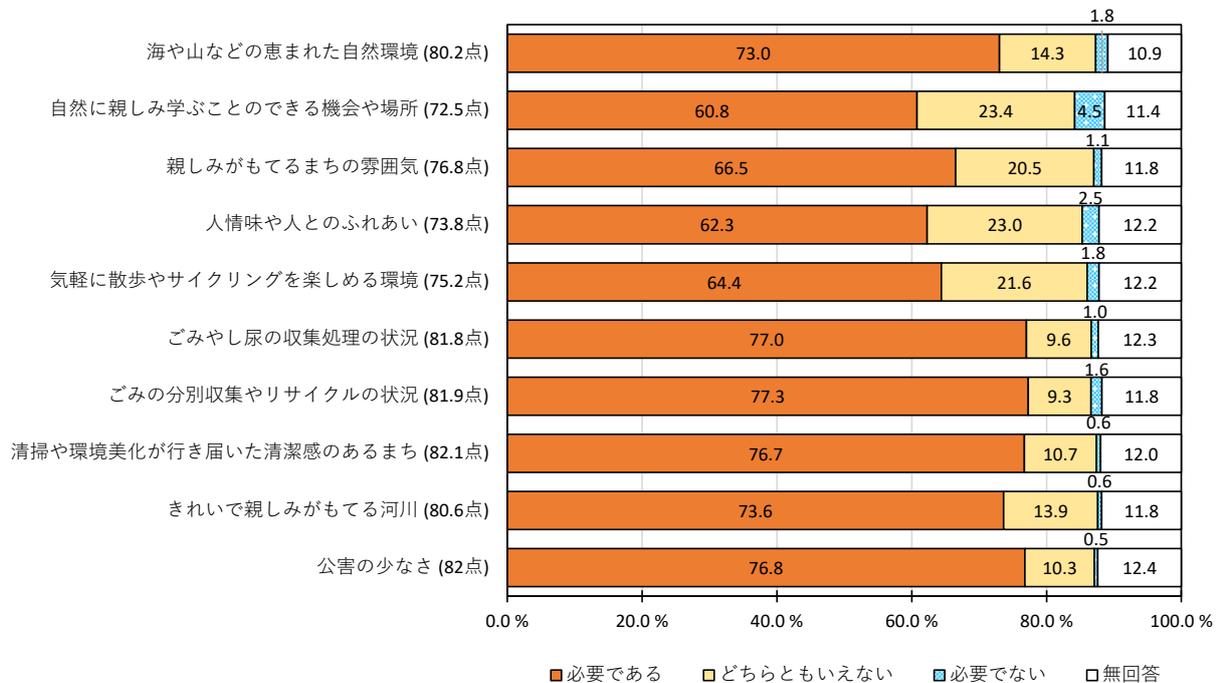
(4) 生活環境に対する必要度

■「自然・都市環境」の必要度

自然・都市環境における必要度の得点をみると、「清掃や環境美化が行き届いた清潔感のあるまち」が最も高く 82.1 点となっている。その他の項目で平均点（78.7 点）を超えたものは、「公害の少なさ」（82.0 点）、「ごみの分別収集やリサイクルの状況」（81.9 点）、「ごみや尿の収集処理の状況」（81.8 点）、「きれいで親しみがもてる河川」（80.6 点）、「海や山などの恵まれた自然環境」（80.2 点）の 5 項目となった。また、“必要である”と回答された割合の最も高い項目は「ごみの分別収集やリサイクルの状況」の 77.3%となったほか、「ごみや尿の収集処理の状況」（77.0%）、「公害の少なさ」（76.8%）の順となっている。

一方、“必要でない”と回答された割合の高い項目は、「自然に親しみ学ぶことのできる機会や場所」の 4.5%となった。この他の“必要でない”の割合も低い数値となっており、自然や都市環境に関する満足度は高い傾向にあったが、市民の意向として今後も重要な施策であると思われる。

<自然・都市環境の必要度> 回答数1,048 平均78.7点（前回平均72.2点）

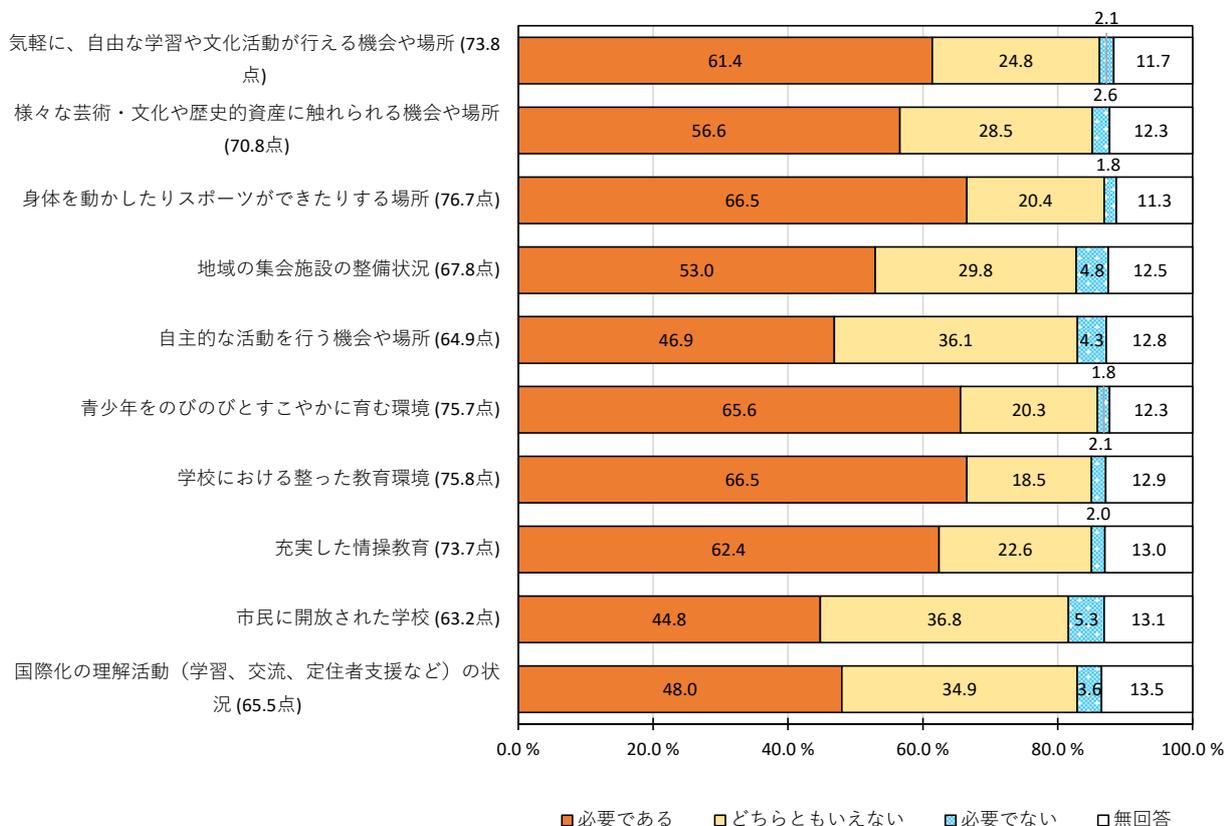


■「教育・文化」の必要度

教育・文化における必要度の得点をみると、「身体を動かしたりスポーツができたりする場所」が最も高く76.7点となっている。その他の項目で平均点(70.8点)を超えたものは、「学校における整った教育環境」(75.8点)、「青少年をのびのびとすこやかに育む環境」(75.7点)、「気軽に、自由な学習や文化活動が行える機会や場所」(73.8点)、「充実した情操教育」(73.7点)、「様々な芸術・文化や歴史的資産に触れられる機会や場所」(70.8点)の5項目となった。また、“必要である”と回答された割合の最も高い項目は同じ割合で「身体を動かしたりスポーツができたりする場所」、「学校における整った教育環境」の66.5%となったほか、「青少年をのびのびとすこやかに育む環境」(65.6%)、「充実した情操教育」(62.4%)の順となっている。

一方、“必要でない”と回答された割合の高い項目は、「市民に開放された学校」の5.3%となった。項目によっては「どちらともいえない」との回答が多く、回答者個々人の考え方の違いが窺える。

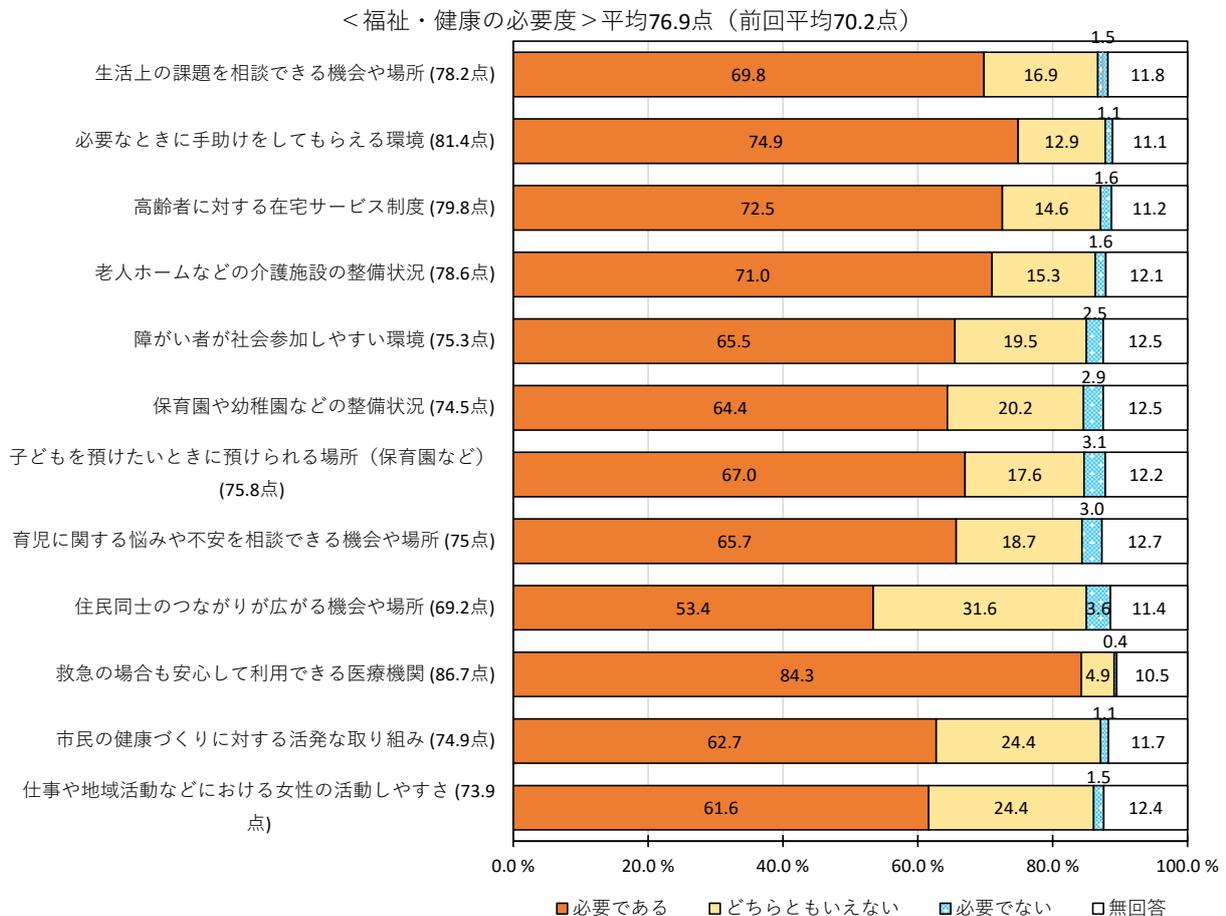
<教育・文化の必要度> 回答数1,048 平均70.8点 (前回平均65.5点)



■「福祉・健康」の必要度

福祉・健康における必要度の得点をみると、「救急の場合も安心して利用できる医療機関」が最も高く 86.7 点となっている。その他の項目で平均点（76.9 点）を超えたものは、「必要なときに手助けをしてもらえる環境」（81.4 点）、「高齢者に対する在宅サービス制度」（79.8 点）、「老人ホームなどの介護施設の整備状況」（78.6 点）、「生活上の課題を相談できる機会や場所」（78.2 点）の 4 項目となった。また、「必要である」と回答された割合の最も高い項目は「救急の場合も安心して利用できる医療機関」の 84.3% となったほか、「必要なときに手助けをしてもらえる環境」（74.9%）、「高齢者に対する在宅サービス制度」（72.5%）の順となっている。

一方、「必要でない」と回答された割合の高い項目は、「住民同士のつながりが広がる機会や場所」の 3.6% となった。救急医療機関の整備や、高齢者に係わる福祉の充実を望む声が多い。

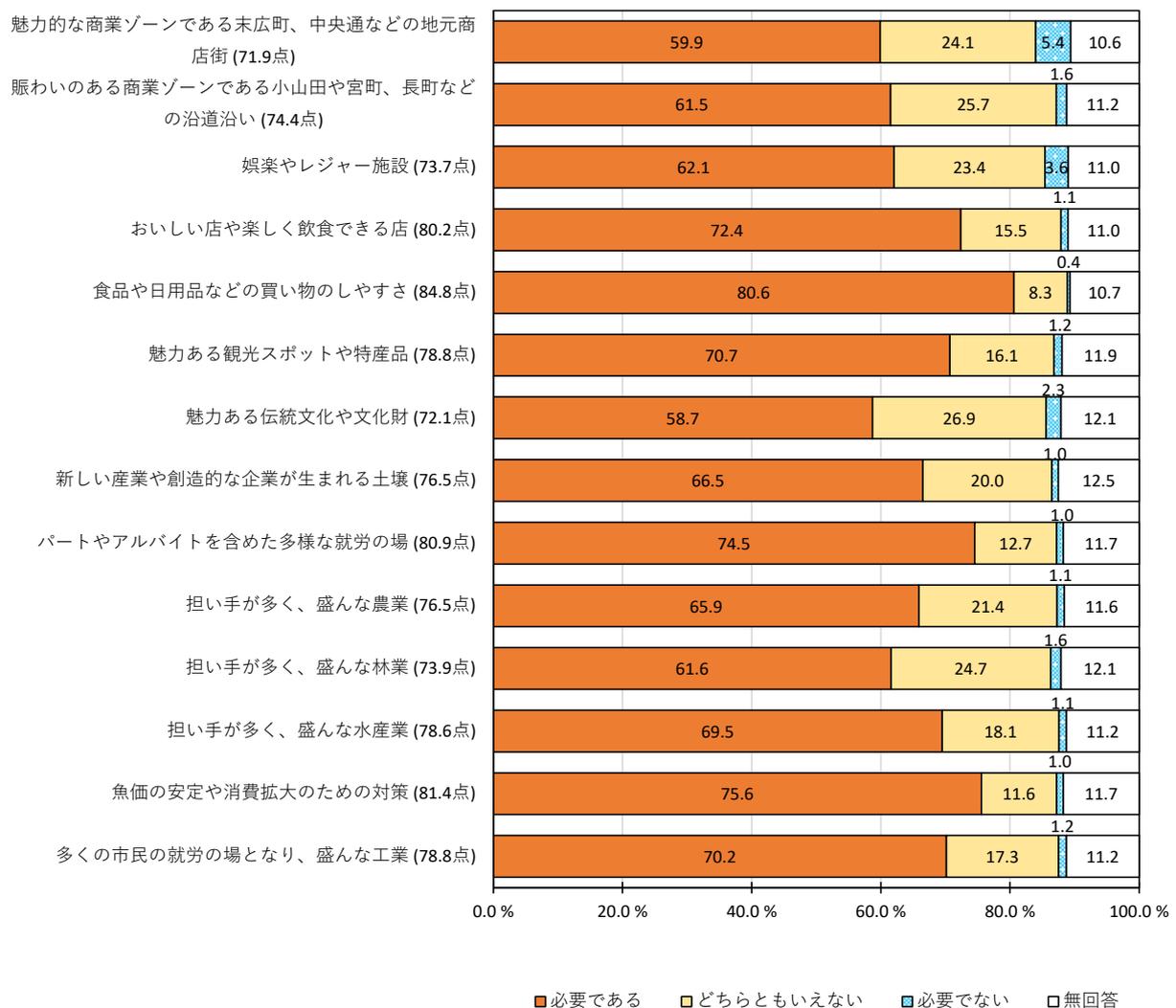


■「産業・就労」の必要度

産業・就労における必要度の得点を見ると、「食品や日用品などの買い物のしやすさ」が最も高く84.8点となっている。その他の項目で平均点(77.3点)を超えたものは、「魚価の安定や消費拡大のための対策」(81.4点)、「パートやアルバイトを含めた多様な就労の場」(80.9点)、「おいしい店や楽しく飲食できる店」(80.2点)、「魅力ある観光スポットや特産品」・「多くの市民の就労の場となり、盛んな工業」(各78.8点)、「担い手が多く、盛んな水産業」(78.6点)の6項目となった。また、「必要である」と回答された割合の最も高い項目は「食品や日用品などの買い物のしやすさ」の80.6%となったほか、「魚価の安定や消費拡大のための対策」(75.6%)、「パートやアルバイトを含めた多様な就労の場」(74.5%)の順となっている。

一方、「必要でない」と回答された割合の高い項目は、「魅力的な商業ゾーンである末広町、中央通などの地元商店街」の5.4%となった。満足度、必要度ともに「食品や日用品などの買い物のしやすさ」が最も高い数値となっており、これまで以上の充実が期待されていることがわかる。

<産業・就労の必要度>回答数1,049 平均77.3点(前回平均68.2点)

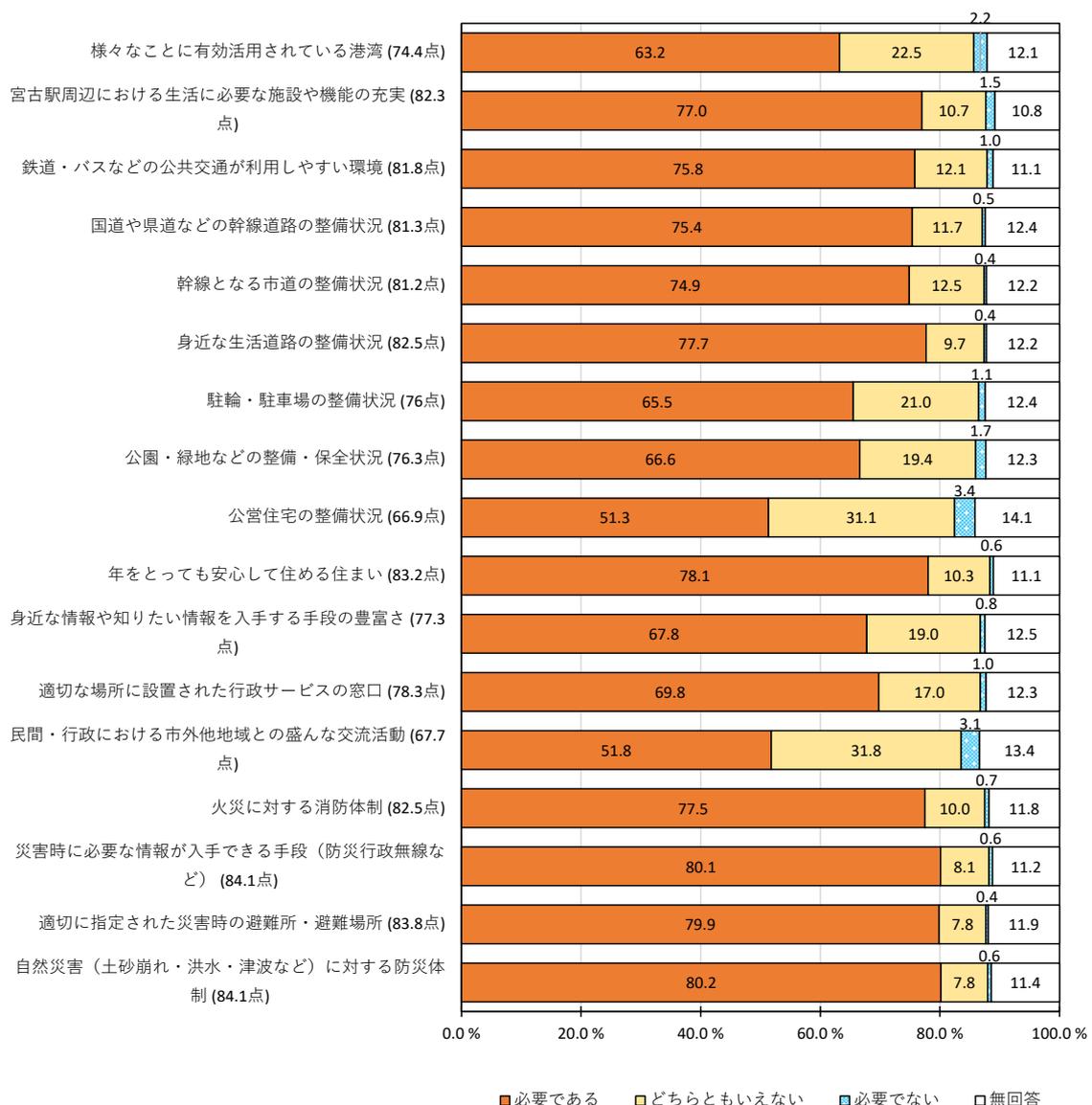


■「基盤整備」の必要度

基盤整備における必要度の得点をみると、同点で「災害時に必要な情報が入手できる手段（防災行政無線など）」、「自然災害（土砂崩れ・洪水・津波など）に対する防災体制」が最も高く84.1点となっている。その他の項目で平均点（79.0点）を超えたものは、「適切に指定された災害時の避難所・避難場所」（83.8点）、「年をとっても安心して住める住まい」（83.2点）、「身近な生活道路の整備状況」・「火災に対する消防体制」（各82.5点）、「宮古駅周辺における生活に必要な施設や機能の充実」（82.3点）、「鉄道・バスなどの公共交通が利用しやすい環境」（81.8点）、「国道や県道などの幹線道路の整備状況」（81.3点）、「幹線となる市道の整備状況」（81.2点）の8項目となった。また、“必要である”と回答された割合の最も高い項目は「自然災害（土砂崩れ・洪水・津波など）に対する防災体制」の80.2%となったほか、「災害時に必要な情報が入手できる手段（防災行政無線など）」（80.1%）、「適切に指定された災害時の避難所・避難場所」（79.9%）の順となっている。

一方、“必要でない”と回答された割合の高い項目は、「公営住宅の整備状況」の3.4%となった。満足度、必要度ともに防災に関する項目が最も高い数値となっており、これまで以上の充実が期待されていることがわかる。

<基盤整備の必要度> 回答数1,049 平均79.0点（前回平均71.2点）



(5) 年代別にみた生活環境に対する必要度

■「自然・都市環境」の必要度

自然・都市環境における必要度の得点を年代別にみると、「清掃や環境美化が行き届いた清潔感のあるまち」がこの分野では最も高い平均点(94.2点)となっている。その内訳は「30代」「40代」が各96.3点で最高点、「70代以上」が90.0点で最低点となっている。また、平均点の最も低い「自然に親しみ学ぶことのできる機会や場所」(81.4点)は「30代」が83.5点で最高点、「50代」が79.1点で最低点となった。

“30代”に最高点が多く、“10・20代”に最低点が多かった。

「自然・環境都市」の必要度(年代別)	平均	10・20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
海や山などの恵まれた自然環境	89.7	90.6	89.2	88.0	89.7	91.6	89.3
自然に親しみ学ぶことのできる機会や場所	81.4	80.2	83.5	81.1	79.1	82.1	82.1
親しみがもてるまちの雰囲気	88.2	92.6	89.0	89.3	87.9	85.4	85.1
人情味や人とのふれあい	82.2	76.6	77.7	85.0	84.0	82.2	87.4
気軽に散歩やサイクリングを楽しめる環境	85.9	89.6	85.4	86.0	83.3	85.2	86.1
ごみやし尿の収集処理の状況	93.0	88.3	95.7	93.8	94.3	93.5	92.5
ごみの分別収集やリサイクルの状況	92.6	87.5	94.6	93.4	95.7	92.4	91.9
清掃や環境美化が行き届いた清潔感のあるまち	94.2	94.8	96.3	96.3	94.0	93.8	90.0
きれいで親しみがもてる河川	91.3	90.4	92.2	91.7	90.7	91.7	91.1
公害の少なさ	94.1	93.6	96.4	94.6	93.6	94.0	92.4
回答数	906	48	83	121	141	217	298
						最高点	最低点

※年代の無回答を除いて集計したため、市の平均点(p.8~11)とは異なる。

■「教育・文化」の必要度

教育・文化における必要度の得点を年代別にみると、「学校における整った教育環境」がこの分野では最も高い平均点(87.8点)となっている。その内訳は「30代」が92.1点で最高点、「70代以上」が84.6点で最低点となっている。また、平均点の最も低い「市民に開放された学校」(72.9点)は「10・20代」が78.3点で最高点、「60代」が70.4点で最低点となった。

“10・20代”に最高点が多く、“30代”に最低点が多かった。

「教育・文化」の必要度(年代別)	平均	10・20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
気軽に、自由な学習や文化活動が行える機会や場所	83.4	84.4	81.9	83.6	82.4	84.8	83.1
様々な芸術・文化や歴史的資産に触れられる機会や場所	81.1	87.5	76.2	82.4	79.1	81.2	80.3
身体を動かしたりスポーツができたりする場所	87.7	91.7	91.5	89.3	83.1	86.4	84.4
地域の集会施設の整備状況	74.7	71.3	64.5	72.9	77.0	79.9	82.8
自主的な活動を行う機会や場所	74.9	81.9	71.1	74.6	72.3	73.8	75.9
青少年をのびのびとすこやかに育む環境	87.3	91.5	87.8	87.1	85.9	86.2	85.2
学校における整った教育環境	87.8	87.2	92.1	88.1	87.3	87.6	84.6
充実した情操教育	85.7	88.3	84.9	86.8	86.5	85.2	82.4
市民に開放された学校	72.9	78.3	71.7	71.3	71.1	70.4	74.5
国際化の理解活動(学習、交流、定住者支援など)の状況	76.3	83.3	71.7	79.2	73.0	74.4	76.0
回答数	900	47	83	121	141	214	293
						最高点	最低点

■「健康・福祉」の必要度

健康・福祉における必要度の得点を年代別にみると、「救急の場合も安心して利用できる医療機関」がこの分野では最も高い平均点（97.3点）となっている。その内訳は「40代」が98.0点で最高点、「70代以上」が95.5点で最低点となっている。また、平均点の最も低い「住民同士のつながりが広がる機会や場所」（77.1点）は「10・20代」が83.3点で最高点、「30代」が70.1点で最低点となった。

“10・20代”に最高点が多く、“30代”に最低点が多かった。

「福祉・健康」の必要度（年代別）	平均	10・20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
生活上の課題を相談できる機会や場所	89.3	94.8	86.4	89.4	89.4	88.4	87.6
必要なときに手助けをもらえる環境	92.5	96.9	92.7	91.4	93.3	91.7	89.2
高齢者に対する在宅サービス制度	89.1	88.5	85.5	86.8	92.3	90.3	91.3
老人ホームなどの介護施設の整備状況	89.1	87.2	87.2	87.8	93.0	89.7	89.5
障がい者が社会参加しやすい環境	84.9	85.1	78.3	84.2	86.3	88.7	86.8
保育園や幼稚園などの整備状況	86.4	92.7	88.6	84.8	82.4	85.4	84.7
子どもを預けたいときに預けられる場所（保育園など）	87.5	92.7	89.2	86.6	83.8	87.9	85.2
育児に関する悩みや不安を相談できる機会や場所	86.9	91.7	88.6	85.8	84.2	86.2	85.1
住民同士のつながりが広がる機会や場所	77.1	83.3	70.1	72.8	73.9	79.8	82.6
救急の場合も安心して利用できる医療機関	97.3	97.9	97.5	98.0	97.2	97.9	95.5
市民の健康づくりに対する活発な取り組み	84.5	90.4	79.0	83.7	82.7	82.2	89.0
仕事や地域活動などにおける女性の活動しやすさ	85.4	88.3	88.6	85.7	84.2	81.8	83.9
回答数	907	48	82	122	142	214	299
						最高点	最低点

■「産業・就労」の必要度

産業・就労における必要度の得点を年代別にみると、「食品や日用品などの買い物のしやすさ」がこの分野では最も高い平均点（95.9点）となっている。その内訳は「30代」が100.0点で最高点、「70代以上」が93.4点で最低点となっている。また、平均点の最も低い「魅力的な商業ゾーンである末広町、中央通などの地元商店街」（81.5点）は「10・20代」が90.8点で最高点、「40代」が72.7点で最低点となった。

“10・20代”に最高点が多く、“70代以上”に最低点が多かった。

「産業・就労」の必要度（年代別）	平均	10・20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
魅力的な商業ゾーンである末広町、中央通などの地元商店街	81.5	90.8	83.1	72.7	80.4	81.2	80.9
賑わいのある商業ゾーンである小山田や宮町、長町などの沿道沿	87.1	96.9	92.2	84.8	88.8	82.4	77.4
娯楽やレジャー施設	87.3	98.0	95.8	88.1	85.0	80.7	76.2
おいしい店や楽しく飲食できる店	92.9	99.0	98.2	93.9	92.3	87.9	86.0
食品や日用品などの買い物のしやすさ	95.9	95.7	100.0	96.7	95.4	94.4	93.4
魅力ある観光スポットや特産品	90.8	95.9	93.3	90.0	88.7	89.9	87.3
魅力ある伝統文化や文化財	81.8	83.7	78.9	81.8	79.6	84.4	82.3
新しい産業や創造的な企業が生まれる土壌	88.0	88.8	89.2	89.7	86.3	88.7	85.4
パートやアルバイトを含めた多様な就労の場	92.5	90.8	96.4	94.2	92.3	94.4	87.1
担い手が多く、盛んな農業	86.2	87.5	83.7	85.7	84.6	89.9	85.8
担い手が多く、盛んな林業	83.5	84.0	79.9	82.8	82.9	87.2	84.2
担い手が多く、盛んな水産業	87.9	89.8	83.5	88.1	87.1	90.4	88.8
魚価の安定や消費拡大のための対策	92.2	93.8	91.5	92.1	91.6	91.5	92.9
多くの市民の就労の場となり、盛んな工業	88.0	86.5	87.2	86.5	86.7	90.0	90.8
回答数	909	48	83	121	143	213	302
						最高点	最低点

■ 「基盤整備」の必要度

基盤整備における必要度の得点を年代別にみると、「自然災害（土砂崩れ・洪水・津波など）に対する防災体制」がこの分野では最も高い平均点（95.4点）となっている。その内訳は「10・20代」が96.9点で最高点、「70代以上」が92.8点で最低点となっている。また、平均点の最も低い「公営住宅の整備状況」（78.2点）は「10・20代」が84.7点で最高点、「30代」が74.7点で最低点となった。

“10・20代”に最高点が多く、“70代以上”に最低点が多かった。

「基盤整備」の必要度（年代別）	平均	10・20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
様々なことに有効活用されている港湾	85.5	91.8	86.0	85.0	79.0	85.5	85.5
宮古駅周辺における生活に必要な施設や機能の充実	93.4	99.0	92.8	91.7	92.3	92.8	91.8
鉄道・バスなどの公共交通が利用しやすい環境	92.2	94.8	88.4	92.1	93.7	91.8	92.3
国道や県道などの幹線道路の整備状況	93.9	97.9	94.6	95.0	93.4	91.9	90.9
幹線となる市道の整備状況	93.7	99.0	94.6	92.9	93.0	92.8	90.0
身近な生活道路の整備状況	94.8	98.0	95.2	95.0	94.0	94.2	92.5
駐輪・駐車場の整備状況	88.4	91.7	89.8	92.6	87.1	86.4	82.9
公園・緑地などの整備・保全状況	87.8	89.8	89.8	88.8	86.0	86.8	85.6
公営住宅の整備状況	78.2	84.7	74.7	75.6	76.6	79.4	78.1
年をとっても安心して住める住まい	94.2	99.0	91.0	94.2	94.4	94.5	92.3
身近な情報や知りたい情報を入手する手段の豊富さ	89.8	94.9	91.6	90.1	86.8	90.4	85.1
適切な場所に設置された行政サービスの窓口	90.2	93.9	89.8	89.7	91.1	88.6	88.1
民間・行政における市外他地域との盛んな交流活動	78.9	85.7	78.3	77.3	75.5	78.2	78.4
火災に対する消防体制	93.9	95.9	90.9	95.1	95.0	94.3	92.2
災害時に必要な情報が入手できる手段（防災行政無線など）	94.9	96.9	91.0	96.7	95.4	96.5	93.2
適切に指定された災害時の避難所・避難場所	95.2	96.9	92.7	96.7	94.6	96.0	94.2
自然災害（土砂崩れ・洪水・津波など）に対する防災体制	95.4	96.9	93.9	96.7	96.5	95.8	92.8
回答数	904	49	83	121	142	210	300
						最高点	最低点

(6) 地区別にみた生活環境に対する必要度

■「自然・都市環境」の必要度

自然・都市環境における必要度の得点を地区別にみると、「ごみやし尿の収集処理の状況」がこの分野では最も高い平均点（93.6点）となっている。その内訳は「田老地区」が93.9点で最高点、「新里地区」が93.2点で最低点となっている。また、平均点の最も低い「自然に親しみ学ぶことのできる機会や場所」（76.9点）は「田老地区」が83.3点で最高点、「川井地区」が66.0点で最低点となった。

全ての項目で「田老地区」が最高点、「川井地区」に最低点が多かった。

「自然・環境都市」の必要度（地区別）	平均	宮古地区	田老地区	新里地区	川井地区
海や山などの恵まれた自然環境	88.6	90.0	91.7	88.8	84.0
自然に親しみ学ぶことのできる機会や場所	76.9	82.1	83.3	76.3	66.0
親しみがもてるまちの雰囲気	82.9	87.8	88.1	74.3	81.3
人情味や人とのふれあい	82.3	84.4	89.0	77.6	78.0
気軽に散歩やサイクリングを楽しめる環境	83.3	86.1	84.5	83.3	79.2
ごみやし尿の収集処理の状況	93.6	93.6	93.9	93.2	93.5
ごみの分別収集やリサイクルの状況	92.6	93.4	95.2	92.1	89.6
清掃や環境美化が行き届いた清潔感のあるまち	90.9	93.9	92.9	90.8	86.0
きれいで親しみがもてる河川	91.7	91.7	92.9	94.7	87.5
公害の少なさ	92.3	94.0	95.2	90.8	89.1
回答数	825	722	42	38	24
				最高点	最低点

※年代の無回答を除いて集計したため、市の平均点（p.8～11）とは異なる。

■「教育・文化」の必要度

教育・文化における必要度の得点を地区別にみると、「学校における整った教育環境」がこの分野では最も高い平均点（83.9点）となっている。その内訳は「田老地区」が91.5点で最高点、「川井地区」が74.0点で最低点となっている。また、平均点の最も低い「市民に開放された学校」（70.0点）は「宮古地区」が73.1点で最高点、「川井地区」が68.0点で最低点となった。

全ての項目で「田老地区」が最高点、「川井地区」に最低点が多かった。

「教育・文化」の必要度（地区別）	平均	宮古地区	田老地区	新里地区	川井地区
気軽に、自由な学習や文化活動が行える機会や場所	82.1	83.3	89.3	82.9	73.1
様々な芸術・文化や歴史的資産に触れられる機会や場所	79.7	81.0	85.4	73.7	78.8
身体を動かしたりスポーツができたりする場所	83.2	86.7	90.2	80.0	76.0
地域の集会施設の整備状況	79.7	77.6	81.7	78.9	80.8
自主的な活動を行う機会や場所	74.3	74.2	77.5	73.7	72.0
青少年をのびのびとすやかに育む環境	82.5	86.8	88.8	80.3	74.0
学校における整った教育環境	83.9	87.3	91.5	82.9	74.0
充実した情操教育	83.1	85.1	86.6	81.6	79.2
市民に開放された学校	70.0	73.1	69.2	69.7	68.0
国際化の理解活動（学習、交流、定住者支援など）の状況	76.0	75.1	76.8	78.9	73.1
回答数	821	716	41	38	25
				最高点	最低点

■「福祉・健康」の必要度

福祉・健康における必要度の得点を地区別にみると、「救急の場合も安心して利用できる医療機関」がこの分野では最も高い平均点（95.1点）となっている。その内訳は「宮古地区」が97.3点で最高点、「田老地区」が93.9点で最低点となっている。また、平均点の最も低い「住民同士のつながりが広がる機会や場所」（78.7点）は「新里地区」が80.3点で最高点、「田老地区」が76.8点で最低点となった。

全ての項目で「宮古地区」が最高点、「川井地区」に最低点が多かった。

「福祉・健康」の必要度（地区別）	平均	宮古地区	田老地区	新里地区	川井地区
生活上の課題を相談できる機会や場所	86.8	88.5	87.8	88.2	82.7
必要なときに手助けをもらえる環境	89.1	92.1	87.5	88.2	88.5
高齢者に対する在宅サービス制度	87.9	90.4	86.6	85.9	88.9
老人ホームなどの介護施設の整備状況	88.6	89.8	88.8	85.5	90.4
障がい者が社会参加しやすい環境	85.0	86.4	85.0	82.1	86.5
保育園や幼稚園などの整備状況	84.9	85.4	88.8	82.9	82.7
子どもを預けたいときに預けられる場所（保育園など）	84.3	87.0	86.3	83.3	80.8
育児に関する悩みや不安を相談できる機会や場所	84.5	86.2	86.6	86.5	78.8
住民同士のつながりが広がる機会や場所	78.7	78.1	76.8	80.3	79.6
救急の場合も安心して利用できる医療機関	95.1	97.3	93.9	95.0	94.2
市民の健康づくりに対する活発な取り組み	83.0	85.6	82.5	83.8	80.0
仕事や地域活動などにおける女性の活動しやすさ	85.8	83.7	85.4	85.5	88.5
回答数	828	722	41	39	26
				最高点	最低点

■「産業・就労」の必要度

産業・就労における必要度の得点を地区別にみると、「食品や日用品などの買い物のしやすさ」がこの分野では最も高い平均点（94.2点）となっている。その内訳は「新里地区」が97.5点で最高点、「川井地区」が89.3点で最低点となっている。また、平均点の最も低い「魅力的な商業ゾーンである末広町、中央通などの地元商店街」（78.4点）は「新里地区」が82.9点で最高点、「川井地区」が67.3点で最低点となった。

全ての項目で「新里地区」が最高点、「川井地区」に最低点が多かった。

「産業・就労」の必要度（地区別）	平均	宮古地区	田老地区	新里地区	川井地区
魅力的な商業ゾーンである末広町、中央通などの地元商店街	78.4	81.1	82.5	82.9	67.3
賑わいのある商業ゾーンである小山田や宮町、長町などの沿道沿い	79.1	84.4	82.9	85.5	63.5
娯楽やレジャー施設	79.1	84.4	78.0	84.6	69.2
おいしい店や楽しく飲食できる店	88.7	90.4	90.2	92.1	82.0
食品や日用品などの買い物のしやすさ	94.2	95.1	95.1	97.5	89.3
魅力ある観光スポットや特産品	83.9	90.5	88.5	83.8	73.1
魅力ある伝統文化や文化財	81.8	82.1	81.3	86.8	76.9
新しい産業や創造的な企業が生まれる土壌	83.3	88.0	87.5	82.9	75.0
パートやアルバイトを含めた多様な就労の場	90.8	92.0	91.3	91.0	88.9
担い手が多く、盛んな農業	86.0	86.5	86.3	85.9	85.2
担い手が多く、盛んな林業	82.3	84.5	78.0	83.3	83.3
担い手が多く、盛んな水産業	86.1	88.9	87.5	83.3	84.6
魚価の安定や消費拡大のための対策	91.0	92.2	91.3	93.6	87.0
多くの市民の就労の場となり、盛んな工業	89.5	89.1	88.8	89.7	90.4
回答数	830	725	40	39	26
				最高点	最低点

■ 「基盤整備」の必要度

基盤整備における必要度の得点を地区別にみると、「自然災害（土砂崩れ・洪水・津波など）に対する防災体制」がこの分野では最も高い平均点（96.0点）となっている。その内訳は「川井地区」が98.1点で最高点、「新里地区」が93.4点で最低点となっている。また、平均点の最も低い「公営住宅の整備状況」（77.7点）は「田老地区」が83.3点で最高点、「川井地区」が70.8点で最低点となった。

全ての項目で「新里地区」が最高点、「川井地区」に最低点が多かった。

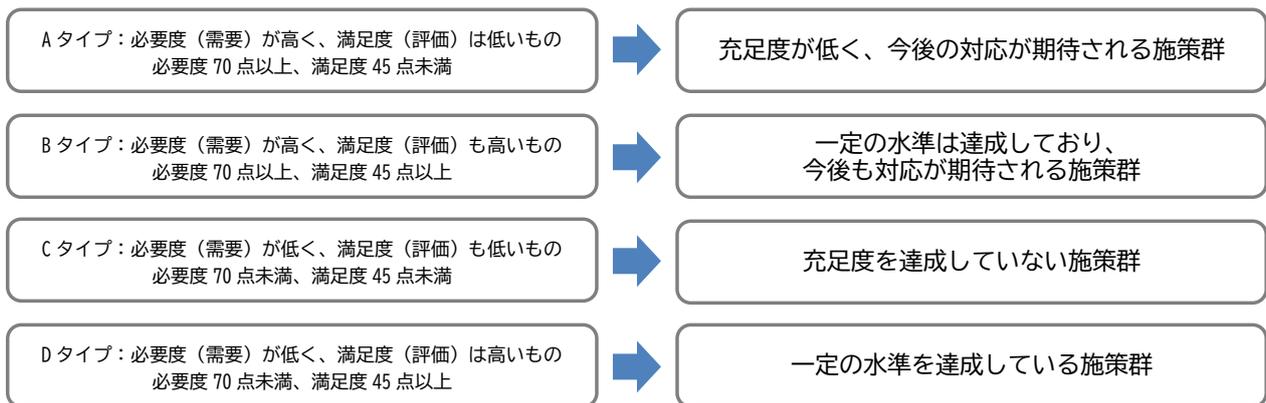
「基盤整備」の必要度（地区別）	平均	宮古地区	田老地区	新里地区	川井地区
様々なことに有効活用されている港湾	83.3	85.3	85.9	87.8	74.0
宮古駅周辺における生活に必要な施設や機能の充実	90.5	92.8	95.0	94.9	79.2
鉄道・バスなどの公共交通が利用しやすい環境	92.7	92.1	90.0	96.2	92.6
国道や県道などの幹線道路の整備状況	91.4	93.3	91.0	97.4	84.0
幹線となる市道の整備状況	89.3	93.4	91.0	94.7	78.0
身近な生活道路の整備状況	92.9	94.6	92.1	94.9	90.0
駐輪・駐車場の整備状況	83.9	87.3	87.2	91.0	70.0
公園・緑地などの整備・保全状況	83.2	87.8	85.9	87.2	72.0
公営住宅の整備状況	77.7	77.7	83.3	78.9	70.8
年をとっても安心して住める住まい	93.2	93.8	93.6	91.3	94.2
身近な情報や知りたい情報を入手する手段の豊富さ	86.5	88.8	91.0	89.5	76.9
適切な場所に設置された行政サービスの窓口	88.7	89.8	87.2	92.5	85.2
民間・行政における市外他地域との盛んな交流活動	78.1	78.0	80.3	82.9	71.2
火災に対する消防体制	93.5	94.2	94.9	92.3	92.6
災害時に必要な情報が入手できる手段（防災行政無線など）	94.4	95.4	97.4	88.5	96.3
適切に指定された災害時の避難所・避難場所	94.8	95.6	97.4	93.2	92.9
自然災害（土砂崩れ・洪水・津波など）に対する防災体制	96.0	95.0	97.4	93.4	98.1
回答数	824	720	39	39	26
				最高点	最低点

(7) 行政施策の類型化

総合的な施策管理や施策展開のためには、個別施策の達成状況の評価や進捗状況の管理だけでなく、個別の施策を市政運営の方向性や市民満足度との関係から互いに関連づけ、あるいは一体的に捉えることが重要となる。そこで、アンケート調査結果に基づいて、「施策目標の評価」の視点から個別施策をまとまりのある施策群として捉えるよう類型化を試みる。

ここでは、施策目標への評価と需要を踏まえて、下記の4つの施策群に分類することにする。

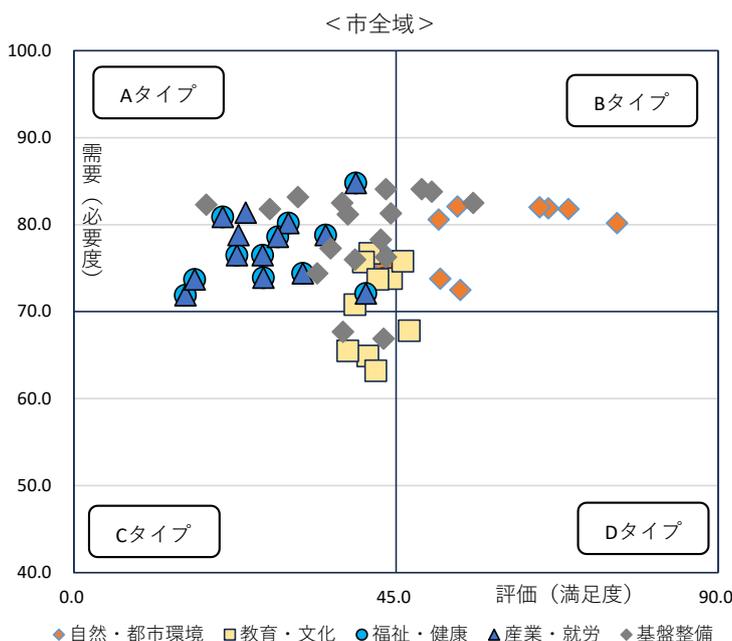
なお、第4章で前回調査との比較をするため、数値軸は前回調査に合わせることにする。



4つの施策群を市全域と市内4地区（宮古地区、田老地区、新里地区、川井地区）で比較してみる。

■市全域の傾向

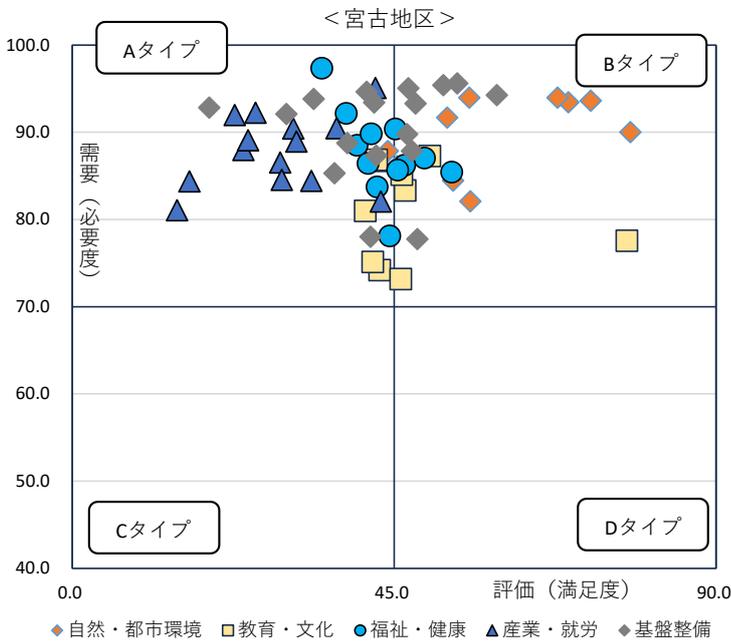
Aタイプには45の項目が属しており、全項目の71.4%を占めている。また、Bタイプは12項目（19.0%）、Cタイプは5項目（7.9%）、Dタイプは1項目（1.6%）となっている。



<市全域>	A	B	C	D
自然・都市環境	2	8	0	0
教育・文化	5	1	3	1
福祉・健康	12	0	0	0
産業・就労	14	0	0	0
基盤整備	12	3	2	0
合計	45	12	5	1

■宮古地区の傾向

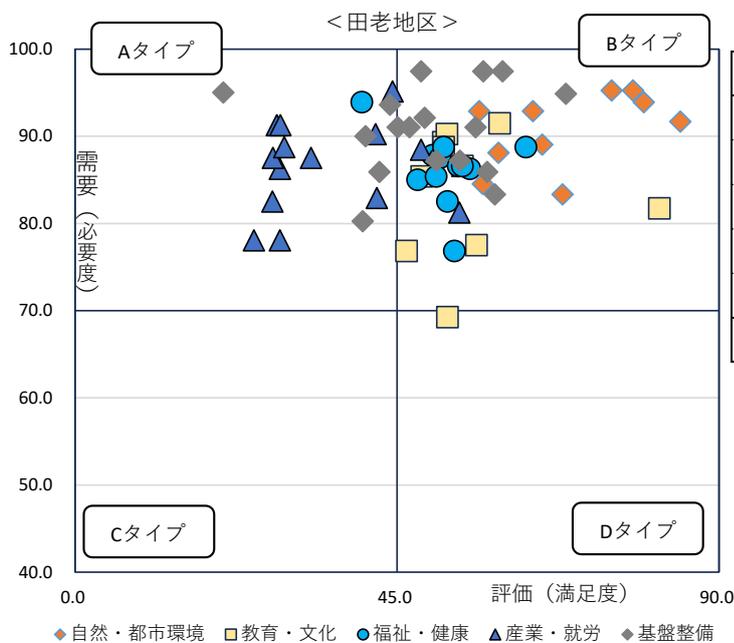
Aタイプには36の項目が属しており、全項目の57.1%を占めている。また、Bタイプは27項目(42.9%)、Cタイプ・Dタイプは各0項目となっている。



<宮古地区>	A	B	C	D
自然・都市環境	1	9	0	0
教育・文化	5	5	0	0
福祉・健康	7	5	0	0
産業・就労	14	0	0	0
基盤整備	9	8	0	0
合計	36	27	0	0

■田老地区の傾向

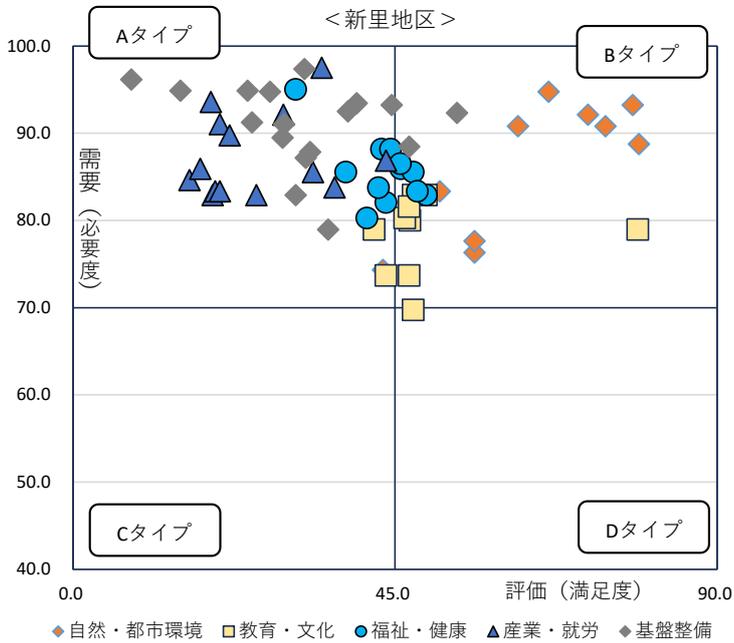
Bタイプには44の項目が属しており、全項目の69.8%を占めている。また、Aタイプは18項目(28.6%)、Dタイプは1項目(1.6%)、Cタイプは0項目となっている。



<田老地区>	A	B	C	D
自然・都市環境	0	10	0	0
教育・文化	0	9	0	1
福祉・健康	1	11	0	0
産業・就労	12	2	0	0
基盤整備	5	12	0	0
合計	18	44	0	1

■新里地区の傾向

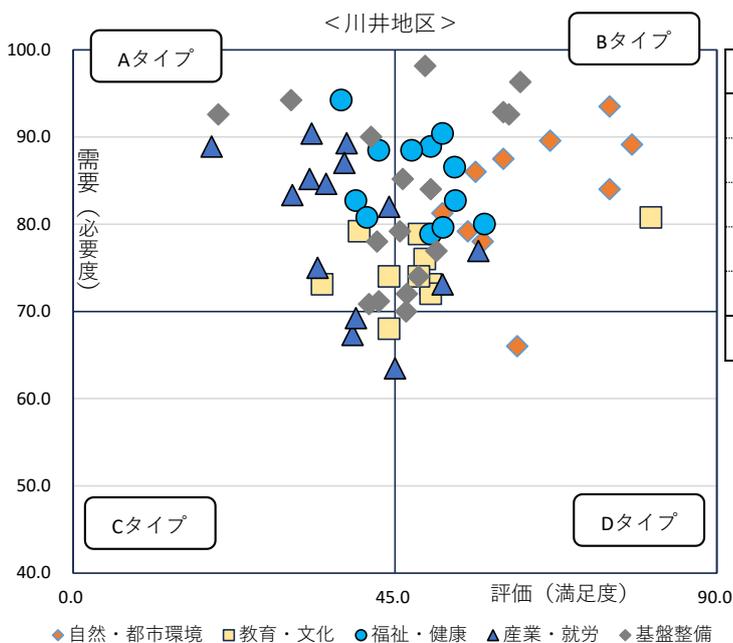
Aタイプには39の項目が属しており、全項目の61.9%を占めている。また、Bタイプは23項目(36.5%)、Dタイプは1項目(1.6%)、Cタイプは0項目となっている。



<新里地区>	A	B	C	D
自然・都市環境	1	9	0	0
教育・文化	2	7	0	1
福祉・健康	7	5	0	0
産業・就労	14	0	0	0
基盤整備	15	2	0	0
合計	39	23	0	1

■川井地区の傾向

Bタイプには36の項目が属しており、全項目の57.1%を占めている。また、Aタイプは22項目(34.9%)、Cタイプは3項目(4.8%)、Dタイプは2項目(3.2%)となっている。



<川井地区>	A	B	C	D
自然・都市環境	0	9	0	1
教育・文化	3	6	1	0
福祉・健康	4	8	0	0
産業・就労	9	2	2	1
基盤整備	6	11	0	0
合計	22	36	3	2

「自然・都市環境」は満足度、必要度ともに高く、「産業・就労」改善に対する期待が大きい。

	満足度 平均点 (A)	必要度 平均点 (B)	満足度と必要度 の差 (A) - (B)
自然・都市環境	57.3	78.7	-21.4
教育・文化	42.3	70.8	-28.5
福祉・健康	40.5	76.9	-36.4
産業・就労	27.3	77.3	-50.0
基盤整備	39.5	79.0	-39.5

身近な生活環境について、分野別得点の平均点は上の表のようになった。

満足度の平均点は「自然・都市環境」が最も高く 57.3 点となり、次いで「教育・文化」(42.3 点)、「福祉・健康」(40.5 点)、「基盤整備」(39.5 点)、「産業・就労」(27.3 点)の順となっている。

一方、必要度の平均点は「基盤整備」が最も高く 79.0 点となり、次いで「自然・都市環境」(78.7 点)、「産業・就労」(77.3 点)、「福祉・健康」(76.9 点)、「教育・文化」(70.8 点)の順となっている。満足度は「自然・都市環境」が最も高く、必要度は「基盤整備」が最も高いが、次いで「自然・都市環境」が高くなっている。今後も重要な施策として「自然・都市環境」を回答した方が多いことがわかる。

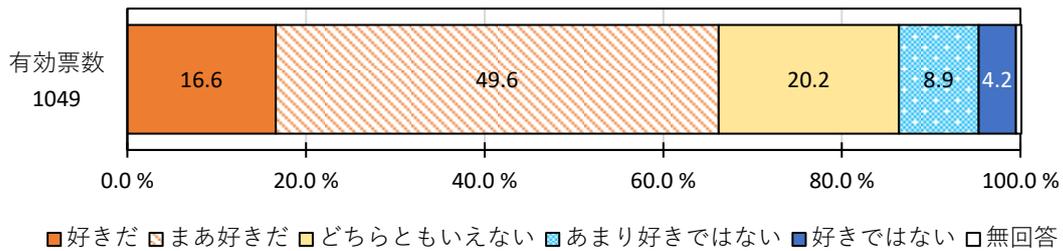
また、満足度と必要度の差を比べると、「産業・就労」の差が最も大きく 50.0 点となり、次いで「基盤整備」(39.5 点)、「福祉・健康」(36.4 点)、「教育・文化」(28.5 点)、「自然・都市環境」(21.4 点)の順となっている。市民が今後の施策に期待するものは、「産業・就労」に係わる 14 項目に多いという結果になった。

(8) 地域への愛着度

問2 あなたは、今お住まいの地域をどの程度好きですか。

およそ7割が地域を「好きだ」と感じている

「好きだ」(「好きだ」(16.6%)と「まあ好きだ」(49.6%)の合計)は66.2%となり、「好きではない」(「あまり好きではない」(8.9%)と「好きではない」(4.2%)の合計)は13.1%で、「好きだ」が「好きではない」を53.1ポイント上回った。

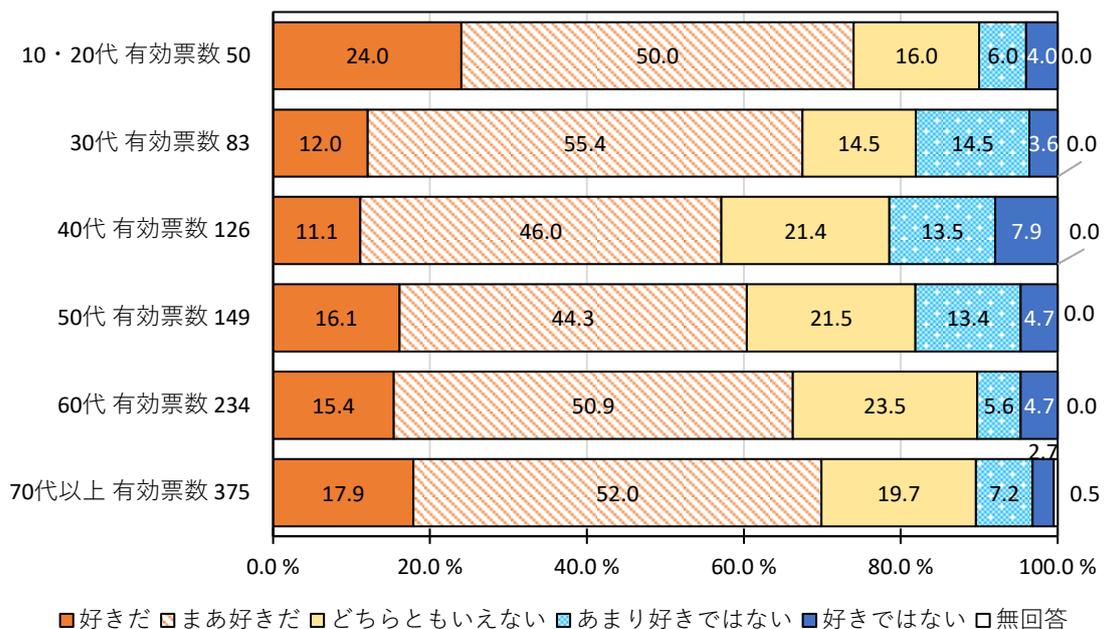


■年代別にみた地域への愛着度

地域への愛着度が最も高い年代は「10・20代」で74.0% (「好きだ」(24.0%)と「まあ好きだ」(50.0%)の合計)となった。

一方、地域を好きではないという回答が最も多い年代は「40代」で21.4% (「あまり好きではない」(13.5%)と「好きではない」(7.9%)の合計)となっている。

各年代で愛着度が概ね6割を超えており、年代を問わず、地域への愛着があることがわかる。

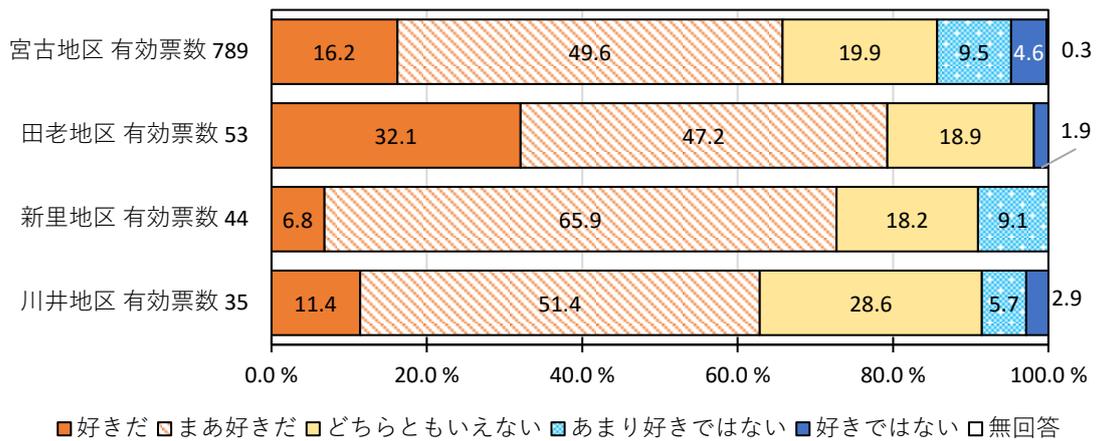


■地区別にみた地域への愛着度

地域への愛着度が最も高い地区は「田老地区」で79.2%（「好きだ」(32.1%)と「まあ好きだ」(47.2%)の合計）となった。

一方、地域を好きではないという回答が最も多い地区は「宮古地区」で14.1%（「あまり好きではない」(9.5%)と「好きではない」(4.6%)の合計）となっている。

全ての地区で愛着度が6割以上となったが、「川井地区」で「どちらともいえない」という回答が多く（28.6%）、地区により愛着度にばらつきがみられる。

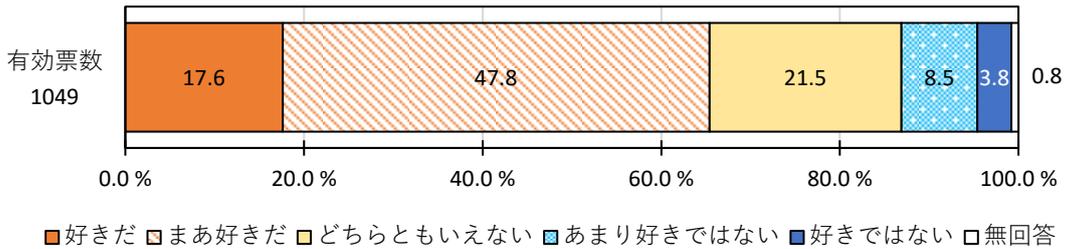


(9) 市への愛着度

問3 あなたは、宮古市をどの程度好きですか。

6割が市を「好きだ」と感じている

「好きだ」(「好きだ」(17.6%)と「まあ好きだ」(47.8%)の合計)は65.4%となり、「好きではない」(「あまり好きではない」(8.5%)と「好きではない」(3.8%)の合計)は12.3%で、「好きだ」が「好きではない」を53.1ポイント上回った。

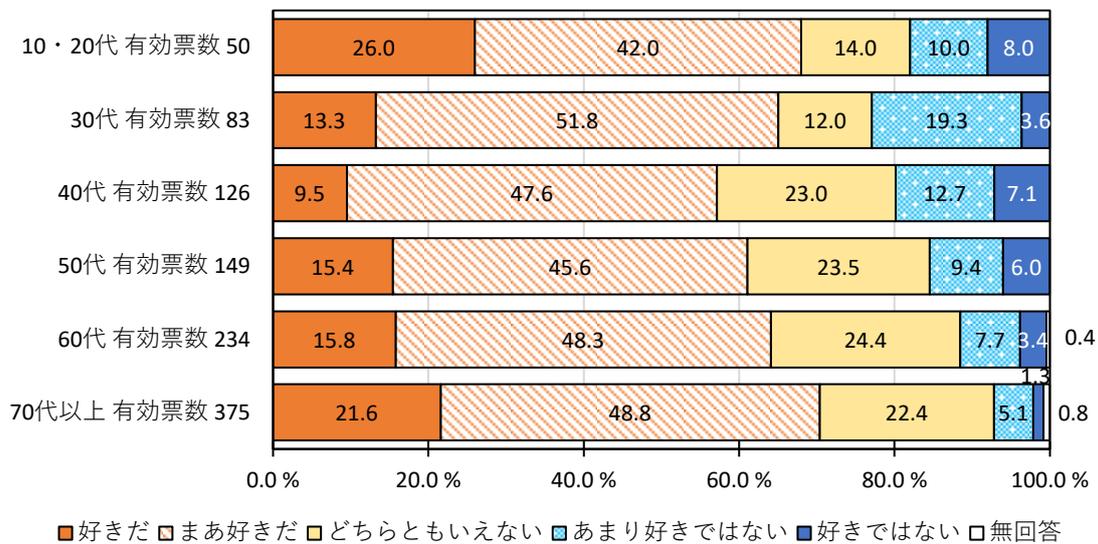


■年代別にみた市への愛着度

市への愛着度が最も高い年代は“70代以上”で70.4% (「好きだ」(21.6%)と「まあ好きだ」(48.8%)の合計) になった。

一方、市を好きではないという回答が最も多い年代は“30代”で22.9% (「あまり好きではない」(19.3%)と「好きではない」(3.6%)の合計) となっている。

全ての年代で愛着度がおおむね6割を超えており、年代を問わず、市への愛着があることがわかる。

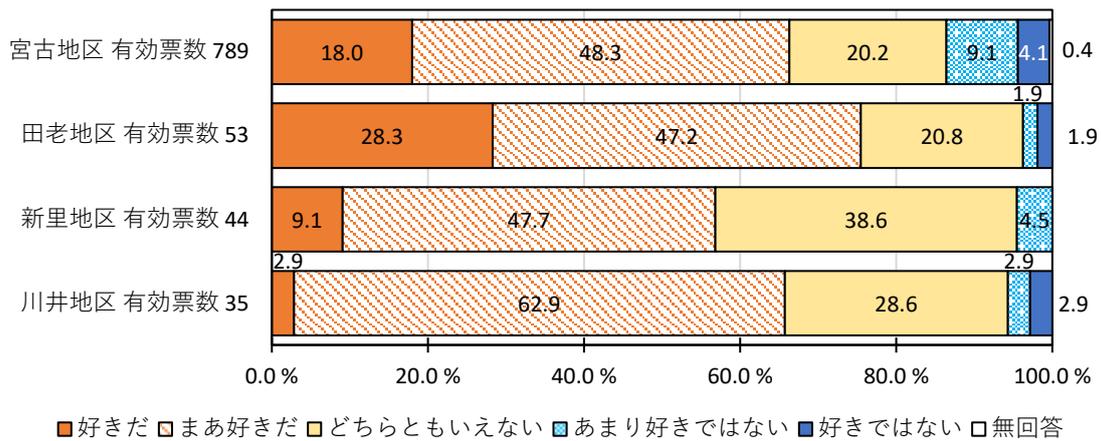


■地区別にみた市への愛着度

市への愛着度が最も高い地区は“田老地区”で75.5%（「好きだ」(28.3%)と「まあ好きだ」(47.2%)の合計）となった。

一方、市を好きではないという回答が最も多い地区は“宮古地区”で13.2%（「あまり好きではない」(9.1%)と「好きではない」(4.1%)の合計）となっている。

「好きだ」が最も低い“川井地区”でも愛着度は65.7%、最も愛着度が低い“新里地区”でも56.8%と5割以上となっており、居住地区に関係なく、市へ愛着を感じていることがわかる。

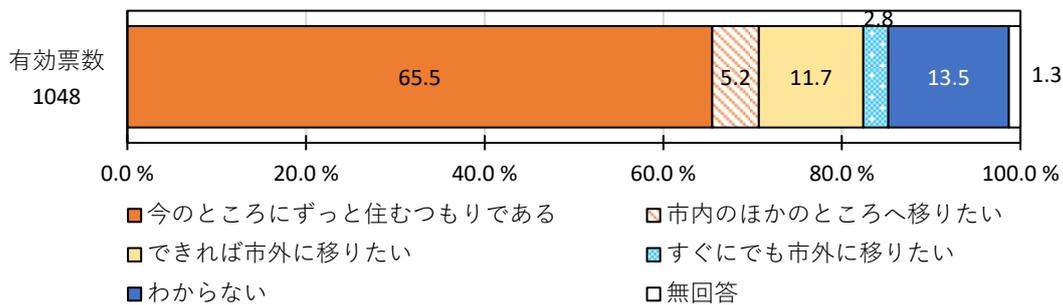


(10) 定住意向

問4 あなたは、宮古市内に今後も住み続けたいと思いますか。

7割が市内への定住を望んでいる

「今のところずっと住むつもりである」が最も多く65.5%となった。次いで「できれば市外に移りたい」(11.7%)、「市内のほかのところへ移りたい」(5.2%)、「すぐにでも市外に移りたい」(2.8%)の順となっている。市内への定住意向は70.7%（「今のところずっと住むつもりである」(65.5%)と「市内のほかのところへ移りたい」(5.2%)の合計）となり、回答者の7割以上が定住を望んでいることがわかる。

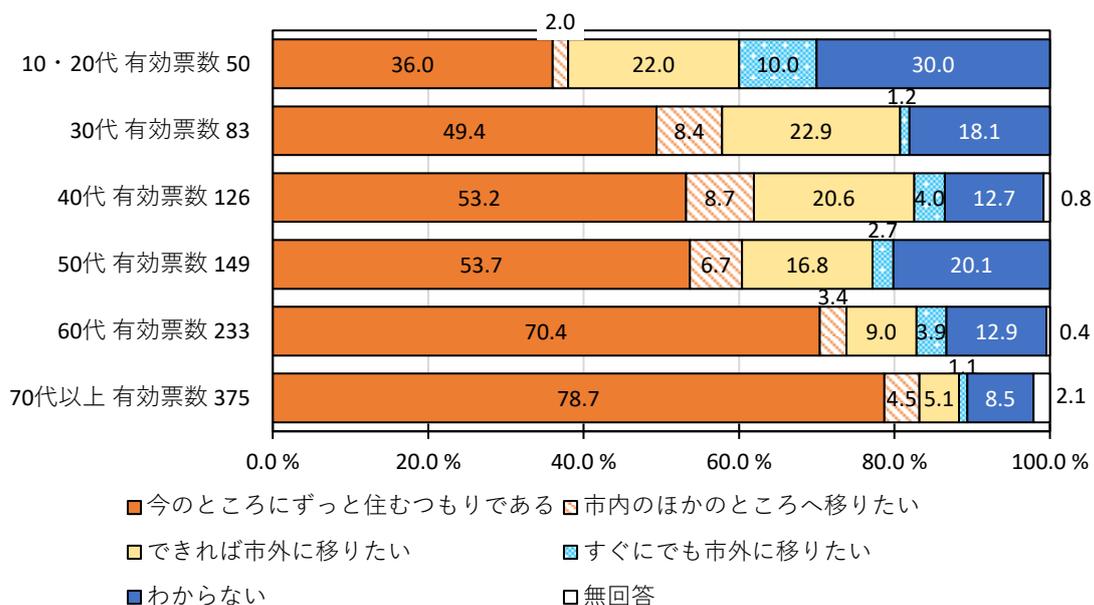


■年代別にみた定住意向

定住意向が最も高い年代は“70代以上”で83.2%（「今のところずっと住むつもりである」(78.7%)と「市内のほかのところへ移りたい」(4.5%)の合計）となった。

一方、定住意向が最も低い年代は“10・20代”で32.0%（「できれば市外に移りたい」(22.0%)と「すぐにでも市外に移りたい」(10.0%)の合計）となっている。

概ね年代が低いほど市外に移りたいという意見が多くなっている。

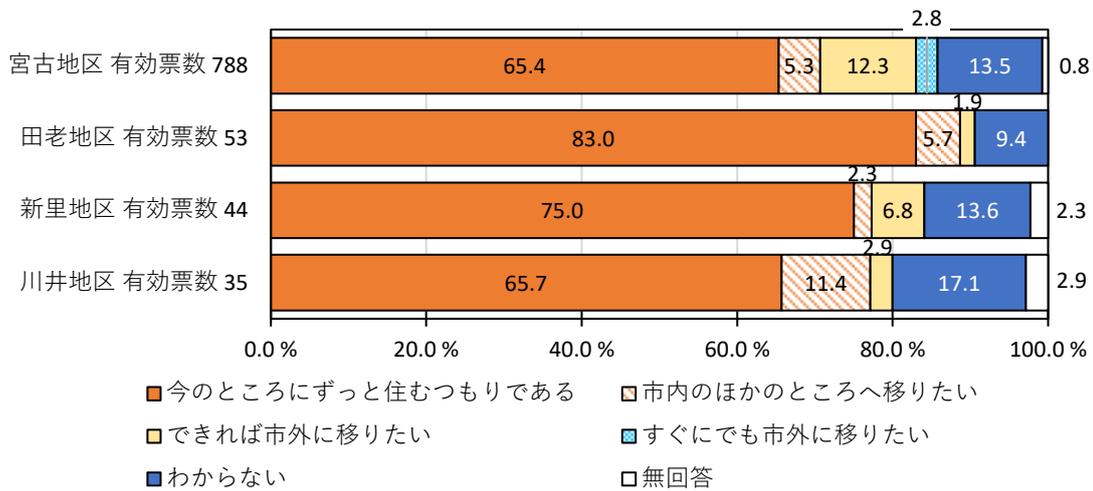


■地区別にみた定住意向

定住意向が最も高い地区は“田老地区”で88.7%（「今のところずっと住むつもりである」（83.0%）と「市内のほかのところへ移りたい」（5.7%）の合計）となった。

一方、定住意向が最も低い地区は“宮古地区”で15.1%（「できれば市外に移りたい」（12.3%）と「すぐにでも市外に移りたい」（2.8%）の合計）となっている。

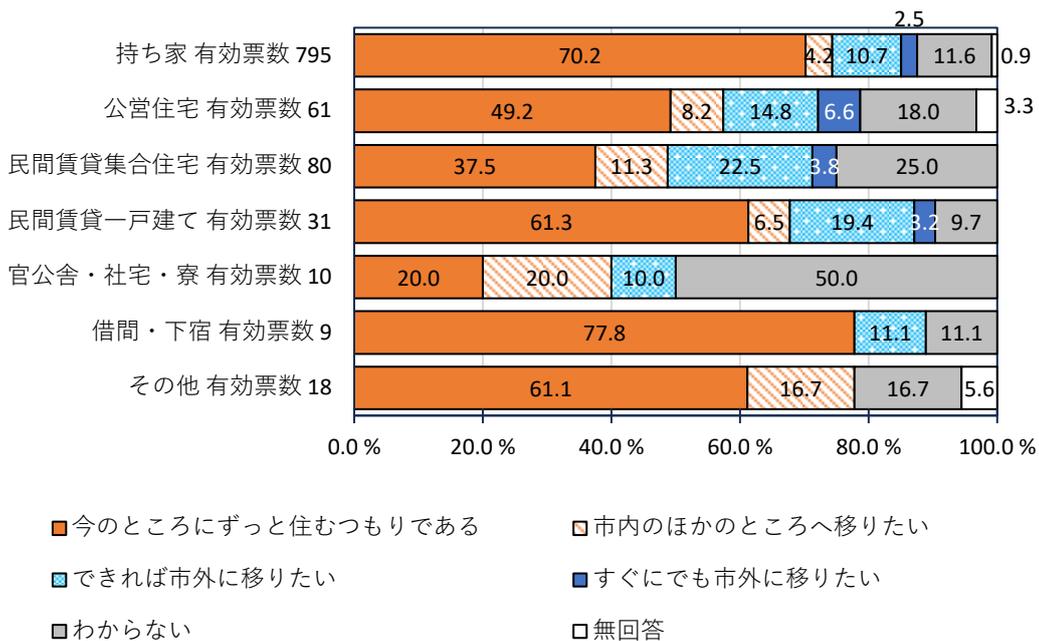
全ての地区で定住意向が7割を超えている。



■居住形態別にみた定住意向

定住意向が最も高い居住形態は“貸間・下宿”で77.8%（「今のところずっと住むつもりである」（77.8%））、次いで“持ち家”で74.4%（「今のところずっと住むつもりである」（70.2%）と「市内のほかのところへ移りたい」（4.2%）の合計）となった。

一方、定住意向が最も低い居住形態は“民間賃貸集合住宅”で26.3%（「できれば市外に移りたい」（22.5%）と「すぐにでも市外に移りたい」（3.8%）の合計）となっている。

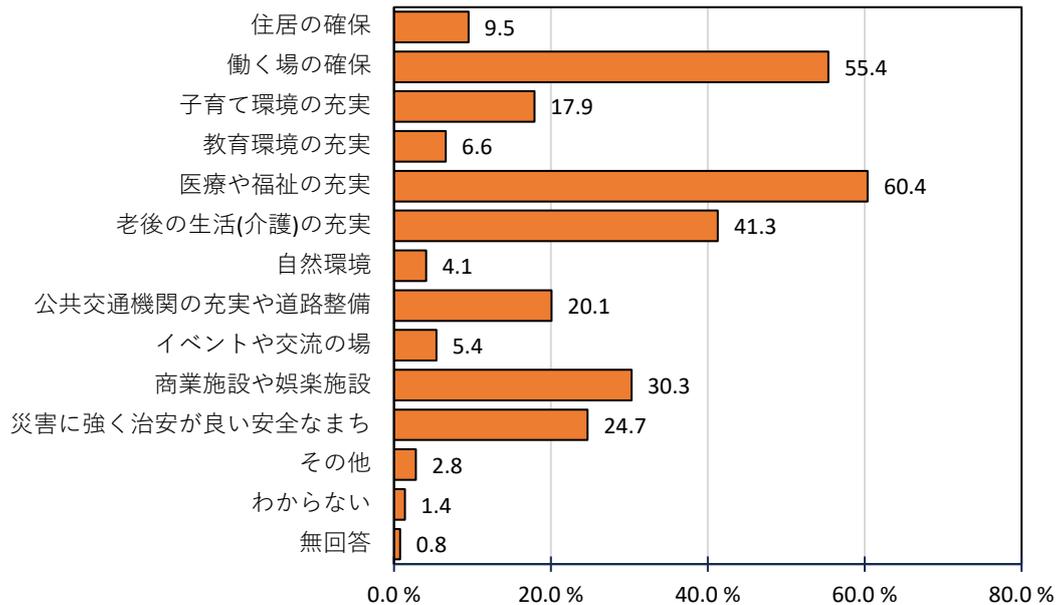


(11) くらしやすさについて

問5 宮古市が暮らしやすくなるために、必要なことは何だと思いますか。(○印は3つまで)

宮古市が暮らしやすくなるために最も必要なことは「医療や福祉の充実」で60.4%、次いで「働く場の確保」(55.4%)、「老後の生活(介護)の充実」(41.3%)の順で高くなっている。

就労と医療・福祉に関する項目が必要だと考えられている傾向にある。



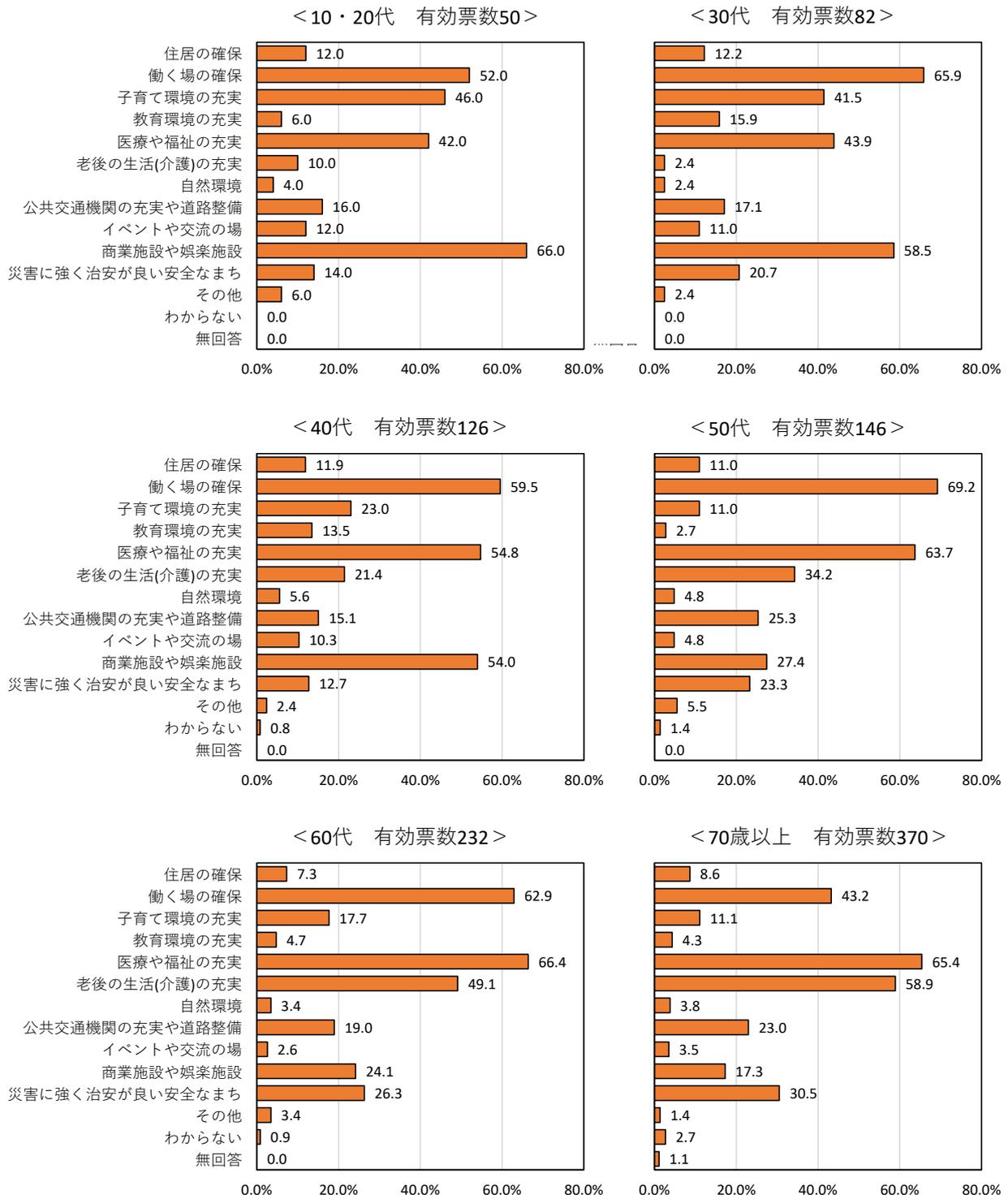
有効票数= 1038

■年代別にみた暮らしやすくなるために必要なこと

各年代で「働く場の確保」が必要だと考えられている

各年代で「働く場の確保」が最も高くなっている。“30代”以上では「医療や福祉の充実」、
 “50代以上”では「老後の生活(介護)の充実」が高くなっており、医療・福祉に関する項目が
 高くなっている。

“10・20代”と“30代”では「子育て環境の充実」が4割以上を占め、“40代”以下では「商
 業施設や娯楽施設」が5割以上を占めている。



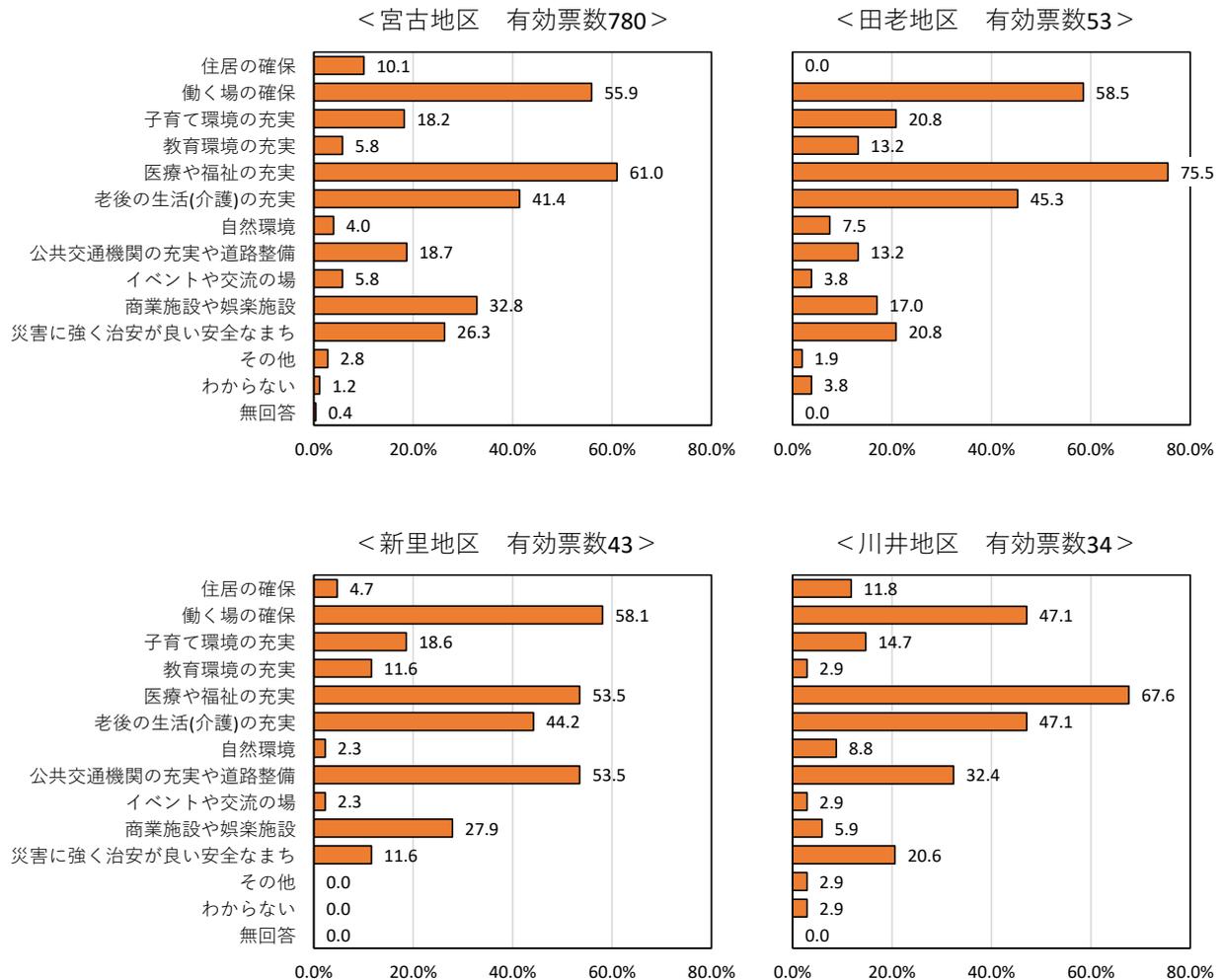
■地区別にみた暮らしやすくなるために必要なこと

医療・福祉・高齢者介護について必要だと考えられている

各地区で「医療や福祉の充実」が高く、特に“宮古地区”、“田老地区”、“川井地区”では最も高い割合となっている。

各地区ではその他「働く場の確保」、「老後の生活(介護)の充実」が4割以上を占めている。

“新里地区”、“川井地区”では「公共交通機関の充実や道路整備」の割合も高くなっており、“新里地区”では53.5%、“川井地区”では32.4%となっている。



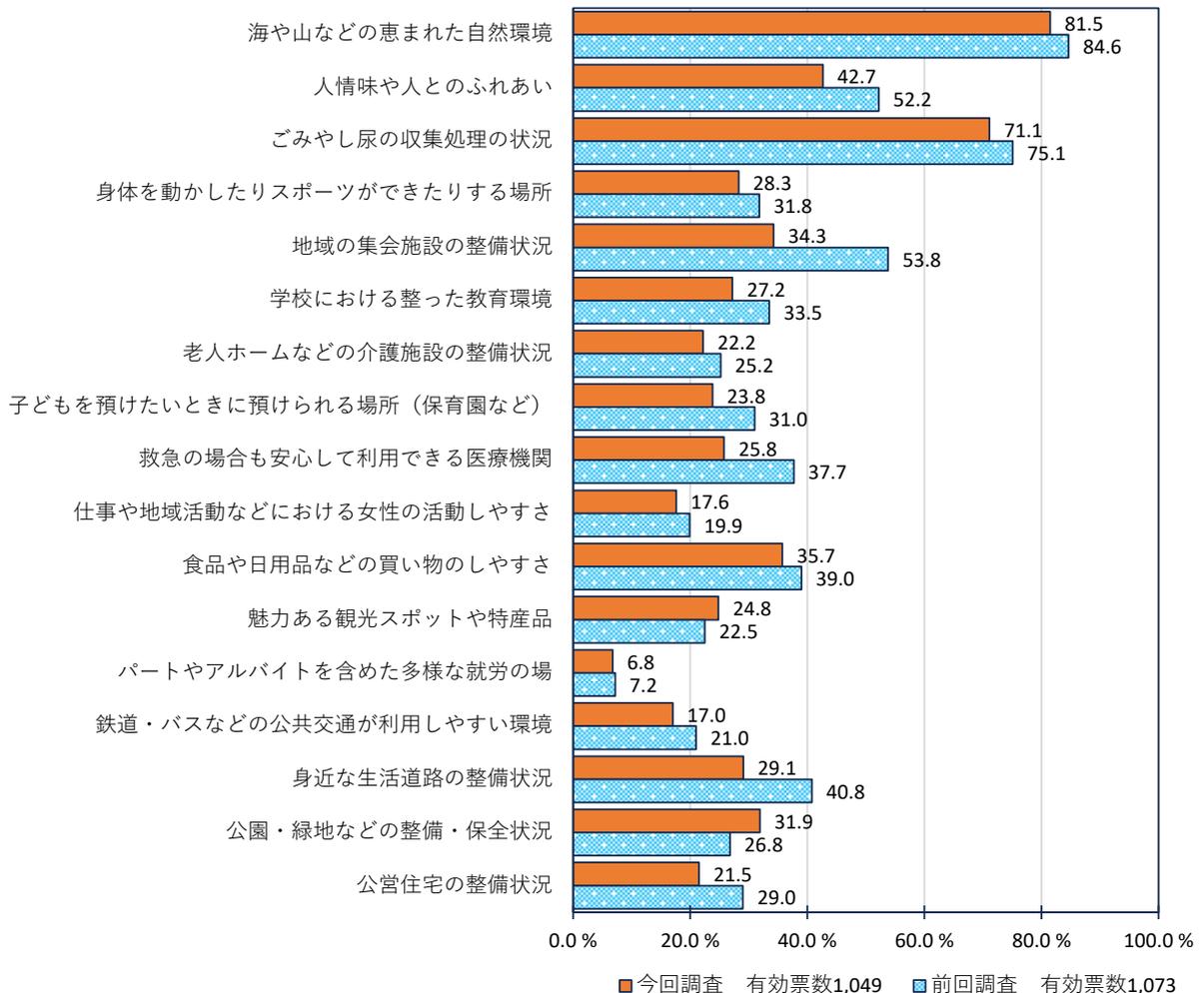
(12) くらしやすさの時系列比較

市のくらしやすさに関する満足度や不満足度について、今回調査と前回調査(平成30年)を比較(時系列比較)する。比較にあたり、回答の「満足している」と「まあ満足している」の回答割合を合わせた数値を「満足度」とし、「あまり満足していない」と「満足していない」の回答割合を合わせた数値を「不満足度」として捉えることとする。

■宮古市のくらしやすさ(満足度)

前回調査から満足度が最も上がった項目は、「公園・緑地などの整備・保全状況」で5.1ポイントとなった。次いで「魅力ある観光スポットや特産品」(2.3ポイント)の順となっている。

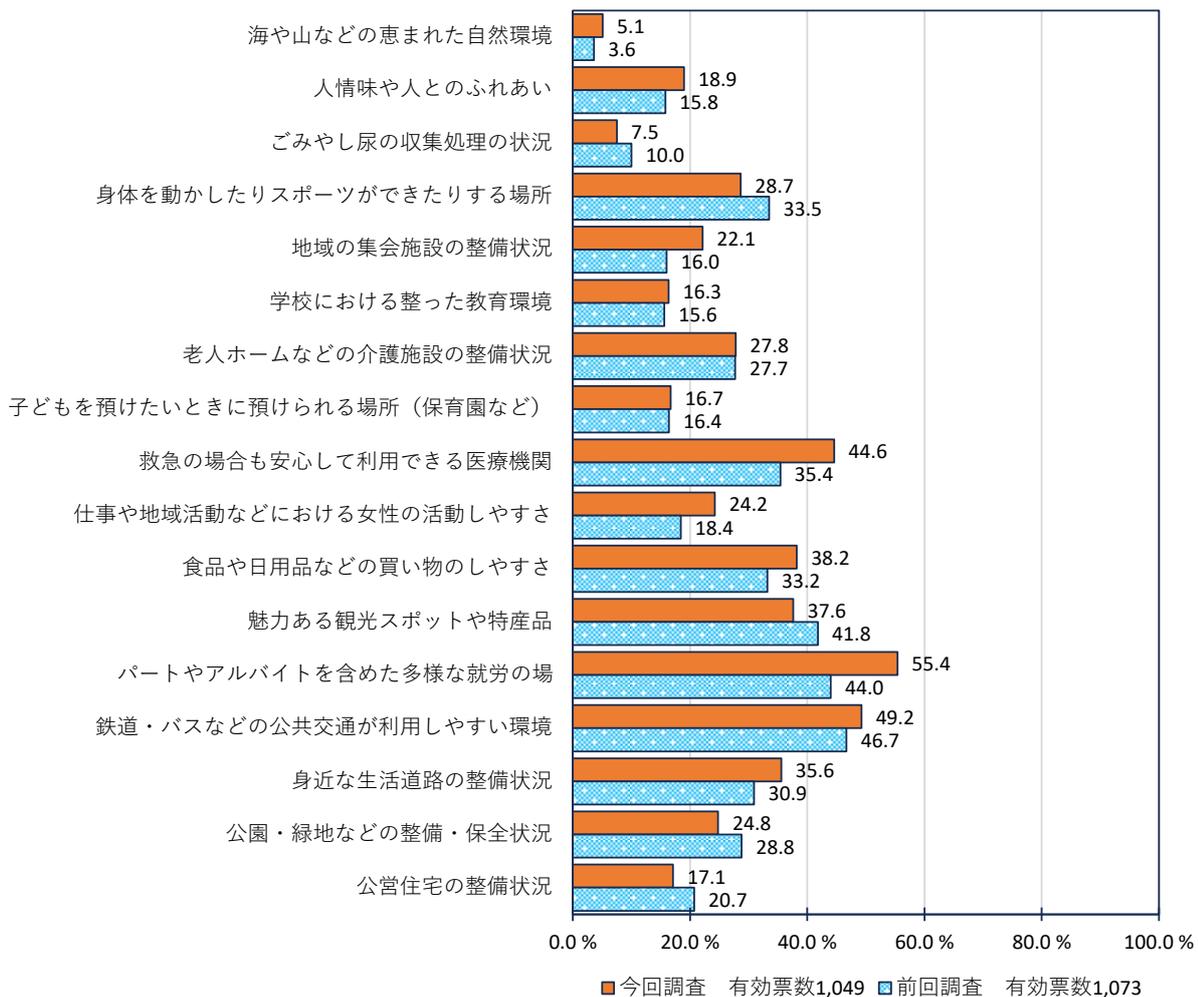
一方、満足度が最も下がった項目は、「地域の集会施設の整備状況」で-19.5ポイント、次いで「救急の場合も安心して利用できる医療機関」(-11.9ポイント)、「身近な生活道路の整備状況」(-11.7ポイント)の順となっている。



■宮古市のくらしやすさ（不満足度）

前回調査から不満足度が最も下がった項目は、「身体を動かしたりスポーツができたりする場所」で-4.8ポイントとなった。次いで「魅力ある観光スポットや特産品」（-4.2ポイント）、「公園・緑地などの整備・保全状況」（-4.0ポイント）の順となっている。

一方、不満足度が最も上がった項目は、「パートやアルバイトを含めた多様な就労の場」で11.4ポイント、次いで「救急の場合も安心して利用できる医療機関」（9.2ポイント）、「地域の集会施設の整備状況」（6.1ポイント）の順となっている。

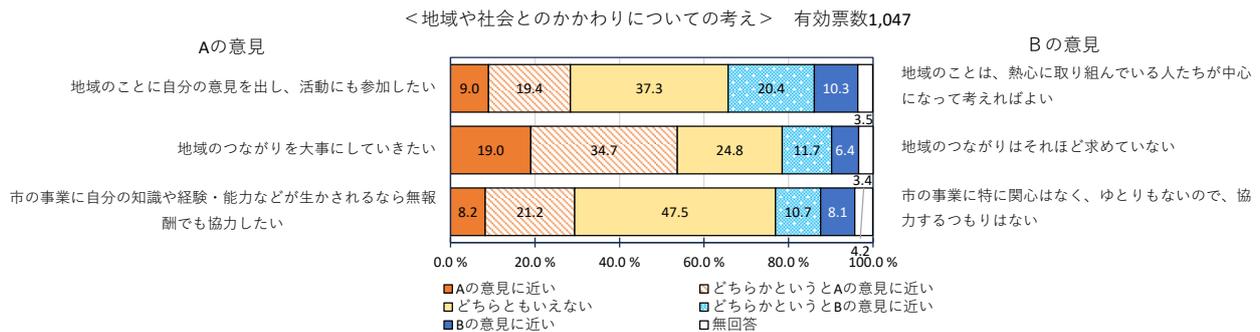


2 地域や社会とのかかわりに対する意識

(1) 地域や社会への参加意識

問6 以下のようなA・Bの異なる意見があるとして、あなたはA・Bどちらの意見に近いお考えをお持ちですか。あてはまるところに○をつけてください。(○印はそれぞれ1つずつ)

同じ価値観や地域のつながりは大事にしたい



■ 地域活動への参加意識

Aの意見（「Aの意見に近い」（9.0%）と「どちらかというともいえない」（19.4%）の合計）は28.4%、Bの意見（「どちらかというともいえない」（20.4%）と「Bの意見に近い」（10.3%）の合計）は30.7%となり、Bの意見がAの意見をわずかに2.3ポイント上回った。

地域活動への参加に対しては、積極的な意見と消極的な意見が均衡しているが「どちらともいえない」がおよそ4割を占めている。

■ 人とのつながりに対する価値観

Aの意見（「Aの意見に近い」（19.0%）と「どちらかというともいえない」（34.7%）の合計）は53.7%、Bの意見（「どちらかというともいえない」（11.7%）と「Bの意見に近い」（6.4%）の合計）は18.1%となり、Aの意見がBの意見を35.6ポイント上回った。

同じ価値観の人たちとのつながりはもちろんだが、地域のつながりも大事にしたいという意見が半数を占めた。

■ 市の事業への協力意識

Aの意見（「Aの意見に近い」（8.2%）と「どちらかというともいえない」（21.2%）の合計）は29.4%、Bの意見（「どちらかというともいえない」（10.7%）と「Bの意見に近い」（8.1%）の合計）は18.8%となり、Aの意見がBの意見を10.6ポイント上回った。

市の事業に対して比較的協力的な回答が多い反面、「どちらともいえない」という回答も47.5%に上る。

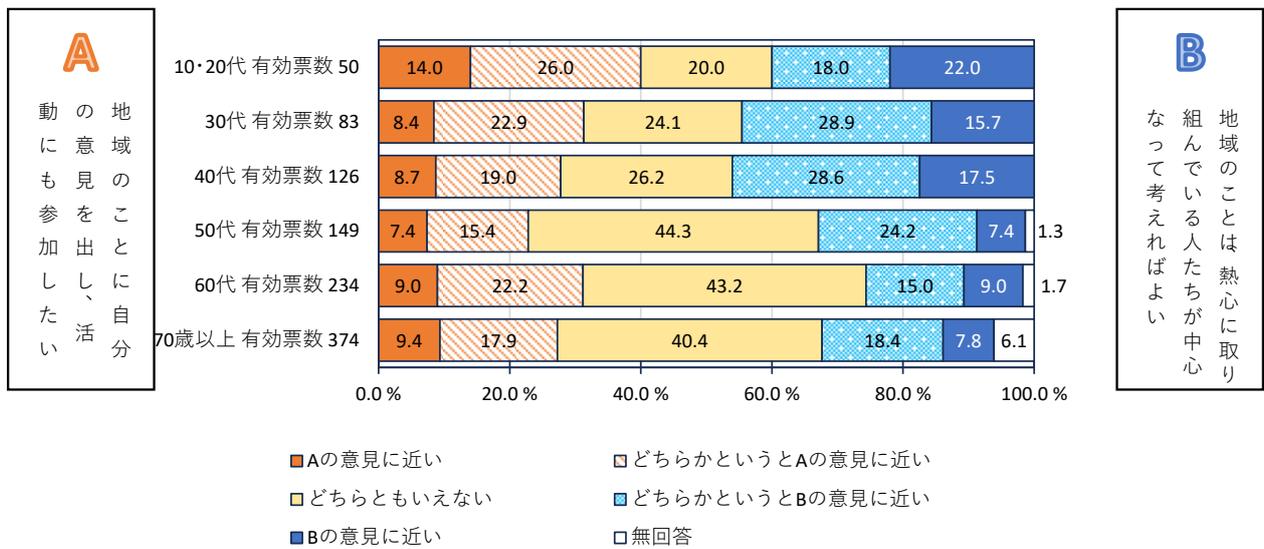
(2) 年代別にみた地域や社会への参加意識

“50代”が特に地域や社会への参加意識は低い

■地域活動への参加意識

Aの意見に最も近い年代は“10・20代”で40.0%（「Aの意見に近い」(14.0%)と「どちらかというAの意見に近い」(26.0%)の合計）、Bの意見に最も近い年代は“40代”で46.0%（「どちらかというBの意見に近い」(28.6%)と「Bの意見に近い」(17.5%)の合計）となった。

地域活動への参加意識は、若年層でも高いが、反対の意見も多く均衡している。“50代”以降では「どちらともいえない」の割合が4割以上を占めている。



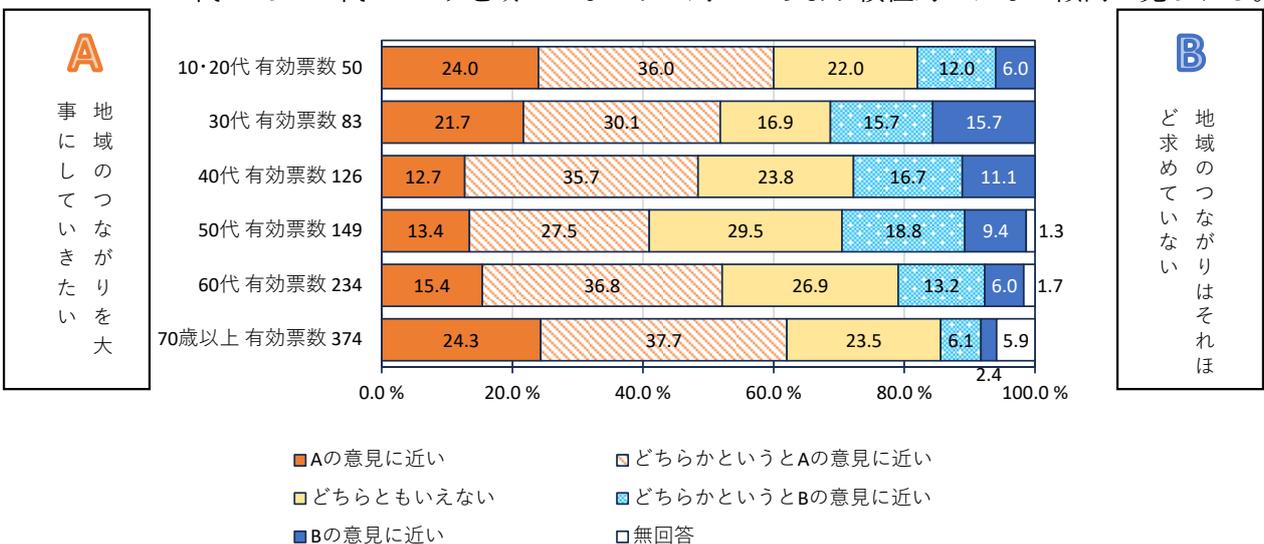
A
動の地に
意域の
見のこ
をとし
参加し
出した
し、活
動に参
加した
い自分
の活

B
組地
んで域
いるの
人たは
ちが熱
が心
がに
中心
な取
ってり
考えよ
ればい

■人とのつながりに対する価値観

Aの意見に最も近い年代は“70代以上”で62.0%（「Aの意見に近い」(24.3%)と「どちらかというAの意見に近い」(37.7%)の合計）、Bの意見に最も近い年代は“30代”で31.3%（「どちらかというBの意見に近い」(15.7%)と「Bの意見に近い」(15.7%)の合計）となった。

“30代”から“50代”にかけて地域のつながりに対してあまり積極的ではない傾向が見られる。



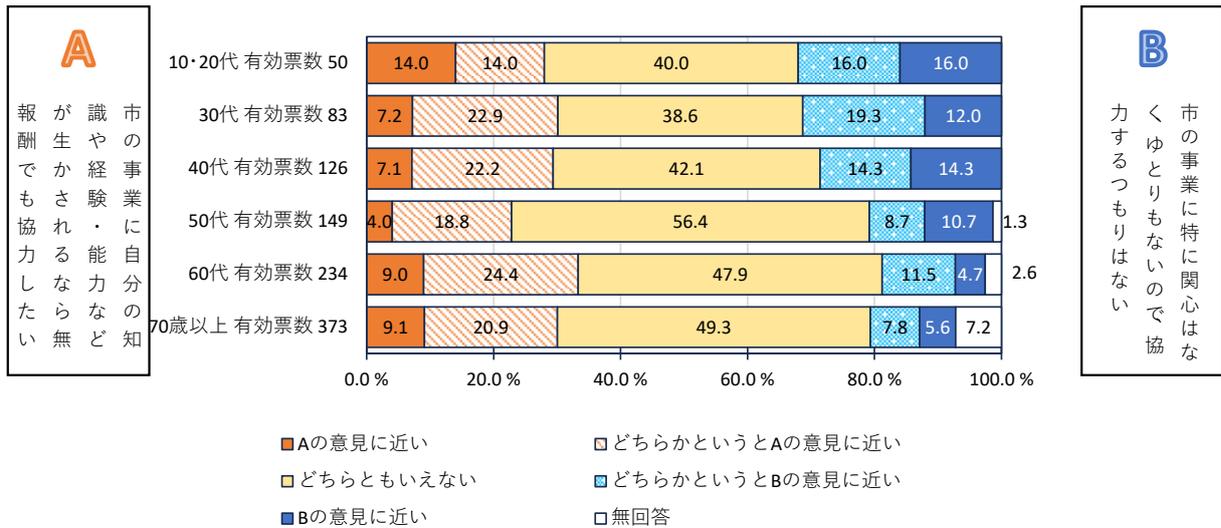
A
事地に
域の
しつな
がりを
たい大

B
ど地
求め域
ての
いなつ
なが
りは
それ
ほ

■市の事業への協力意識

Aの意見に最も近い年代は“60代”で33.3%（「Aの意見に近い」(9.0%)と「どちらかというともいえない」(24.4%)の合計）、Bの意見に最も近い年代は“10・20代”で32.0%（「どちらかというともいえない」(16.0%)と「Bの意見に近い」(16.0%)の合計）となった。

年齢が上がるにつれBの意見の割合が低くなるが、概ねどの年齢層においても、「どちらともいえない」が高く、同様の傾向が見られた。特に“50代”においては、他の年齢層に比べて「どちらともいえない」が5割以上を占め、協力意識が低い傾向が見られた。



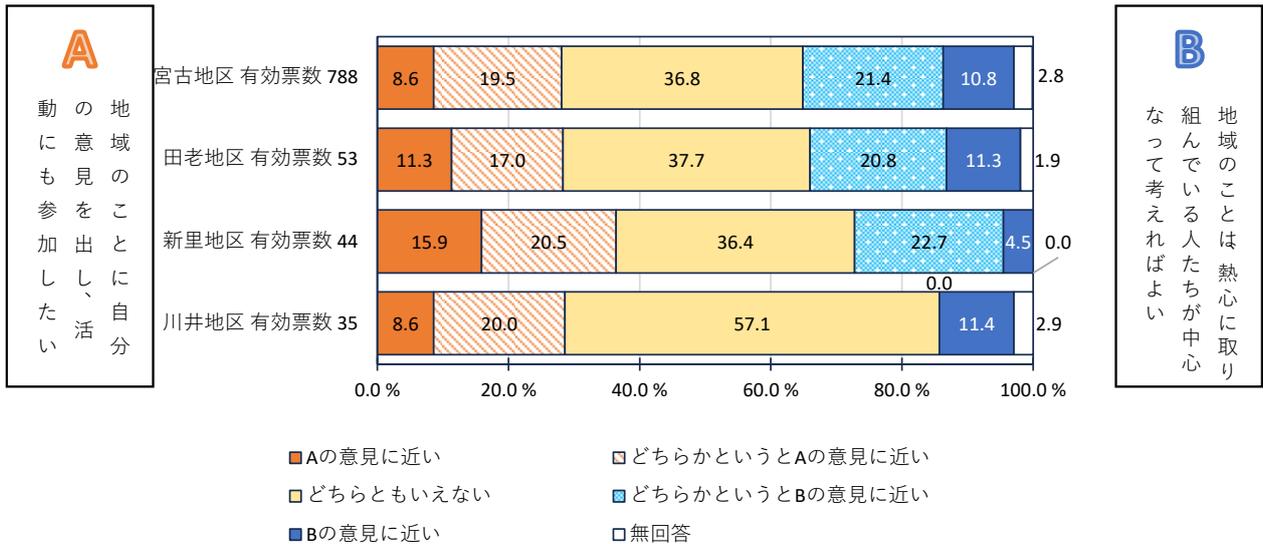
(3) 地区別にみた地域や社会への参加意識

「新里地区」における地域や社会への参加意識が高い

■地域活動への参加意識

Aの意見に最も近い地区は“新里地区”で36.4%（「Aの意見に近い」(15.9%)と「どちらかというとAの意見に近い」(20.5%)の合計）、Bの意見に最も近い地区は“宮古地区”で32.2%（「どちらかというとBの意見に近い」(21.4%)と「Bの意見に近い」(10.8%)の合計）となった。

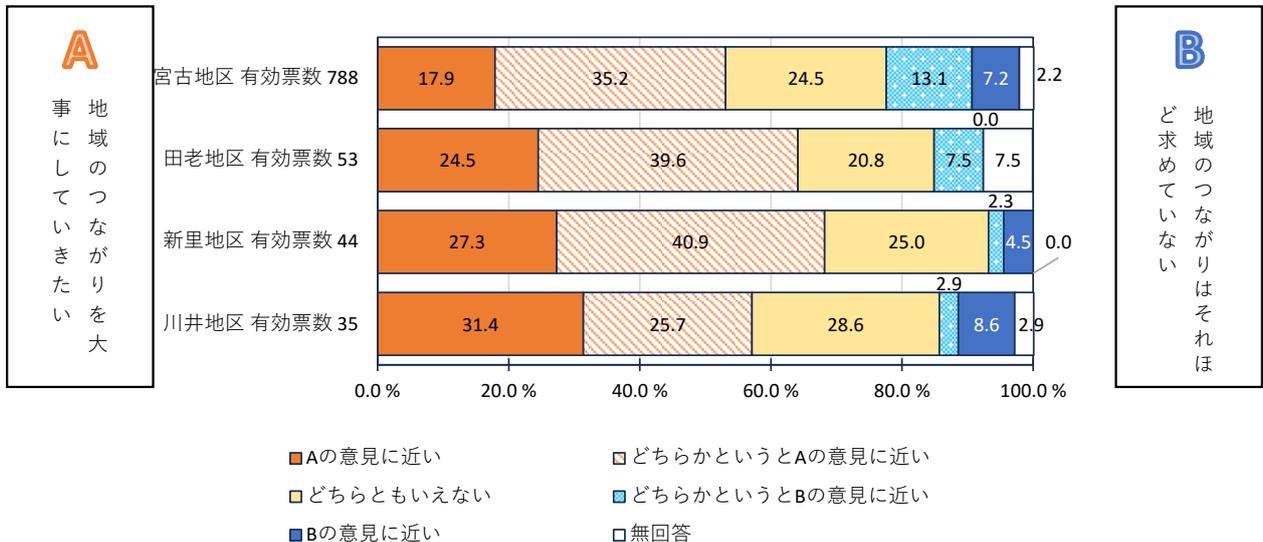
“新里地区”は、「地域活動への参加」という意識が他の地区に比べて高い傾向が見られる。



■人とのつながりに対する価値観

Aの意見に最も近い地区は“新里地区”で68.2%（「Aの意見に近い」(27.3%)と「どちらかというともいえない」(40.9%)の合計）、Bの意見に最も近い地区は“宮古地区”で20.3%（「どちらかというともいえない」(13.1%)と「Bの意見に近い」(7.2%)の合計）となった。

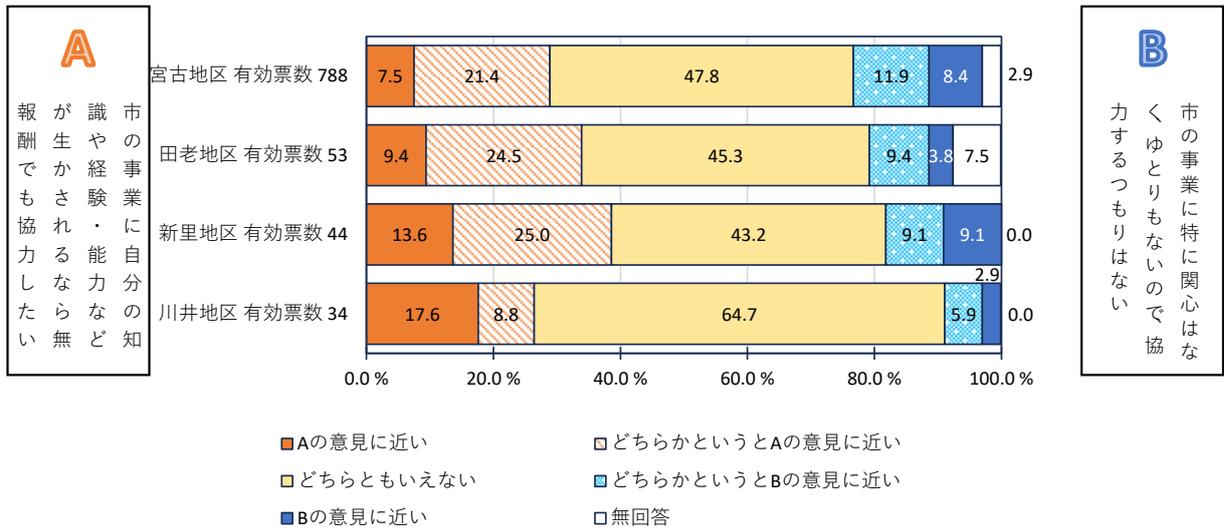
全地区とも、「地域のつながりを大事にしていきたい」という意識が高いが“新里地区”は特に高い傾向が見られる。



■市の事業への協力意識

Aの意見に最も近い地区は“新里地区”で38.6%（「Aの意見に近い」(13.6%)と「どちらかというとAの意見に近い」(25.0%)の合計）、Bの意見に最も近い地区も“宮古地区”で20.3%（「どちらかというとBの意見に近い」(11.9%)と「Bの意見に近い」(8.4%)の合計）となった。

“新里地区”は他の地区と比べて市の事業に協力したいという意識が高くなっている。



(4) 社会活動への参加状況

問7 あなたは、本来の仕事・学業とは別に次のような活動に関心がありますか。

参加している活動のトップでさえ2割未満

現在、参加している活動は「町内会、自治会の活動」が最も多く17.7%となったが、2割にも満たない低い値となった。次いで「環境保全・環境美化に関する活動（清掃活動、リサイクル活動、花壇づくりなど）」(9.4%)、「地域のイベントや祭りへの参加」(6.6%)の順となっている。

<社会活動への参加状況> 有効票数1,049



(5) 年代別にみた社会活動への参加状況

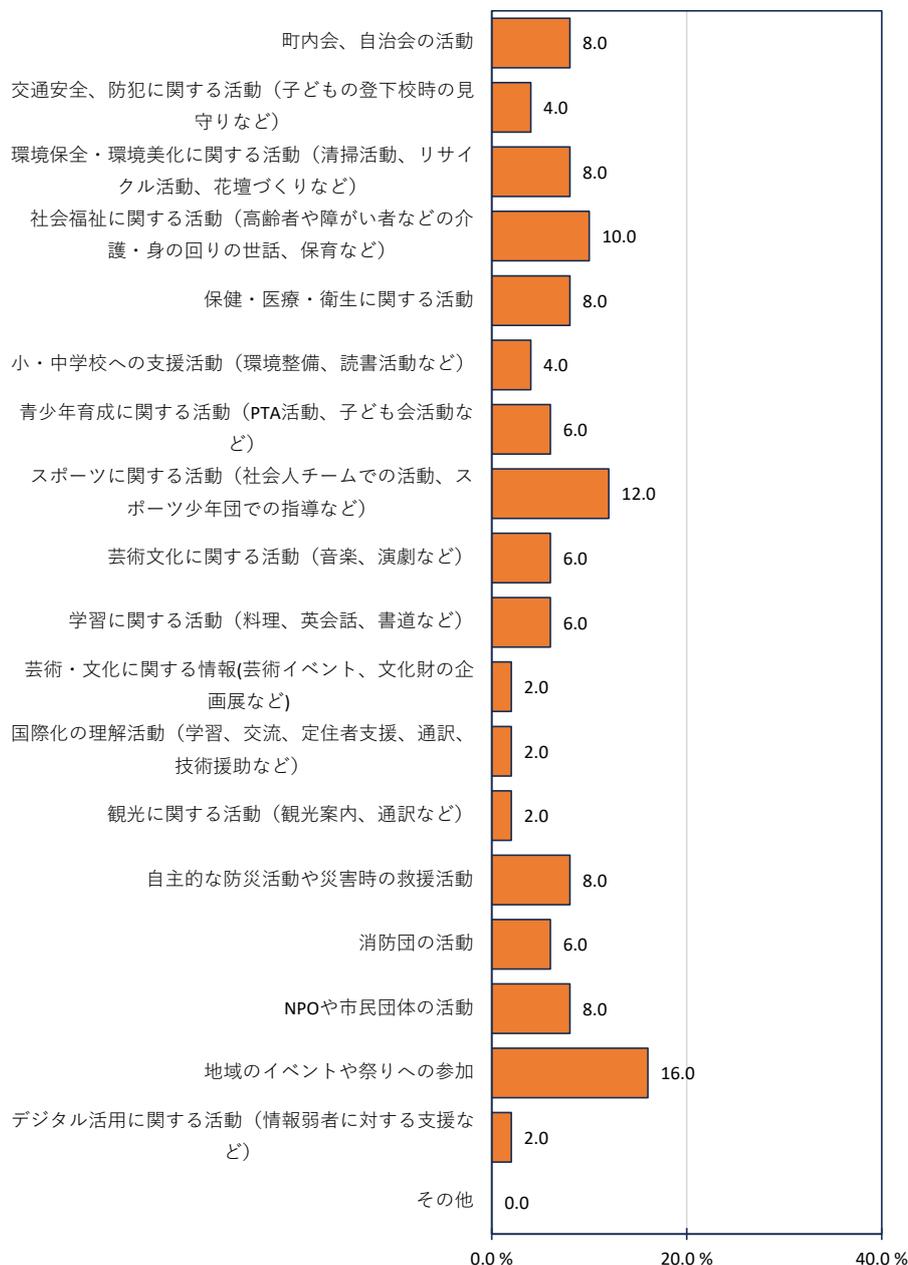
「10・20代」の社会活動への参加率が低い

■10・20代の傾向

「地域のイベントや祭りへの参加」が最も多く16.0%となったが、2割にも満たない低い値となった。次いで「スポーツに関する活動（社会人チームでの活動、スポーツ少年団での指導など）」(12.0%)、「社会福祉に関する活動（高齢者や障がい者などの介護・身の回りの世話、保育など）」(10.0%)の順となっている。

他の年齢層と比べて、イベントやスポーツへの関心が高い傾向があることが窺える。

<10・20代> 有効票数50

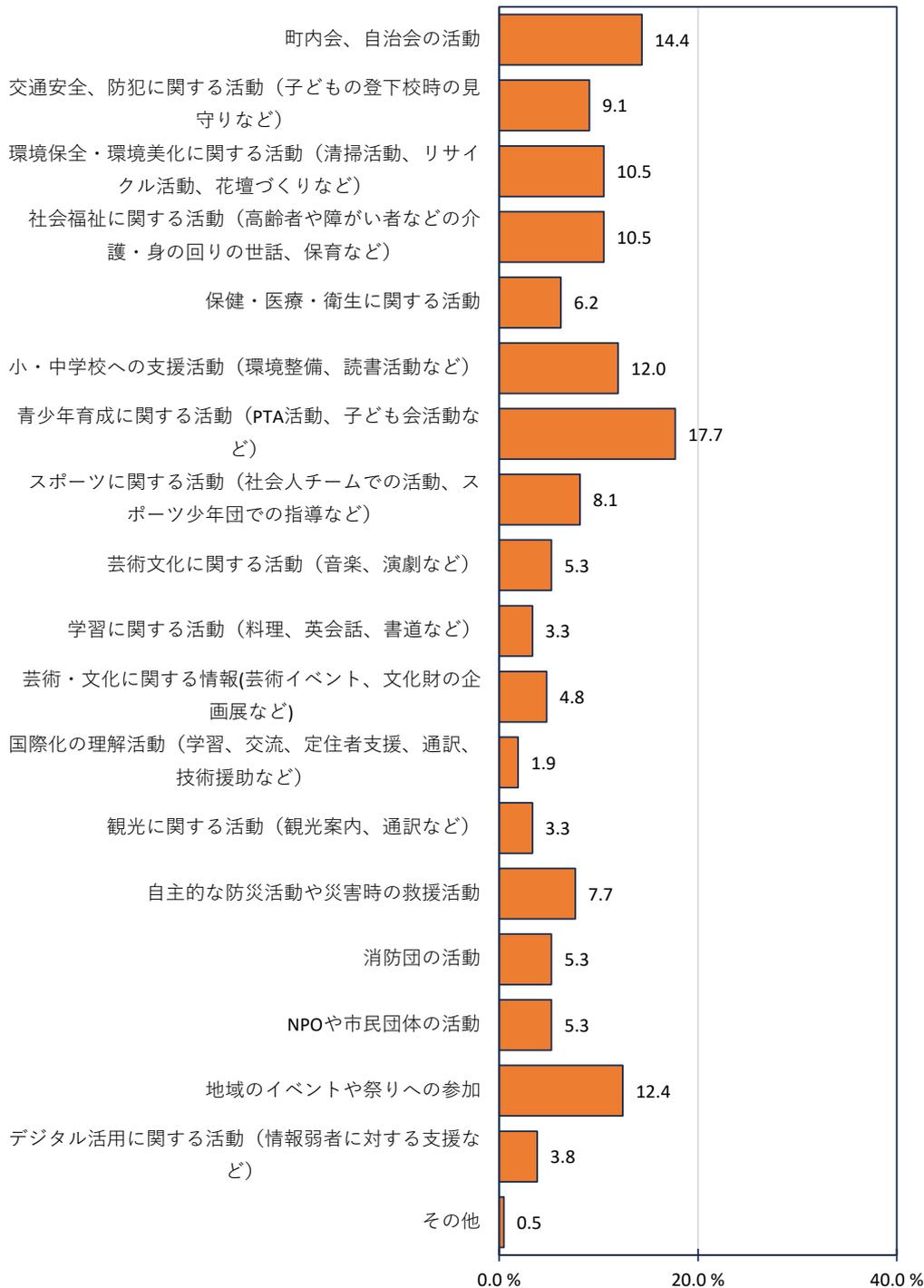


■30・40代の傾向

「青少年育成に関する活動（PTA活動、子ども会活動など）」が最も多く17.7%となった。次いで「町内会、自治会の活動」（14.4%）、「地域のイベントや祭りへの参加」（12.4%）の順となっている。

PTA、子どもに関する活動、地域の集まりやイベントへの参加率が高くなっているところに、子育て世代の特徴が出ているように思われる。

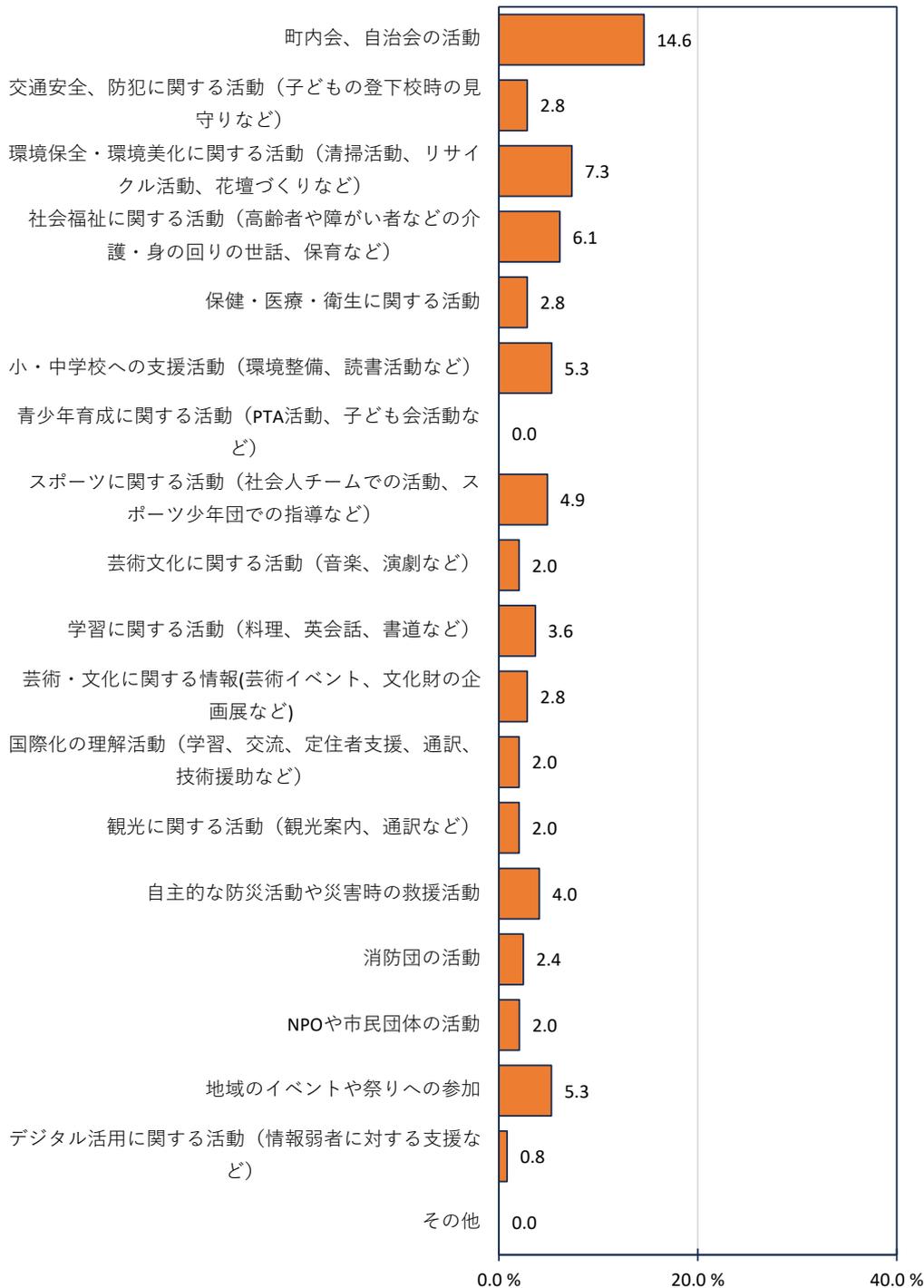
<30・40代> 有効票数209



■50～64歳の傾向

「町内会、自治会の活動」が最も多く14.6%となった。次いで「環境保全・環境美化に関する活動（清掃活動、リサイクル活動、花壇づくりなど）」（7.3%）、「社会福祉に関する活動（高齢者や障がい者などの介護・身の回りの世話、保育など）」（6.1%）の順となっている。町内会や自治会の活動に多く参加しているという結果になった。

<50～64歳> 有効票数247

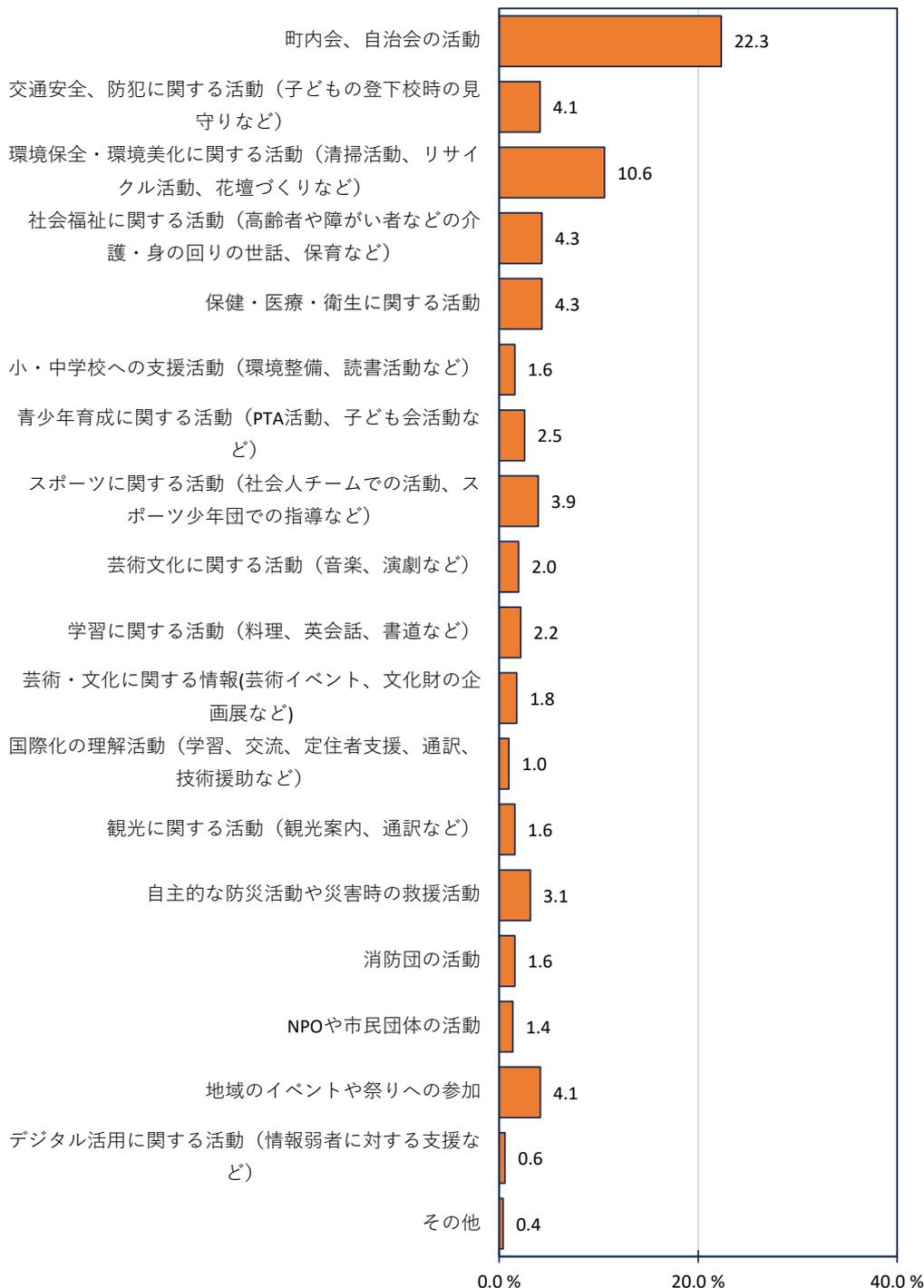


■65歳以上の傾向

「町内会、自治会の活動」が最も多く22.3%となった。次いで「環境保全・環境美化に関する活動（清掃活動、リサイクル活動、花壇づくりなど）」（10.6%）、同数で「社会福祉に関する活動（高齢者や障がい者などの介護・身の回りの世話、保育など）」、「保健・医療・衛生に関する活動」（4.3%）の順となっている。

全ての年代の中で最も社会活動への参加率が高くなっている。

<65歳以上> 有効票数511



(6) 地区別にみた社会活動への参加状況

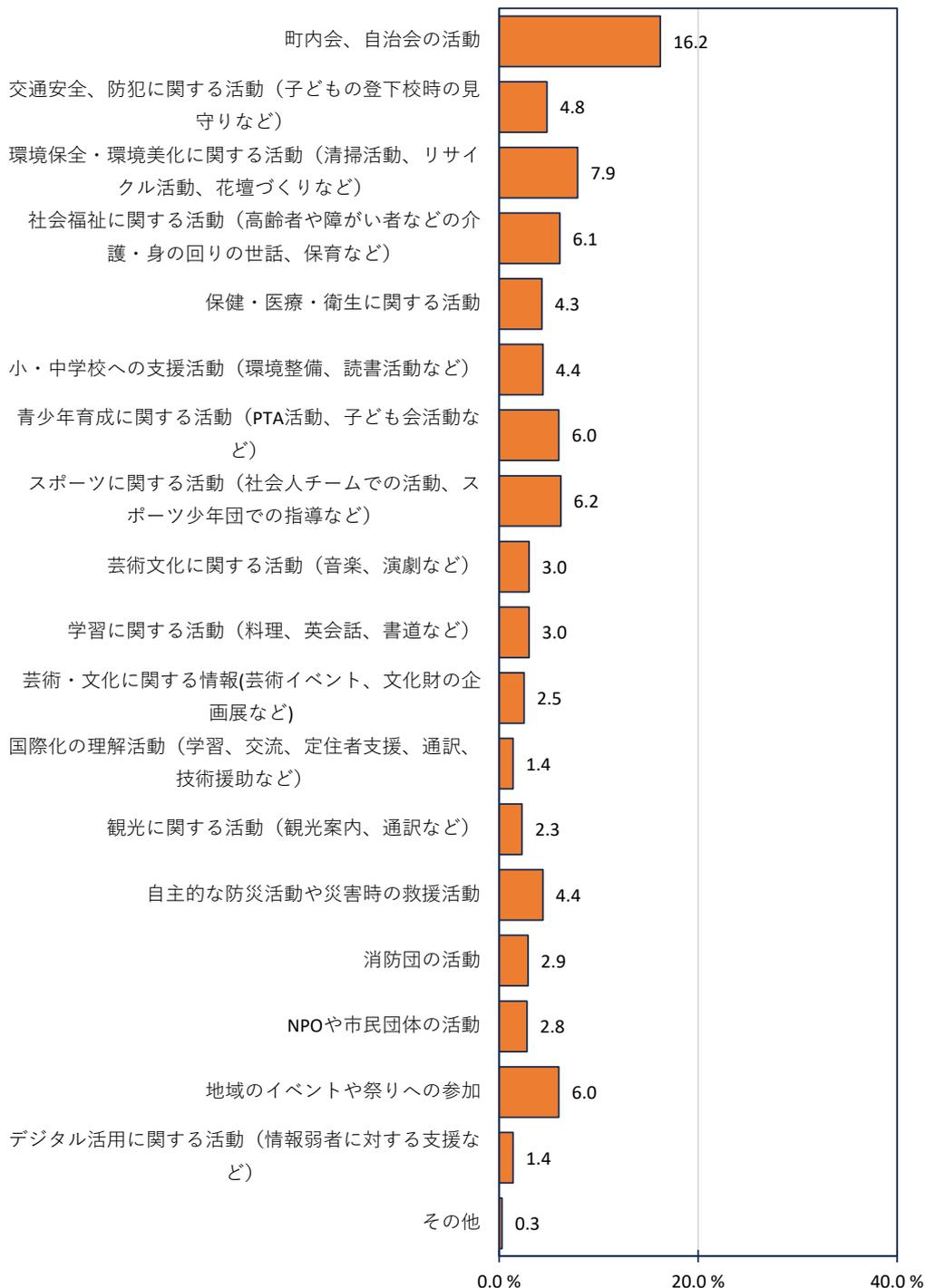
「新里地区」、「川井地区」における社会活動への参加が比較的活発

■宮古地区の傾向

「町内会、自治会の活動」が最も多く16.2%となった。次いで「環境保全・環境美化に関する活動（清掃活動、リサイクル活動、花壇づくりなど）」(7.9%)、「スポーツに関する活動（社会人チームでの活動、スポーツ少年団での指導など）」(6.2%)の順となっている。

「町内会、自治会の活動」以外は、1割にも満たない参加状況となった。

<宮古地区> 有効票数789

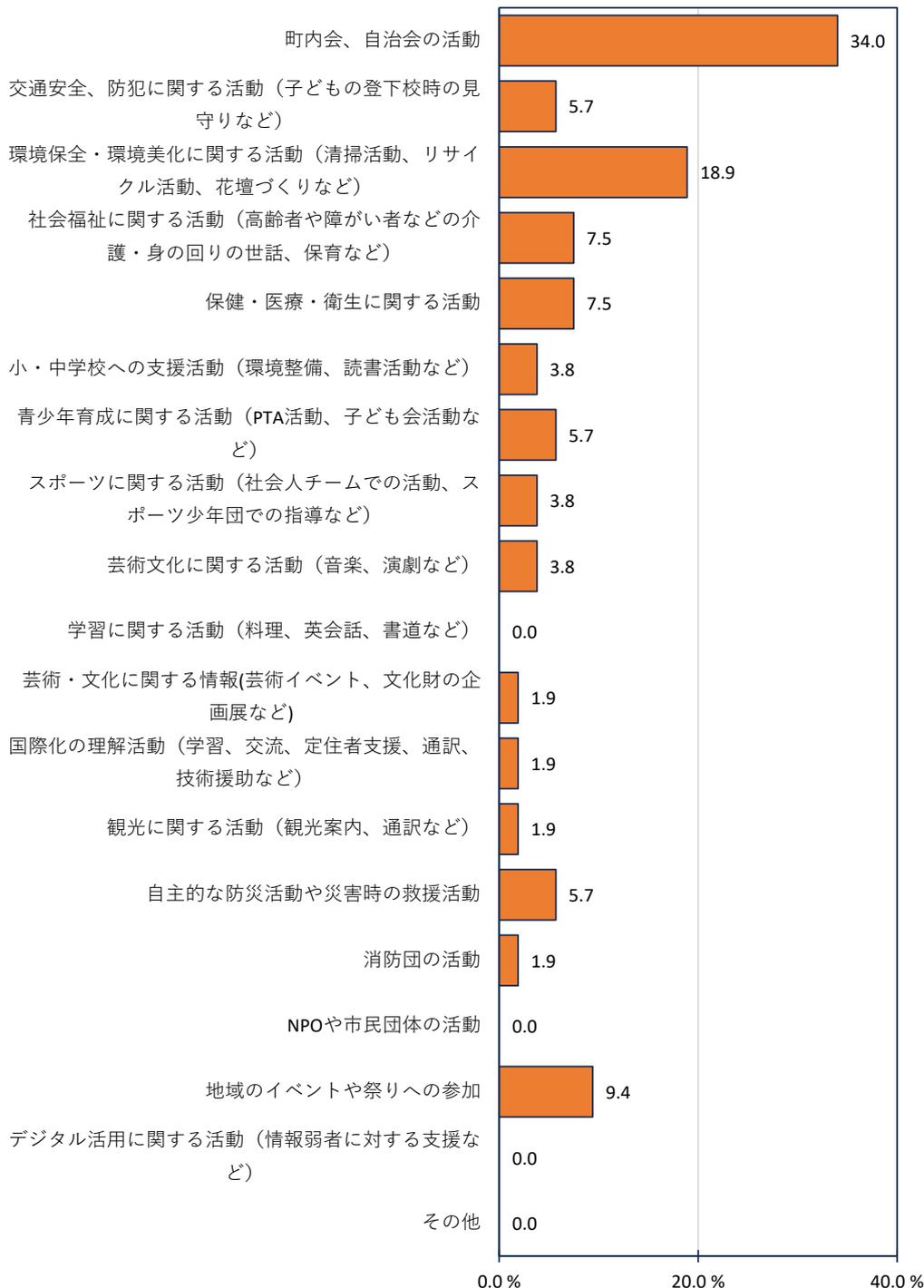


■田老地区の傾向

「町内会、自治会の活動」が最も多く34.0%となった。次いで「環境保全・環境美化に関する活動（清掃活動、リサイクル活動、花壇づくりなど）」（18.9%）、「地域のイベントや祭りへの参加」（9.4%）の順となっている。

町内会や自治会の活動に多く参加しているという結果となった。

<田老地区> 有効票数53

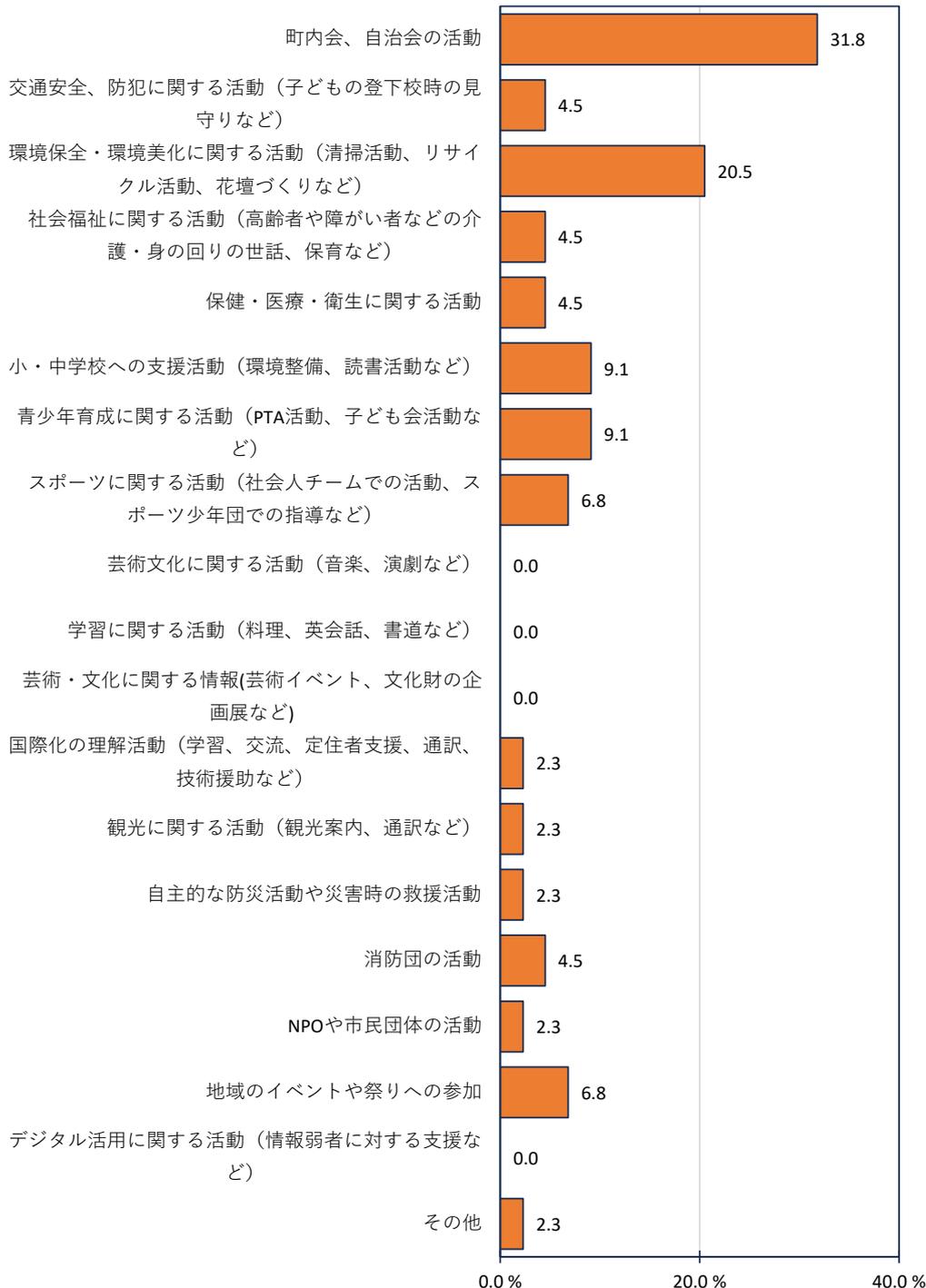


■新里地区の傾向

「町内会、自治会の活動」が最も多く31.8%となった。次いで「環境保全・環境美化に関する活動（清掃活動、リサイクル活動、花壇づくりなど）」(20.5%)、同数で「小・中学校への支援活動（環境整備、読書活動など）」、「青少年育成に関する活動（PTA活動、子ども会活動など）」(9.1%)の順となっている。

参加率が1割を超える活動が2つあり、社会活動への参加率は高めである。

<新里地区> 有効票数44

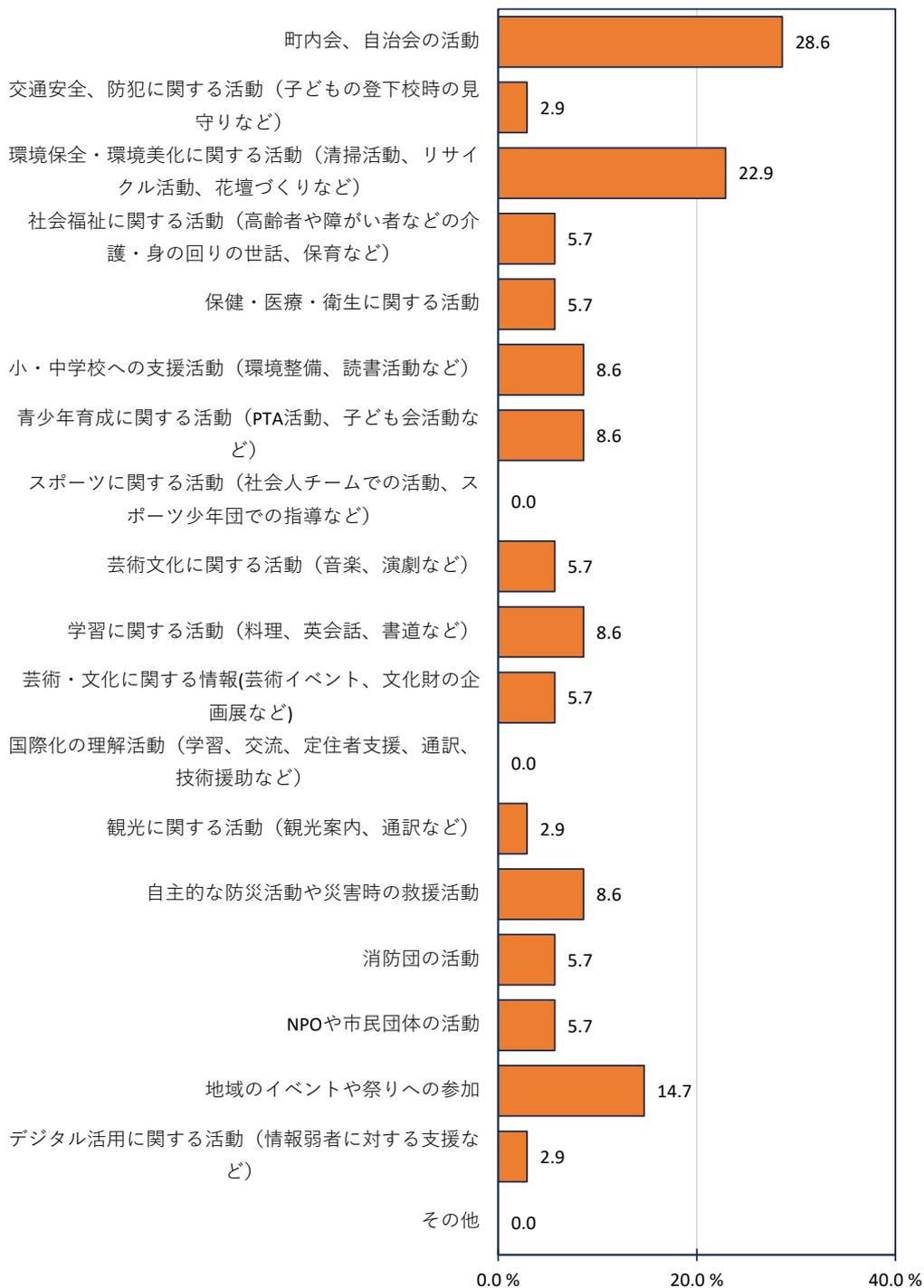


■川井地区の傾向

「町内会、自治会の活動」が最も多く 28.6%となった。次いで「環境保全・環境美化に関する活動（清掃活動、リサイクル活動、花壇づくりなど）」(22.9%)、「地域のイベントや祭りへの参加」(14.7%)の順となっている。

参加者が2割を超える活動が2つあり、社会活動への参加率は高めである。

<川井地区> 有効票数35



(7) 社会活動への関心と参加意向

高齢者が参加できる、関心がある内容の割合が高い

現在参加していない活動のうち、最も参加意向が高い活動は「交通安全、防犯に関する活動（子どもの登下校時の見守りなど）」(45.9%)となった。次いで「環境保全・環境美化に関する活動（清掃活動、リサイクル活動、花壇づくりなど）」(45.2%)、「社会福祉に関する活動（高齢者や障がい者などの介護・身の回りの世話、保育など）」(42.3%)の順番となった。

<社会活動への関心> 有効票数1,049



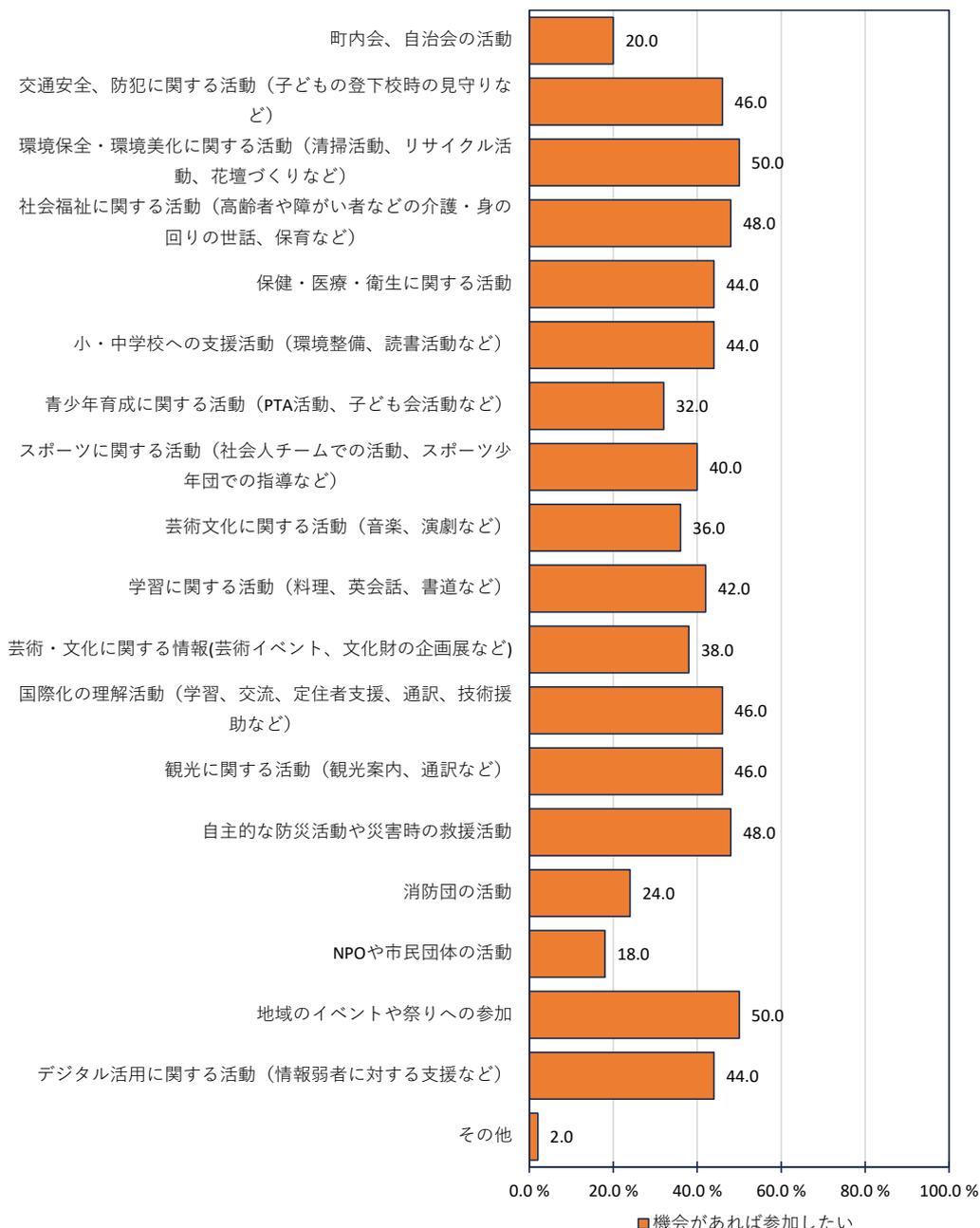
(8) 年代別にみた社会活動への参加意向

参加意向が高いのは「10・20代」、自主的な防災活動は64歳未満で関心が高い

■10・20代の傾向

現在参加していない活動のうち、最も参加意向が高い活動は同数で、「環境保全・環境美化に関する活動（清掃活動、リサイクル活動、花壇づくりなど）」、「地域のイベントや祭りへの参加」の50.0%となった。次いで、同数で、「社会福祉に関する活動（高齢者や障がい者などの介護・身の回りの世話、保育など）」、「自主的な防災活動や災害時の救援活動」（48.0%）、同数で「交通安全、防犯に関する活動（子どもの登下校時の見守りなど）」、「国際化の理解活動（学習、交流、定住者支援、通訳、技術援助など）」、「観光に関する活動（観光案内、通訳など）」（46.0%）の順となっている。

<10・20代> 有効票数50

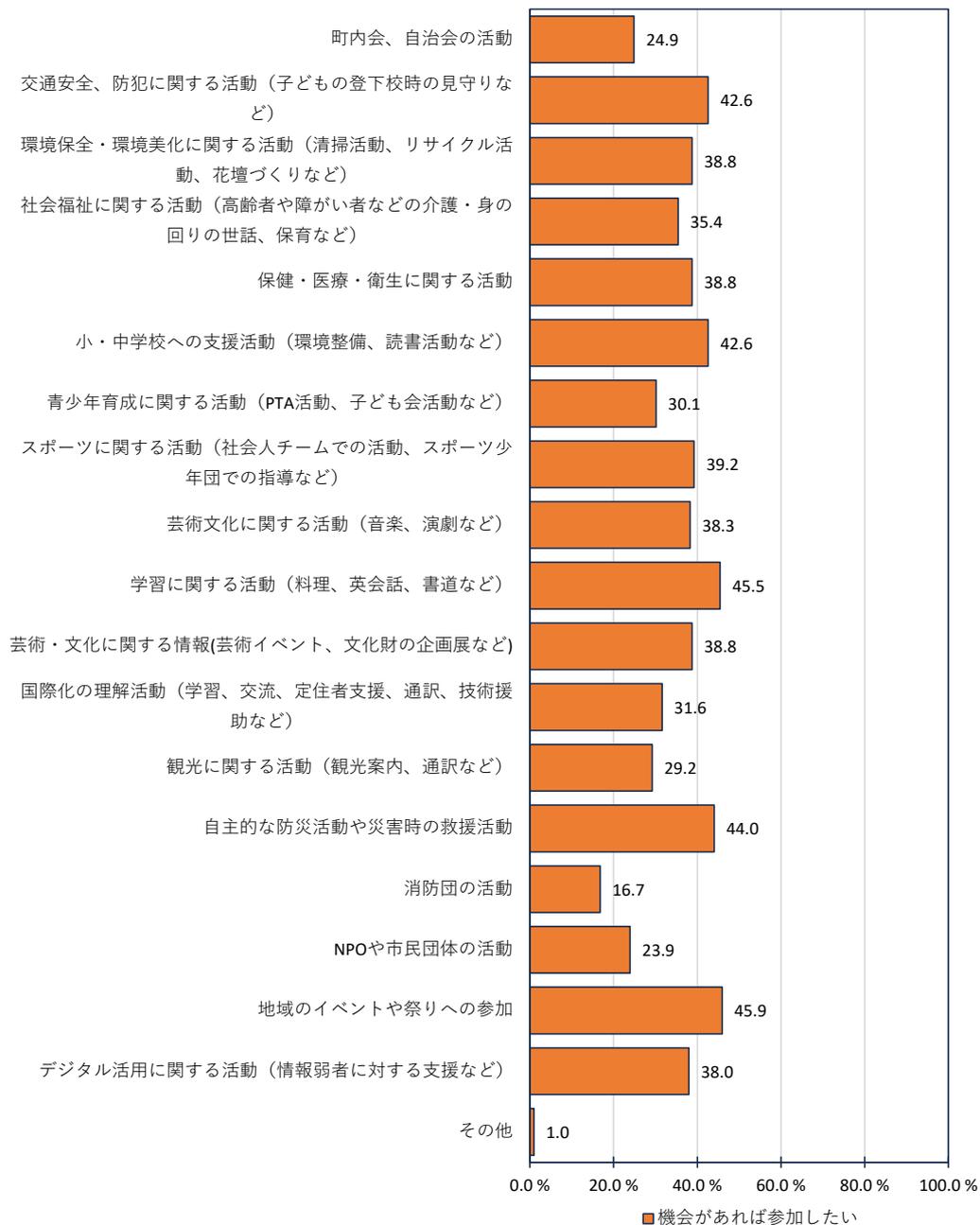


■30・40代の傾向

現在参加していない活動のうち、最も参加意向の高い活動は「地域のイベントや祭りへの参加」の45.9%となった。次いで「学習に関する活動（料理、英会話、書道など）」（45.5%）、「自主的な防災活動や災害時の救援活動」（44.0%）の順となっている。

「学習に関する活動（料理、英会話、書道など）」（45.5%）の他、「小・中学校への支援活動（環境整備、読書活動など）」も42.6%と高い割合となっていることが子育て世代の特徴となっている。

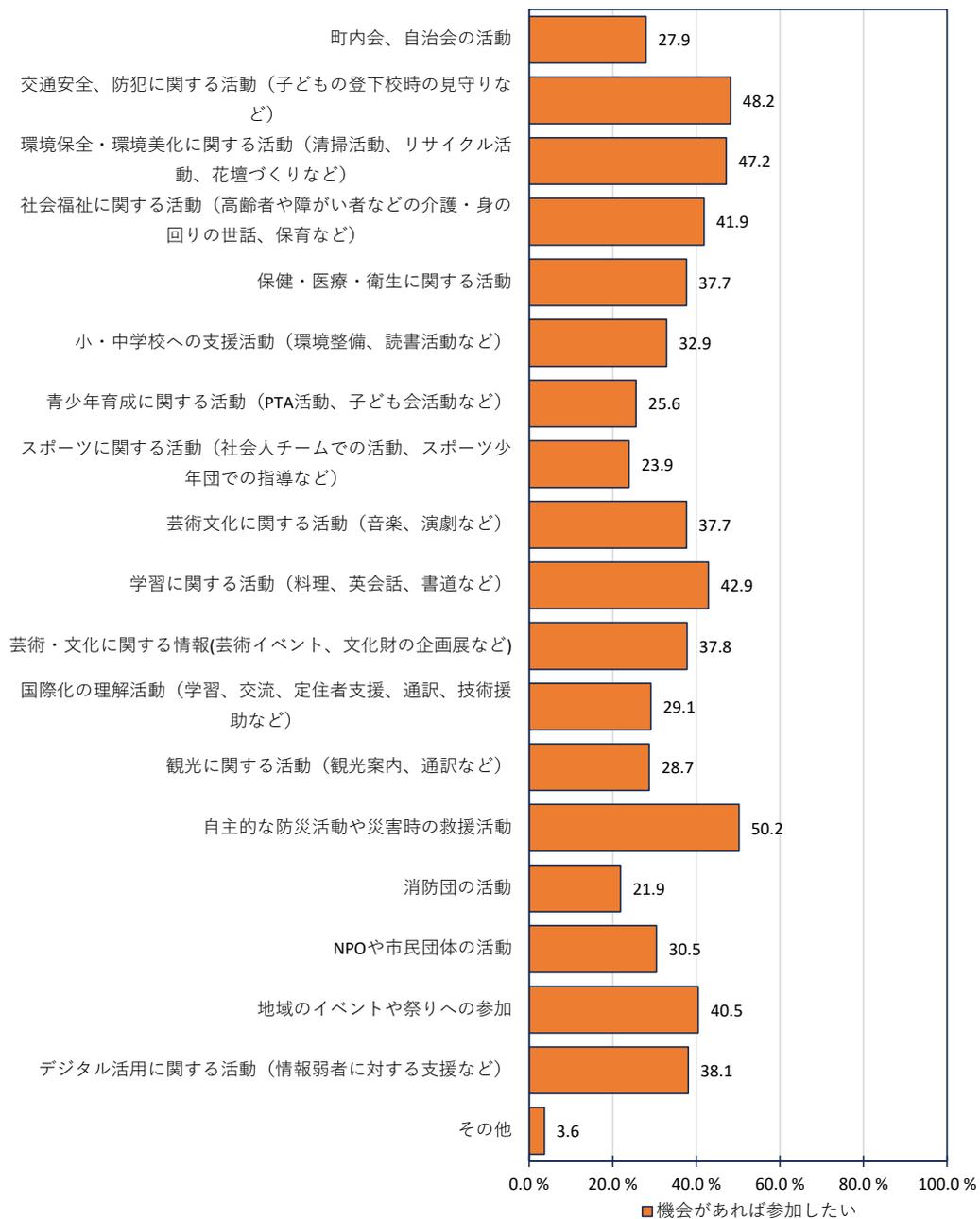
<30・40代> 有効票数209



■50～64歳の傾向

現在参加していない活動のうち、最も参加意向の高い活動は「自主的な防災活動や災害時の救援活動」の50.2%となった。次いで「交通安全、防犯に関する活動（子どもの登下校時の見守りなど）」（48.2%）、「環境保全・環境美化に関する活動（清掃活動、リサイクル活動、花壇づくりなど）」（47.2%）の順となっている。

<50～64歳> 有効票数247



■65歳以上の傾向

現在参加していない活動のうち、最も参加意向の高い活動は「交通安全、防犯に関する活動（子どもの登下校時の見守りなど）」の46.6%となった。次いで「環境保全・環境美化に関する活動（清掃活動、リサイクル活動、花壇づくりなど）」（46.2%）、「社会福祉に関する活動（高齢者や障がい者などの介護・身の回りの世話、保育など）」（44.4%）の順となっている。

<65歳以上> 有効票数511



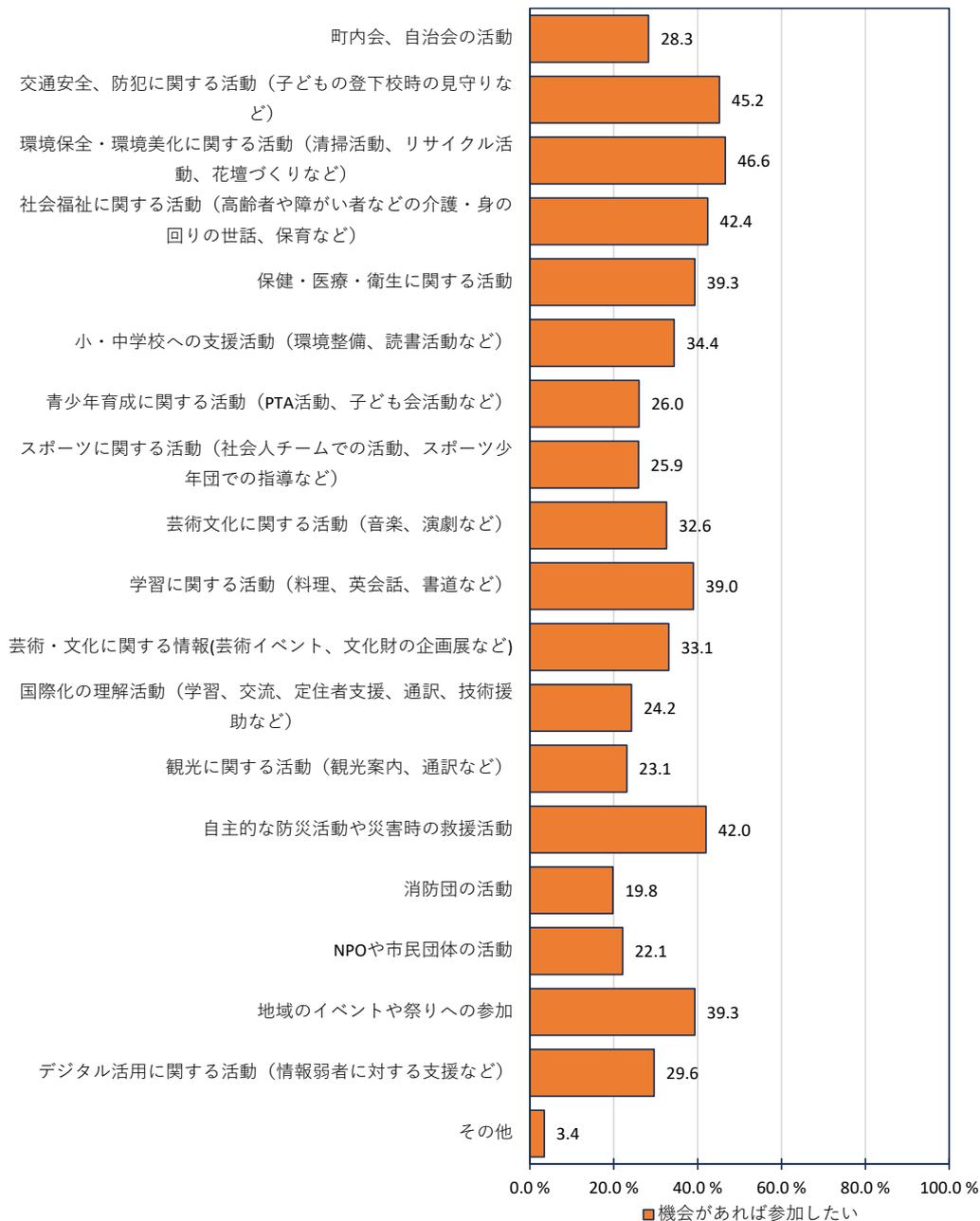
(9) 地区別にみた社会活動への参加意向

参加意向が高いのは「新里地区」、内陸の地区の方が防災活動への参加意向が高い

■宮古地区の傾向

現在参加していない活動のうち、最も参加意向の高い活動は「環境保全・環境美化に関する活動（清掃活動、リサイクル活動、花壇づくりなど）」の46.6%となった。次いで「交通安全、防犯に関する活動（子どもの登下校時の見守りなど）」(45.2%)、「社会福祉に関する活動（高齢者や障がい者などの介護・身の回りの世話、保育など）」(42.4%)の順となっている。

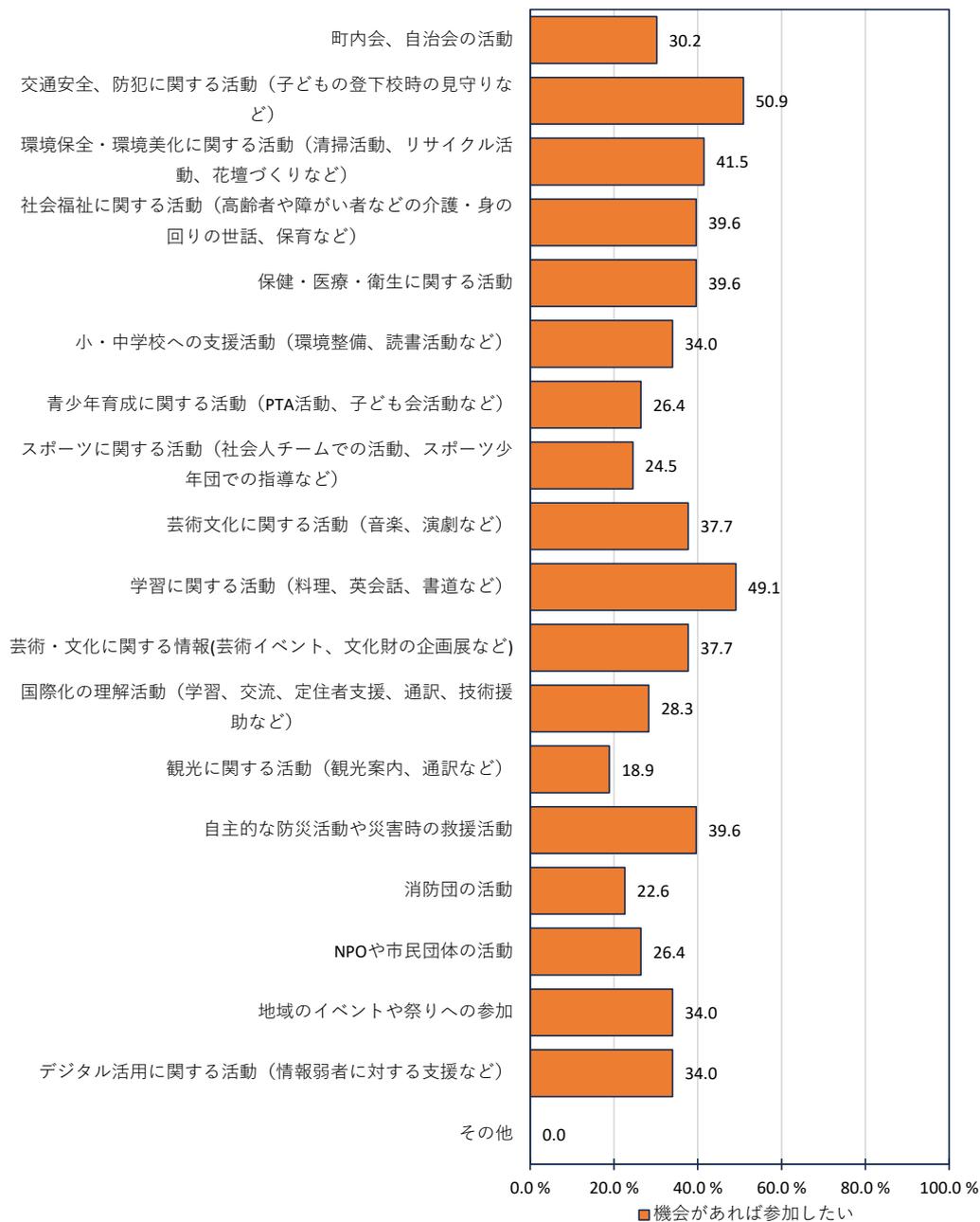
<宮古地区> 有効票数789



■ 田老地区の傾向

現在参加していない活動のうち、最も参加意向の高い活動は「交通安全、防犯に関する活動（子どもの登下校時の見守りなど）」(50.9%)となった。次いで、「学習に関する活動（料理、英会話、書道など）」(49.1%)、「環境保全・環境美化に関する活動（清掃活動、リサイクル活動、花壇づくりなど）」(41.5%)の順となっている。

<田老地区> 有効票数53

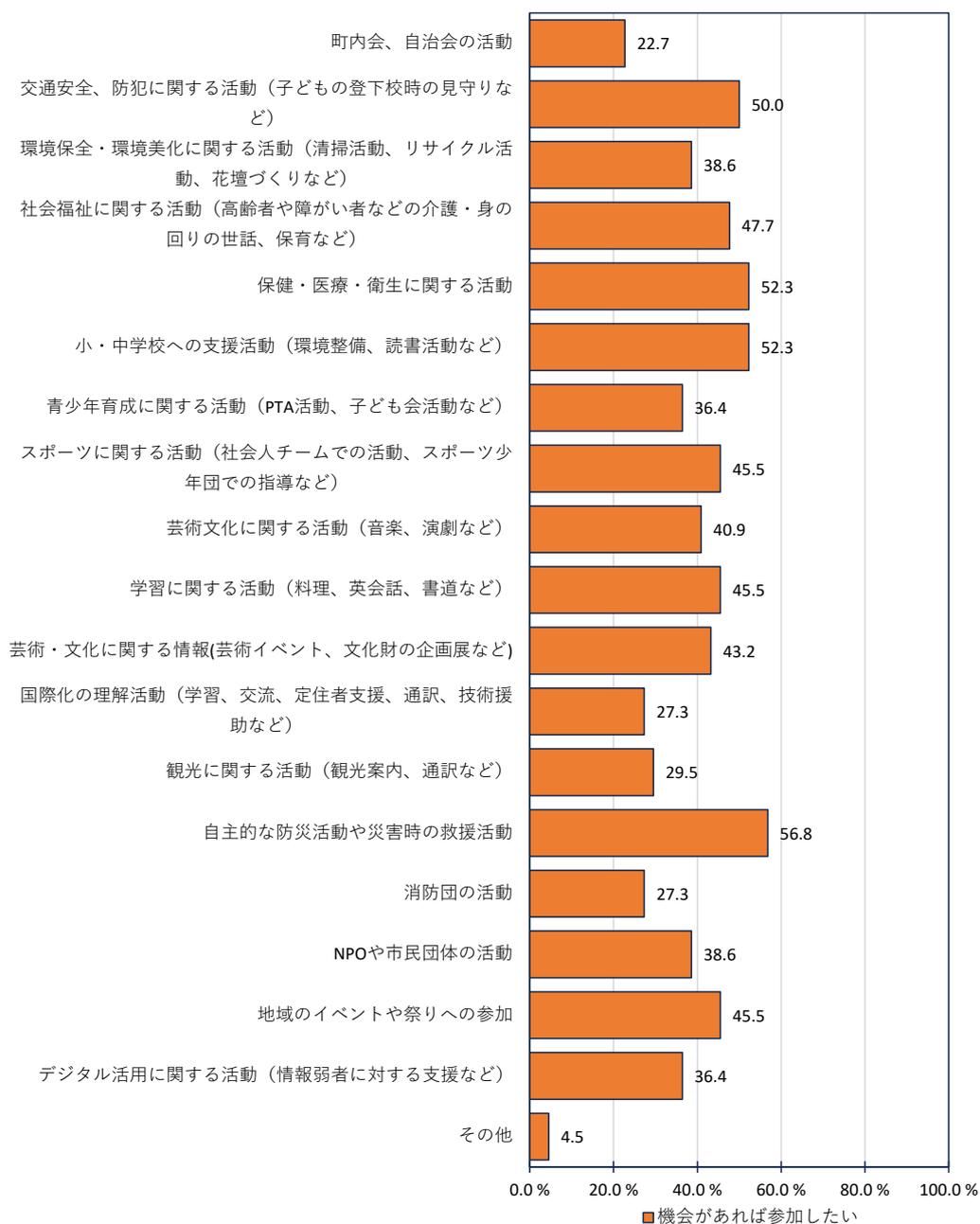


■新里地区の傾向

現在参加していない活動のうち、最も参加意向の高い活動は「自主的な防災活動や災害時の救援活動」の56.8%となった。次いで同数で「保健・医療・衛生に関する活動」、「小・中学校への支援活動（環境整備、読書活動など）」（各52.3%）、「交通安全、防犯に関する活動（子どもの登下校時の見守りなど）」（50.0%）の順となっている。

現在参加していない活動のうち、5割を超える項目も複数あり、参加意向が高い。

<新里地区> 有効票数44



■川井地区の傾向

現在参加していない活動のうち、最も参加意向の高い活動は「交通安全、防犯に関する活動（子どもの登下校時の見守りなど）」の62.9%となった。次いで同数で「社会福祉に関する活動（高齢者や障がい者などの介護・身の回りの世話、保育など）」、「保健・医療・衛生に関する活動」（各54.3%）、同数で「小・中学校への支援活動（環境整備、読書活動など）」、「自主的な防災活動や災害時の救援活動」（48.6%）の順となっている。

交通安全、防犯活動への参加意向が他地区のどの項目よりも割合が高く、課題意識が高いことが分かる。

<川井地区> 有効票数35



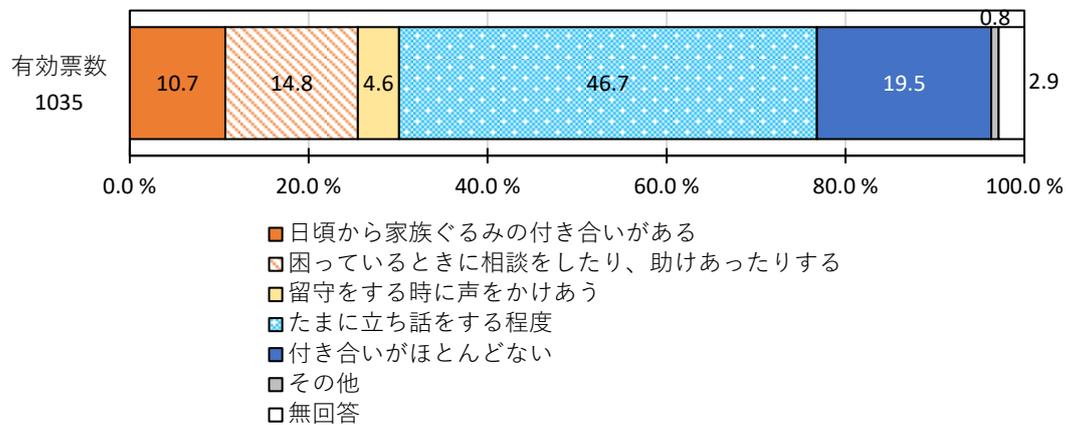
(10) 近所付き合いの状況

問8 あなたは、普段近所の人とどのような付き合いをしていますか。

日頃の近所付き合いがあるのは3割未満

「たまに立ち話をする程度」が最も多く46.7%となった。次いで「付き合いがほとんどない」(19.5%)、「困っているとき相談したり、助け合ったりする」(14.8%)、「日頃から家族ぐるみの付き合いがある」(10.7%)の順となっている。

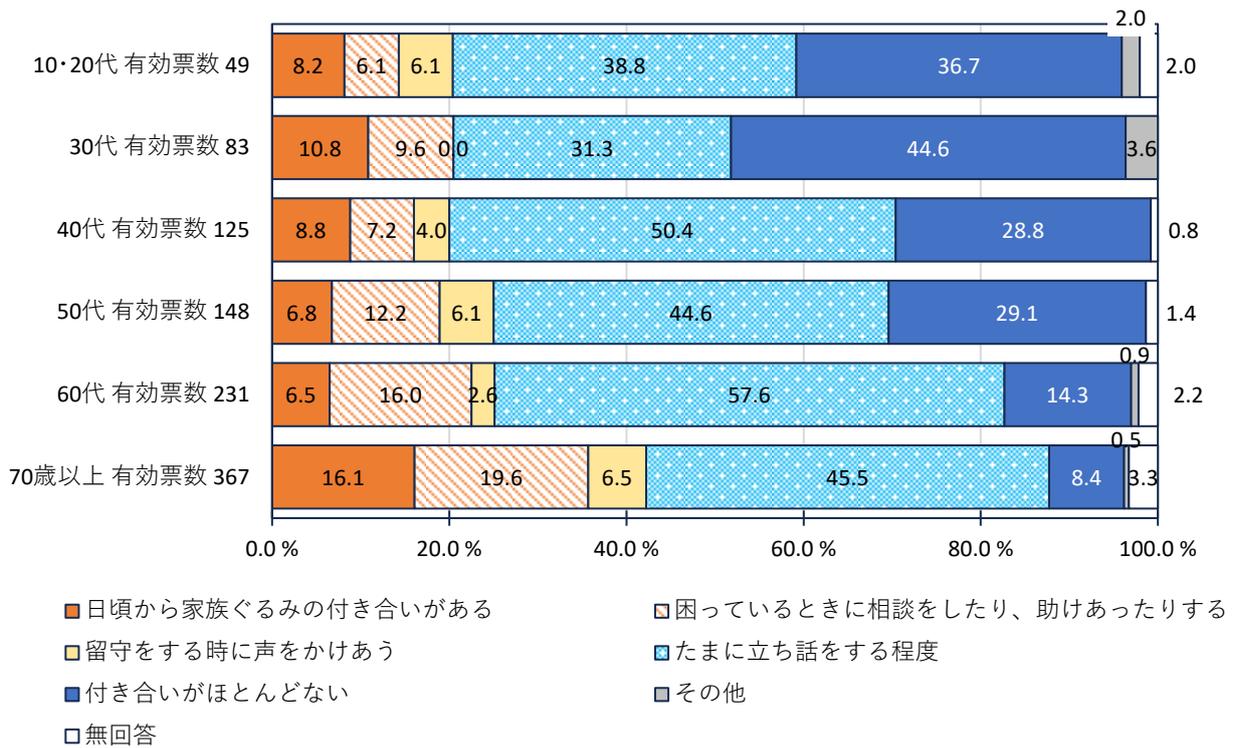
日頃の近所付き合いがあるのは25.5%（「日頃から家族ぐるみの付き合いがある」(10.7%)と「困っているとき相談したり、助け合ったりする」(14.8%)の合計）となり、全体の3割未満、前回調査より2.1ポイント減となっている。



■年代別にみた日頃の近所付き合い

日頃の近所付き合いが最もあるのは“70代以上”で35.7%（「日頃から家族ぐるみの付き合いがある」(16.1%)と「困っているとき相談したり、助け合ったりする」(19.6%)の合計）となった。

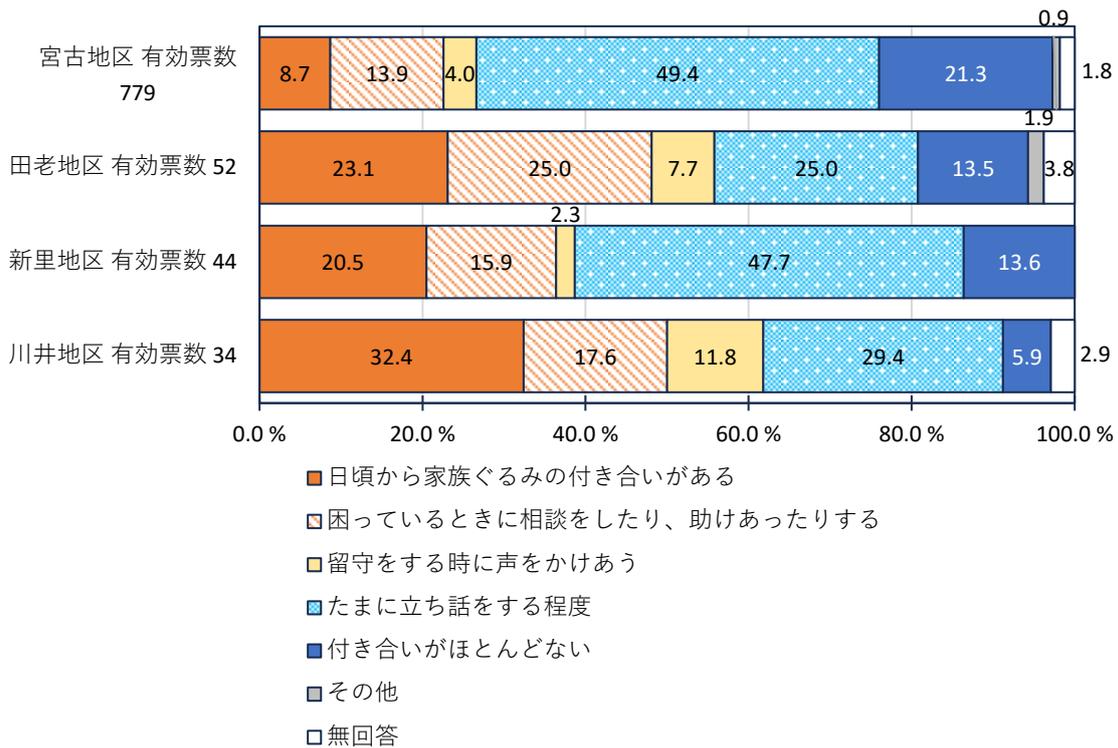
一方で、付き合いが最もないのは“30代”で44.6%となり回答の5割近くを占めている。



■地区別にみた日頃の近所付き合い

日頃の近所付き合いが最もあるのは“川井地区”で 50.0%（「日頃から家族ぐるみの付き合いがある」(32.4%)と「困っているとき相談したり、助け合ったりする」(17.6%)の合計）となった。

一方、付き合いが最もないのは“宮古地区”で 21.3%となり回答の2割を占めている。

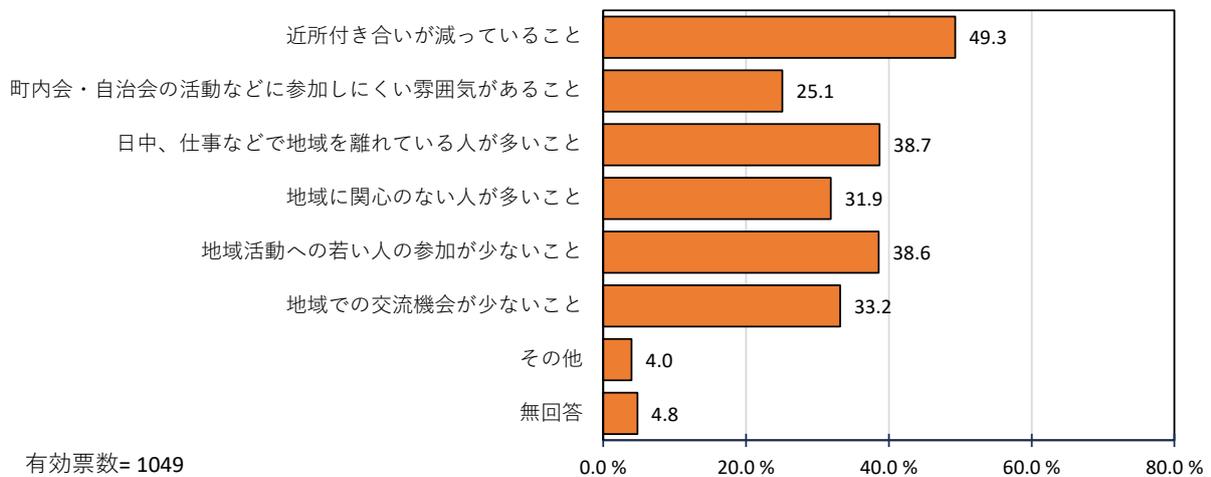


(11) 住みよい地域社会を実現していくうえでの問題点

問9 地域住民がお互いに力をあわせて、住みよい地域社会を実現していくうえで、問題になることは何だと思えますか。(○印はいくつでも)

住みよい地域社会実現への要は近所付き合い

住みよい地域社会を実現していくうえでの問題点として回答した項目は、「近所付き合いが減っていること」が最も多く49.3%となった。次いで「日中、仕事などで地域を離れている人が多いこと」(38.7%)、「地域活動への若い人の参加が少ないこと」(38.6%)の順となっている。



■年代別にみた住みよい地域社会を実現していくうえで、問題になること

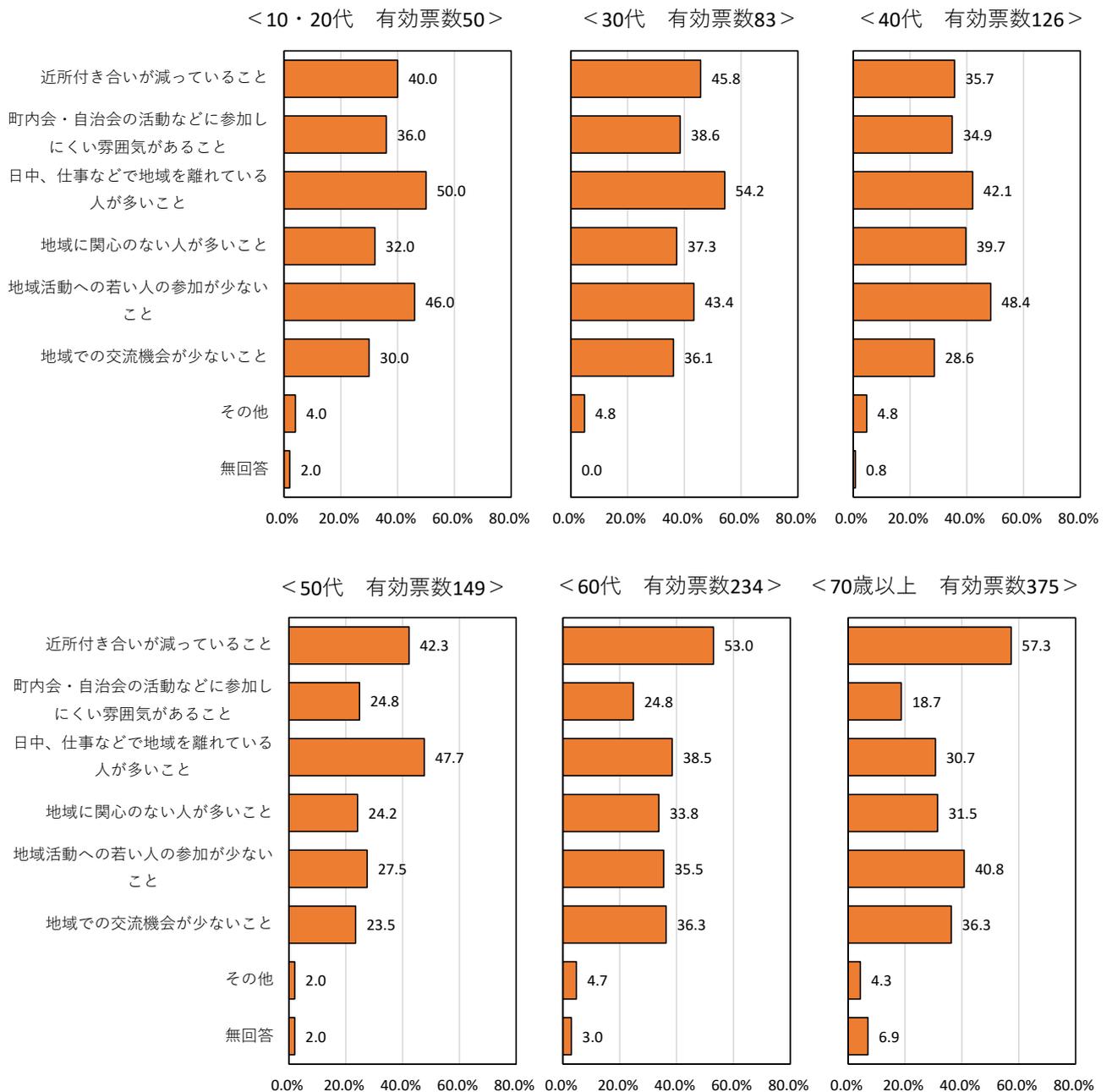
近所付き合いの減少、地域活動の担い手としての若者の参加が問題だと考えられている

“40代”以外の各年代で「近所付き合いが減っていること」が4割以上を占めている。

また、“70歳以上”以外では「日中、仕事などで地域を離れている人が多いこと」が高く、特に“10・20代”、“30代”では5割を占めている。

“60代”以外では「地域活動への若い人の参加が少ないこと」も高く、“40代”では最も高い割合となっている。

“60代”と“70歳以上”では「地域での交流機会が少ないこと」が3番目に高くなっている。



■地区別にみた住みよい地域社会を実現していくうえで、問題になること

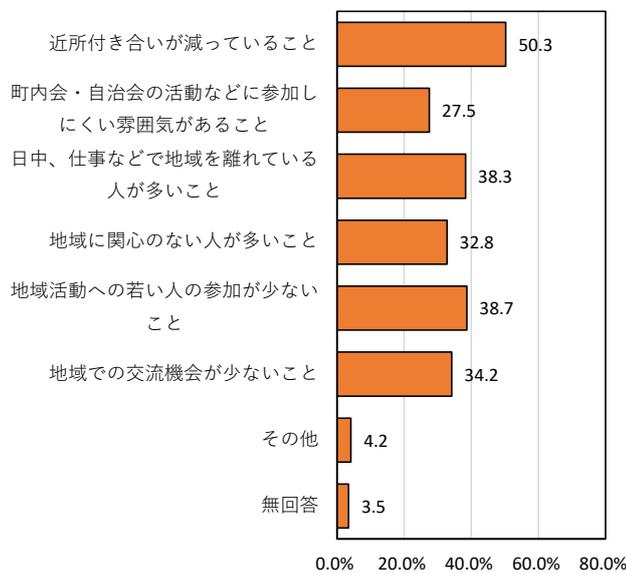
各地区で近所付き合いの減少、地域活動の担い手としての若者の参加が問題だと考えられている

各地区で「近所付き合いが減っていること」が高く、特に“新里地区”以外では5割以上を占めている。

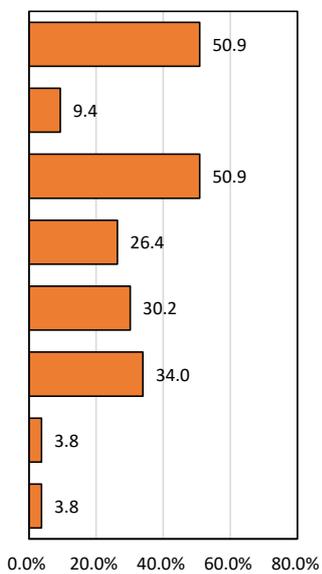
各地区で「地域活動への若い人の参加が少ないこと」も高くなっているが、特に“新里地区”では54.5%を占め、最も高くなっている。

“田老地区”と“新里地区”では「日中、仕事などで地域を離れている人が多いこと」も高く、5割前後を占めている。

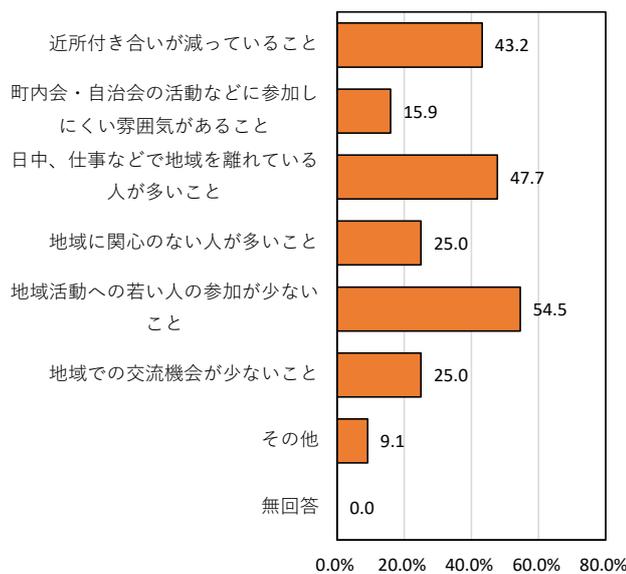
<宮古地区 有効票数789>



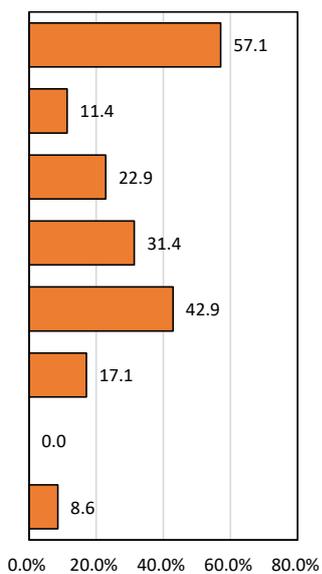
<田老地区 有効票数53>



<新里地区 有効票数44>



<川井地区 有効票数35>

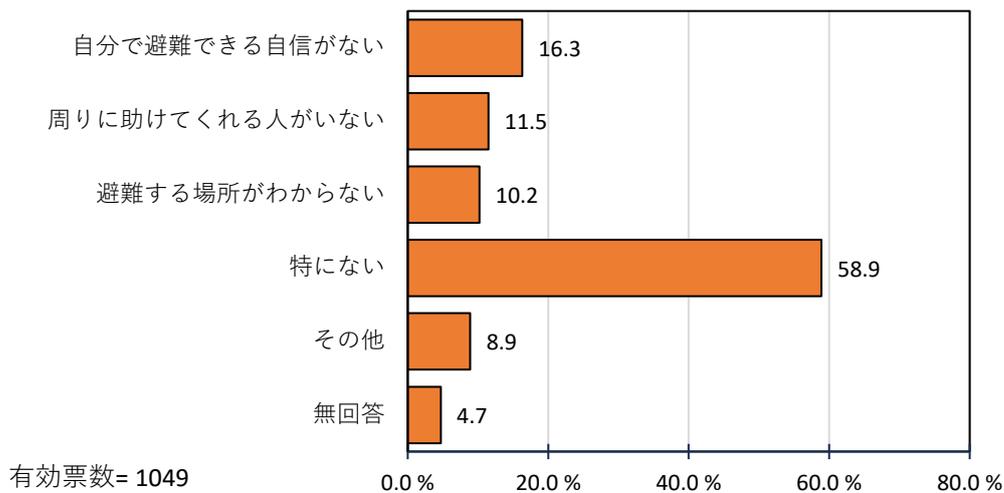


(12) 災害における避難時の心配事

問10 災害の避難の際に心配なことがありますか。(○印はいくつでも)

およそ6割が心配事は「特になし」

災害における避難時の心配事として回答した項目は、「特になし」が最も多く58.9%となった。次いで「自分で避難できる自信がない」(16.3%)、「周りに助けしてくれる人がいない」(11.5%)の順となっている。

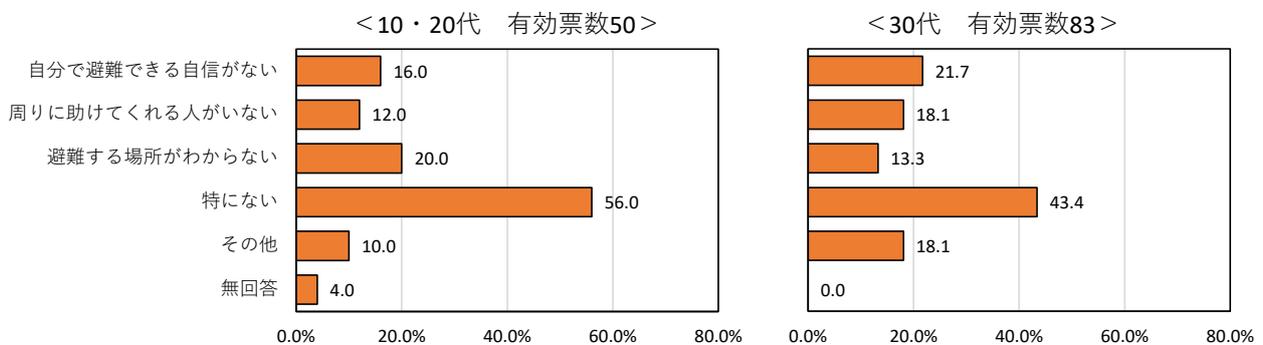


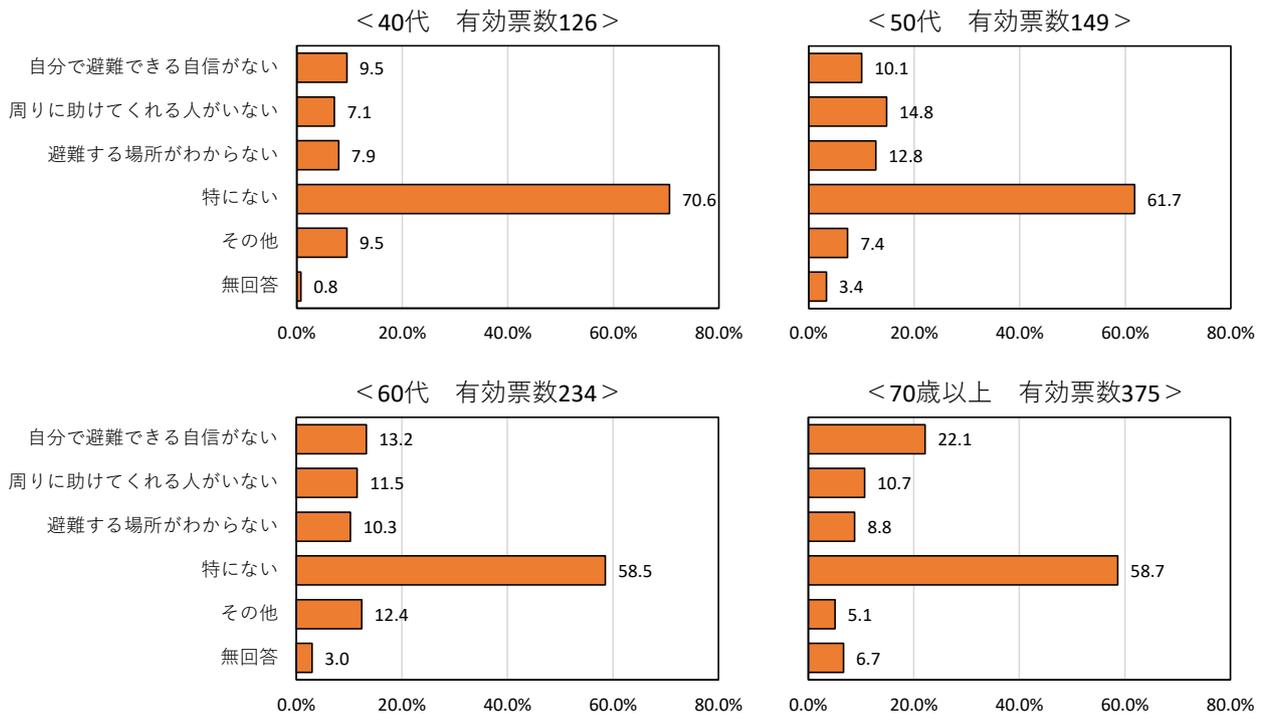
■年代別にみた災害の避難の際に心配なこと

避難の際に心配なことは「特になし」が最も高いが、年代によって心配なことは変化するため、各年代に沿った対策が必要である

各年代で「特になし」が最も高くなっている。

2番目に高いのは、「10・20代」は「避難する場所がわからない」、「50代」は「周りに助けしてくれる人がいない」、それ以外の年代では「自分で避難できる自信がない」が高くなっている。



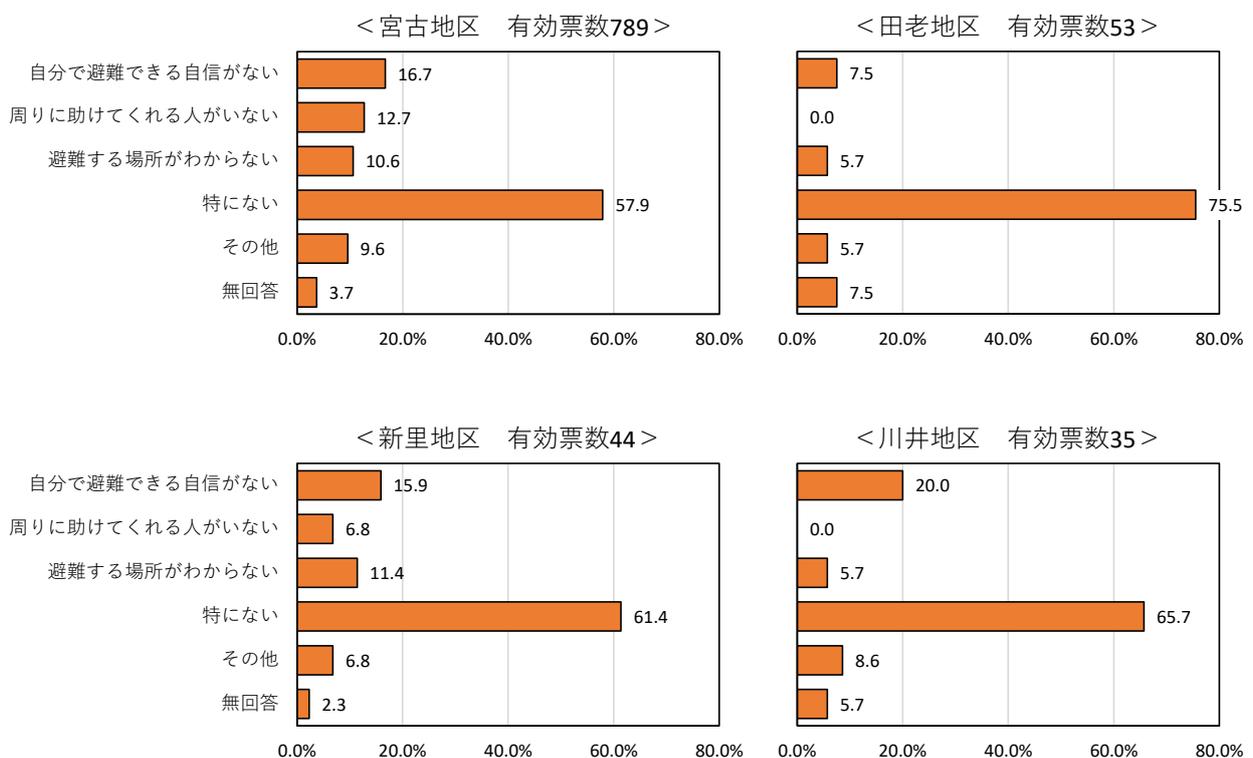


■地区別にみた災害の避難の際に心配なこと

およそ6割から7割は、心配事は「特になし」

各地区で「特になし」が最も高く、およそ6割から7割を占めている。次いで「自分で避難できる自信がない」が高くなっている。

3番目に高いのは“宮古地区”では「周りに助けしてくれる人がいない」、その他の地区では「避難する場所がわからない」となっている。



3 行政への関心と行政サービス

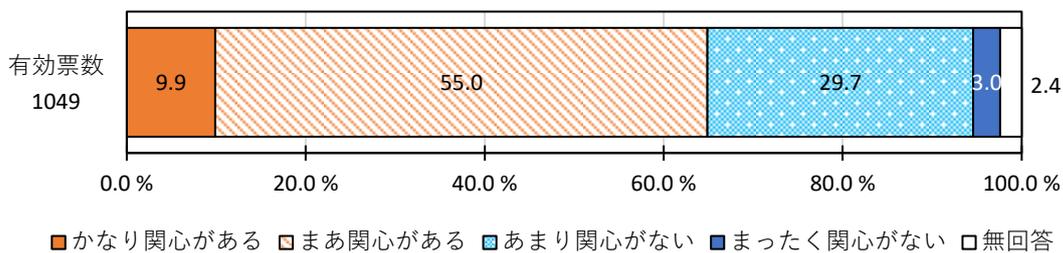
(1) 施政への関心度

問 11 あなたは、市政に関して日頃から関心をお持ちですか。

6割以上が市政に関心がある

「関心がある」(「かなり関心がある」(9.9%)と「まあ関心がある」(55.0%)の合計)は64.9%となり、「関心がない」(「あまり関心がない」(29.7%)と「まったく関心がない」(3.0%)の合計)の32.7%を32.2ポイント上回った。

回答者の6割以上が市政になんらかの関心を持っていることがわかる。

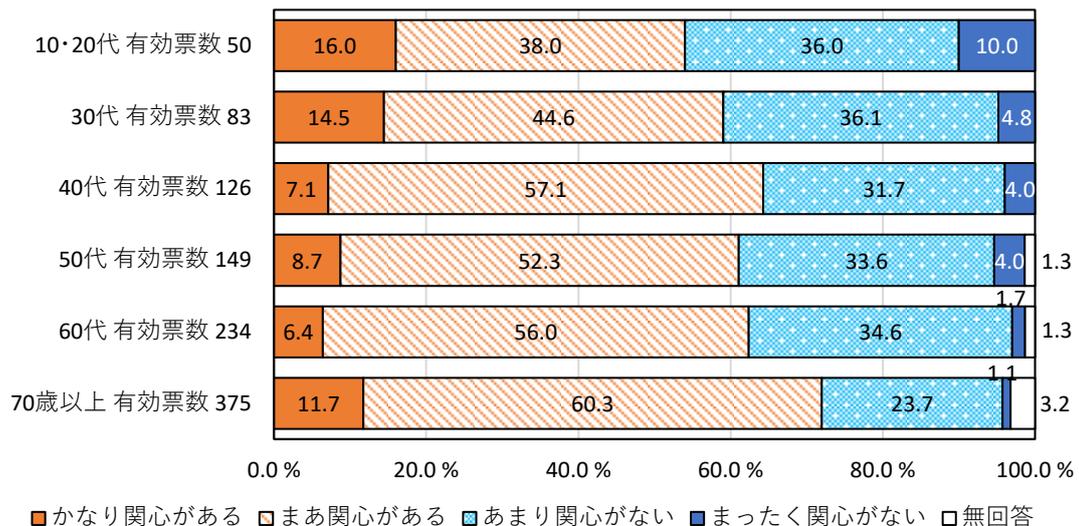


■年代別にみた市政への関心

市政への関心が最も高い年代は“70代以上”で72.0% (「かなり関心がある」(11.7%)と「まあ関心がある」(60.3%)の合計)となった。

一方、市政への関心が最も低い年代は“10・20代”で46.0% (「あまり関心がない」(36.0%)と「まったく関心がない」(10.0%)の合計)となっている。

年代が低いほど市政への関心も低く、年代と市政への関心の高さが比例する傾向にある。

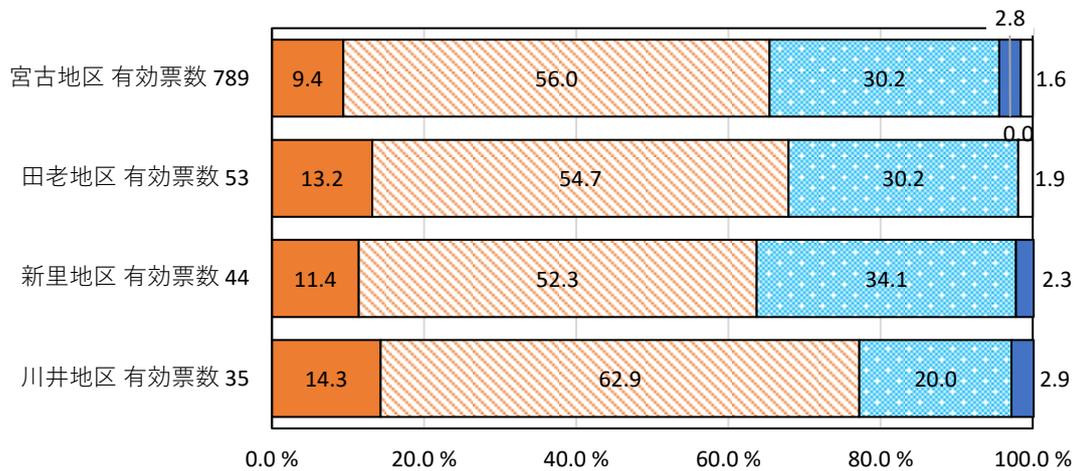


■地区別にみた市政への関心

市政への関心が最も高い地区は“川井地区”で77.2%（「かなり関心がある」(14.3%)と「まあ関心がある」(62.9%)の合計）となった。

一方、市政への関心が最も低い地区は“新里地区”で36.4%（「あまり関心がない」(34.1%)と「まったく関心がない」(2.3%)の合計）となっている。

各地区で6割以上の方が市政へ関心を持っている。



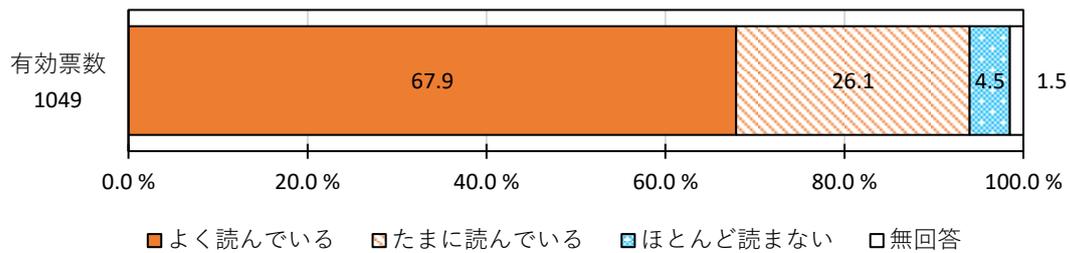
■かなり関心がある □まあ関心がある ■あまり関心がない ■まったく関心がない □無回答

(2) 広報紙「広報みやこ」の利用状況

問12 あなたは、市が発行している広報紙「広報みやこ」をどの程度読んでいますか。

9割以上が広報紙「広報みやこ」を利用している

「読んでいる」（「よく読んでいる」（67.9%）と「たまに読んでいる」（26.1%）の合計）は、94.0%となり、回答者の9割以上が広報を利用していることがわかる。

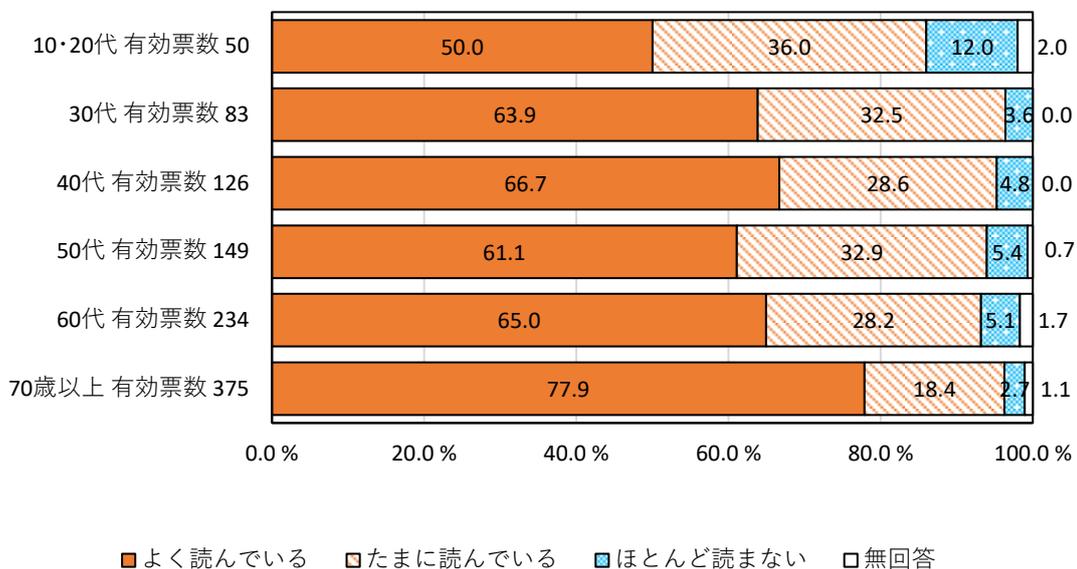


■年代別にみた広報紙「広報みやこ」の利用状況

利用率が最も高い年代は「30代」で96.4%（「よく読んでいる」（63.9%）と「たまに読んでいる」（32.5%）の合計）となった。

一方、利用率が最も低い年代は「10・20代」で「ほとんど読まない」（12.0%）となっている。

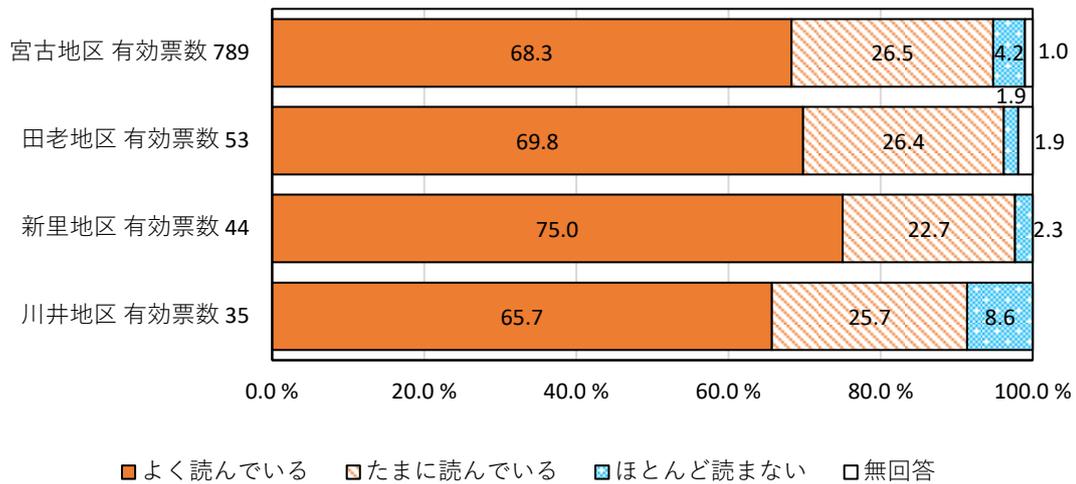
「10・20代」を除く全ての年代で利用率が9割を超えていることから、広報が幅広い年代の市民に利用されていることがわかる。



■地区別にみた「広報みやこ」の利用状況

利用率が最も高い地区は“新里地区”で97.7%（「よく読んでいる」(75.0%)と「たまに読んでいる」(22.7%)の合計）となった。

一方、利用率が最も低い地区は“川井地区”で「ほとんど読まない」(8.6%)となっている。各地区において利用率は9割を超えており、広報がどの地区においても利用されていることがわかる。



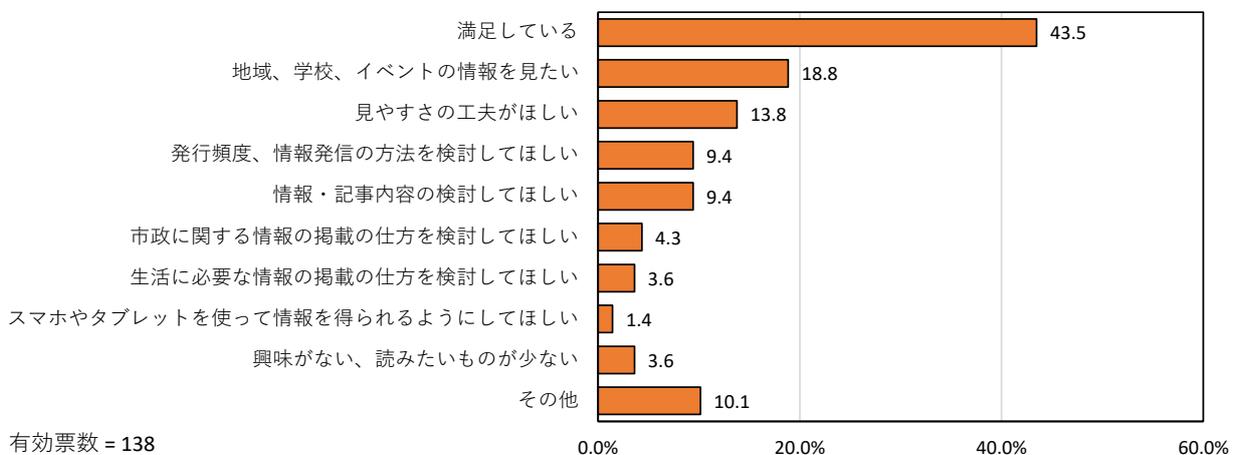
(3) 広報紙の内容についての意見

問 12-1 広報紙の内容について、ご意見・ご感想などがありましたらお書きください。

4割の回答者が「満足している」と回答している

満足以外では、イベントの紹介や子どもたちに関する話題についての情報の掲載を求める意見が多くなっている。

文字の大きさが見せ方など、紙面の工夫についての意見も3番目に多くなっている。



(4) 市のホームページや公式 SNS の利用状況

問 13 あなたは、市のホームページや市公式 SNS などを見たことがありますか。また、その内容についてどのように考えていますか。

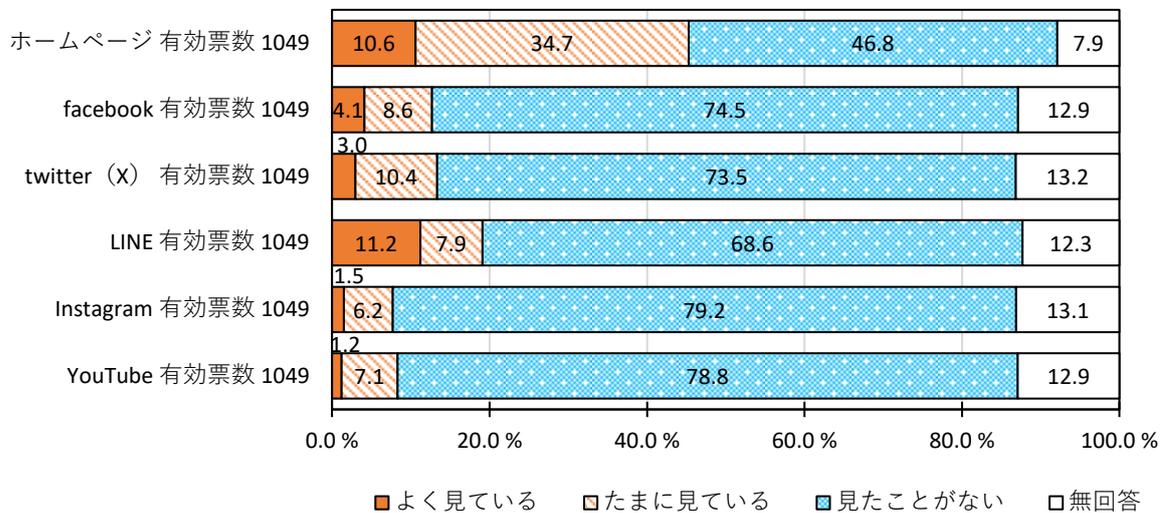
■市のホームページや公式 SNS の利用度

利用度が最も高いのは“ホームページ”で「見ている」（「よく見ている」（10.6%）と「たまに見ている」（34.7%）の合計）は 45.3% となっている。

一方、利用度が低いのは“Instagram”で「見たことがない」（79.2%）となっている。

“ホームページ”以外では「見たことがない」が 6 割以上を占めていることから、公式 SNS の存在を広めることが課題である。

<市ホームページ・公式 SNS 利用度>



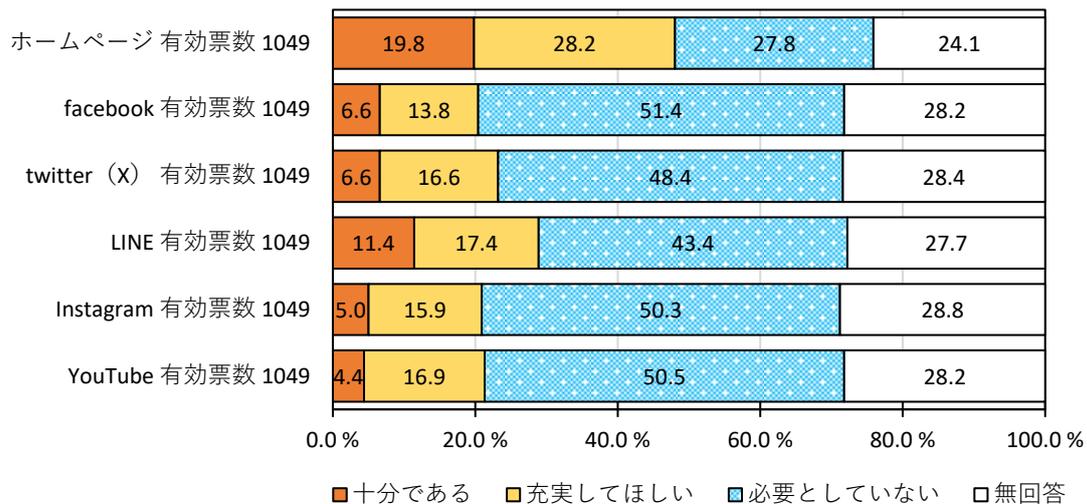
■市のホームページや公式 SNS の満足度

満足度が最も高いのは“ホームページ”で「十分である」が 19.8%となっている。次いで“LINE”（11.4%）、同数で“facebook”、“twitter(x)”（6.6%）となっている。

「充実してほしい」が最も高いのは、“ホームページ”で 28.2%、次いで“LINE”（17.4%）、“You Tube”（16.9%）の順となっている。

一方、「必要としていない」は“facebook”で 51.4%が最も高く、次いで“you Tube”（50.5%）、“Instagram”（50.3%）の順となっている。

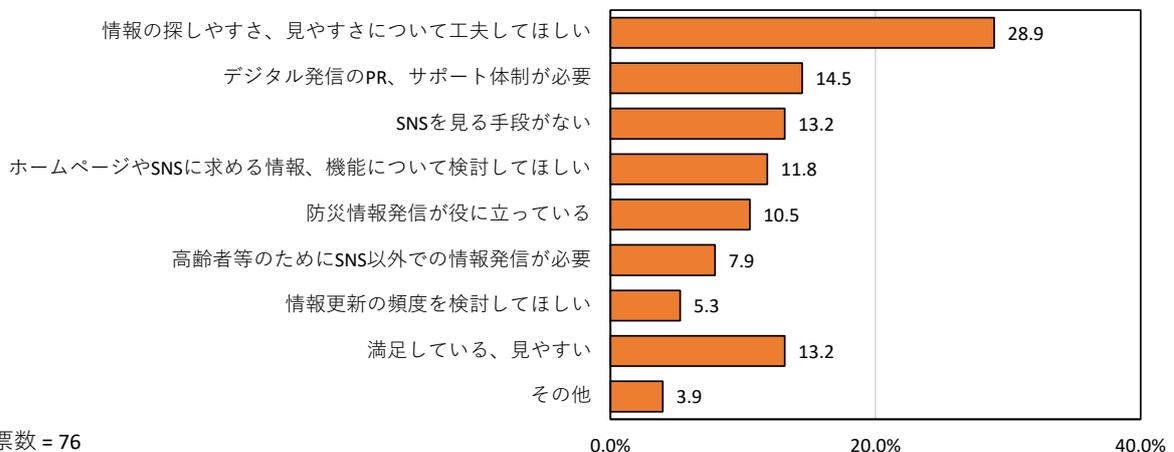
<市ホームページ・公式SNS満足度>



問 13-1 市のホームページや市公式 SNS に対する意見がありましたらお書きください。

ホームページや公式 SNS で自分が必要な情報を得られるように工夫してほしいという意見が多い。

また、ホームページや公式 SNS の見方を知りたい、デジタルで情報を得られる手段がない、SNS 以外でも情報発信をすべきなどの高齢者等への対応についての意見もみられた。

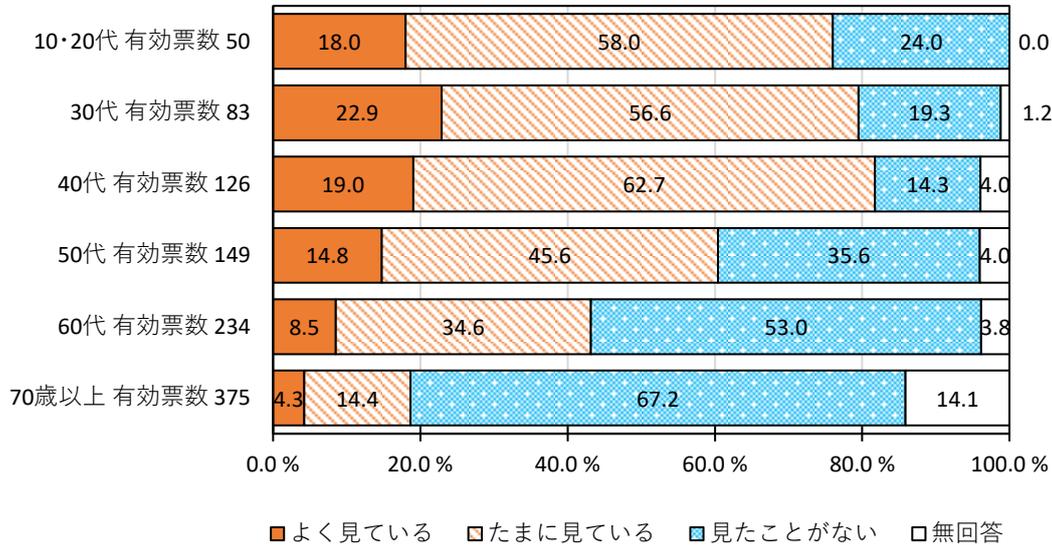


■年代別にみた市のホームページの利用度

利用率が最も高い年代は“40代”で81.7%（「よく見ている」（19.0%）、「たまに見ている」（62.7%）の合計）となった。

一方、利用率が最も低い年代は“70代以上”で「見たことがない」（67.2%）となっている。

<ホームページの利用度>



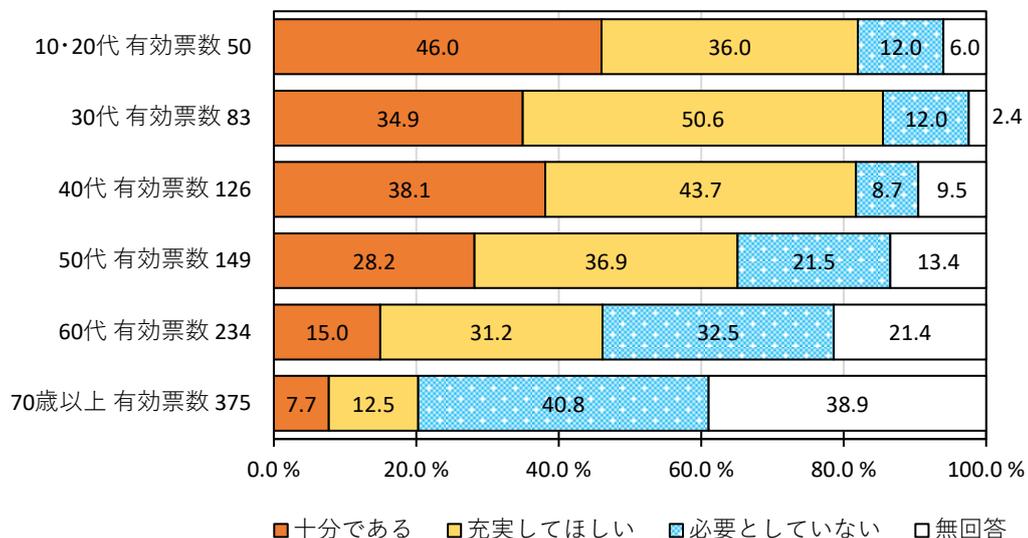
■年代別にみた市のホームページの満足度

満足度が最も高いのは“10・20代”で「十分である」が46.0%となっている。次いで“40代”（38.1%），“30代”（34.9%）となっている。

「充実してほしい」が最も高いのは、“30代”で50.6%、次いで“40代”（43.7%），“50代”（36.9%）の順となっている。

一方、「必要としていない」は“70代以上”で40.8%が最も高く、次いで“60代”（32.5%），“50代”（21.5%）の順となっている。“70代以上”では「無回答」が4割近くを占めているが、これは、ホームページや各SNSが何なのか理解していない方の可能性があるため、その旨、以降高齢者や高齢者が多い地区での「無回答」が多い場合は考慮しなければならない。

<ホームページの満足度>

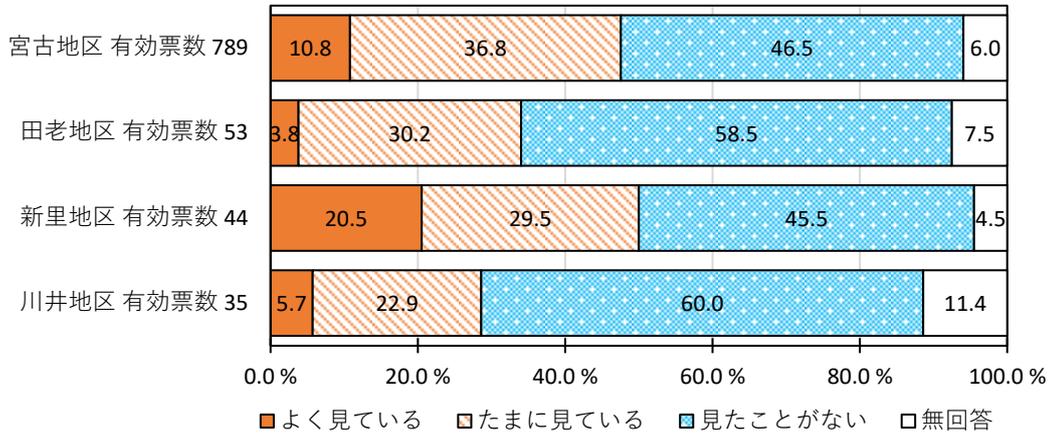


■地区別にみた市のホームページの利用度

利用率が最も高い地区は“新里地区”で50.0%（「よく見ている」(20.5%)、「たまに見ている」(29.5%)の合計）となった。

一方、利用率が最も低い地区は“川井地区”で「見たことがない」(60.0%)となっている。

<ホームページの利用度>



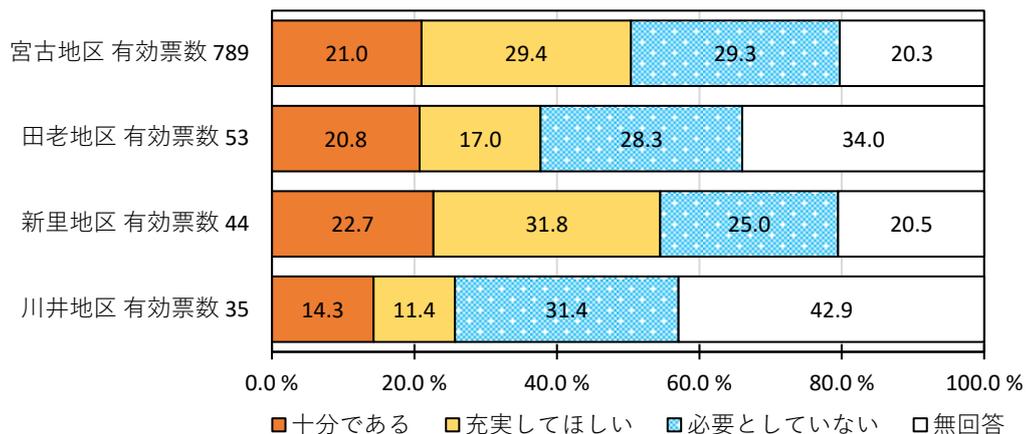
■地区別にみた市のホームページの満足度

満足度が最も高いのは“新里地区”で「十分である」が22.7%となっている。次いで“宮古地区”（21.0%）、“田老地区”（20.8%）となっている。

「充実してほしい」が最も高いのは、“新里地区”で31.8%、次いで“宮古地区”（29.4%）、“田老地区”（17.0%）の順となっている。

一方、「必要としていない」は“川井地区”で31.4%が最も高く、次いで“宮古地区”（29.3%）、“田老地区”（28.3%）の順となっている。

<ホームページの満足度>

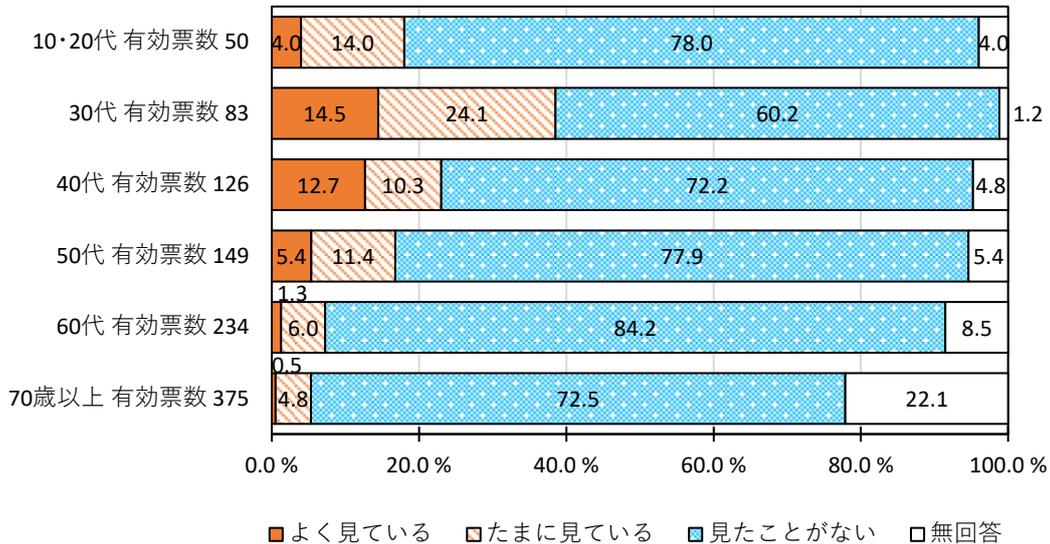


■年代別にみた市の facebook の利用度

利用率が最も高い年代は“30代”で38.6%（「よく見ている」(14.5%)、「たまに見ている」(24.1%)の合計）となった。

一方、利用率が最も低い年代は“60代”で「見たことがない」(84.2%)となっている。

< facebookの利用度 >



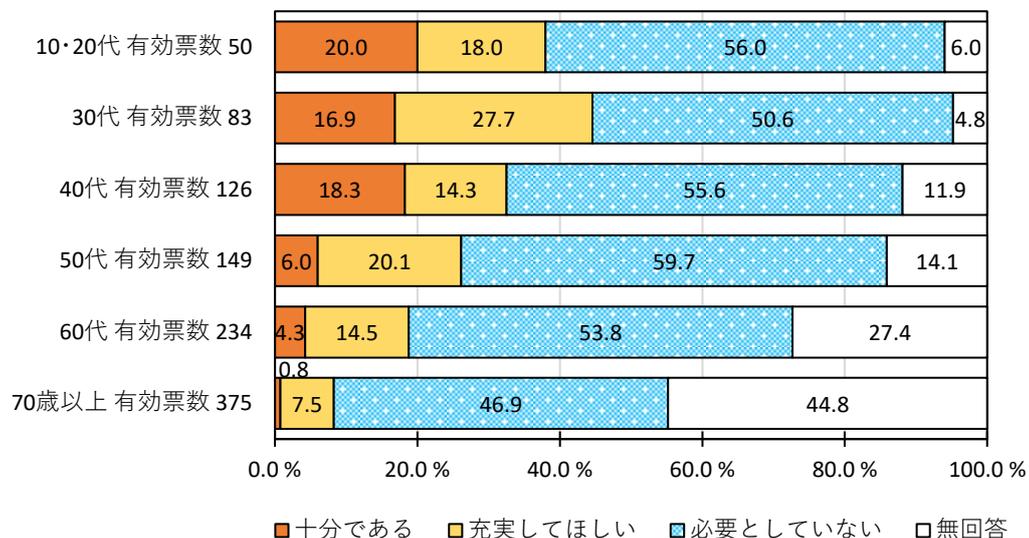
■年代別にみた市の facebook の満足度

満足度が最も高いのは“10・20代”で「十分である」が20.0%となっている。次いで“40代” (18.3%)、“30代” (16.9%)となっている。

「充実してほしい」が最も高いのは、“30代”で27.7%、次いで“50代” (20.1%)、“10・20代” (18.0%)の順となっている。

一方、「必要としていない」は“50代”で59.7%が最も高く、次いで“10・20代” (56.0%)、“40代” (55.6%)の順となっている。“70代以上”では「無回答」が44.8%を占めている。

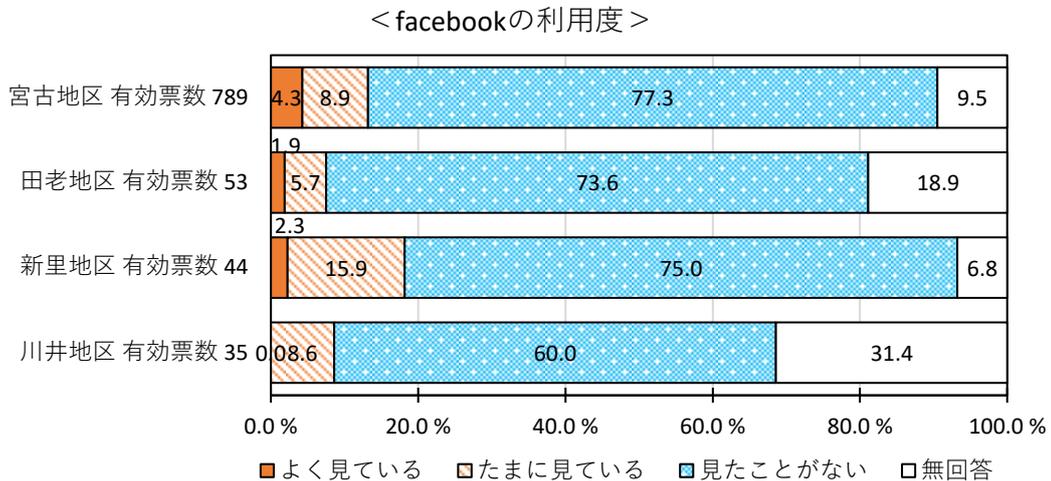
< facebookの満足度 >



■地区別にみた市の facebook の利用度

利用率が最も高い地区は“新里地区”で 18.2%（「よく見ている」（2.3%）、「たまに見ている」（15.9%）の合計）となった。

一方、利用率が最も低い地区は“宮古地区”で「見たことがない」（77.3%）となっている。“川井地区”では「無回答」が 31.4%を占めている。



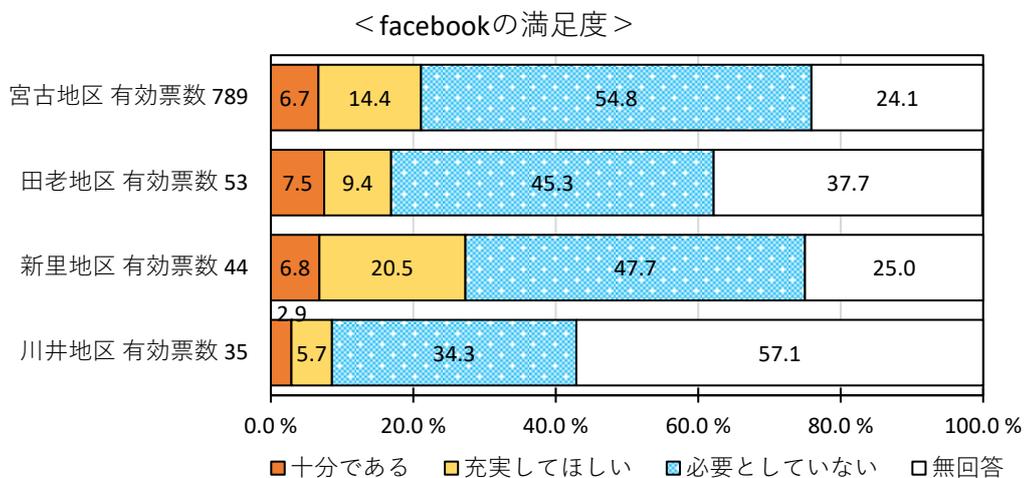
■地区別にみた市の facebook の満足度

満足度が最も高いのは“田老地区”で「十分である」が 7.5%となっている。次いで“新里地区”（6.8%），“宮古地区”（6.7%）となっている。

「充実してほしい」が最も高いのは、“新里地区”で 20.5%、次いで“宮古地区”（14.4%），“田老地区”（9.4%）の順となっている。

一方、「必要としていない」は“宮古地区”で 54.8%が最も高く、次いで“新里地区”（47.7%），“田老地区”（45.3%）の順となっている。

“川井地区”では「無回答」が 57.1%を占めている。

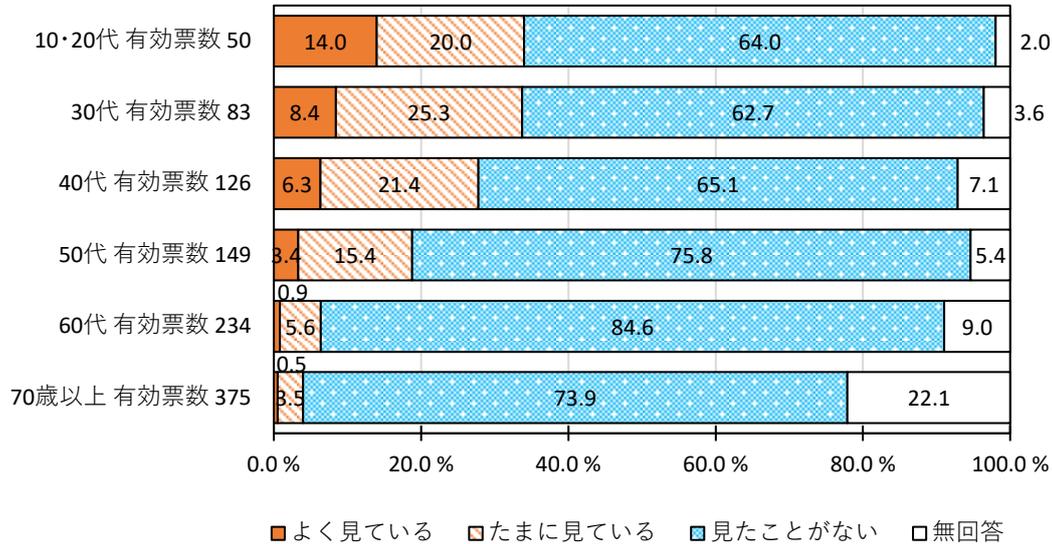


■年代別にみた市の twitter(X)の利用度

利用率が最も高い年代は“10・20代”で34.0%（「よく見ている」(14.0%)、「たまに見ている」(20.0%)の合計）となった。

一方、利用率が最も低い年代は“60代”で「見たことがない」(84.6%)となっている。

< twitter (X)の利用度 >



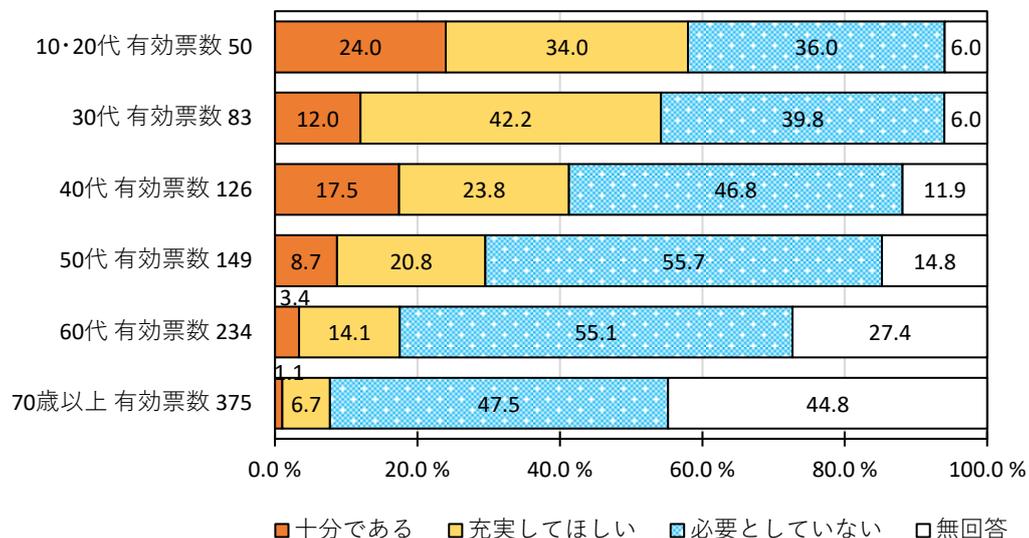
■年代別にみた市の twitter(X)の満足度

満足度が最も高いのは“10・20代”で「十分である」が24.0%となっている。次いで“40代” (17.5%)、“30代” (12.0%)となっている。

「充実してほしい」が最も高いのは、“30代”で42.2%、次いで“10・20代” (34.0%)、“40代” (23.8%)の順となっている。

一方、「必要としていない」は“50代”で55.7%が最も高く、次いで“60代” (55.1%)、“70歳以上” (47.5%)の順となっている。“70代以上”では「無回答」が44.8%を占めている。

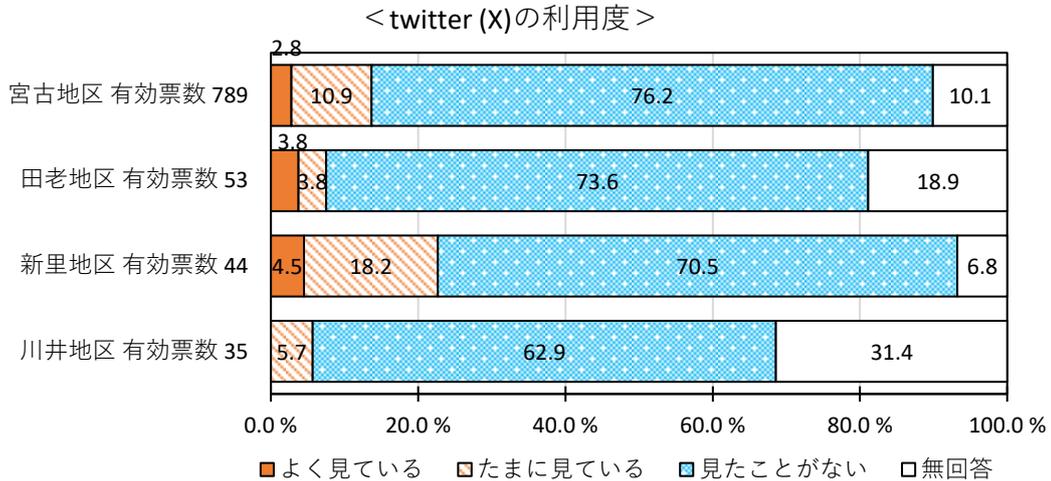
< twitter (X)の満足度 >



■地区別にみた市の twitter(X)の利用度

利用率が最も高い地区は“新里地区”で 22.7%（「よく見ている」(4.5%)、「たまに見ている」(18.2%) の合計）となった。

一方、利用率が最も低い地区は“宮古地区”で「見たことがない」(76.2%) となっている。“川井地区”では「無回答」が 31.4%を占めている。



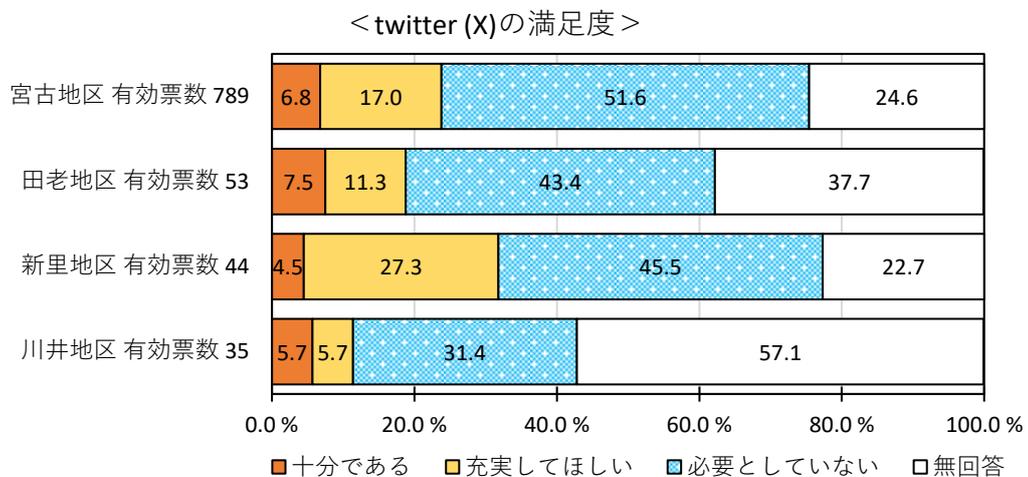
■地区別にみた市の twitter(X)の満足度

満足度が最も高いのは“田老地区”で「十分である」が 7.5%となっている。次いで“宮古地区” (6.8%)、“川井地区” (5.7%) となっている。

「充実してほしい」が最も高いのは、“新里地区”で 27.3%、次いで“宮古地区” (17.0%)、“田老地区” (11.3%) の順となっている。

一方、「必要としていない」は“宮古地区”で 51.6%が最も高く、次いで“新里地区”(45.5%)、“田老地区” (43.4%) の順となっている。

“川井地区”では「無回答」が 57.1%を占めている。

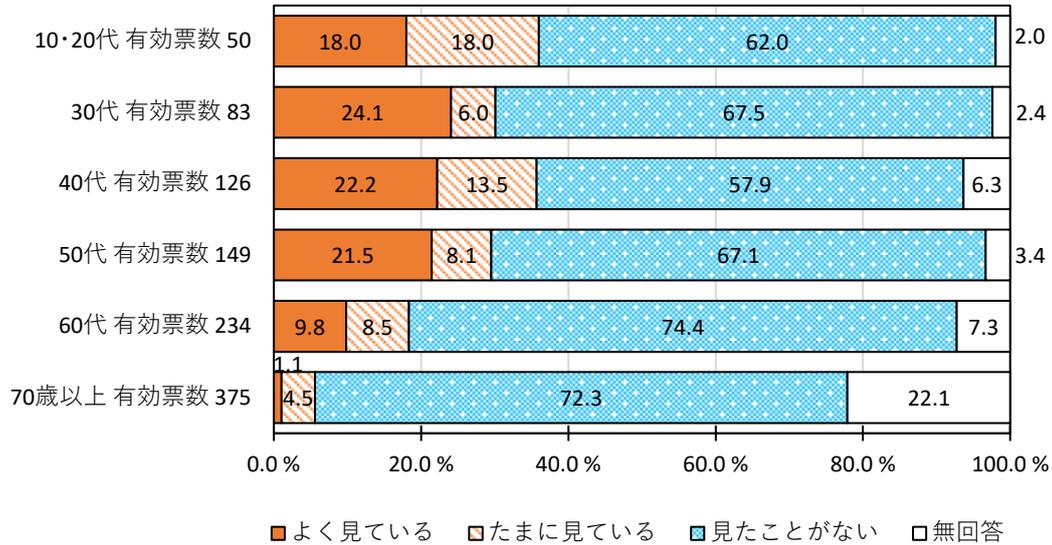


■年代別にみた市のLINEの利用度

利用率が最も高い年代は“10・20代”で36.0%（「よく見ている」(18.0%)、「たまに見ている」(18.0%)の合計）となった。

一方、利用率が最も低い年代は“60代”で「見たことがない」(74.4%)となっている。

<LINEの利用度>



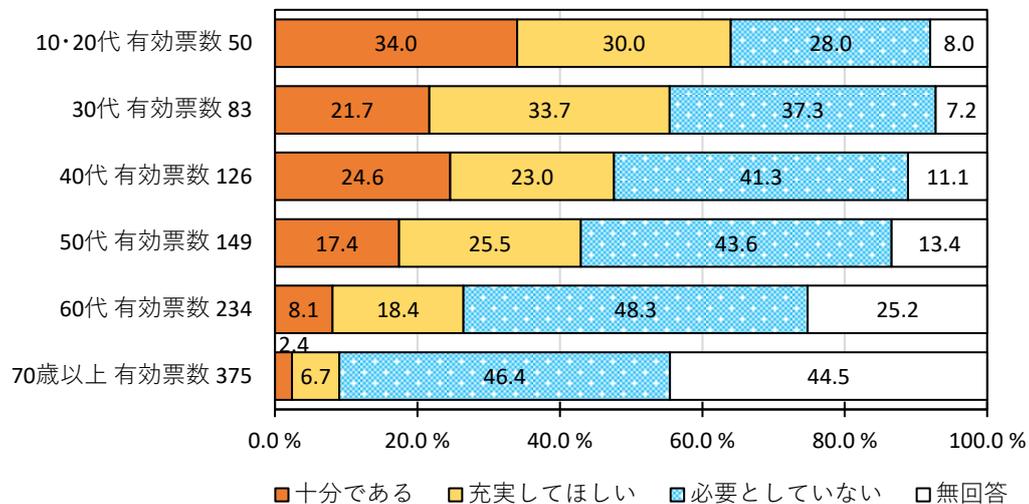
■年代別にみた市のLINEの満足度

満足度が最も高いのは“10・20代”で「十分である」が34.0%となっている。次いで“40代” (24.6%)、“30代” (21.7%)となっている。

「充実してほしい」が最も高いのは、“30代”で33.7%、次いで“10・20代” (30.0%)、“50代” (25.5%)の順となっている。

一方、「必要としていない」は“60代”で48.3%が最も高く、次いで“70歳以上” (46.4%)、“50代” (43.6%)の順となっている。“70代以上”では「無回答」が44.5%を占めている。

<LINEの満足度>

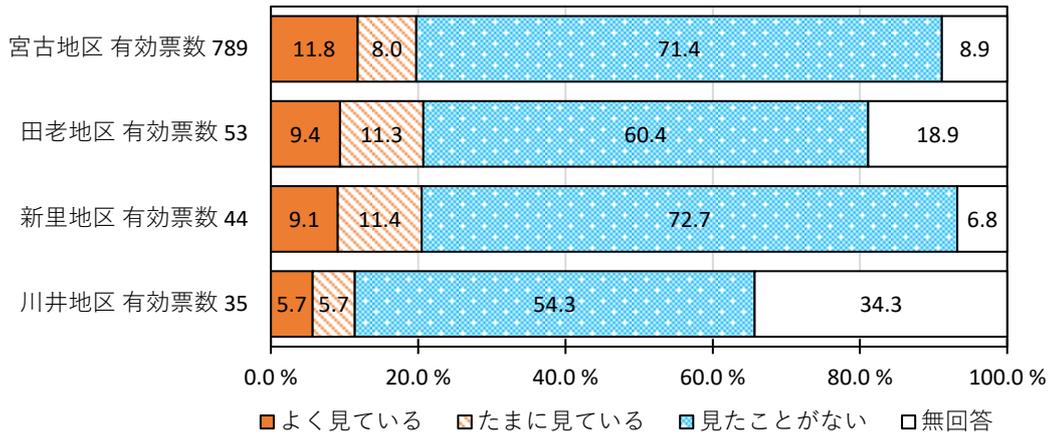


■地区別にみた市のLINEの利用度

利用率が最も高い地区は“田老地区”で 20.7%（「よく見ている」(9.4%)、「たまに見ている」(11.3%) の合計）となった。

一方、利用率が最も低い地区は“新里地区”で「見たことがない」(72.7%) となっている。“川井地区”では「無回答」が 34.3%を占めている。

<LINEの利用度>



■地区別にみた市のLINEの満足度

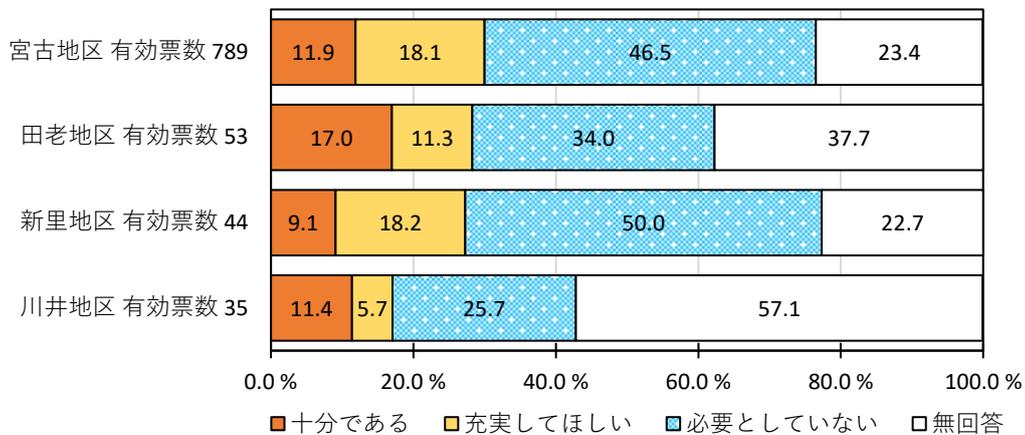
満足度が最も高いのは“田老地区”で「十分である」が 17.0%となっている。次いで“宮古地区” (11.9%)、“川井地区” (11.4%) となっている。

「充実してほしい」が最も高いのは、“新里地区”で 18.2%、次いで“宮古地区” (18.1%)、“田老地区” (11.3%) の順となっている。

一方、「必要としていない」は“新里地区”で 50.0%が最も高く、次いで“宮古地区”(46.5%)、“田老地区” (34.0%) の順となっている。

“川井地区”では「無回答」が 57.1%を占めている。

<LINEの満足度>

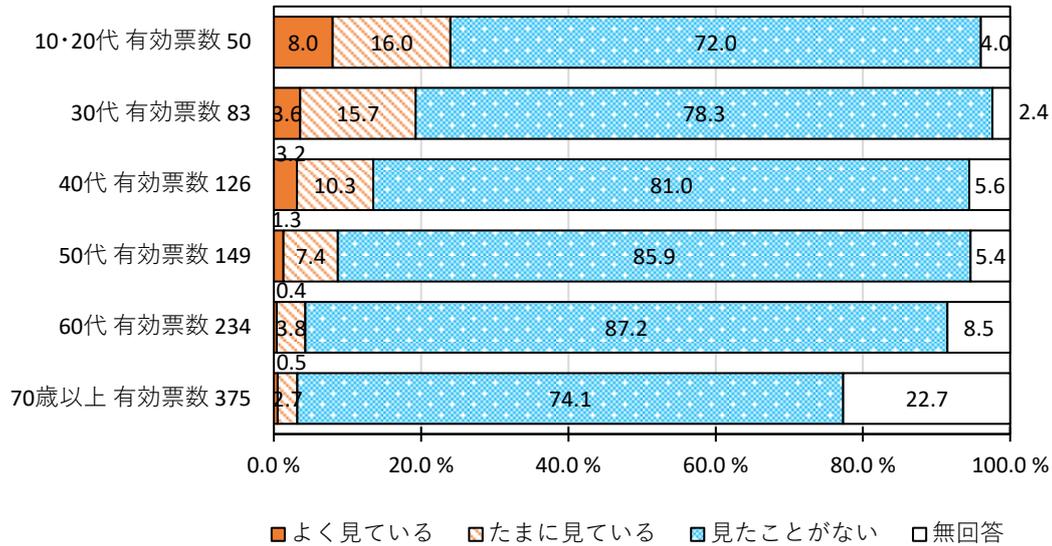


■年代別にみた市の Instagram の利用度

利用率が最も高い年代は“10・20代”で24.0%（「よく見ている」（8.0%）、「たまに見ている」（16.0%）の合計）となった。

一方、利用率が最も低い年代は“60代”で「見たことがない」（87.2%）となっている。

< Instagramの利用度 >



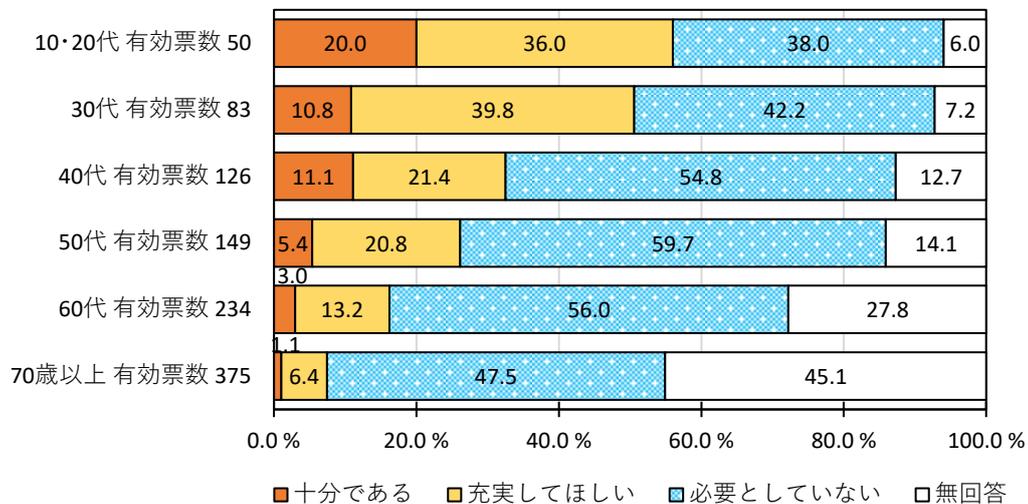
■年代別にみた市の Instagram の満足度

満足度が最も高いのは“10・20代”で「十分である」が20.0%となっている。次いで“40代”（11.1%），“30代”（10.8%）となっている。

「充実してほしい」が最も高いのは、“30代”で39.8%、次いで“10・20代”（36.0%），“40代”（21.4%）の順となっている。

一方、「必要としていない」は“50代”で59.7%が最も高く、次いで“60代”（56.0%），“40代”（54.8%）の順となっている。“70代以上”では「無回答」が45.1%を占めている。

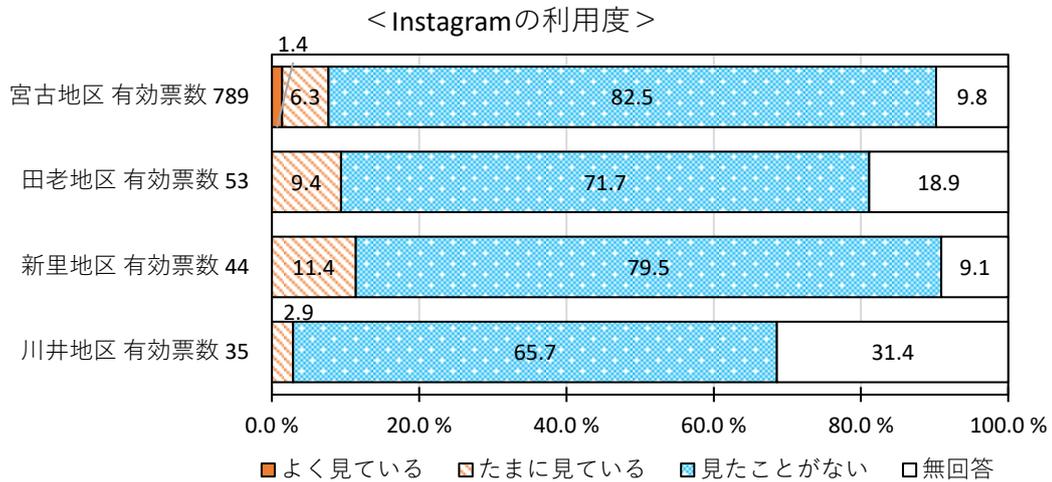
< Instagramの満足度 >



■地区別にみた市の Instagram の利用度

利用率が最も高い地区は“新里地区”で 11.4%（「よく見ている」(0.0%)、「たまに見ている」(11.4%) の合計）となった。

一方、利用率が最も低い地区は“宮古地区”で「見たことがない」(82.5%) となっている。“川井地区”では「無回答」が 31.4% を占めている。



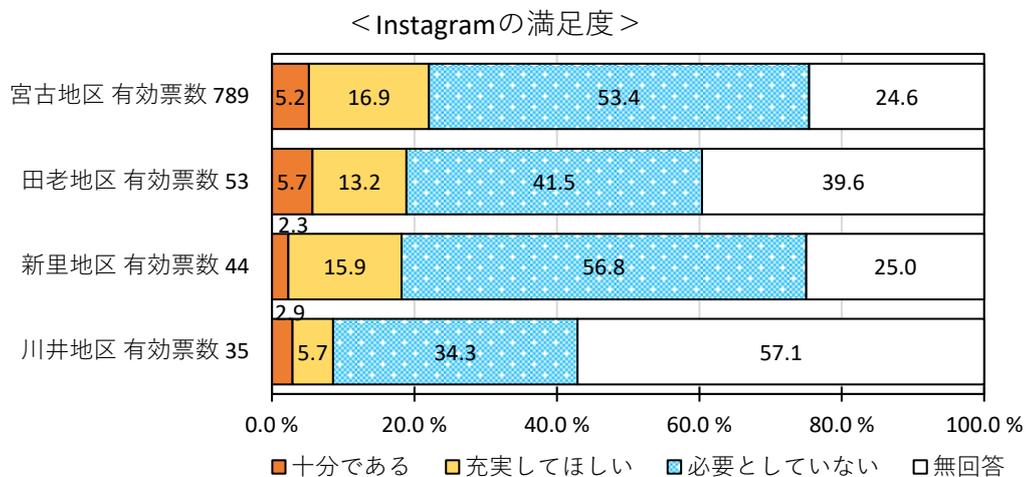
■地区別にみた市の Instagram の満足度

満足度が最も高いのは“田老地区”で「十分である」が 5.7% となっている。次いで“宮古地区” (5.2%)、“川井地区” (2.5%) となっている。

「充実してほしい」が最も高いのは、“宮古地区”で 16.9%、次いで“新里地区” (15.9%)、“田老地区” (13.2%) の順となっている。

一方、「必要としていない」は“新里地区”で 56.8% が最も高く、次いで“宮古地区” (53.4%)、“田老地区” (41.5%) の順となっている。

“川井地区”では「無回答」が 57.1% を占めている。

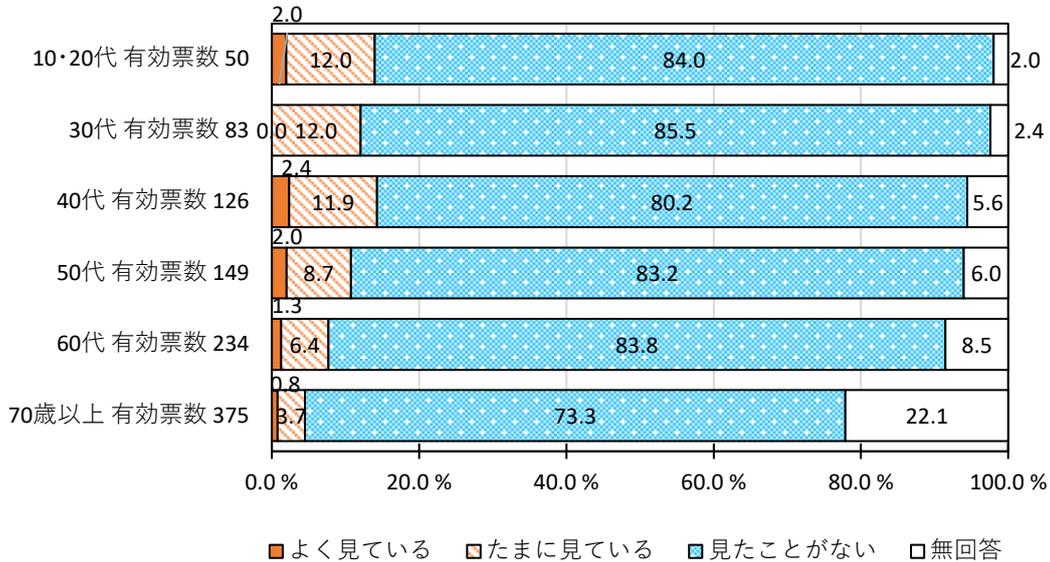


■年代別にみた市の You Tube の利用度

利用率が最も高い年代は“40代”で14.3%（「よく見ている」(2.4%)、「たまに見ている」(8.7%)の合計）となった。

一方、利用率が最も低い年代は“30代”で「見たことがない」(85.5%)となっている。

< You Tube の利用度 >



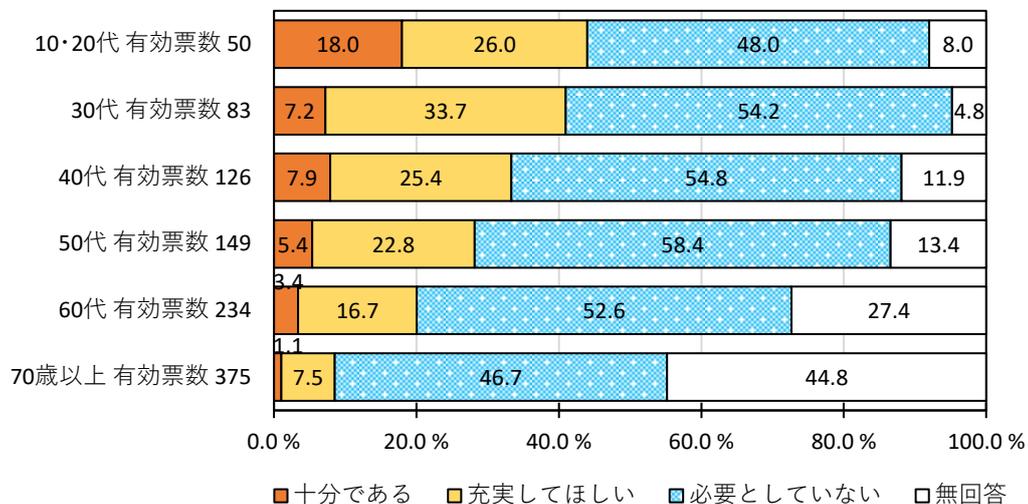
■年代別にみた市の You Tube の満足度

満足度が最も高いのは“10・20代”で「十分である」が18.0%となっている。次いで“40代”(7.9%)、“30代”(7.2%)となっている。

「充実してほしい」が最も高いのは、“30代”で33.7%、次いで“10・20代”(26.0%)、“40代”(25.4%)の順となっている。

一方、「必要としていない」は“50代”で58.4%が最も高く、次いで“40代”(54.8%)、“30代”(54.2%)の順となっている。“70代以上”では「無回答」が44.8%を占めている。

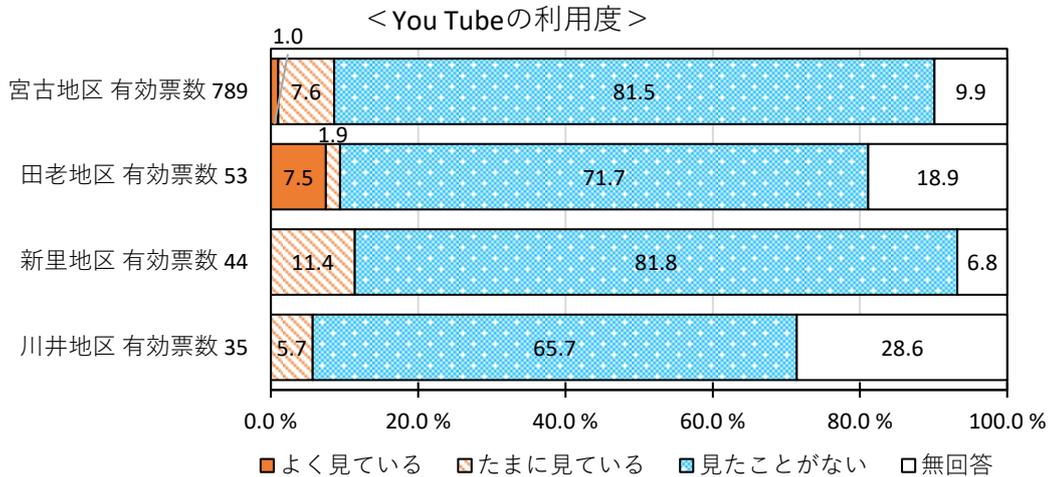
< You Tube の満足度 >



■地区別にみた市の You Tube の利用度

利用率が最も高い地区は“新里地区”で 11.4%（「よく見ている」(0.0%)、「たまに見ている」(11.4%) の合計）となった。

一方、利用率が最も低い地区は“新里地区”で「見たことがない」(81.8%) となっている。“川井地区”では「無回答」が 28.6% を占めている。



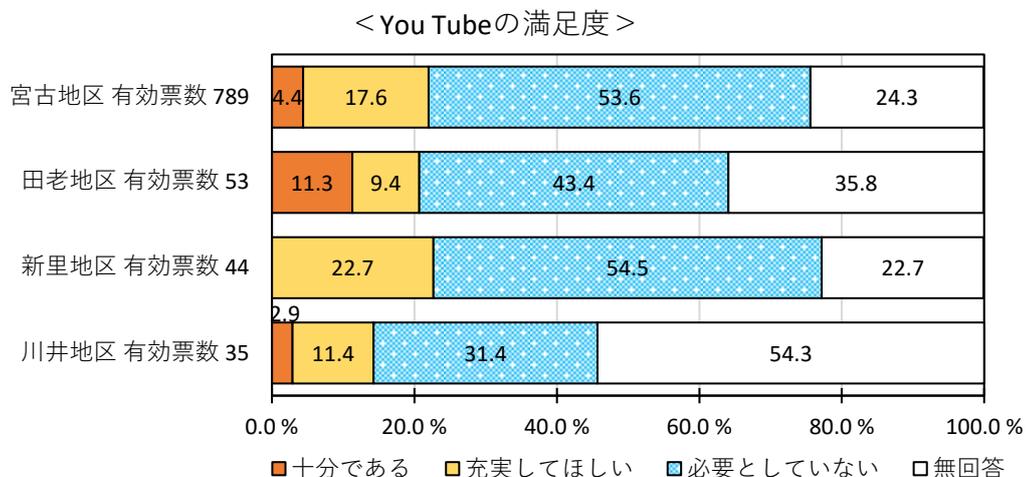
■地区別にみた市の You Tube の満足度

満足度が最も高いのは“田老地区”で「十分である」が 11.3% となっている。次いで“宮古地区” (4.4%)、“川井地区” (2.9%) となっている。

「充実してほしい」が最も高いのは、“新里地区”で 22.7%、次いで“宮古地区” (17.6%)、“川井地区” (11.4%) の順となっている。

一方、「必要としていない」は“新里地区”で 54.5% が最も高く、次いで“宮古地区” (53.6%)、“田老地区” (43.4%) の順となっている。

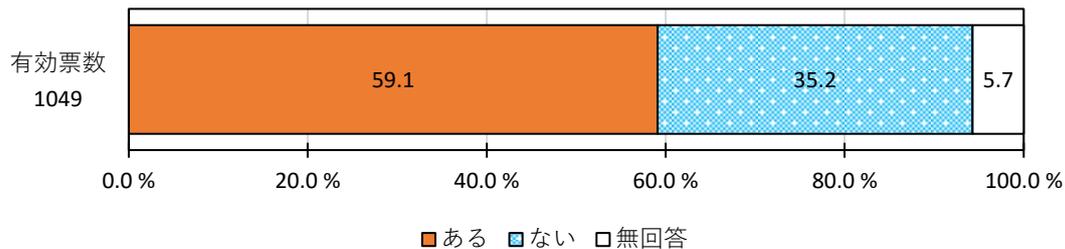
“川井地区”では「無回答」が 54.3% を占めている。



(5) コミュニティエフエム放送（みやこハーバーラジオ）の利用状況

問 14 あなたは、コミュニティエフエム放送（82.6MHz・みやこハーバーラジオ）を聞いたことがありますか。

およそ6割がコミュニティエフエム放送（みやこハーバーラジオ）を聞いたことがある「ある」（59.1%）、「ない」（35.2%）となった。
回答者のおよそ6割が聞いたことがあることがわかる。

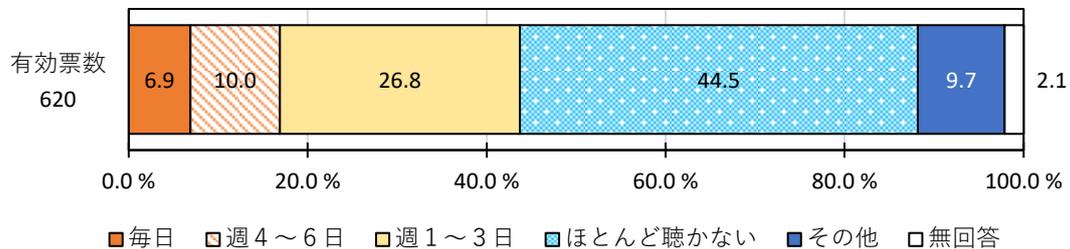


問 14-1 どれくらいの頻度で聴いていますか。

利用したことがあると回答した方の4割がほとんど聴かない一方で、およそ4割が週に1日以上聞いている

利用頻度として最も多いのは「ほとんど聴かない」で44.5%となった。次いで「週に1日～3日」（26.8%）、「週4～6日」（10.0%）、「毎日」（6.9%）となった。

回答者の4割がほとんど聴かない一方で、43.7%が週に1日以上聞いていることがわかる。

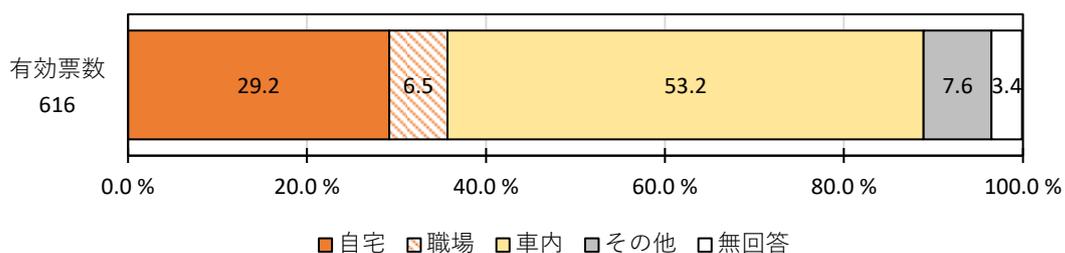


問 14-2 どこで聴いていますか。

利用したことがあると回答した方の5割が車内で聞いている

利用場所として最も多いのは「車内」で53.2%となった。次いで「自宅」（29.2%）、「職場」（6.5%）となっている。

車で移動中に聞いていることが多い。



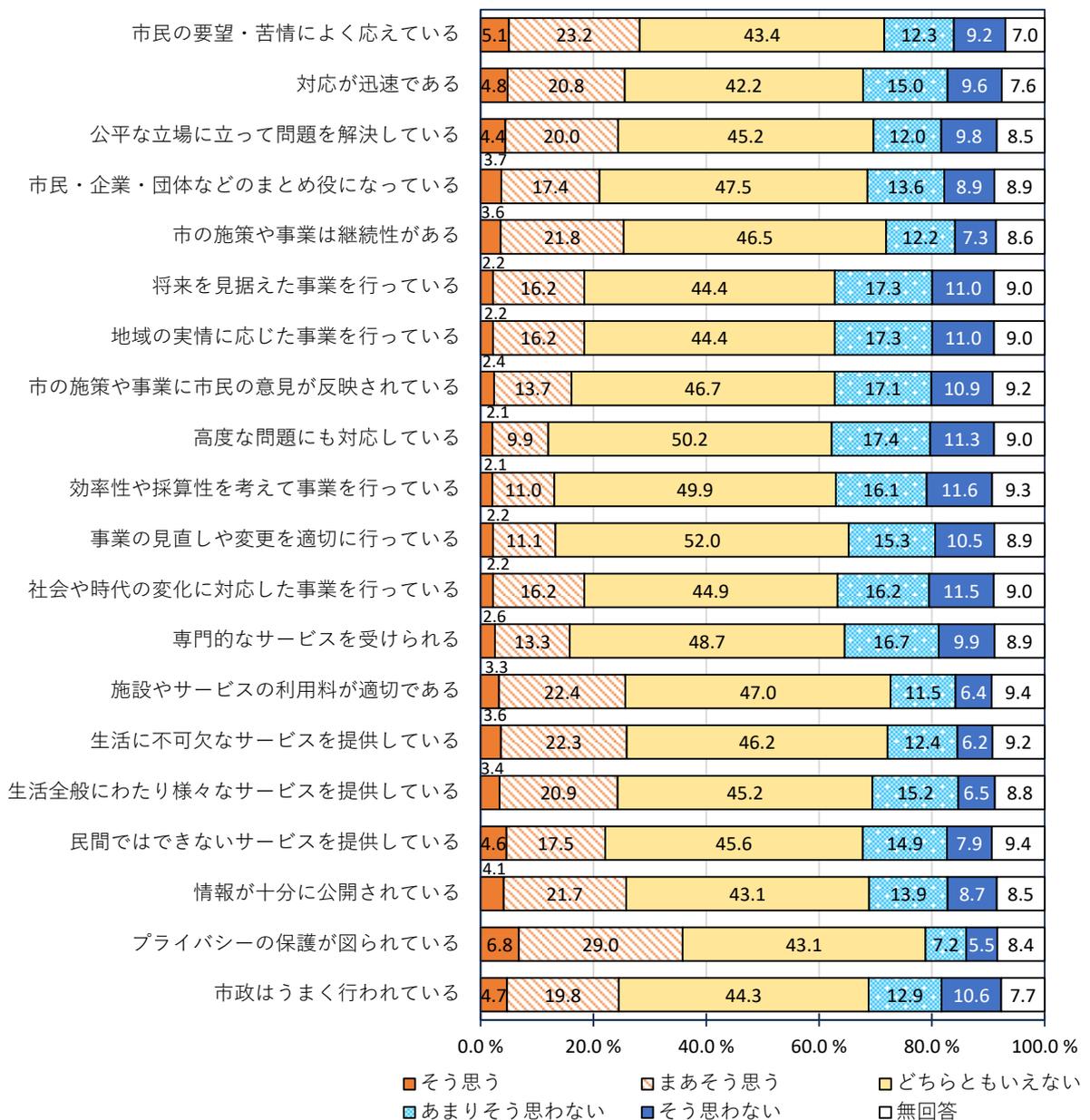
(6) 行政サービスについての感想

問 15 あなたは、現在の市の行政サービスについて、どのような感想をお持ちですか。

プライバシーの保護が図られており、市政はうまくいっているとの感想が多い市が行っている主な行政サービス 20 項目に対する感想を、5 段階評価の形式で聞いた。比較的よいと評価されている(「そう思う」と「まあそう思う」の合計)行政サービスは、「プライバシーの保護が図られている」で 35.8% となった。次いで「市民の要望・苦情によく応えている」(28.2%)、「生活に不可欠なサービスを提供している」(25.9%) の順となっている。

全体的には「どちらともいえない」の占める割合が高いものの、「あまりそう思わない」や「そう思わない」といった回答も多かった。

<市の行政サービスについての感想> 有効票数1,049

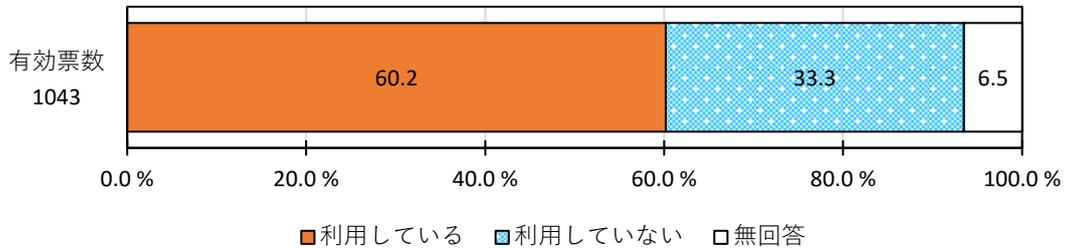


(7) インターネットの利用

問 16 あなたは、ご自宅や職場などでインターネットを利用されていますか。

6割近くがインターネットを利用している

「利用していない」(33.3%)が「利用している」(60.2%)を26.9ポイント上回った。



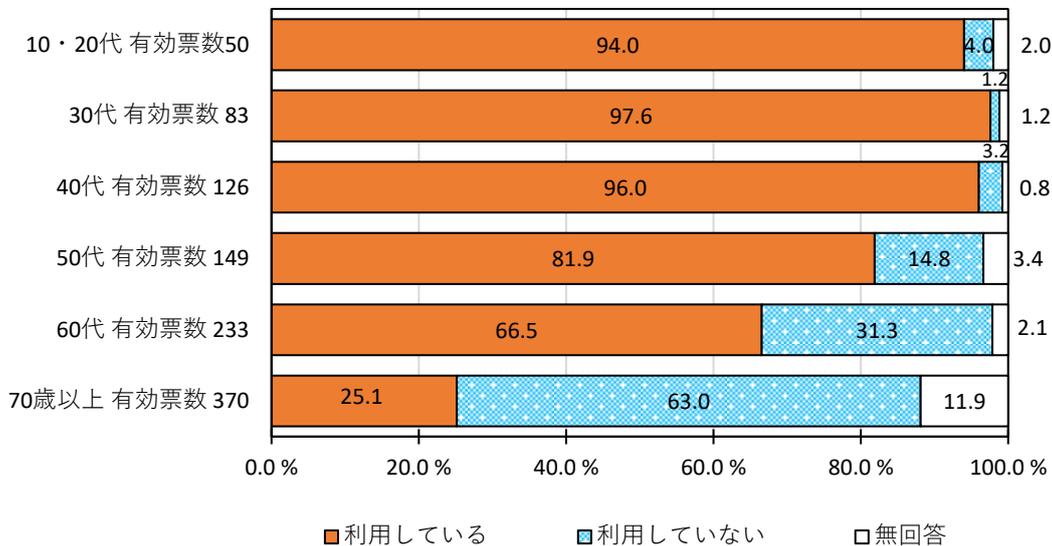
■年代別にみたインターネットの利用状況

利用率が最も高い年代は“30代”で97.6%となった。

一方、利用率が最も低い年代は“70代以上”で25.1%となっている。

若い年代ほどインターネットの利用率が高く、年代が上がるにつれてインターネットの利用率は低くなっていく傾向にある。

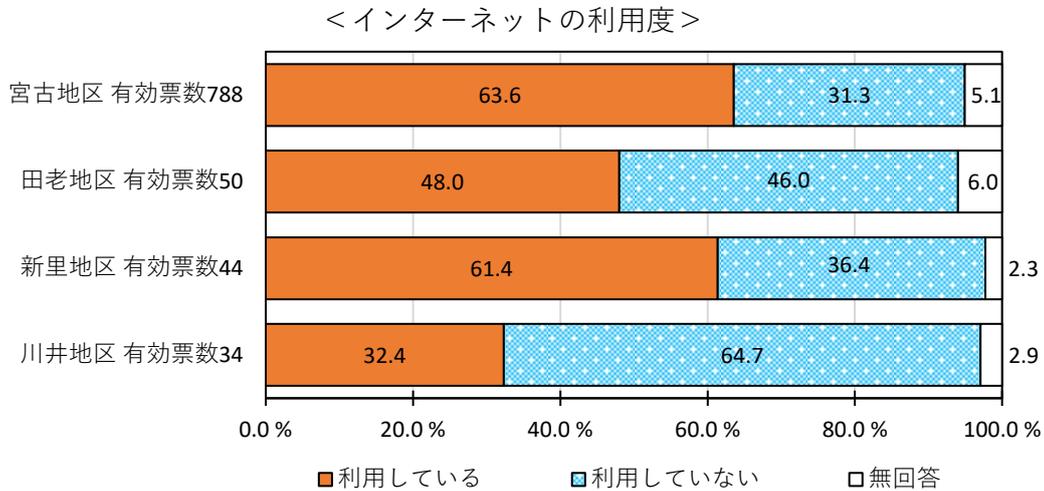
<インターネットの利用度>



■地区別にみたインターネットの利用状況

利用率が最も高い地区は“宮古地区”で 63.6%となった。

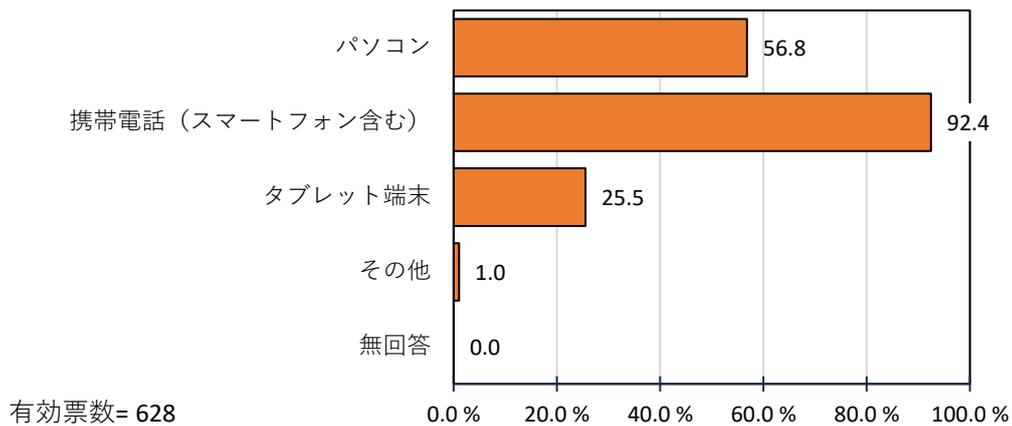
一方、利用率が最も低い地区は“川井地区”で 32.4%となっている。



問 16-1 どのような手段で利用されていますか。(○印はいくつでも)

インターネットの利用手段はスマートフォン、パソコン

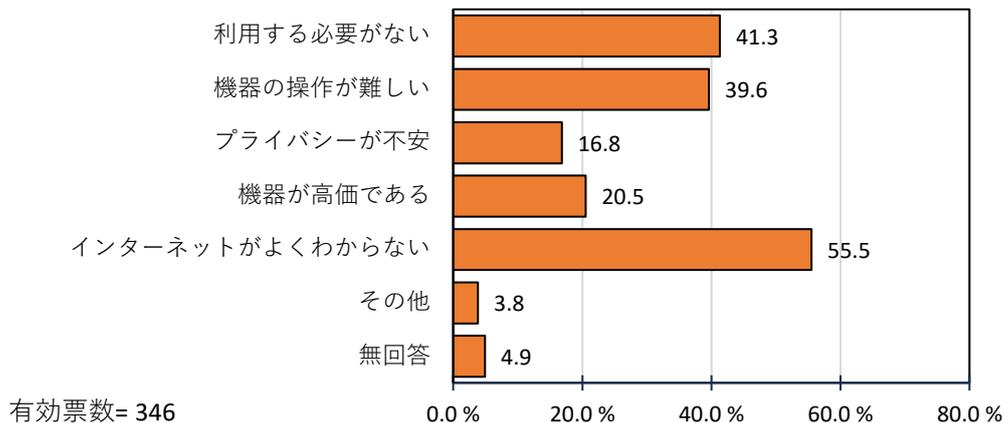
「携帯電話（スマートフォン含む）」が最も多く 92.4%となった。次いで「パソコン」(56.8%)、「タブレット端末」(25.5%) となっている。



問 16-2 利用していない理由はなんですか。(○印はいくつでも)

利用しないと回答した方の5割がインターネットがよくわからず、4割が利用する必要性を感じていない

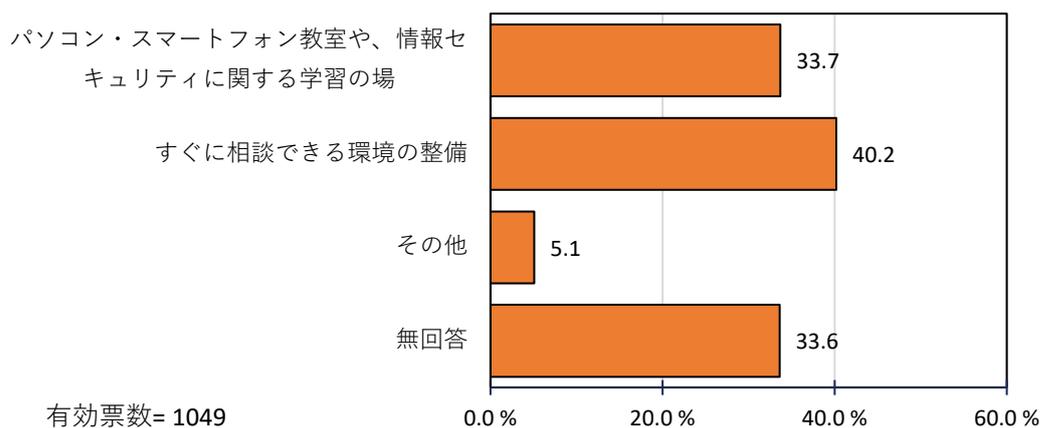
「インターネットがよくわからない」が最も多く55.5%となった。次いで「利用する必要性がない」(41.3%)、「機器の操作が難しい」(39.6%)の順となっている。



問 16-3 利用するために必要な支援があれば教えてください。(○印はいくつでも)

4割の方が相談できる環境が必要と回答

「すぐ相談できる環境の整備」が40.2%と最も多く、次いで「パソコン・スマートフォン教室や、情報セキュリティに関する学習の場」(33.7%)の順となっている。

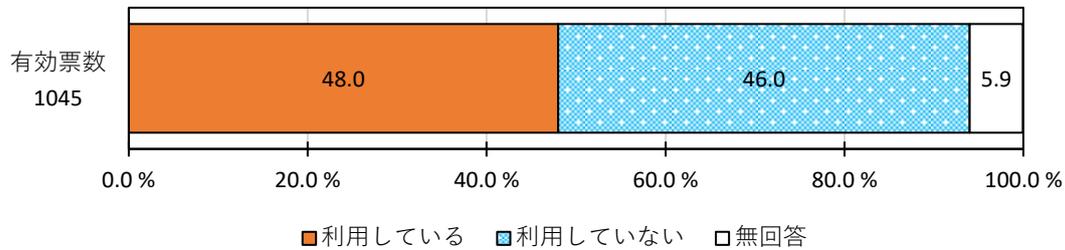


(8) キャッシュレス決済の利用状況

問17 あなたは、キャッシュレス決済を利用されていますか。

およそ5割がキャッシュレス決済を利用している

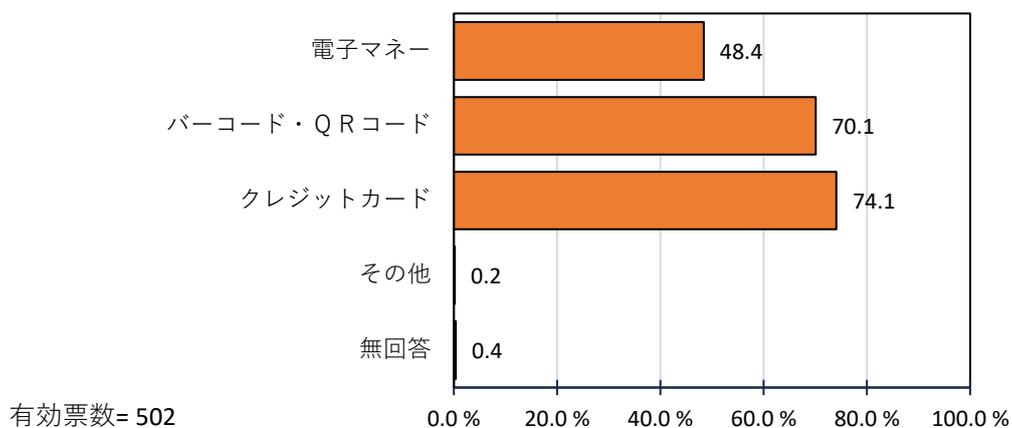
「利用していない」(46.0%)が「利用している」(48.0%)を2.0ポイント上回った。



問17-1 利用されているサービスを教えてください。(○印はいくつでも)

7割以上がクレジットカード、バーコード・QRコード決済を利用

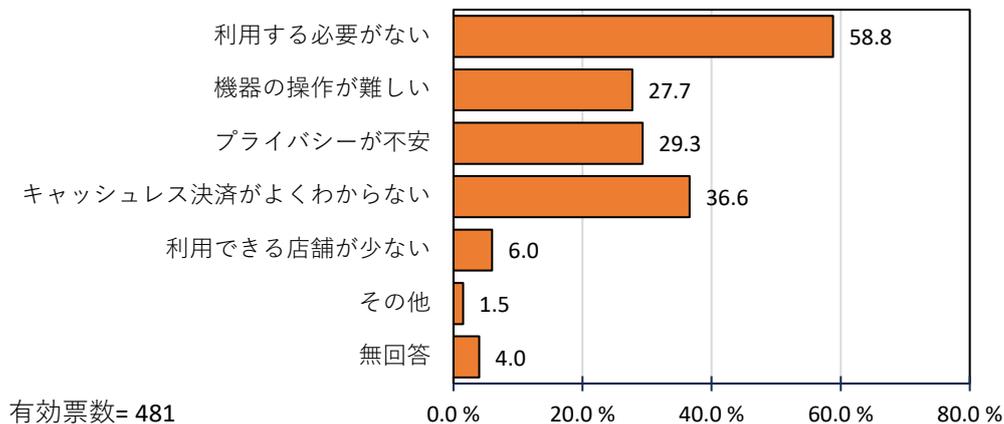
「クレジットカード」が74.1%と最も多く、次いで「バーコード・QRコード(d払い、auPAY、PayPay、LINEPay、楽天Payなど)」(70.1%)、「電子マネー(Suica、WAON、nanacoなど、後払い式:iD、QUICPayなど)」(48.4%)の順となっている。



問 17-2 利用していない理由はなんですか。(○印はいくつでも)

キャッシュレス決済未利用者の6割の方が必要ないと回答

「利用する必要がない」が58.8%と最も多く、次いで「キャッシュレス決済がよくわからない」(36.6%)、「プライバシーが不安」(29.3%)の順となっている。

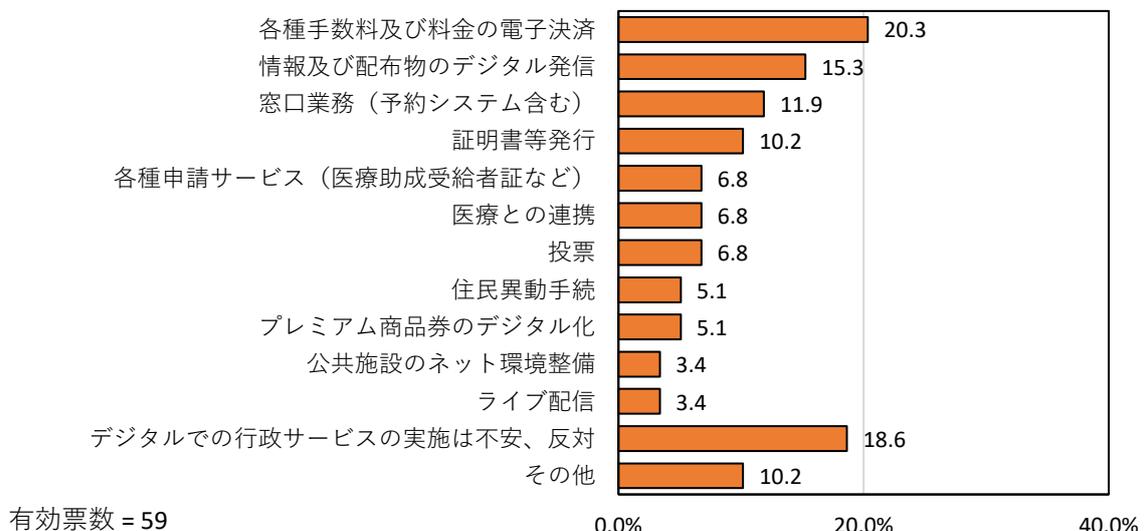


(9) デジタル技術を活用した行政サービス

問 18 デジタル技術を活用したほうがよいと考える行政サービスがありましたらお書きください。

デジタル技術を活用したほうがよいと考える行政サービスは「各種手数料及び料金の電子決済」(20.3%)が最も高く、次いで「情報及び配布物のデジタル発信」(15.3%)、「窓口業務(予約システム含む)」(11.9%)の順で高くなっている。

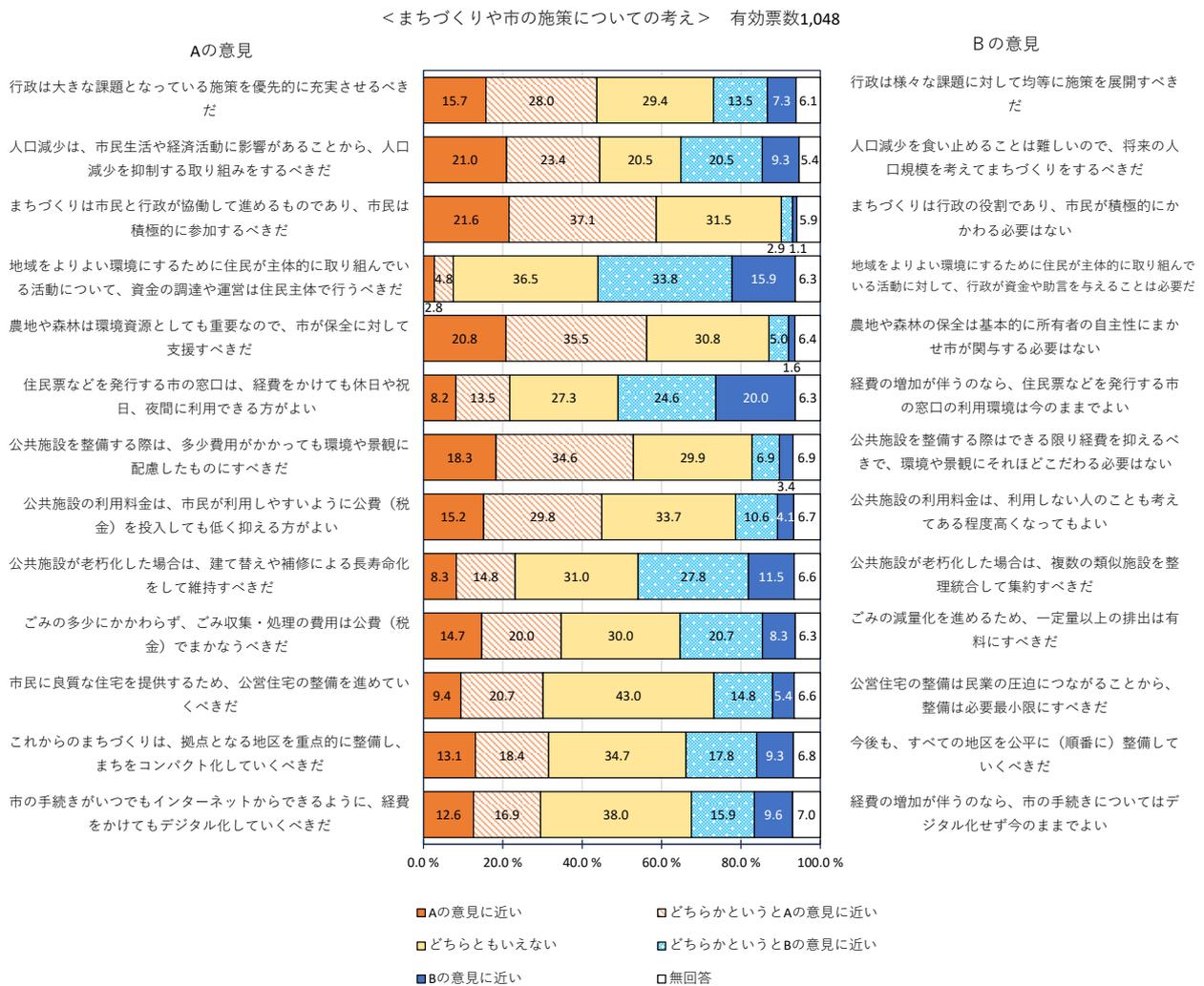
一方で、デジタル技術を活用した行政サービスの実施には不安がある、反対であるといった意見も18.6%あった。



4 今後の宮古市のまちづくり

(1) 各種施策に対する意識

問 19 これからのまちづくりや市の施策について、以下の点でA・Bの異なった意見があるとして、あなたはどちらに近いお考えをお持ちですか。



■ 施策は優先的対応か均等的対応か

Aの意見(「Aの意見に近い」(15.7%)と「どちらかというAの意見に近い」(28.0%)の合計)は43.7%、Bの意見(「どちらかというBの意見に近い」(13.5%)と「Bの意見に近い」(7.3%)の合計)は20.8%となり、Aの意見がBの意見を22.9ポイント上回った。直面している課題に優先的に取り組むべきとの意見が多い。

■人口減少を抑制する取り組みか人口規模にあったまちづくりか

Aの意見（「Aの意見に近い」（21.0%）と「どちらかというともAの意見に近い」（23.4%）の合計）は44.4%、Bの意見（「どちらかというともBの意見に近い」（20.5%）と「Bの意見に近い」（9.3%）の合計）は29.8%となり、Aの意見がBの意見を14.6ポイント上回った。
人口減少を抑制する取り組みを進める意見が多い。

■まちづくりは市民と行政の協働か否か

Aの意見（「Aの意見に近い」（21.6%）と「どちらかというともAの意見に近い」（37.1%）の合計）は58.6%、Bの意見（「どちらかというともBの意見に近い」（2.9%）と「Bの意見に近い」（1.1%）の合計）は3.9%となり、Aの意見がBの意見を54.7ポイント上回った。
まちづくりは市民と行政が協働して進めるべきとの積極的な意見が多い。

■地域活動への公的支援は不要か必要か

Aの意見（「Aの意見に近い」（2.8%）と「どちらかというともAの意見に近い」（4.8%）の合計）は7.5%、Bの意見（「どちらかというともBの意見に近い」（33.8%）と「Bの意見に近い」（15.9%）の合計）は49.7%となり、Bの意見がAの意見を42.2ポイント上回った。
住民が主体的に取り組んでいる活動に対する公的支援が望まれている。

■農地や森林の環境保全への市の関与は必要か不要か

Aの意見（「Aの意見に近い」（20.8%）と「どちらかというともAの意見に近い」（35.5%）の合計）は56.2%、Bの意見（「どちらかというともBの意見に近い」（5.0%）と「Bの意見に近い」（1.6%）の合計）は6.6%となり、Aの意見がBの意見を49.7ポイント上回った。
環境資源の保全には、市からの財政的支援を望む意見が多い。

■窓口対応は休祝日・夜間等対応も必要か現状維持か

Aの意見（「Aの意見に近い」（8.2%）と「どちらかというともAの意見に近い」（13.5%）の合計）は21.8%、Bの意見（「どちらかというともBの意見に近い」（24.6%）と「Bの意見に近い」（20.0%）の合計）は44.7%となり、Bの意見がAの意見を22.9ポイント上回った。
窓口対応は、現状維持を求める意見が多い。

■公共施設は環境や景観に配慮すべきか経費削減を優先すべきか

Aの意見（「Aの意見に近い」（18.3%）と「どちらかというともAの意見に近い」（34.6%）の合計）は52.9%、Bの意見（「どちらかというともBの意見に近い」（6.9%）と「Bの意見に近い」（3.4%）の合計）は10.3%となり、Aの意見がBの意見を42.6ポイント上回った。
公共施設の整備には、経費削減よりも環境や景観への配慮を求める意見が多い。

■公共施設の料金は公的負担か受益者負担か

Aの意見（「Aの意見に近い」（15.2%）と「どちらかというともAの意見に近い」（29.8%）の合計）は44.9%、Bの意見（「どちらかというともBの意見に近い」（10.6%）と「Bの意見に近い」（4.1%）の合計）は14.7%となり、Aの意見がBの意見を30.2ポイント上回った。
公共施設の利用料金は低く抑えることが望まれている。

■公共施設老朽化の対応は長寿命化か集約化か

Aの意見（「Aの意見に近い」（8.3%）と「どちらかというともAの意見に近い」（14.8%）の合計）は23.1%、Bの意見（「どちらかというともBの意見に近い」（27.8%）と「Bの意見に近い」（11.5%）の合計）は39.3%となり、Bの意見がAの意見を16.2ポイント上回った。公共施設の老朽化には、施設の集約化で対応すべきとの意見が多い。

■ごみ収集・処理費用は公費負担か一部有料化か

Aの意見（「Aの意見に近い」（14.7%）と「どちらかというともAの意見に近い」（20.0%）の合計）は34.7%、Bの意見（「どちらかというともBの意見に近い」（20.7%）と「Bの意見に近い」（8.3%）の合計）は29.0%となり、Aの意見がBの意見を5.7ポイント上回った。ごみ収集・処理の費用は公費でまかなうべきとの意見が多いが、一部有料化を望む声もほぼ同じくらいになっている。

■公営住宅の整備は推進すべきか必要最小限にすべきか

Aの意見（「Aの意見に近い」（9.4%）と「どちらかというともAの意見に近い」（20.7%）の合計）は30.2%、Bの意見（「どちらかというともBの意見に近い」（14.8%）と「Bの意見に近い」（5.4%）の合計）は20.2%となり、Aの意見がBの意見を9.9ポイント上回った。公営住宅の整備を推進すべきとの意見が多いが、「どちらともいえない」という回答も43.0%と多く、判断できかねている様子が窺える。

■これからのまちづくりはコンパクトシティを目指すべきか

Aの意見（「Aの意見に近い」（13.1%）と「どちらかというともAの意見に近い」（18.4%）の合計）は31.5%、Bの意見（「どちらかというともBの意見に近い」（17.8%）と「Bの意見に近い」（9.3%）の合計）は27.0%となり、Aの意見がBの意見を4.5ポイント上回った。これからのまちづくりはコンパクト化すべきとの意見が多いが、すべての地区を公平に（順番に）整備していくべきとの意見もほぼ同じくらいみられる。

■インターネット手続きが出来るようにデジタル化にすべきか

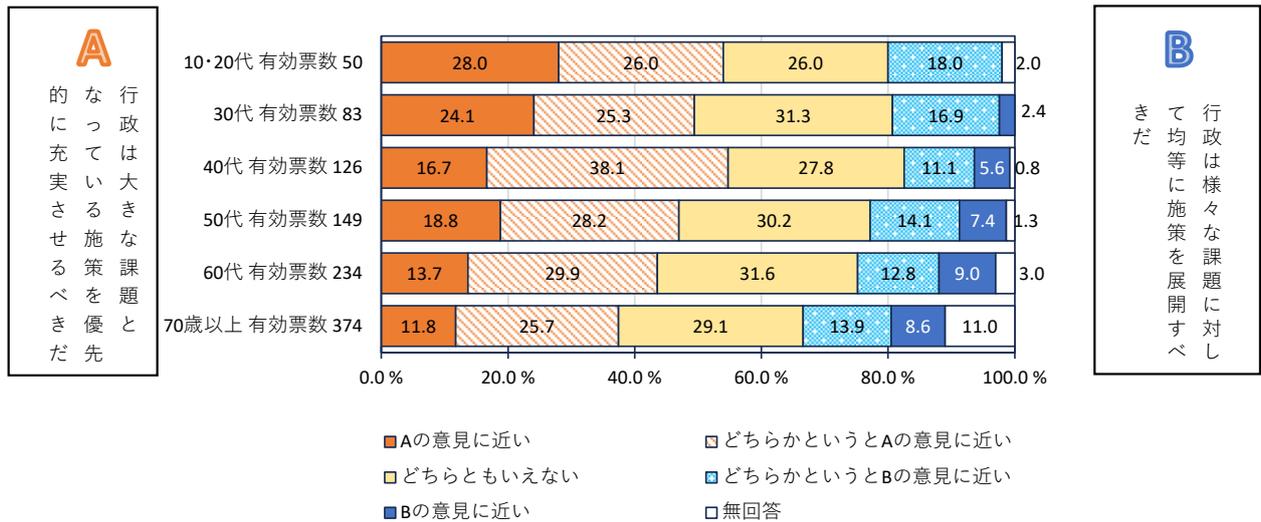
Aの意見（「Aの意見に近い」（12.6%）と「どちらかというともAの意見に近い」（16.9%）の合計）は29.5%、Bの意見（「どちらかというともBの意見に近い」（15.9%）と「Bの意見に近い」（9.6%）の合計）は25.5%となり、Aの意見がBの意見を4.0ポイント上回った。インターネット手続きが出来るようデジタル化をするべきとの意見が多いが、経費の増加が伴うのなら、今のままでよいとの意見もほぼ同じくらいみられる。

(2) 年代別にみた各種施策に対する意識

■施策は優先的対応か均等的対応か

Aの意見に最も近い年代は“40代”で54.8%（「Aの意見に近い」(16.7%)と「どちらかというAの意見に近い」(38.1%)の合計）、Bの意見に最も近い年代は“70歳以上”で22.5%（「どちらかというBの意見に近い」(13.9%)と「Bの意見に近い」(8.6%)の合計）となった。

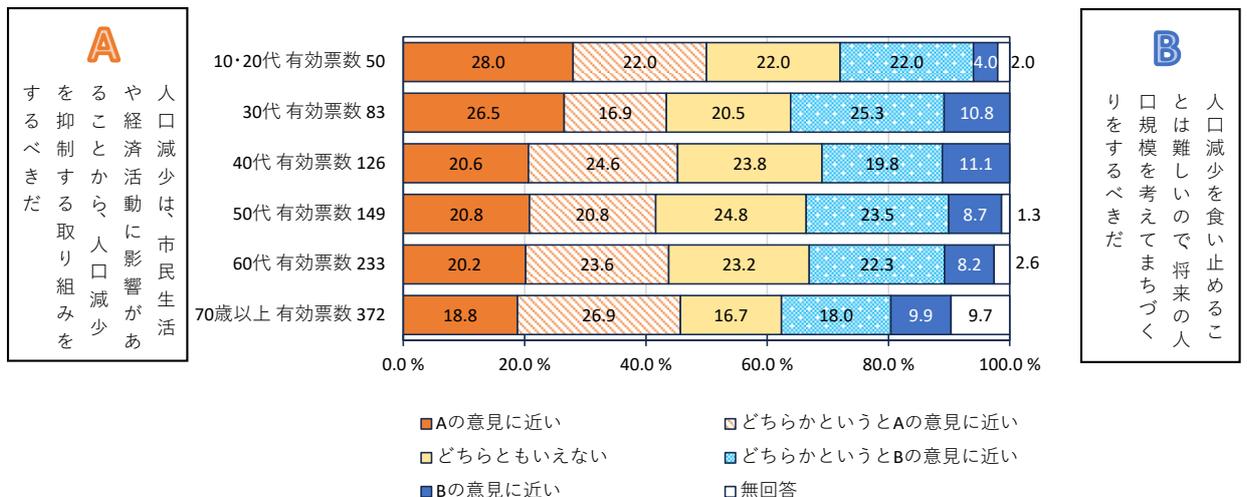
ほぼ年代が低くなるほどAの意見に近いという傾向にある。



■人口減少を抑制する取り組みか人口規模にあったまちづくりか

Aの意見に最も近い年代は“10・20代”で50.0%（「Aの意見に近い」(28.0%)と「どちらかというAの意見に近い」(22.0%)の合計）、Bの意見に最も近い年代も“30代”で36.1%（「どちらかというBの意見に近い」(25.3%)と「Bの意見に近い」(10.8%)の合計）となった。

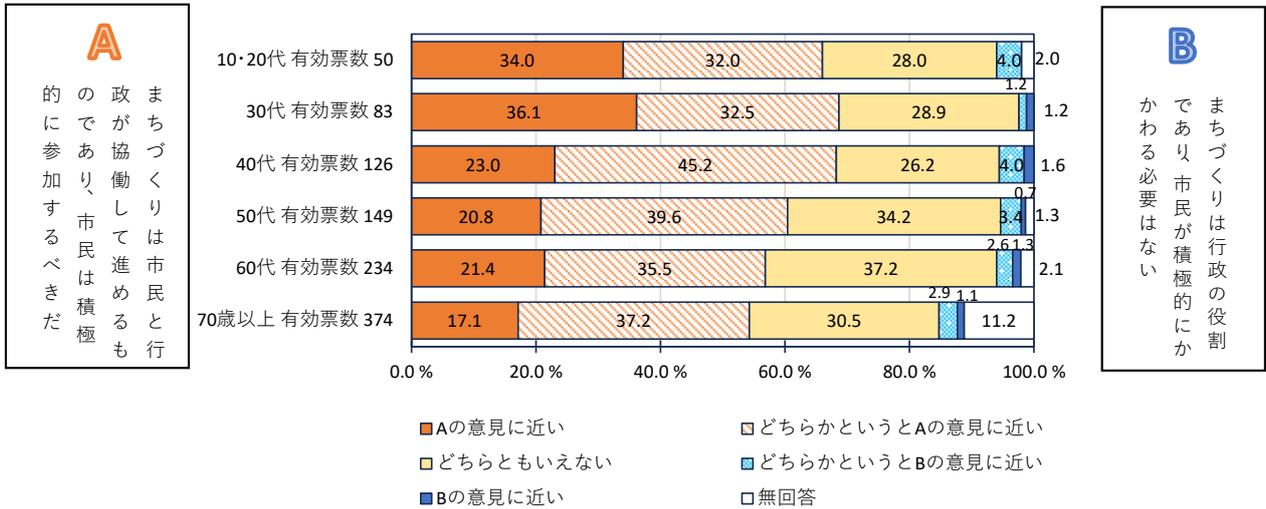
20代以下の若年層が、人口減少の抑制に関心があることが窺える。



■まちづくりは市民と行政の協働か否か

Aの意見に最も近い年代は“30代”で68.7%（「Aの意見に近い」(36.1%)と「どちらかというAの意見に近い」(32.5%)の合計）、Bの意見に最も近い年代は“40代”で5.6%（「どちらかというBの意見に近い」(4.0%)と「Bの意見に近い」(1.6%)の合計）となった。

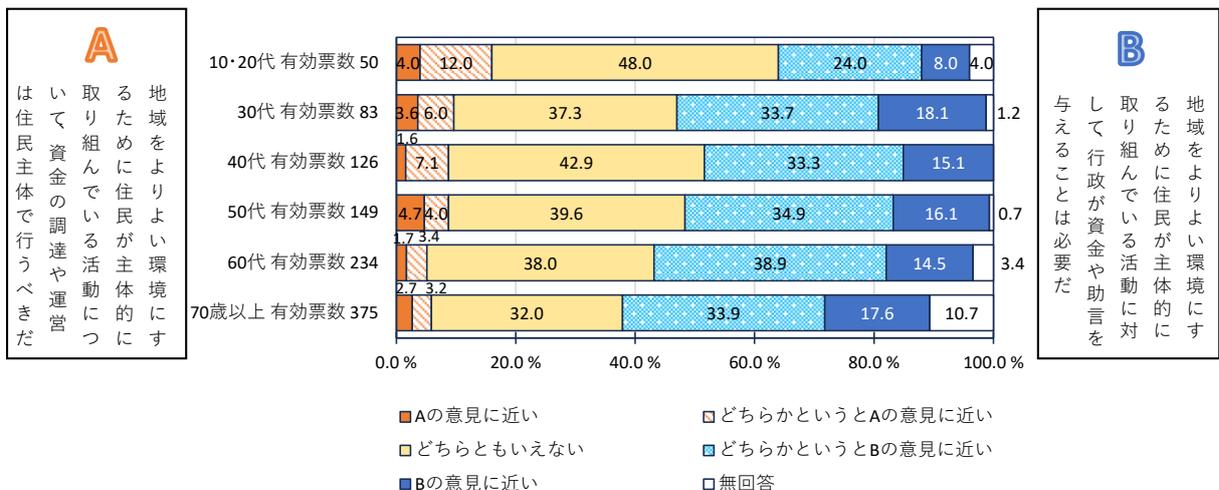
全ての年代でAの意見が5割を超えており、年代を問わず、まちづくりへの市民の積極的な参加が望まれていることがわかる。



■地域活動への公的支援は不要か必要か

Aの意見に最も近い年代は“10・20代”で16.0%（「Aの意見に近い」(4.0%)と「どちらかというAの意見に近い」(12.0%)の合計）、Bの意見に最も近い年代は“60代”で53.4%（「どちらかというBの意見に近い」(38.9%)と「Bの意見に近い」(14.5%)の合計）となった。

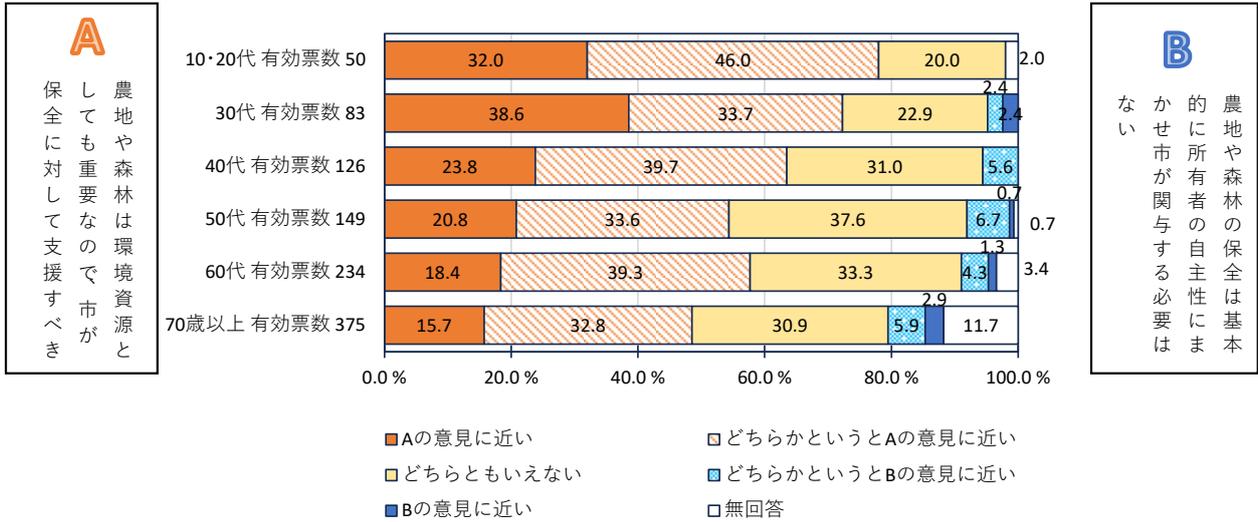
住民主体の活動に対しては公的支援を望む意見が多く、30代以上では大きな差はみられない。



■農地や森林の環境保全への市の関与は必要か不要か

Aの意見に最も近い年代は“10・20代”で78.0%（「Aの意見に近い」(32.0%)と「どちらかというAの意見に近い」(46.0%)の合計）、Bの意見に最も近い年代は“70歳以上”で8.8%（「どちらかというBの意見に近い」(5.9%)と「Bの意見に近い」(2.9%)の合計）となった。

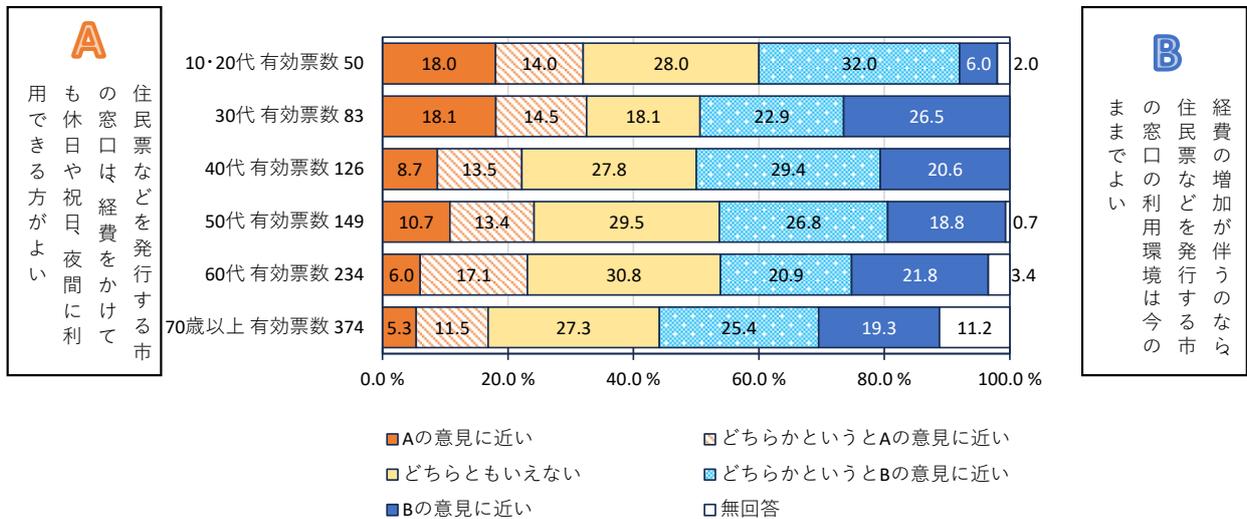
年代を問わず、環境資源の保全への市の関与が期待されており、特に、10・20代、30代において、7割以上と高い割合を占めている。



■窓口対応は休祝日・夜間等対応も必要か現状維持か

Aの意見に最も近い年代は“30代”で32.5%（「Aの意見に近い」(18.1%)と「どちらかというAの意見に近い」(14.5%)の合計）、Bの意見に最も近い年代は“40代”で50.0%（「どちらかというBの意見に近い」(29.4%)と「Bの意見に近い」(20.6%)の合計）となった。

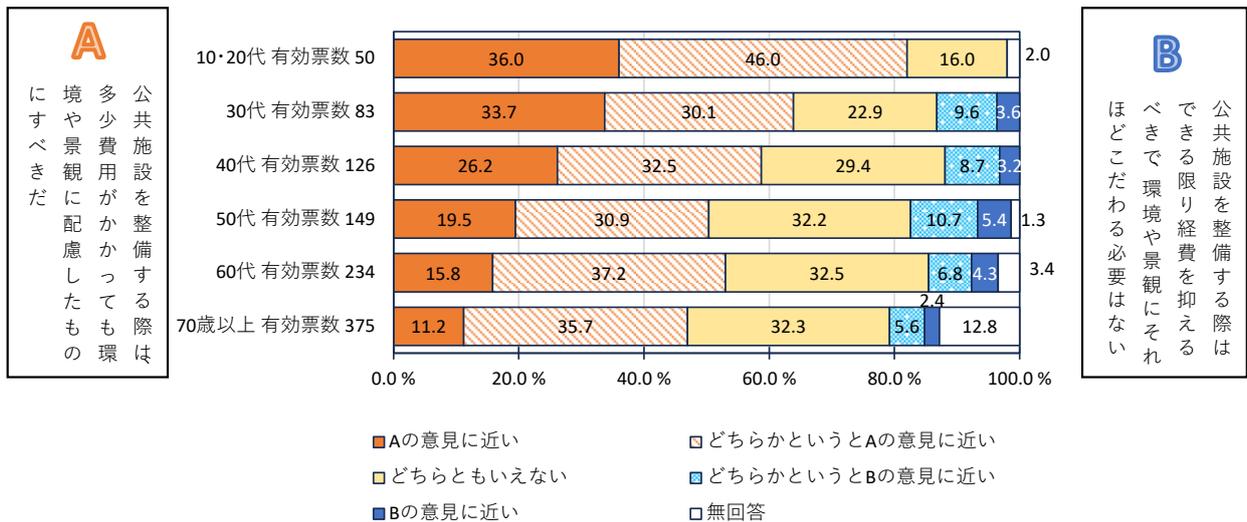
30代以下の若い年代では利便性が重視され、30代以上ではコスト面の重視は年代で大きな差はみられない。



■公共施設は環境や景観に配慮すべきか経費削減を優先すべきか

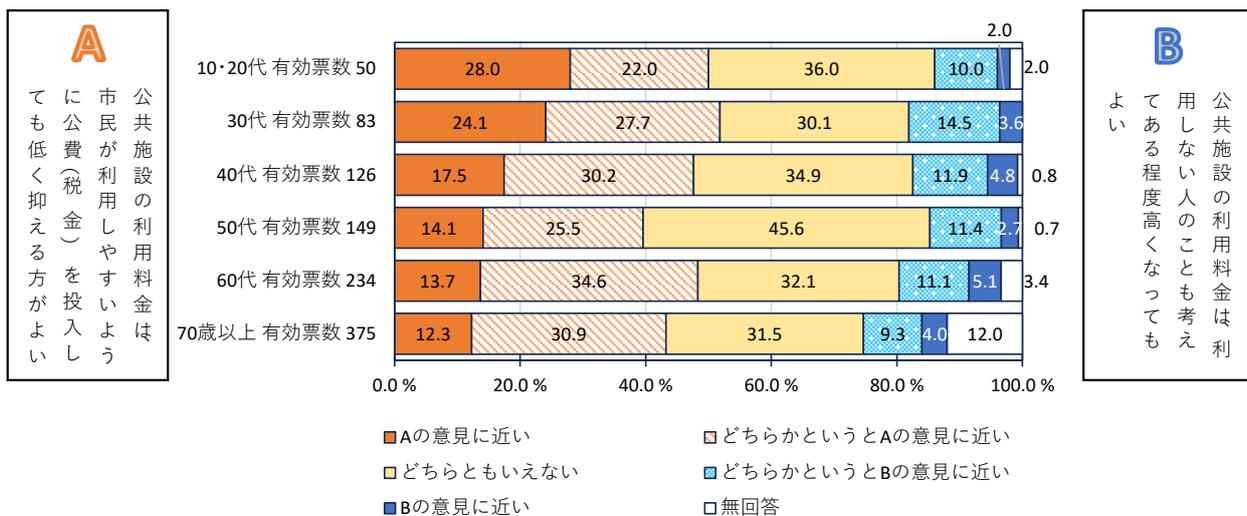
Aの意見に最も近い年代は“10・20代”で82.0%（「Aの意見に近い」(36.0%)と「どちらかというAの意見に近い」(46.0%)の合計）、Bの意見に最も近い年代は“50代”で16.1%（「どちらかというBの意見に近い」(10.7%)と「Bの意見に近い」(5.4%)の合計）となった。

年代が若い方が、環境や景観に配慮された公共施設を求める意見が多い傾向にある。



■公共施設の料金は公的負担か受益者負担か

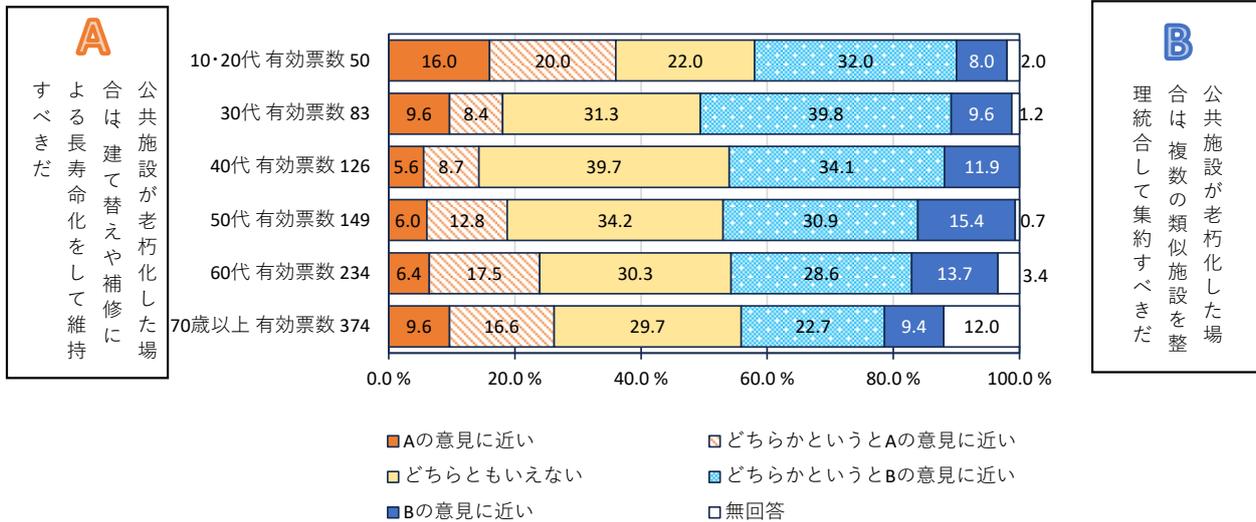
Aの意見に最も近い年代は“30代”で51.8%（「Aの意見に近い」(24.1%)と「どちらかというAの意見に近い」(27.7%)の合計）、Bの意見に最も近い年代も“30代”で18.1%（「どちらかというBの意見に近い」(14.5%)と「Bの意見に近い」(3.6%)の合計）となった。公共施設の利用料金は低く抑えることが望まれており、年代による大きな差はみられない。



■公共施設老朽化の対応は長寿命化か集約化か

Aの意見に最も近い年代は“10・20代”で36.0%（「Aの意見に近い」(16.0%)と「どちらかというAの意見に近い」(20.0%)の合計）、Bの意見に最も近い年代は“30代”で49.4%（「どちらかというBの意見に近い」(39.8%)と「Bの意見に近い」(9.6%)の合計）となった。

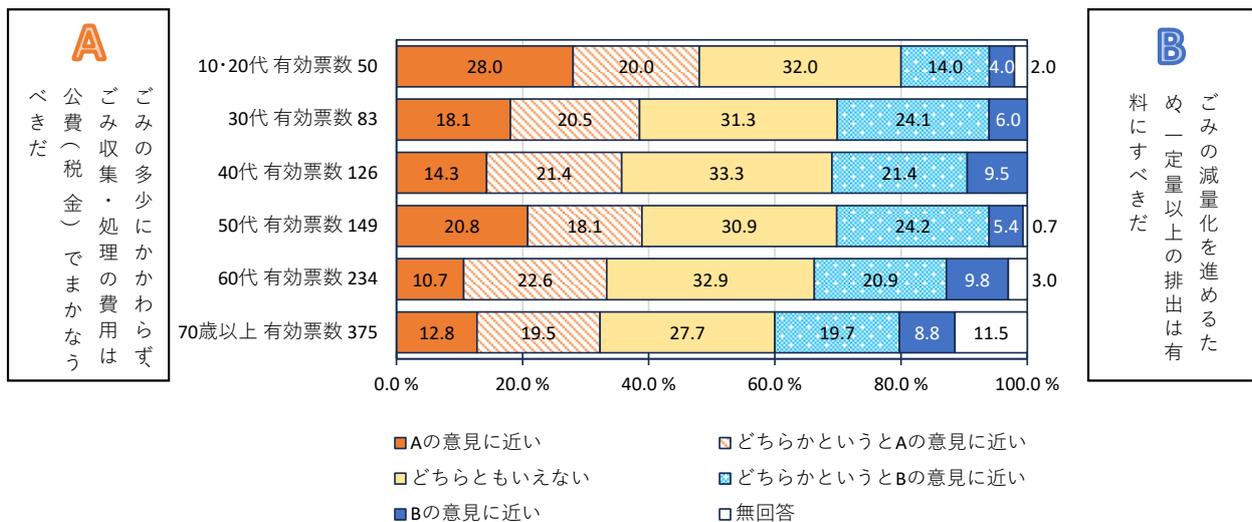
年代を問わず、公共施設の老朽化には、施設の集約化で対応すべきとの意見が多い。



■ごみ収集・処理費用は公費負担か一部有料化か

Aの意見に最も近い年代は“10・20代”で48.0%（「Aの意見に近い」(28.0%)と「どちらかというAの意見に近い」(20.0%)の合計）、Bの意見に最も近い年代は“40代”で31.0%（「どちらかというBの意見に近い」(21.4%)と「Bの意見に近い」(9.5%)の合計）となった。

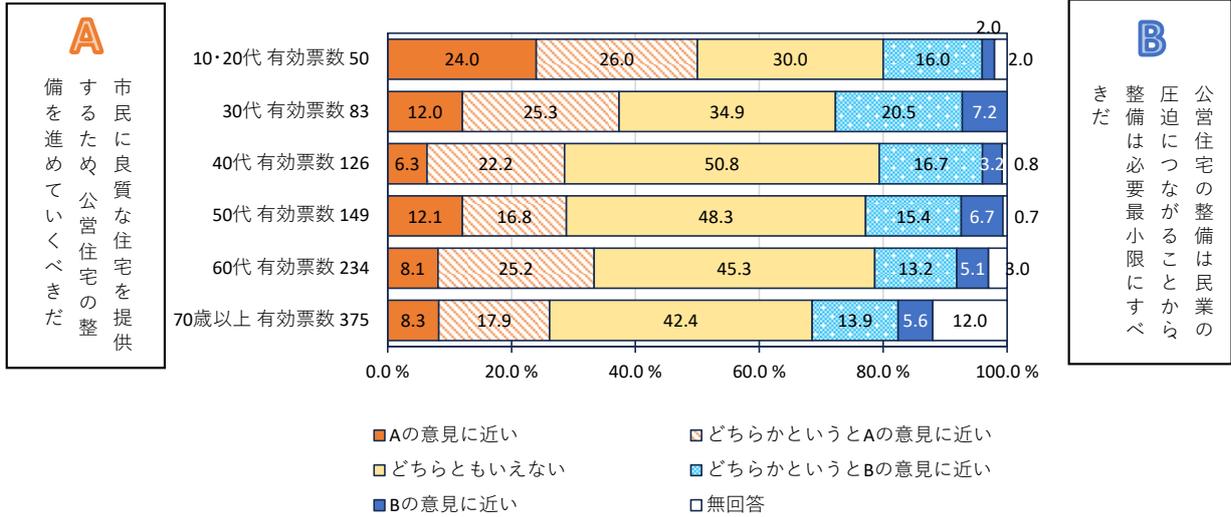
“10・20代”では30.0ポイント差で公費での処理を望む意見が多いが、30代以上では10ポイント差未満となっており、判断できかねている様子が窺える。



■公営住宅の整備は推進すべきか必要最小限にすべきか

Aの意見に最も近い年代は“10・20代”で50.0%（「Aの意見に近い」(24.0%)と「どちらかというとAの意見に近い」(26.0%)の合計）、Bの意見に最も近い年代は“30代”で27.7%（「どちらかというとBの意見に近い」(20.5%)と「Bの意見に近い」(7.2%)の合計）となった。

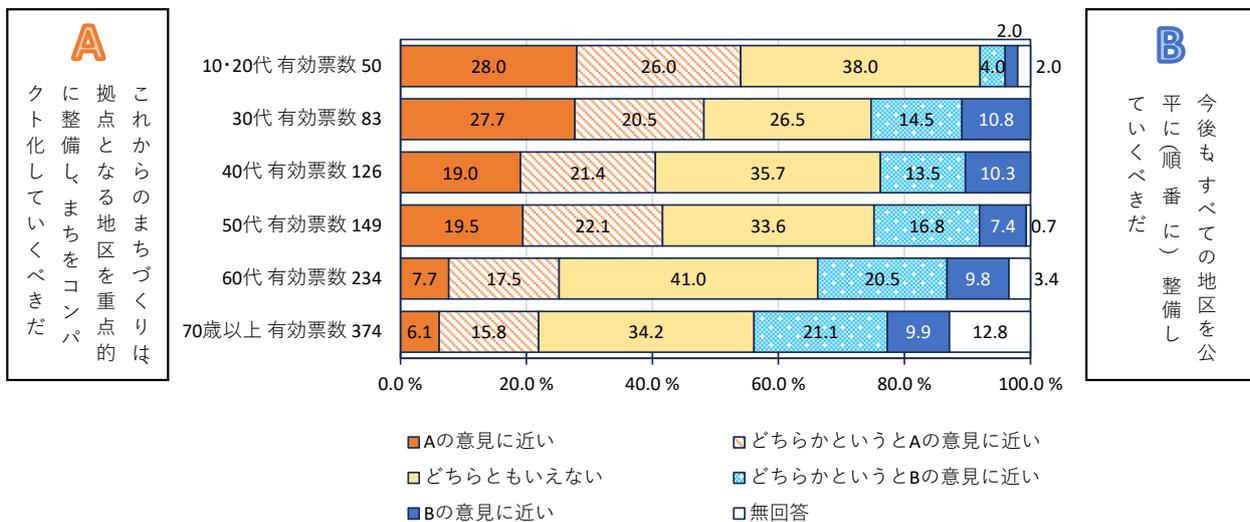
年代を問わず、公営住宅の整備を推進すべきとの意見が多いが、「どちらともいえない」という回答も多く、判断できかねている様子が窺える。



■これからのまちづくりはコンパクトシティを目指すべきか

Aの意見に最も近い年代は“10・20代”で54.0%（「Aの意見に近い」(28.0%)と「どちらかというともいえない」(26.0%)の合計）、Bの意見に最も近い年代は“70歳以上”で31.0%（「どちらかというともいえない」(21.1%)と「Bの意見に近い」(9.9%)の合計）となった。

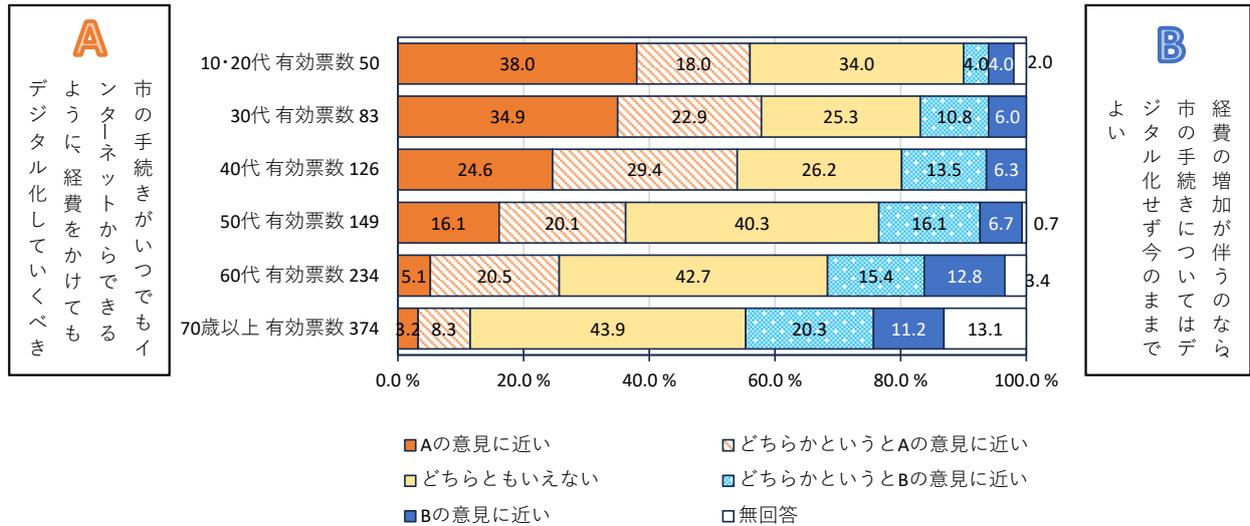
50代以下ではコンパクトシティ化していくべきという意見の方が多く、年齢が低くなるほどその傾向が強い。60代以上ではコンパクトシティ化すべきではないという意見の方が多くなり、年代で意見が分かれている。



■インターネット手続きが出来るようにデジタル化にすべきか

Aの意見に最も近い年代は“30代”で57.8%（「Aの意見に近い」(34.9%)と「どちらかというともAの意見に近い」(22.9%)の合計）、Bの意見に最も近い年代は“70歳以上代”で31.6%（「どちらかというともBの意見に近い」(20.3%)と「Bの意見に近い」(11.2%)の合計）となった。

50代以下ではデジタル化していくべきという意見の方が多く、年齢が低くなるほどその傾向が強い。60代以上では経費の増加が伴うのであればデジタル化すべきではないという意見の方が多くなり、年代で意見が分かれている。

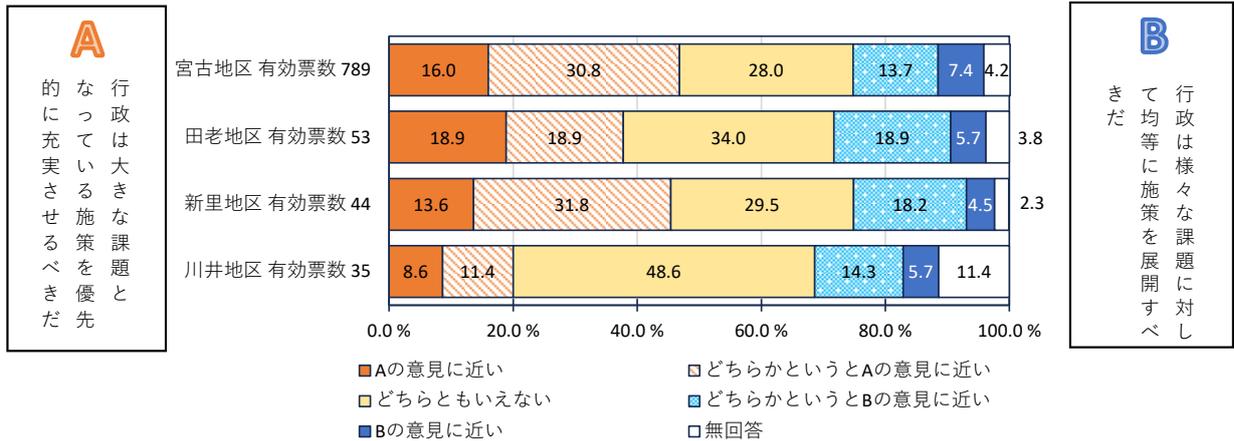


(3) 地区別にみた各種施策に対する意識

■施策は優先的対応か均等的対応か

Aの意見に最も近い地区は“宮古地区”で46.8%（「Aの意見に近い」(16.0%)と「どちらかというとAの意見に近い」(30.8%)の合計）、Bの意見に最も近い地区は“田老”で24.5%（「どちらかというとBの意見に近い」(18.9%)と「Bの意見に近い」(5.7%)の合計）となった。

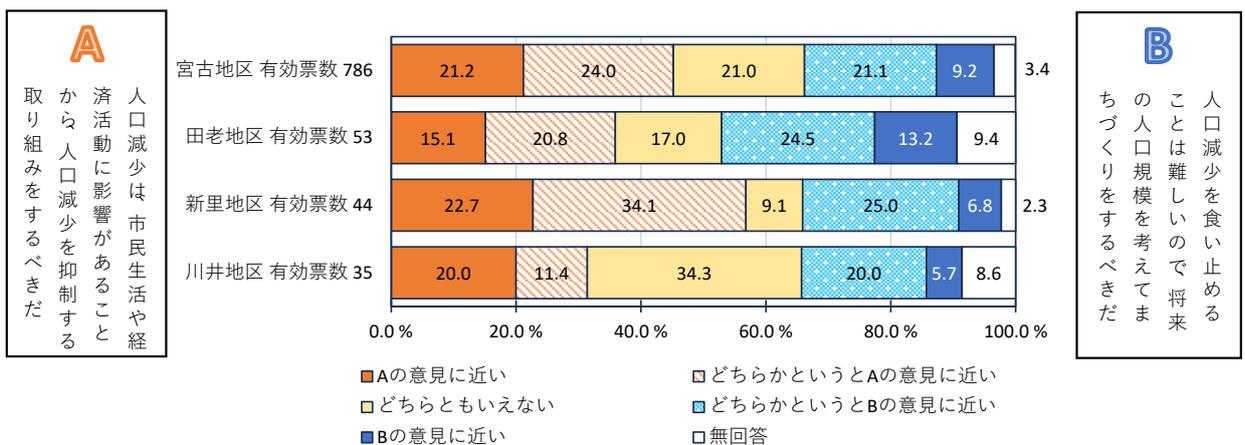
“川井地区”以外ではAの意見に近い傾向にある。



■人口減少を抑制する取り組みか人口規模にあったまちづくりか

Aの意見に最も近い地区は“新里地区”で56.8%（「Aの意見に近い」(22.7%)と「どちらかというとAの意見に近い」(34.1%)の合計）、Bの意見に最も近い地区は“田老地区”で37.7%（「どちらかというとBの意見に近い」(24.5%)と「Bの意見に近い」(13.2%)の合計）となった。

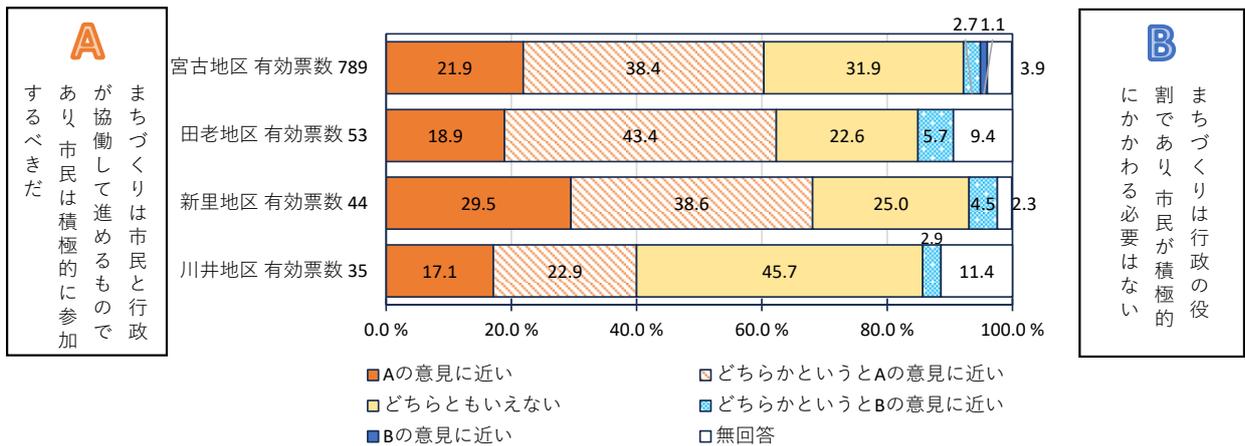
“宮古地区”と“新里地区”では人口減少の抑制に関心があるが、“田老地区”と“川井地区”は将来の人口規模を見据えたまちづくりをすべきという意見が多い。



■まちづくりは市民と行政の協働か否か

Aの意見に最も近い地区は“新里地区”で68.1%（「Aの意見に近い」(29.5%)と「どちらかというAの意見に近い」(38.6%)の合計）、Bの意見に最も近い地区は“田老地区”で5.7%（「どちらかというBの意見に近い」(5.7%)と「Bの意見に近い」(0.0%)の合計）となった。

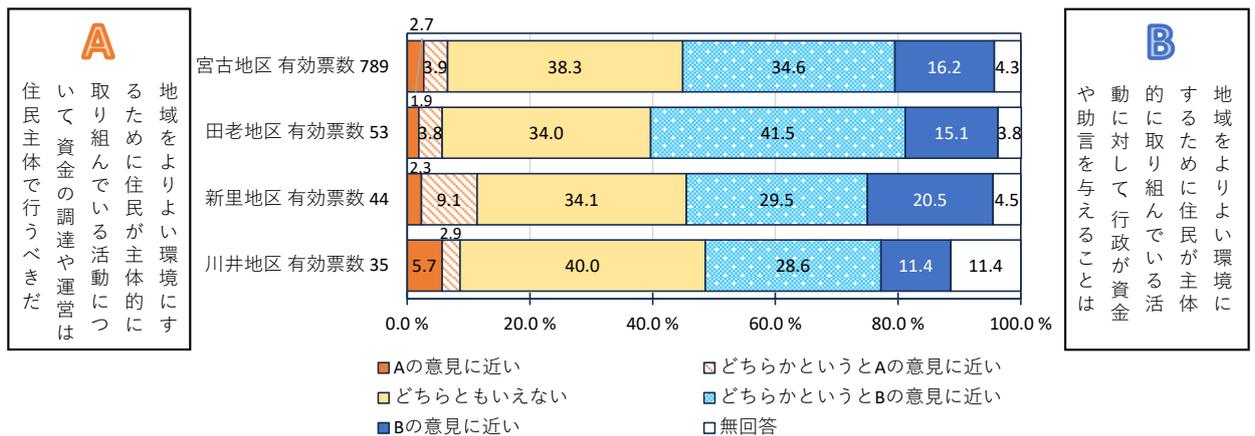
「どちらともいえない」が半数近くにはのぼる“川井地区”以外でAの意見が6割を超えており、まちづくりへの市民の積極的な参加が望まれていることがわかる。



■地域活動への公的支援は不要か必要か

Aの意見に最も近い地区は“新里地区”で11.4%（「Aの意見に近い」(2.3%)と「どちらかというAの意見に近い」(9.1%)の合計）、Bの意見に最も近い地区は“田老地区”で56.6%（「どちらかというBの意見に近い」(41.5%)と「Bの意見に近い」(15.1%)の合計）となった。

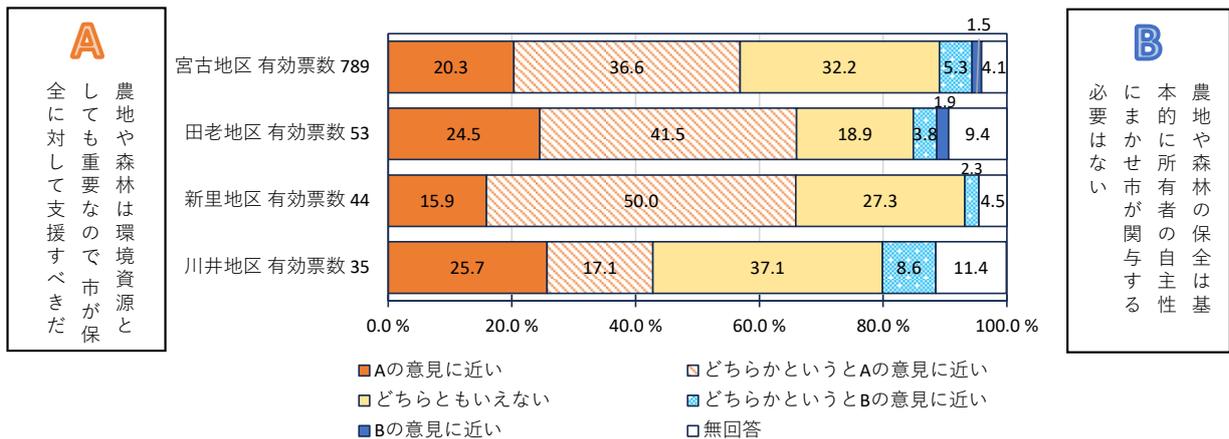
住民主体の活動に対しては公的支援を望む意見が多く、地区による大きな差はみられない。



■農地や森林の環境保全への市の関与は必要か不要か

Aの意見に最も近い地区は“田老地区”で66.0%（「Aの意見に近い」(24.5%)と「どちらかというAの意見に近い」(41.5%)の合計)、Bの意見に最も近い地区は“川井地区”で8.6%（「どちらかというBの意見に近い」(8.6%)と「Bの意見に近い」(0.0%)の合計）となった。

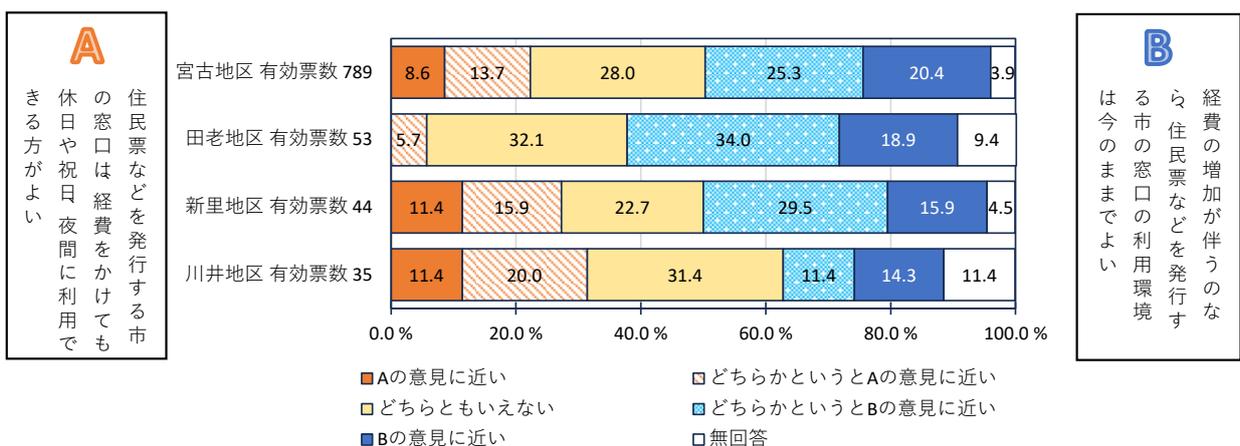
“川井地区”以外では地区を問わず、環境資源の保全への市の関与が期待する割合が5割以上を占めている。



■窓口対応は休祝日・夜間等対応も必要か現状維持か

Aの意見に最も近い地区は“川井地区”で31.4%（「Aの意見に近い」(11.4%)と「どちらかというAの意見に近い」(20.0%)の合計)、Bの意見に最も近い地区は“田老地区”で52.9%（「どちらかというBの意見に近い」(34.0%)と「Bの意見に近い」(18.9%)の合計）となった。

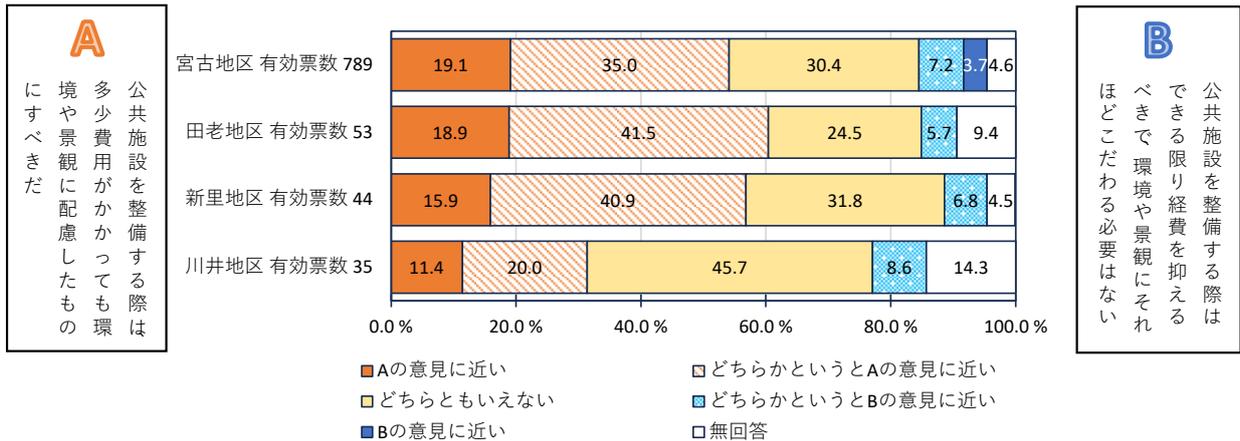
“川井地区”では利便性が重視され、それ以外の地区ではコスト面が重視される傾向になっている。



■公共施設は環境や景観に配慮すべきか経費削減を優先すべきか

Aの意見に最も近い地区は“田老地区”で60.4%（「Aの意見に近い」（18.9%）と「どちらかというAの意見に近い」（41.5%）の合計）、Bの意見に最も近い地区は“宮古地区”で10.9%（「どちらかというBの意見に近い」（7.2%）と「Bの意見に近い」（3.7%）の合計）となった。

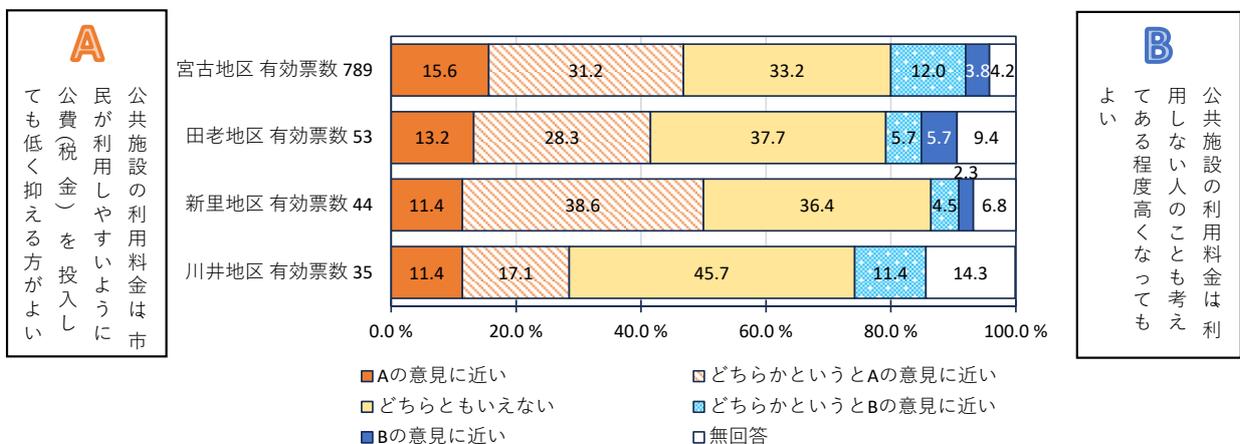
地区を問わず、環境や景観に配慮された公共施設を求める意見が多い。特に“川井地区”以外では5割以上を占めている。



■公共施設の料金は公的負担か受益者負担か

Aの意見に最も近い地区は“新里地区”で50.0%（「Aの意見に近い」（11.4%）と「どちらかというAの意見に近い」（38.6%）の合計）、Bの意見に最も近い地区は“宮古地区”で15.8%（「どちらかというBの意見に近い」（12.0%）と「Bの意見に近い」（3.8%）の合計）となった。

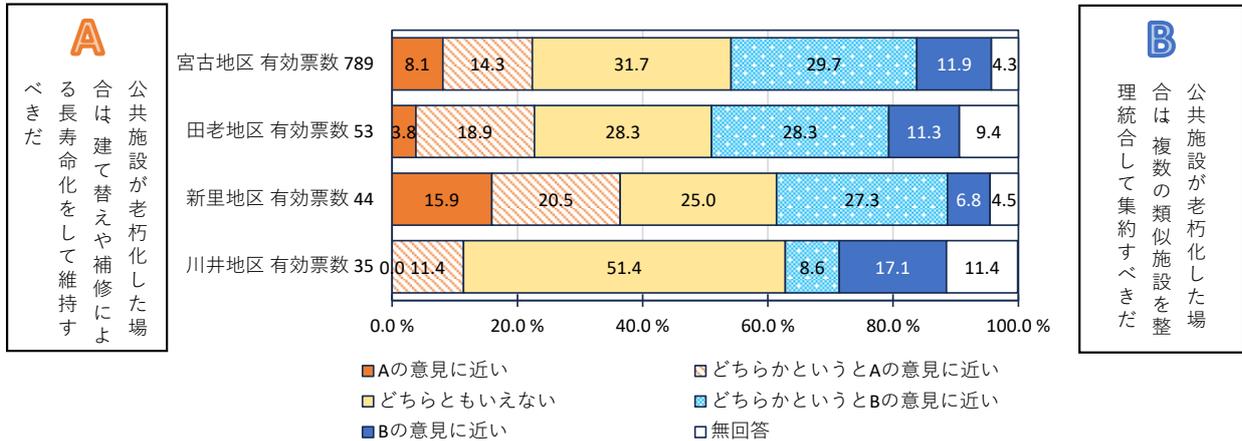
各地区で公共施設の利用料金は低く抑えることの方が望まれているが、“川井地区”では「どちらともいえない」が半数近くを占めている。



■公共施設老朽化の対応は長寿命化か集約化か

Aの意見に最も近い地区は“新里地区”で36.4%（「Aの意見に近い」（15.9%）と「どちらかというAの意見に近い」（20.5%）の合計）、Bの意見に最も近い地区は“宮古地区”で41.6%（「どちらかというBの意見に近い」（29.7%）と「Bの意見に近い」（11.9%）の合計）となった。

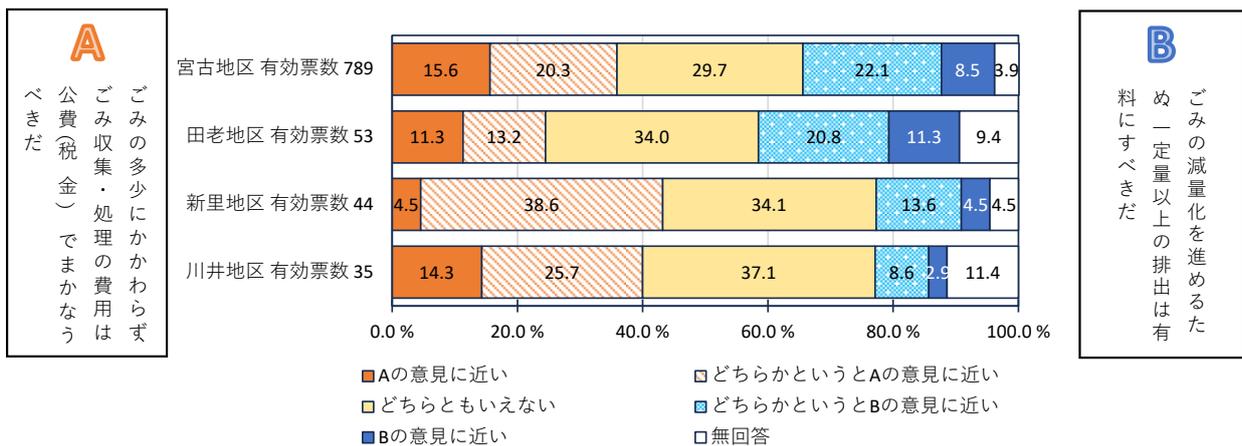
“新里地区”以外では、公共施設の老朽化には、施設の集約化で対応すべきとの意見が多い。



■ごみ収集・処理費用は公費負担か一部有料化か

Aの意見に最も近い地区は“新里地区”で43.2%（「Aの意見に近い」（4.5%）と「どちらかというAの意見に近い」（38.6%）の合計）、Bの意見に最も近い地区は“田老地区”で32.1%（「どちらかというBの意見に近い」（20.8%）と「Bの意見に近い」（11.3%）の合計）となった。

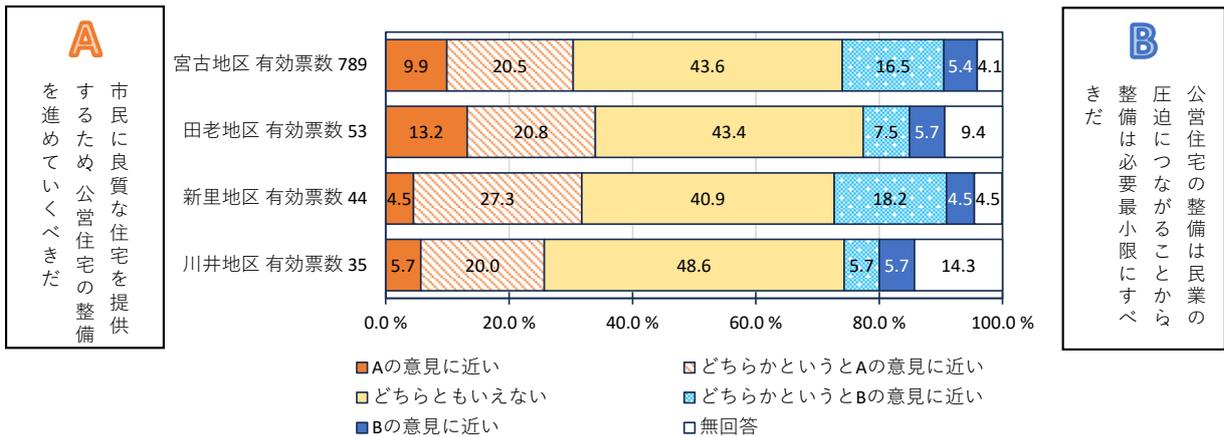
“田老地区”以外では公費負担でごみ収集・処理をすべきという意見の方が多くなっている。



■公営住宅の整備は推進すべきか必要最小限にすべきか

Aの意見に最も近い地区は“田老地区”で34.0%（「Aの意見に近い」(13.2%)と「どちらかというAの意見に近い」(20.8%)の合計）、Bの意見に最も近い地区は“新里地区”で22.7%（「どちらかというBの意見に近い」(18.2%)と「Bの意見に近い」(4.5%)の合計）となった。

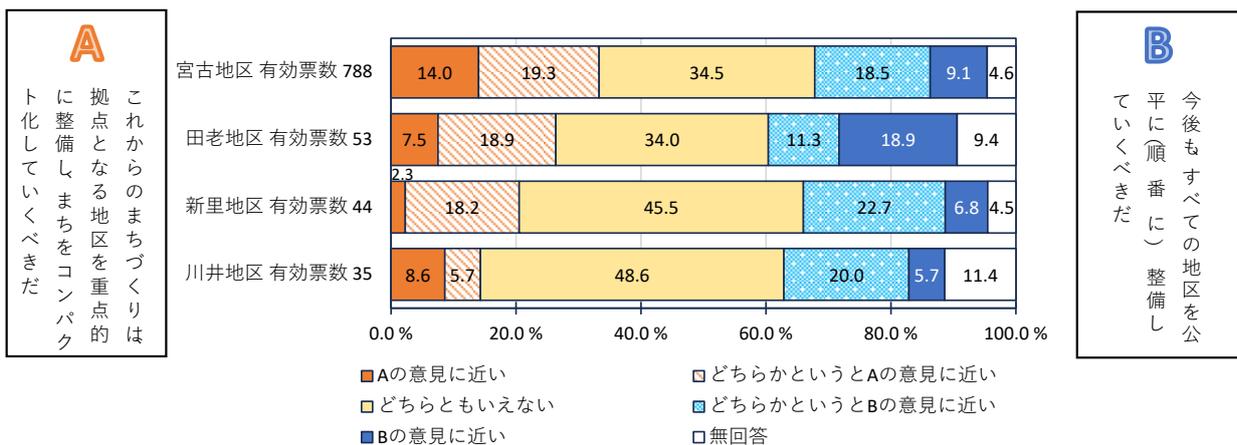
地区を問わず、公営住宅の整備を推進すべきとの意見が多いが、「どちらともいえない」という回答も多く、判断できかねている様子が窺える。



■これからのまちづくりはコンパクトシティを目指すべきか

Aの意見に最も近い地区は“宮古地区”で33.3%（「Aの意見に近い」(14.0%)と「どちらかというAの意見に近い」(19.3%)の合計）、Bの意見に最も近い地区は“田老地区”で30.2%（「どちらかというBの意見に近い」(11.3%)と「Bの意見に近い」(18.9%)の合計）となった。

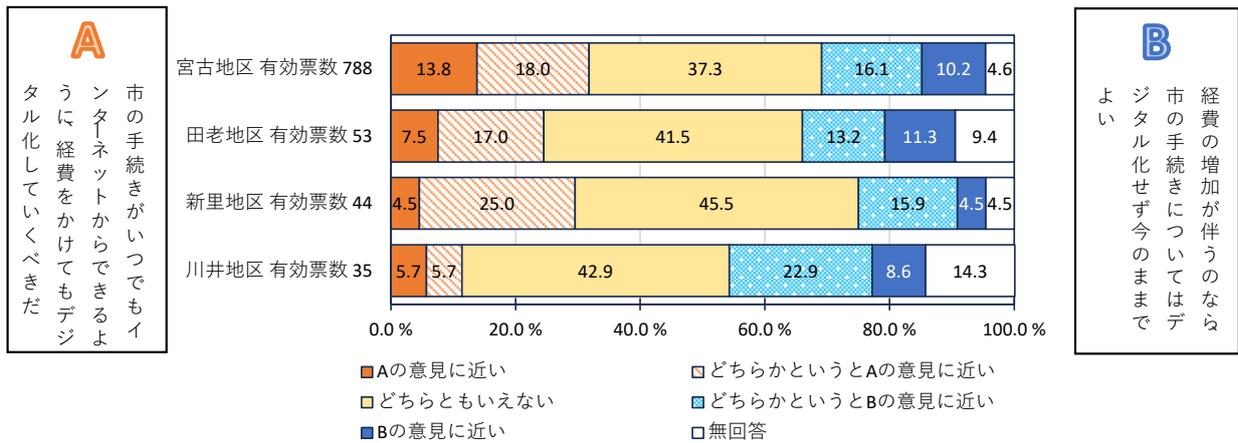
“宮古地区”以外では今後もすべての地区を公平に（順番に）整備していくべきだという意見の方が多くなっている。“宮古地区”から離れるほど、その傾向が強い。



■インターネット手続きが出来るようにデジタル化にすべきか

Aの意見に最も近い地区は“宮古地区”で31.8%（「Aの意見に近い」(13.8%)と「どちらかというともAの意見に近い」(18.0%)の合計）、Bの意見に最も近い地区は“川井地区”で31.5%（「どちらかというともBの意見に近い」(22.9%)と「Bの意見に近い」(8.6%)の合計）となった。

“田老地区”ではAとBが同じ割合となり、“宮古地区”と“新里地区”ではデジタル化を推進すべきだという意見の方が多く、“川井地区”では経費の増加が伴うのであればデジタル化をするべきではないという意見の方が20.1ポイント高くなっている。しかし、「どちらともいえない」という回答も多くなっている。

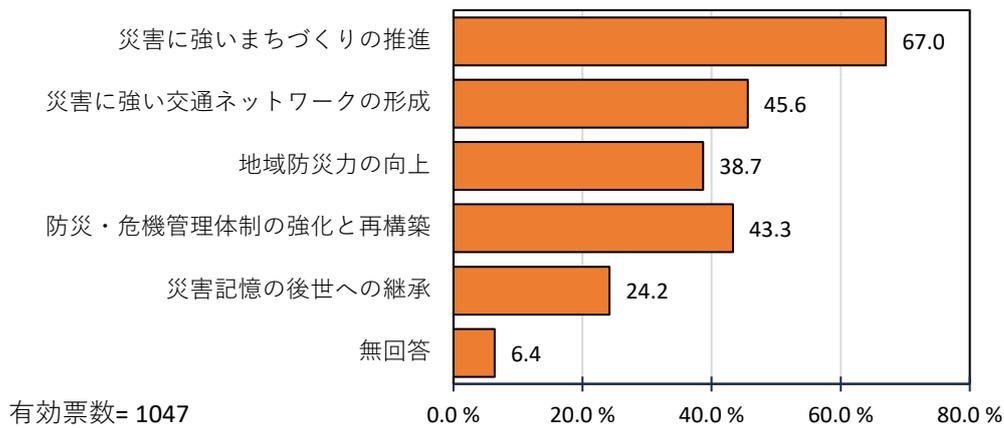


(4) 安全な地域づくり

問 20 「安全な地域づくり」を進めるため、今後、取り組むことが特に大切であると思う施策はどれですか。(○印は3つまで)

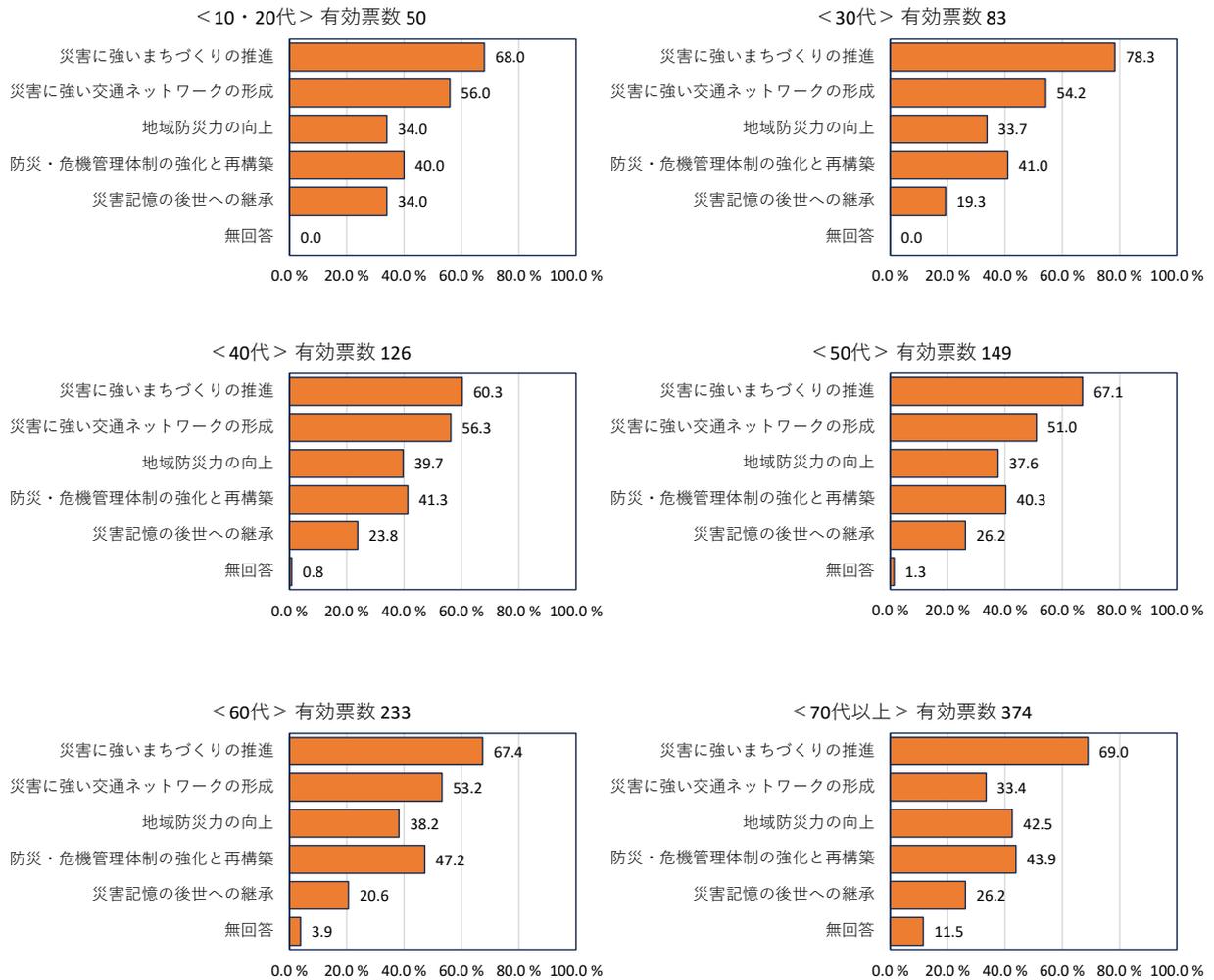
災害に強いまちづくり、交通ネットワークの形成が重視されている

「災害に強いまちづくりの推進」が最も多く 67.0%となった。次いで「災害に強い交通ネットワークの形成」(45.6%)、「防災・危機管理体制の強化と再構築」(43.3%)の順となっている。



■年代別にみた「安全な地域づくり」において重要な施策

年代を問わず災害に強いまちづくり、交通ネットワークの形成が重視されている
 各年代で「災害に強いまちづくりの推進」の回答が最も高くなっており、次いで“70代以上”以外では「災害に強い交通ネットワークの形成」が高くなっている。
 30代以上で「災害記憶の後世への継承」は回答が3割未満と低くなっている。



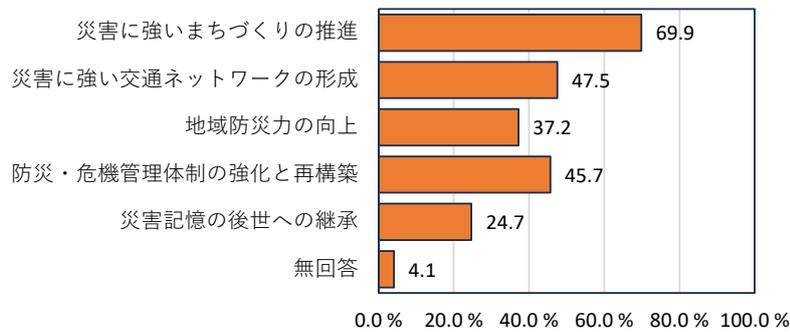
■地区別にみた「安全な地域づくり」において重要な施策

地区を問わず災害に強いまちづくりが重視されている

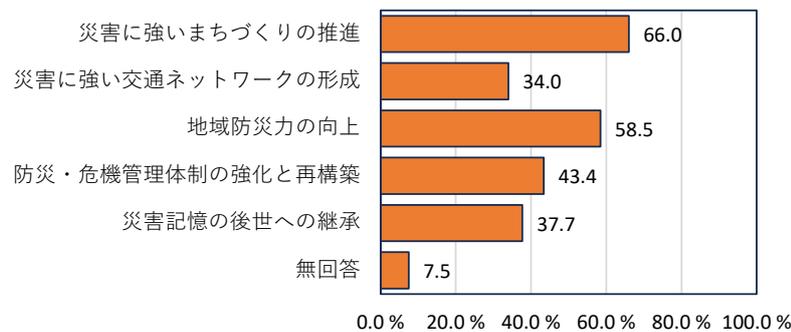
地区を問わず「災害に強いまちづくりの推進」が最も高くなっている。

次いで“宮古地区”では「災害に強い交通ネットワークの形成」が、それ以外では「地域防災力の向上」が高くなっている。

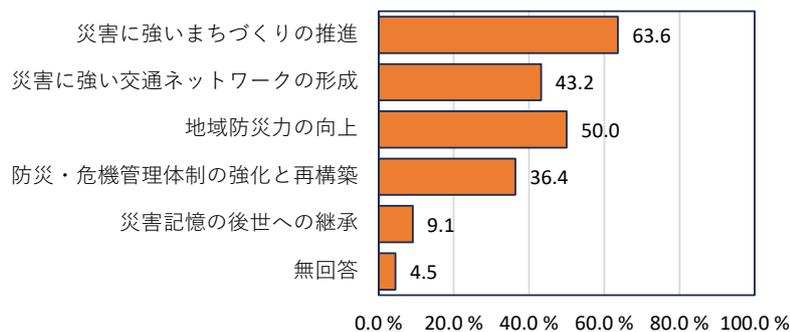
<宮古地区> 有効票数 787



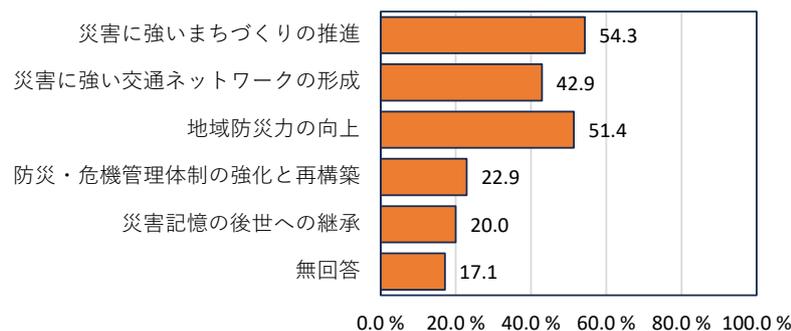
<田老地区> 有効票数 53



<新里地区> 有効票数 44



<川井地区> 有効票数 35

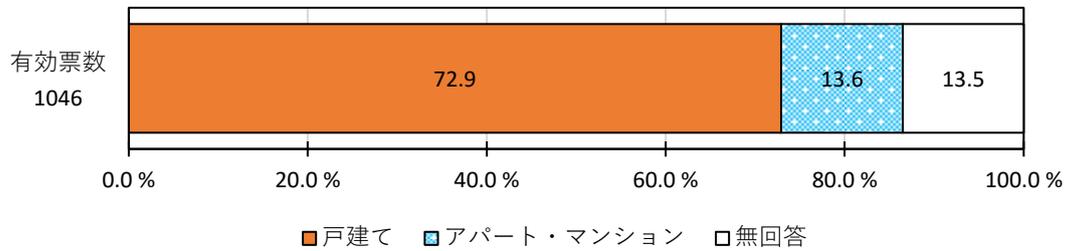


問 21 今後のまちづくりについてご意見などがありましたら、なんでも結構ですので、ご自由にお書きください。

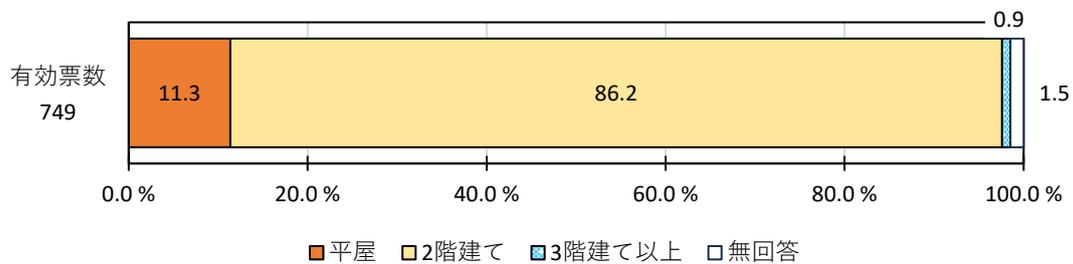
(5) 自宅での防災対策

問22 お住まいの住宅について教えてください。

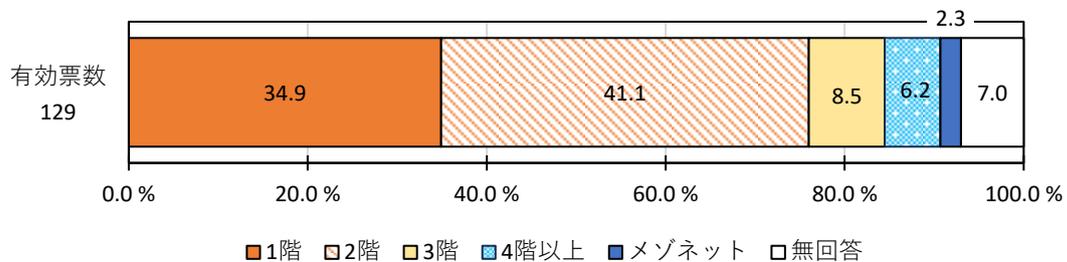
■種類



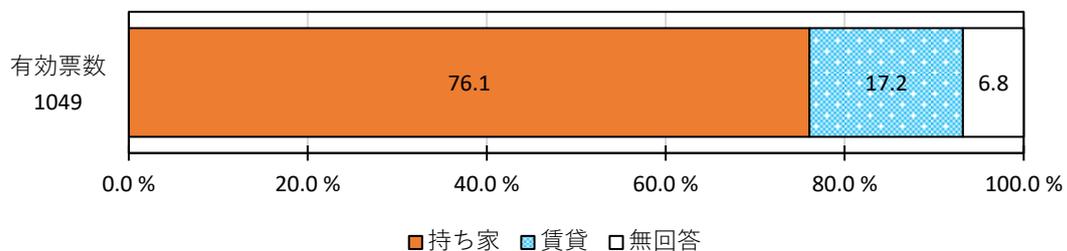
■住宅（戸建て）の階数



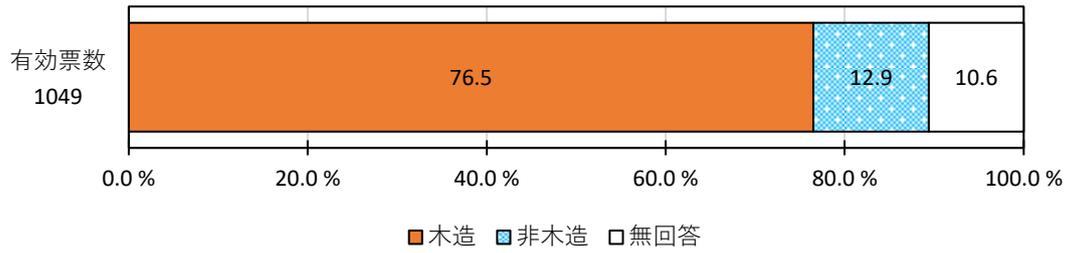
■住宅（アパート・マンション）の階数



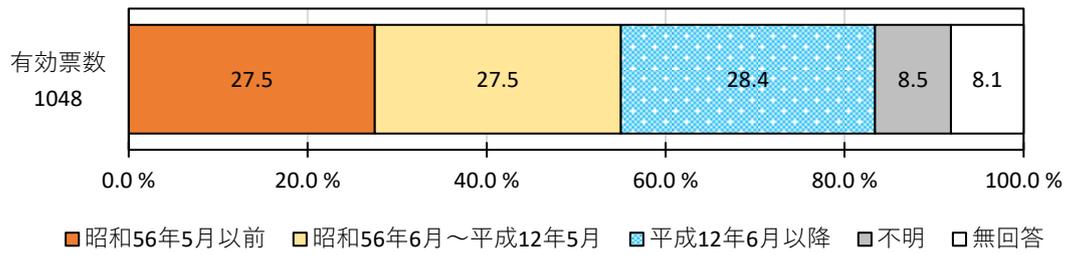
■住まいの形態



■住まいの構造



■住まいの建築年

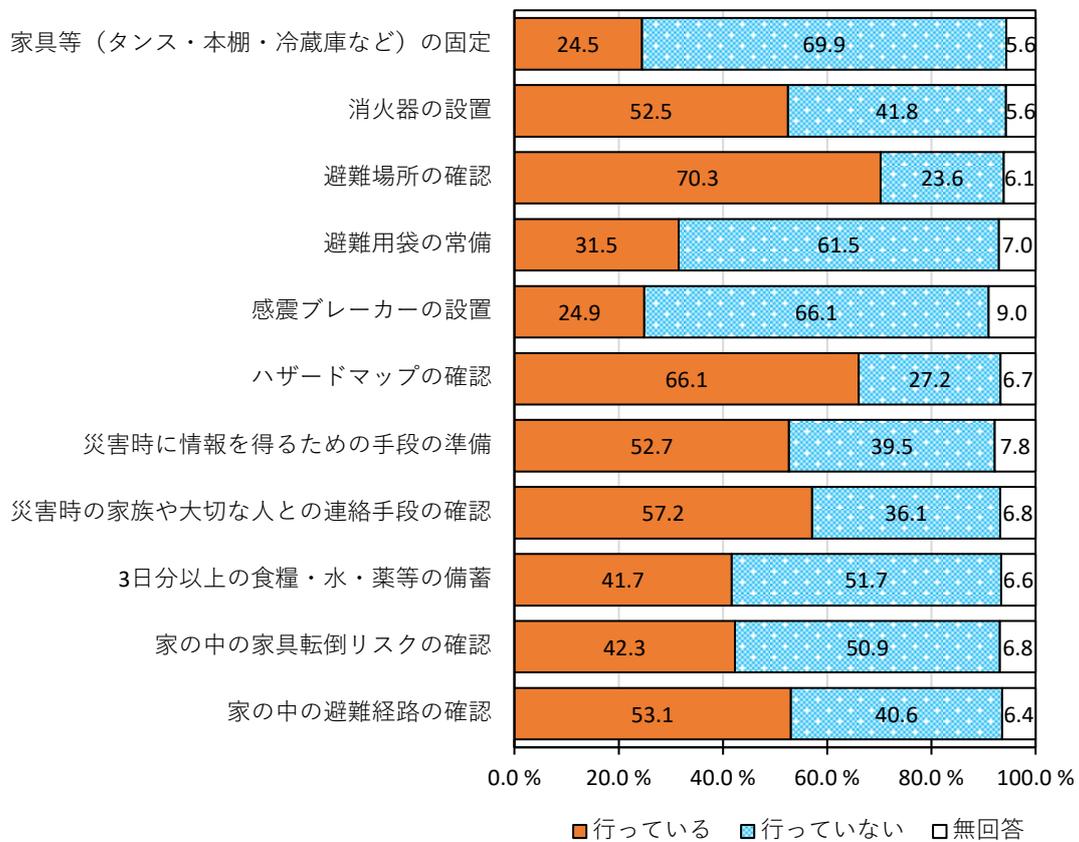


問23 あなたは、災害に対する予防策として、次のことを行っていますか。

災害に対する予防策で“行っている”が最も多いのは「避難場所の確認」で70.3%となっている。次いで「ハザードマップの確認」(66.1%)、「災害時の家族や大切な人との連絡手段の確認」(57.2%)の順となっている。

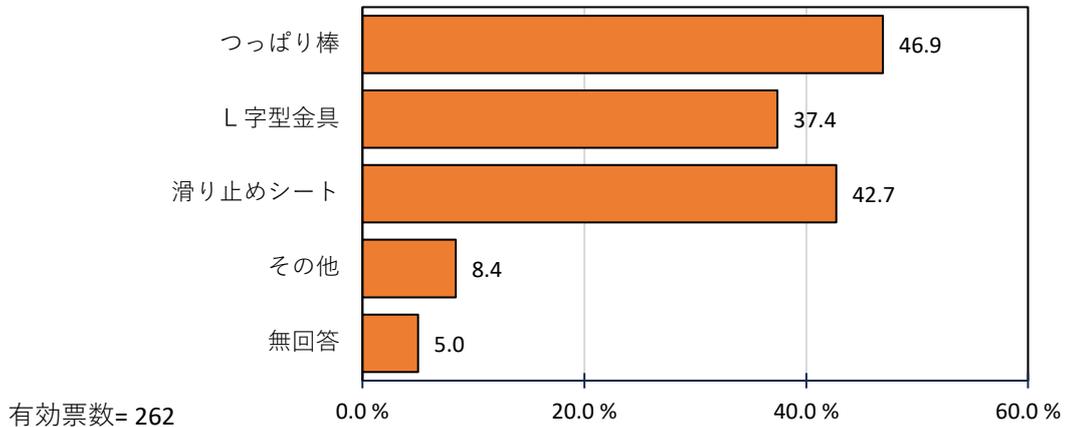
“行っていない”が最も多いのは「家具等(タンス・本棚・冷蔵庫など)の固定」が69.9%となっている。次いで「感震ブレーカーの設置」(66.1%)、「避難用袋の常備」(61.5%)の順となっている。

<災害に対する予防策> 有効票数1,049



問 24 問 23 の 1 (家具等の固定) で「1 行っている」を選択した方にお聞きします。あなたが
行っている家具の固定方法を教えてください。(○印はいくつでも)

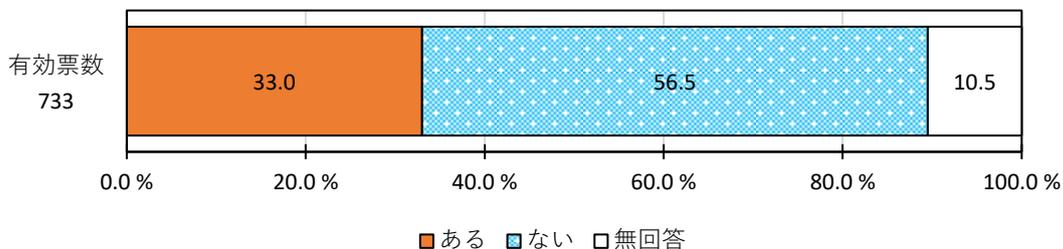
実施している家具の固定法で最も多いのは「つっぱり棒」で 46.9%、次いで「滑り止めシ
ート」(42.7%)、「L 字型金具」(37.4%) の順となっている。



問 25 問 23 の 1 (家具等の固定) で「2 行っていない」を選択した方にお聞きします。予防対
策をする予定はありますか。

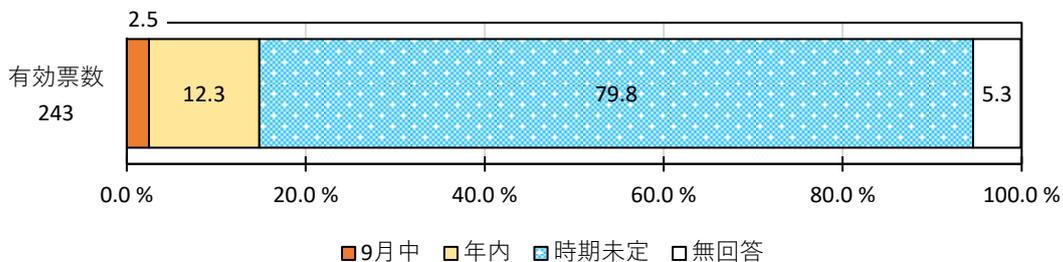
■ 予定の有無

予定は「ない」が 56.5%、「ある」が 33.0%となっている。



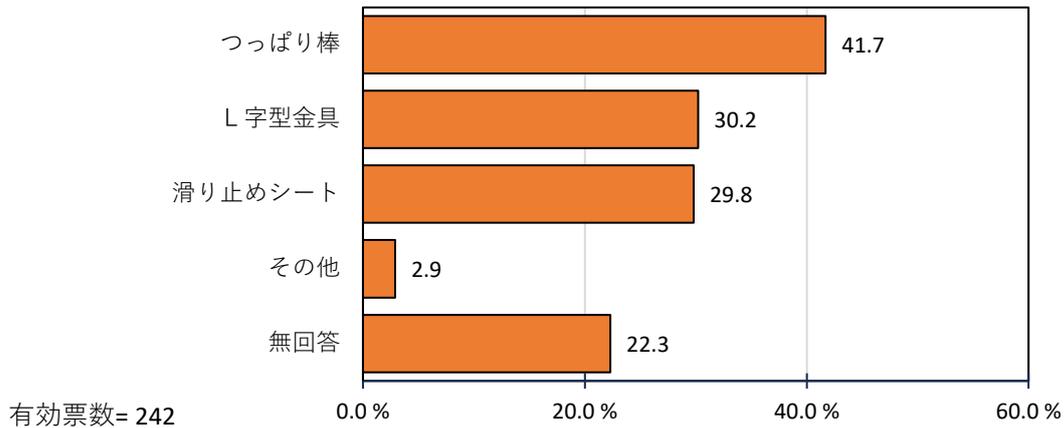
■ 予定がある場合、その時期

「時期未定」が 79.8%、「年内」12.3%、「9 月中」2.5%となっている。



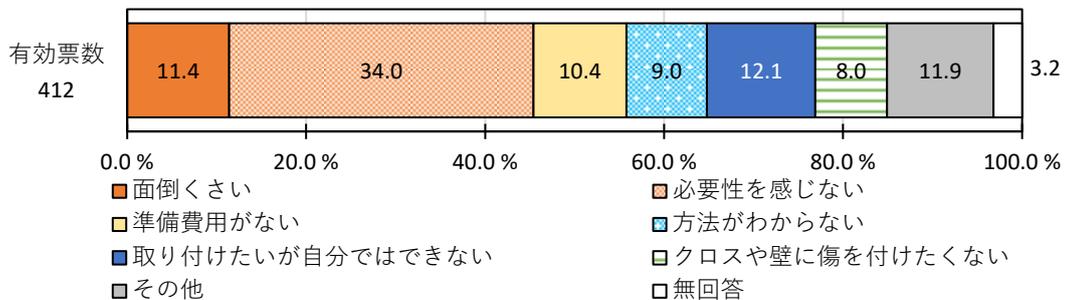
問26 問25で「1 ある」を選択した方にお聞きします。想定する家具の固定方法を教えてください。(○印はいくつでも)

想定する家具の固定法で最も多いのは「つっぱり棒」で41.7%、次いで「L字型金具」(30.2%)、「滑り止めシート」(29.8%)の順となっている。



問27 問25で「2 ない」を選択した方にお聞きします。理由を教えてください。

家具の固定を行わない理由で最も多いのは「必要性を感じない」で34.0%となっている。次いで「取り付けたいが自分ではできない」(12.1%)、「面倒くさい」(11.4%)の順となっている。

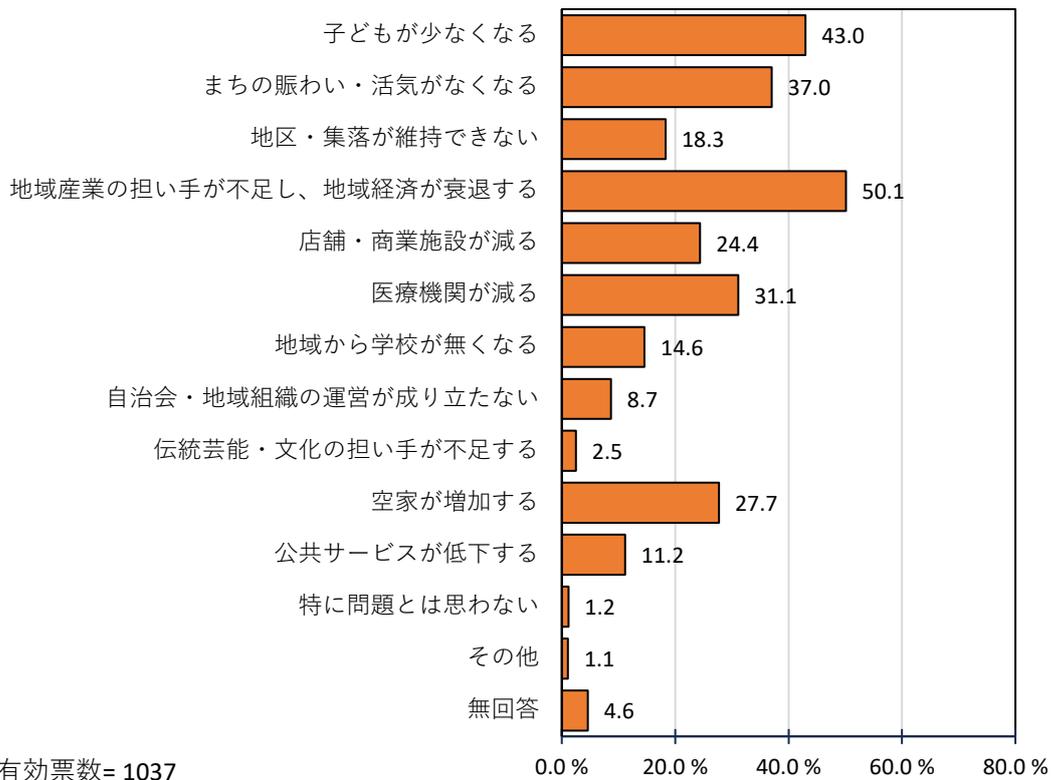


(6) 人口を増やすための取り組み

問 28 今後、人口が減少し続けた場合、特に問題だと思うものを教えてください。(○印は3つまで)

産業の担い手不足、子どもの減少といった若者の減少に伴う問題を重くみている

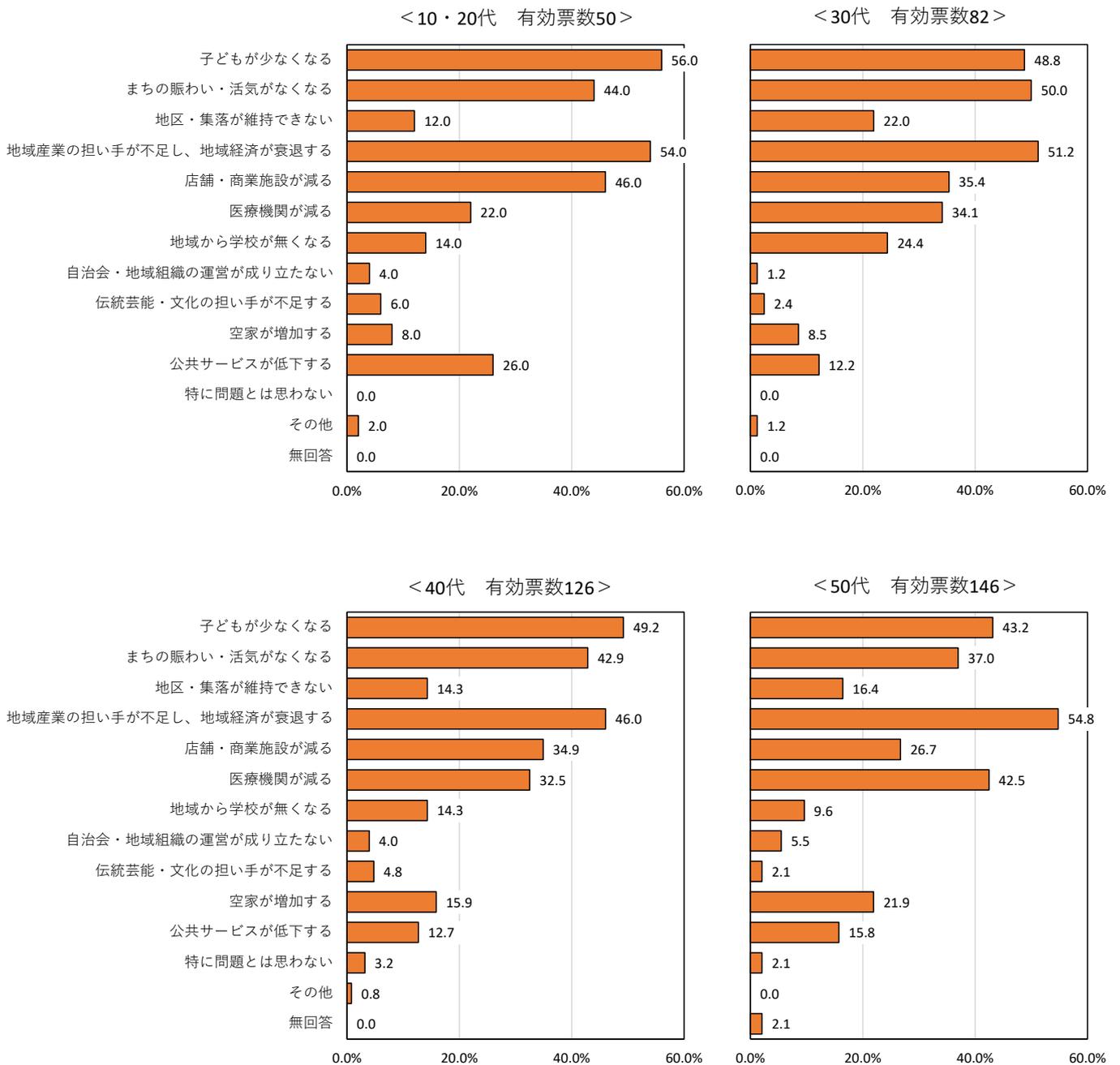
人口減少に伴い最も問題だと考えられているのは「地域産業の担い手が不足し、地域経済が衰退する」が5割を占めている。次いで「子どもが少なくなる」(43.0%)、「まちの賑わい・活気がなくなる」(37.0%)の順で高くなっている。

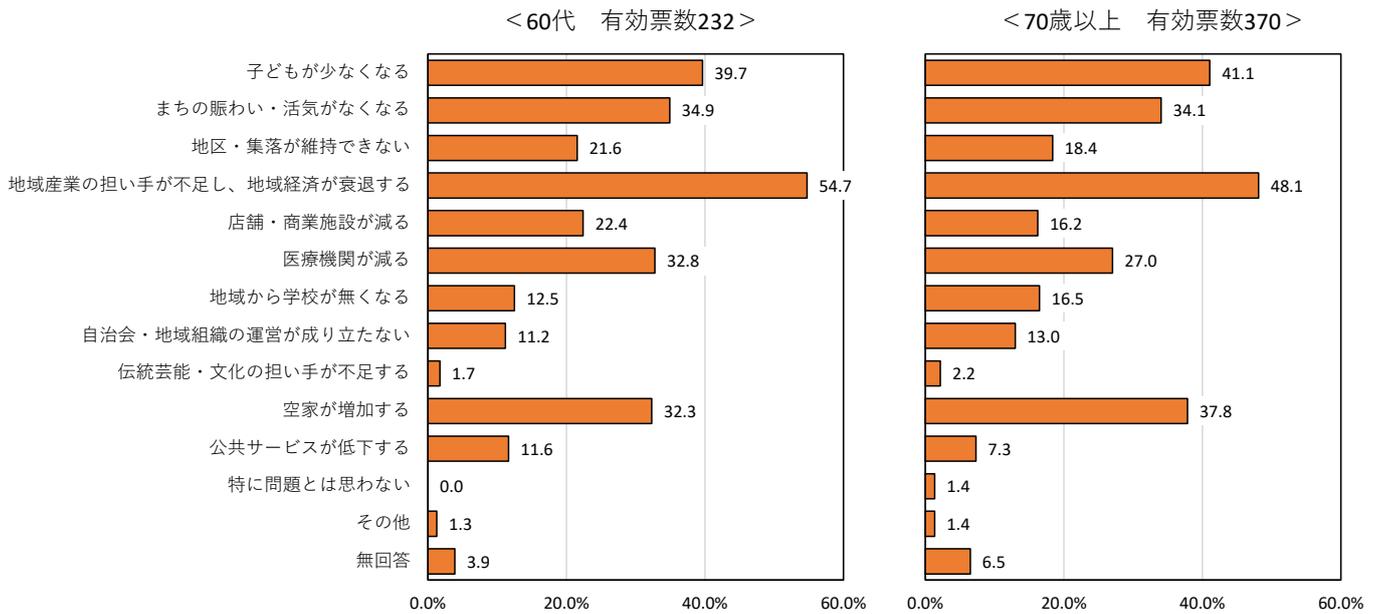


■年代別にみた人口減少に伴う問題点

各年代で「地域産業の担い手が不足し、地域経済が衰退する」がおよそ5割を占めている
 「10・20代」では「子どもが少なくなる」が最も高く、その他の年代では「地域産業の担い手が不足し、地域経済が衰退する」高くなっている。

「40代」以下では「まちの賑わい・活気がなくなる」が4割以上、「店舗・商業施設が減る」が3割以上を占めている。





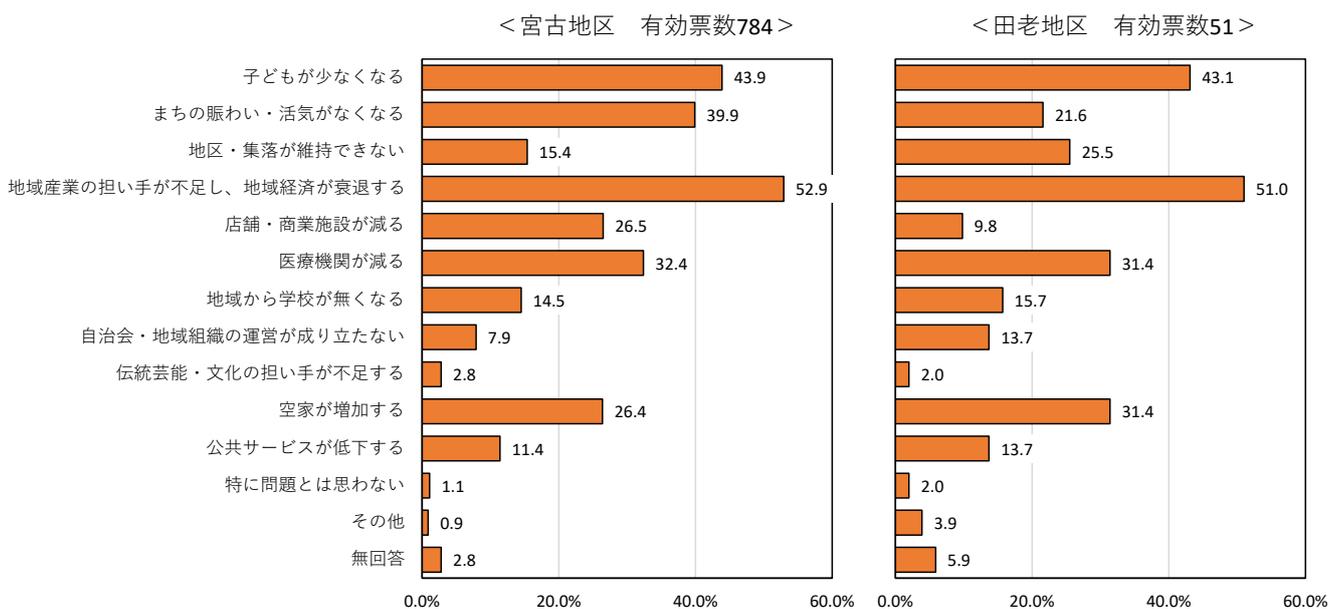
■地区別にみた人口減少に伴う問題点

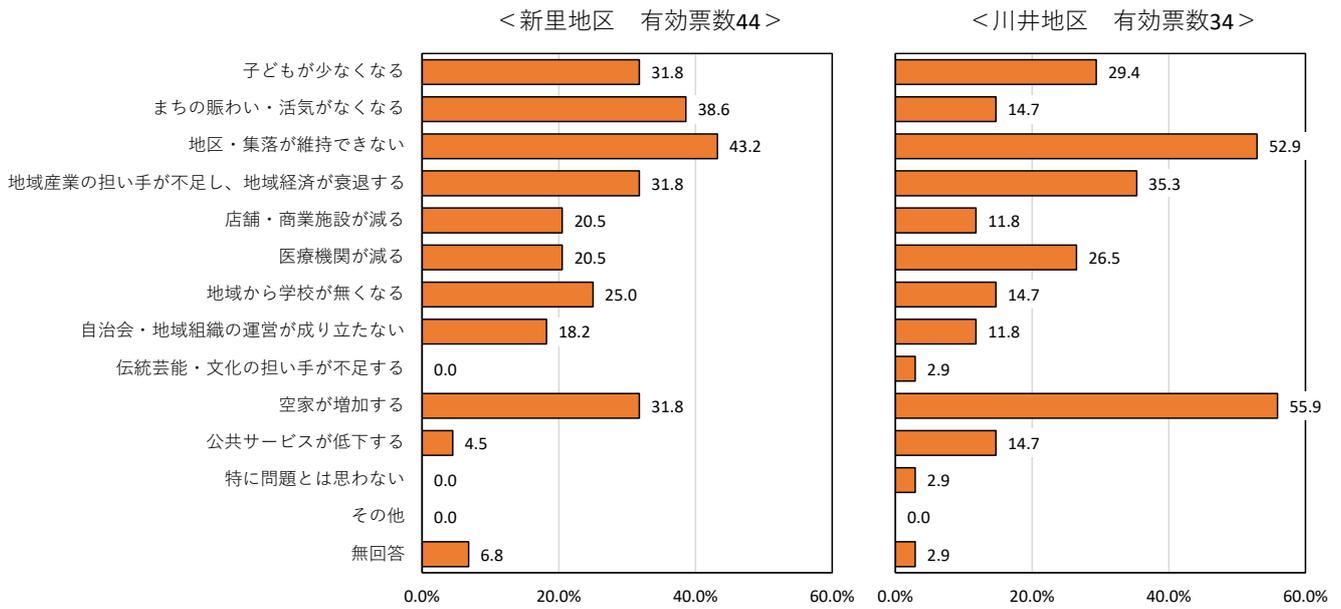
宮古・田老は「地域産業の担い手が不足し、地域経済が衰退する」と「子どもが少なくなる」が、新里・川井は「地区・集落が維持できない」が問題となっている

“宮古地区”と“田老地区”では「地域産業の担い手が不足し、地域経済が衰退する」が最も高く、次いで「子どもが少なくなる」が高くなっている。

“新里地区”では「地区・集落が維持できない」が最も高く、次いで「まちの賑わい・活気がなくなる」が高くなっている。

“川井地区”では「空家が増加する」が最も高く 55.9%を占め、次いで「地区・集落が維持できない」が高くなっている。





問 29 人口増に向けた取り組みについて、ご意見などがありましたら、なんでも結構ですのご自由にお書きください。

(7) 今後のまちづくりについて

Q12 今後のまちづくりについてご意見などがありましたら、なんでも結構ですので、ご自由にお書きください。

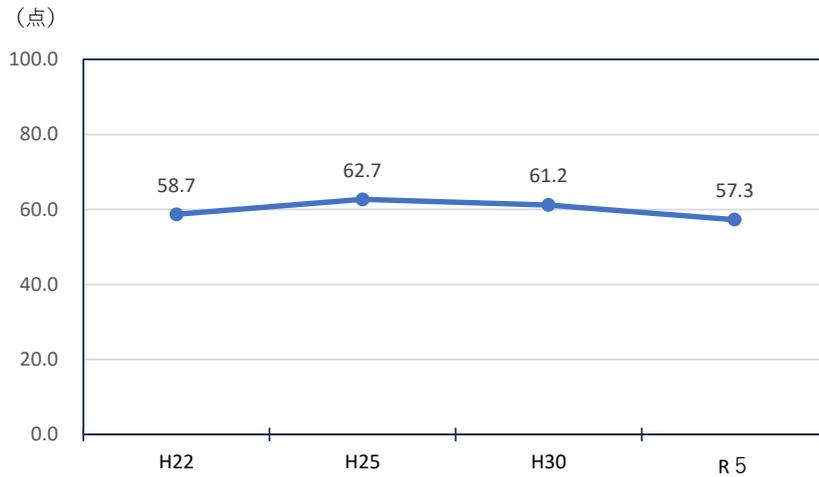
第4章 前回調査との比較

1 身近な生活環境への評価

(1) 生活環境に対する満足度（分野別・項目別）

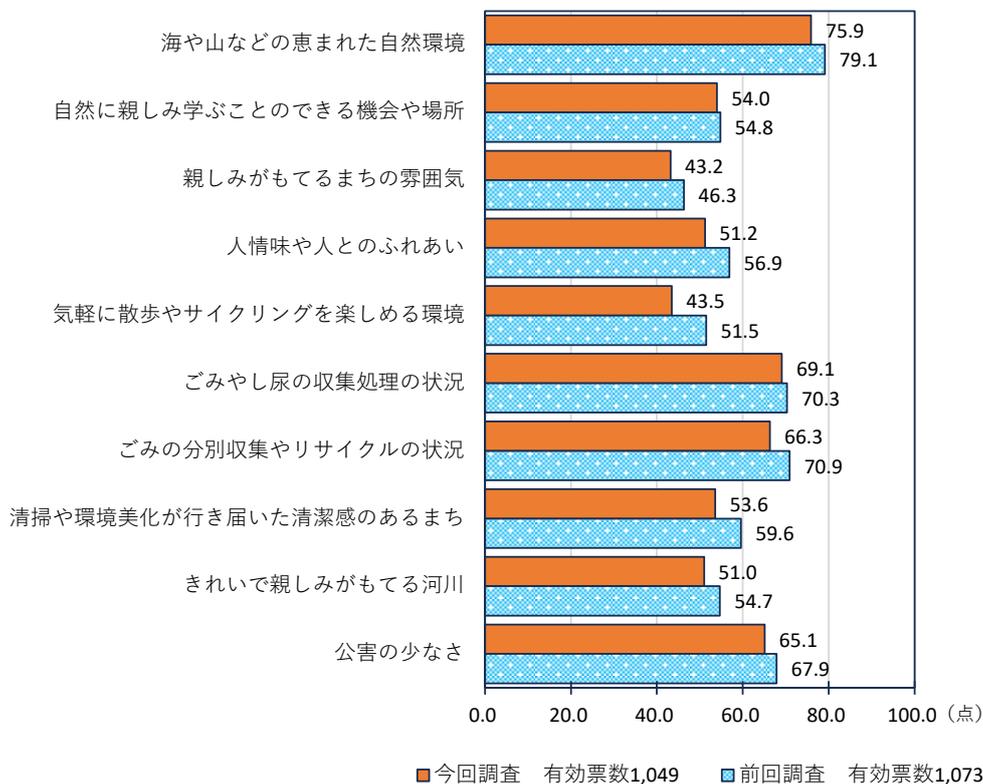
■「自然・都市環境」の満足度

自然・都市環境における満足度の平均点（H22：58.7点、H25：62.7点、H30：61.2点、今回：57.3点）をみると、前回と比べ3.9点減少している。他の分野に比べ、満足度の平均点が最も高い。



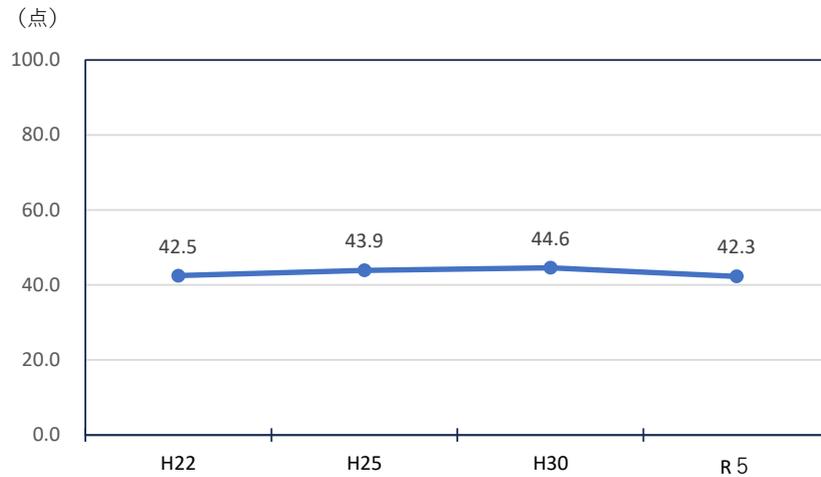
項目別にみると、今回の満足度の点数が最も高いのは前回と同様「海や山などの恵まれた自然環境」で75.9点となった。一方、最も低いのも前回と同様「親しみがもてるまちの雰囲気」で43.2点となった。

前回と比べ増加した項目はなかった。一方で、前回と比べ最も減少したのは「気軽に散歩やサイクリングを楽しめる環境」（前回：51.5点、今回：43.5点）で8.0点減少している。



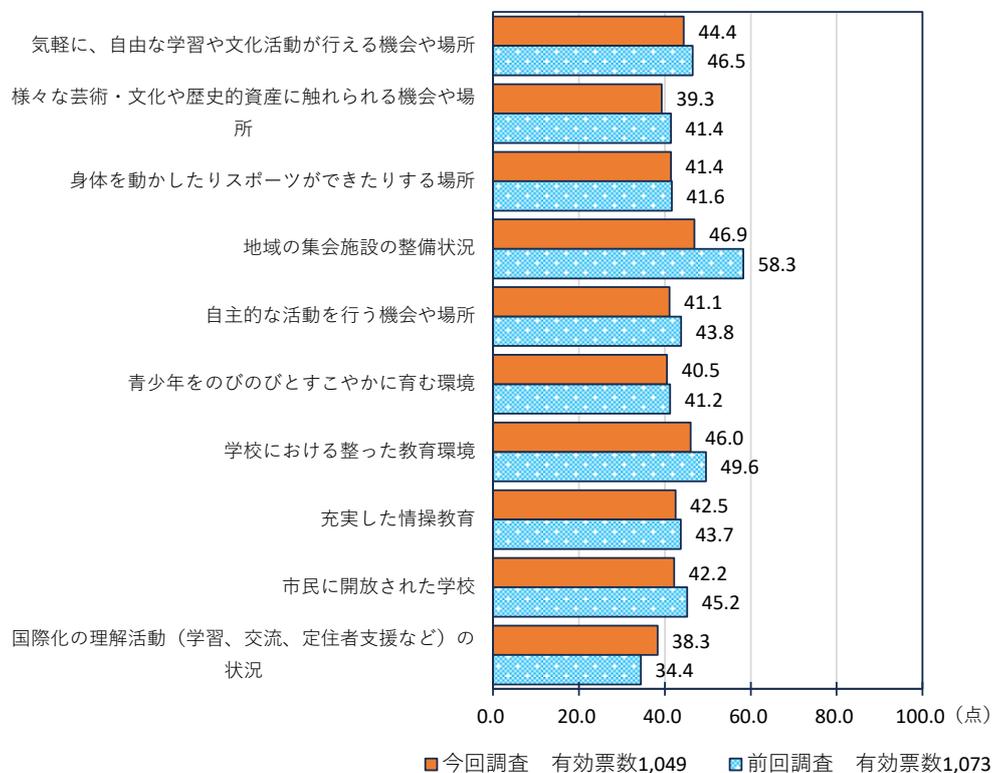
■「教育・文化」の満足度

教育・文化における満足度の平均点（H22：42.5点、H25：43.9点、H30：44.6点、今回：42.3点）をみると、前回と比べ2.3点減少している。



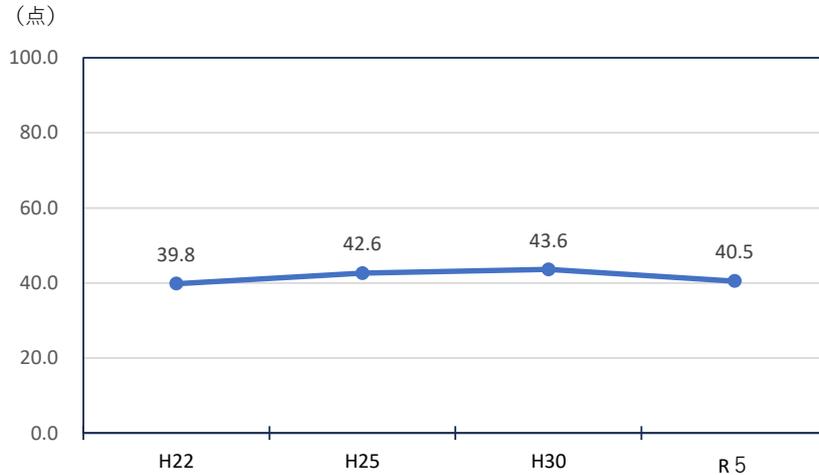
項目別にみると、今回の満足度の点数が最も高いのは前回と同様「地域の集会施設の整備状況」で46.9点となった。一方、最も低いのも前回と同様「国際化の理解活動（学習、交流、定住者支援など）の状況」で38.3点となった。

前回と比べ増加した項目はなかった。一方で、前回と比べ最も減少したのは「地域の集会施設の整備状況」（前回：58.3点、今回：46.9点）で11.4点減少している。



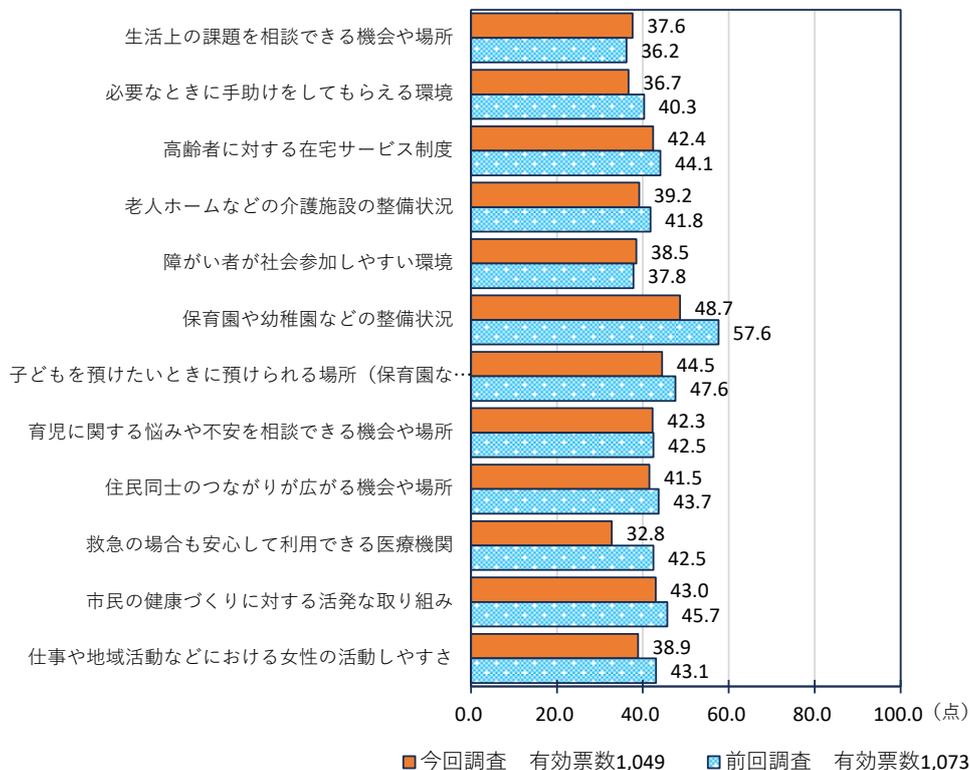
■「福祉・健康」の満足度

健康・福祉における満足度の平均点（H22：39.8点、H25：42.6点、H30：43.6点、今回：40.5点）をみると、前回と比べ3.1点減少している。



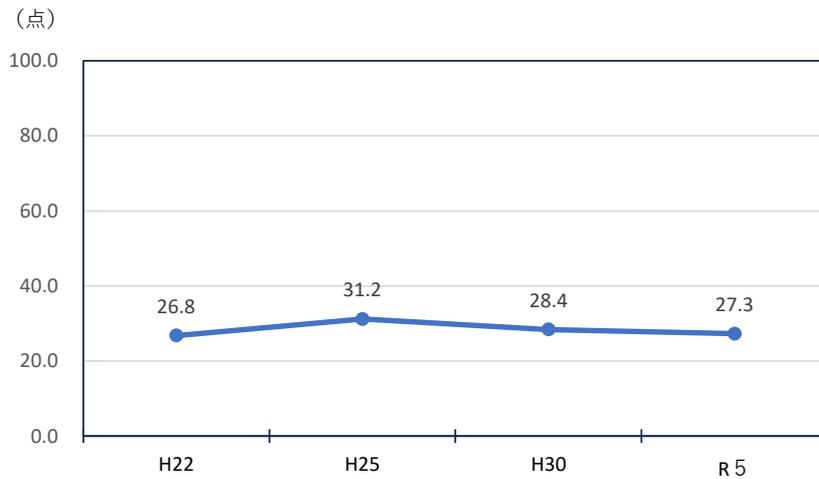
項目別にみると、今回の満足度の点数が最も高いのは前回と同様「保育園や幼稚園などの整備状況」で48.7点となった。一方、最も低いのは「救急の場合も安心して利用できる医療機関」で32.8点となった。

前回と比べ最も増加した項目は「生活上の課題を相談できる機会や場所」（前回：36.2点、今回：37.6点）で1.4点増加している。一方で、前回と比べ最も減少したのは「救急の場合も安心して利用できる医療機関」（前回：42.5点、今回：32.8点）で9.7点減少している。



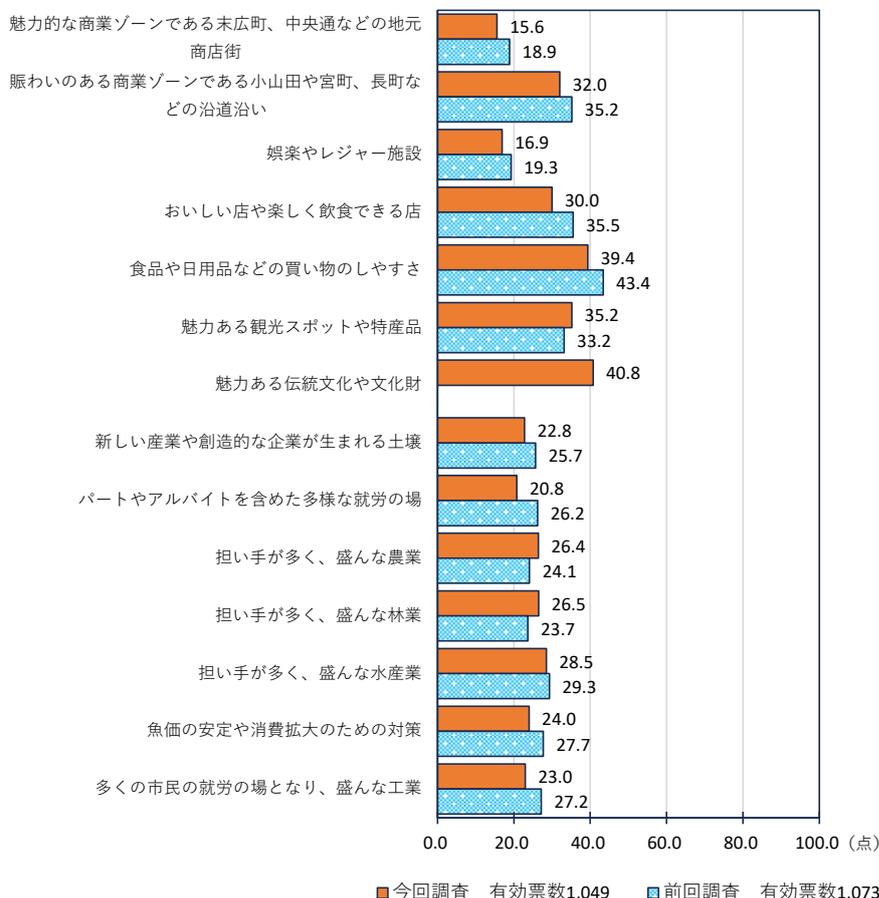
■「産業・就労」の満足度

産業・就労における満足度の平均点（H22：26.8点、H25：31.2点、H30：28.4点、今回：27.3点）をみると、前回と比べ1.1点減少している。



項目別にみると、今回の満足度の点数が最も高いのは今回新規の設問である「魅力ある伝統文化や文化財」で40.8点となった。一方、最も低いのは前回と同様「魅力的な商業ゾーンである末広町、中央通などの地元商店街」で15.6点となった。

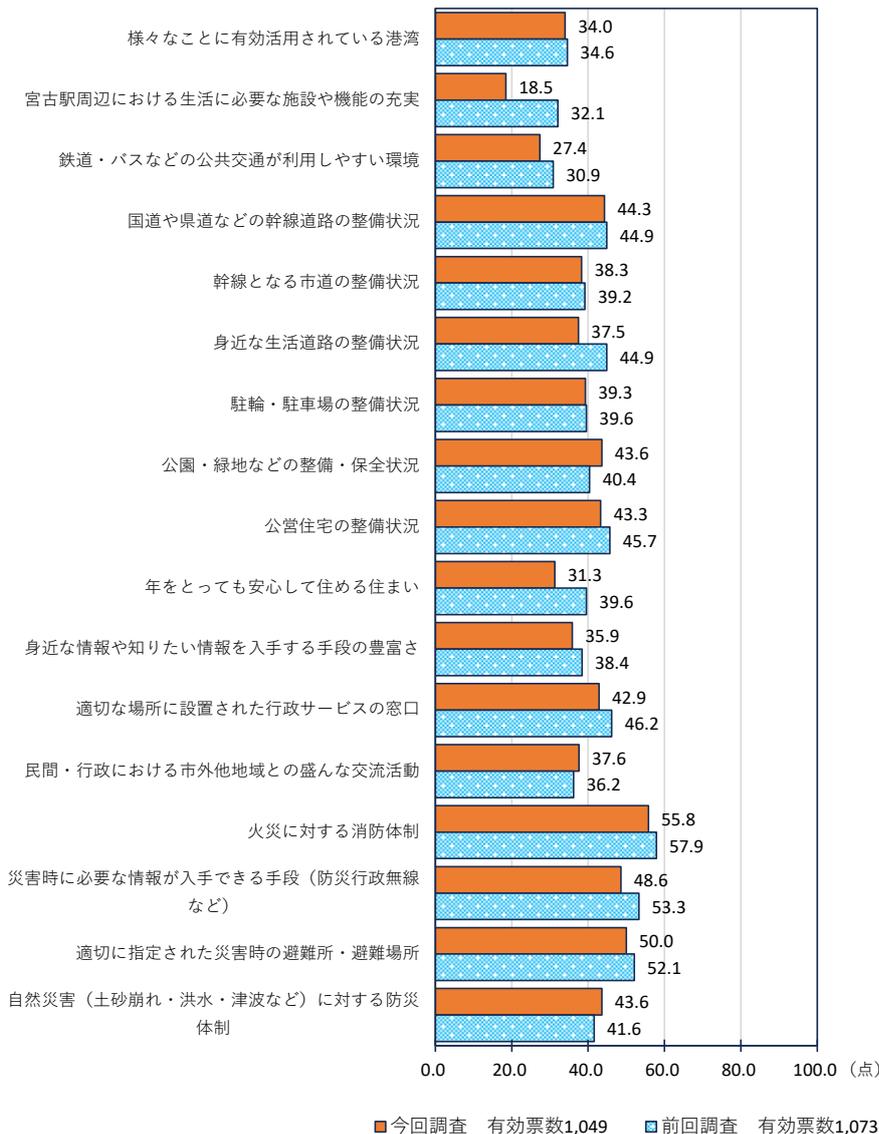
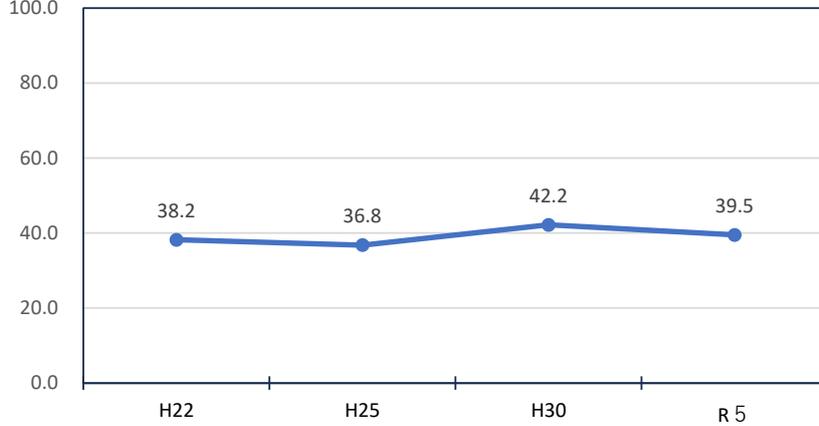
前回と比べ最も増加した項目は「担い手が多く、盛んな林業」（前回：23.7点、今回：26.5点）で2.8点増加している。一方で、前回と比べ最も減少したのは「おいしい店や楽しく飲食できる店」（前回：35.5点、今回：30.0点）で5.5点減少している。



※「魅力ある伝統文化や文化財」は前回調査では質問していない

■「基盤整備」の満足度

基盤整備における満足度の平均点（H22：38.2点、H25：36.8点、H30：42.2点、今回：39.5点）をみると、前回と比べ2.7点減少している。



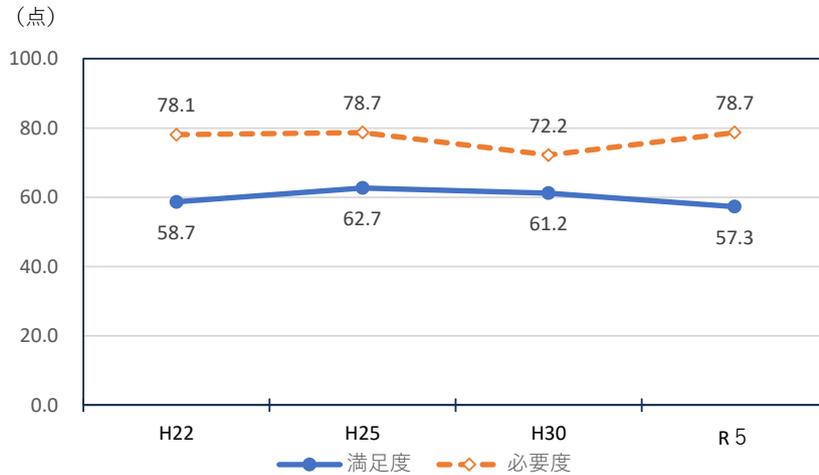
項目別にみると、今回の満足度の点数が最も高いのは前回と同様「火災に対する消防体制」で55.8点となった。一方、最も低いのは「宮古駅周辺における生活に必要な施設や機能の充実」で18.5点となった。

前回と比べ最も増加した項目は「公園・緑地などの整備・保全状況」（前回：40.4点、今回：43.6点）で3.2点増加している。一方で、前回と比べ最も減少したのは「宮古駅周辺における生活に必要な施設や機能の充実」（前回：32.1点、今回：18.5点）で13.6点減少している。

(2) 生活環境に対する必要度 (分野別・項目別)

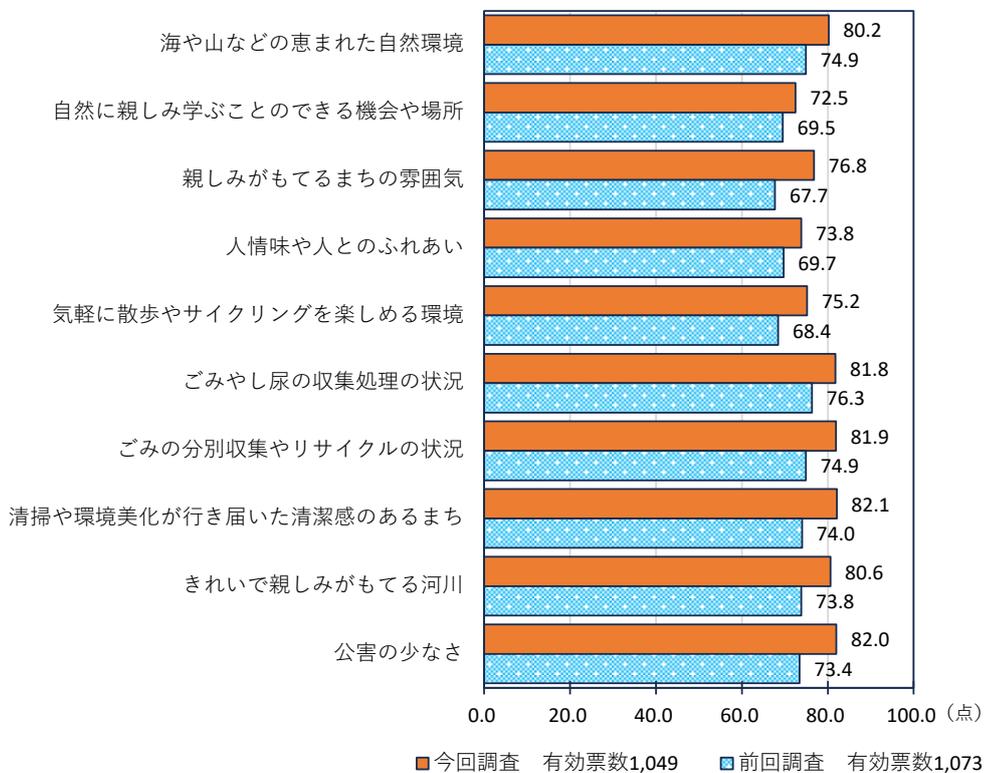
■ 「自然・都市環境」の必要度

自然・都市環境における必要度の平均点 (H22 : 78.1 点、H25 : 78.7 点、H30 : 72.2 点、今回 : 78.7 点) をみると、前回と比べ 6.5 点増加している。



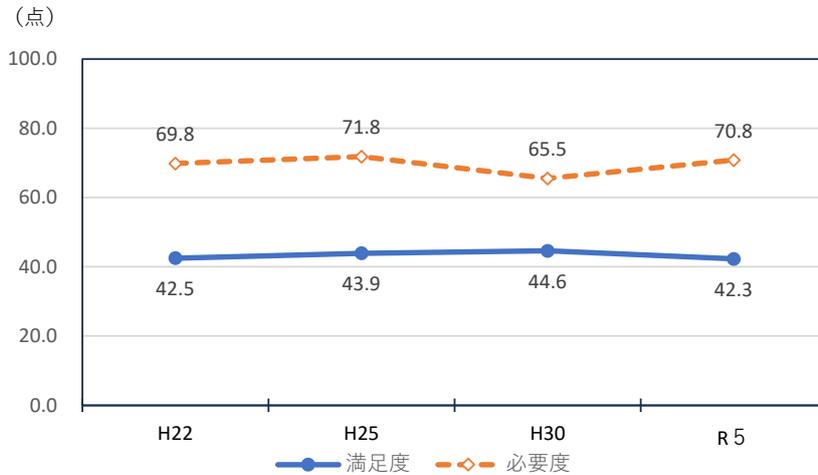
項目別にみると、今回の必要度の点数が最も高いのは「清掃や環境美化が行き届いた清潔感のあるまち」で 82.1 点となった。一方、最も低いのは「自然に親しみ学ぶことのできる機会や場所」で 72.5 点となった。

全項目で必要度が増加しており、前回と比べ最も増加した項目は「親しみがもてるまちの雰囲気」(前回 : 67.7 点、今回 : 76.8 点) で 9.1 点増加している。



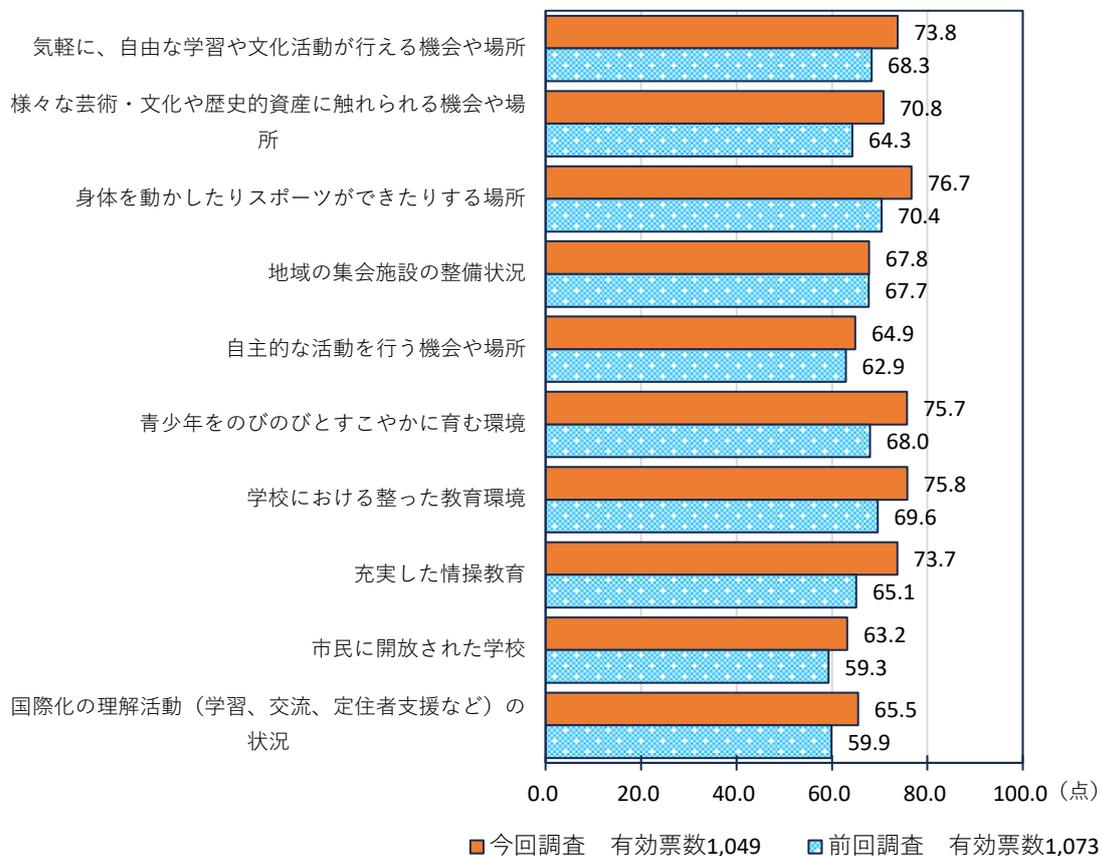
■「教育・文化」の必要度

教育・文化における必要度の平均点（H22：69.8点、H25：71.8点、H30：65.5点、今回：70.8点）をみると、前回と比べ5.3点増加している。



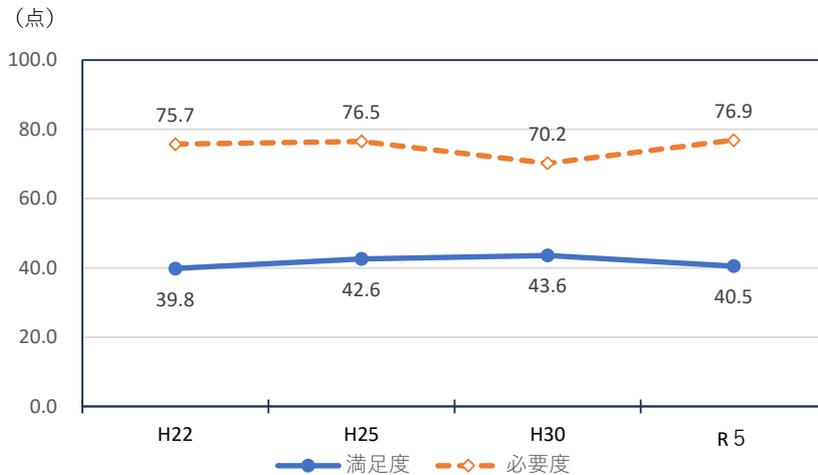
項目別にみると、今回の必要度の点数が最も高いのは前回と同様「身体を動かしたりスポーツができたりする場所」で76.7点となった。一方、最も低いのは前回同様「市民に開放された学校」で63.2点となった。

全項目で必要度が増加しており、前回と比べ最も増加した項目は「充実した情操教育」（前回：65.1点、今回：73.7点）で8.6点増加している。



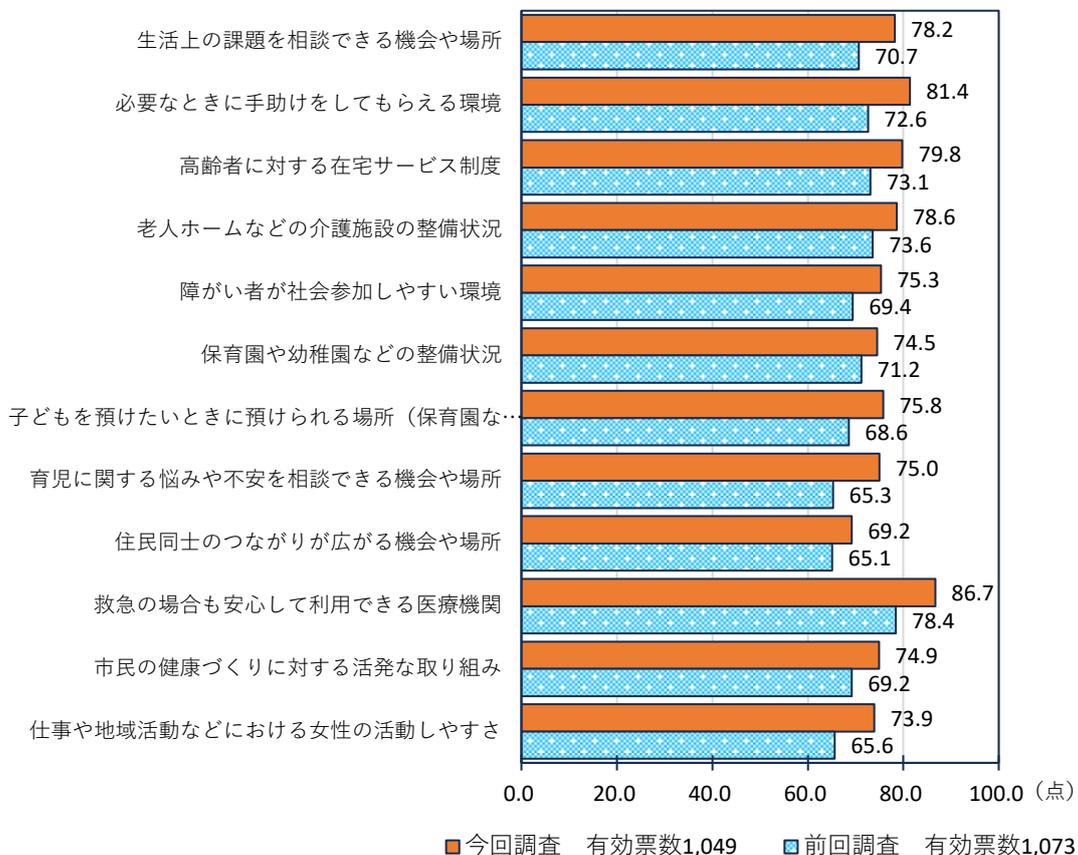
■「福祉・健康」の必要度

福祉・健康における必要度の平均点（H22：75.7点、H25：76.5点、H30：70.2点、今回：76.9点）をみると、前回と比べ6.7点増加している。



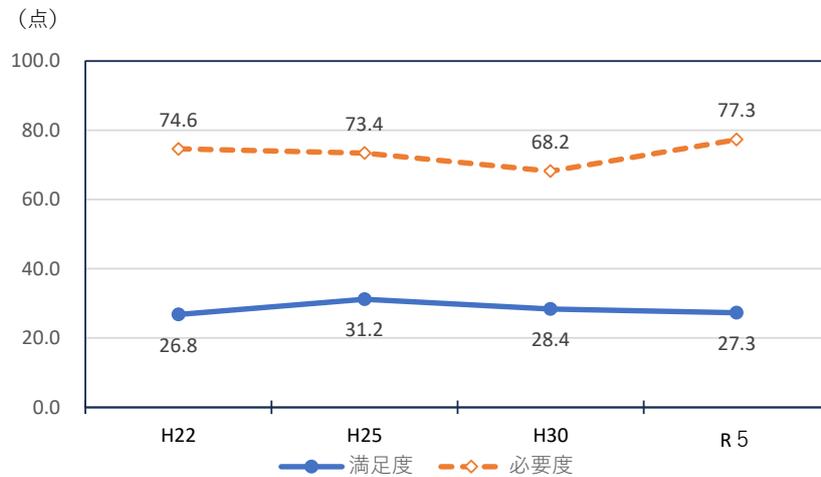
項目別にみると、今回の必要度の点数が最も高いのは前回と同様「救急の場合も安心して利用できる医療機関」で86.7点となった。一方、最も低いのは前回同様「住民同士のつながりが広がる機会や場所」で69.2点となった。

全項目で必要度が増加しており、前回と比べ最も増加した項目は「育児に関する悩みや不安を相談できる機会や場所」（前回：65.3点、今回：75.0点）で9.7点増加している。



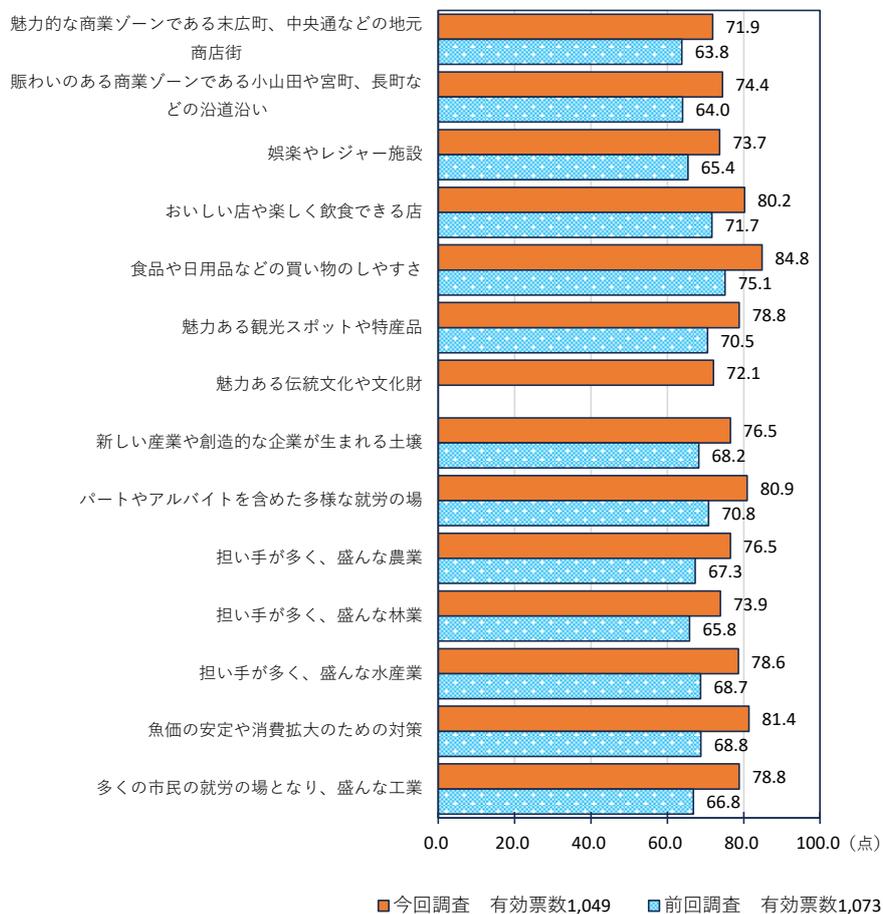
■「産業・就労」の必要度

産業・就労における必要度の平均点（H22：74.6点、H25：73.4点、H30：68.2点、今回：77.3点）をみると、前回と比べ9.1点増加している。



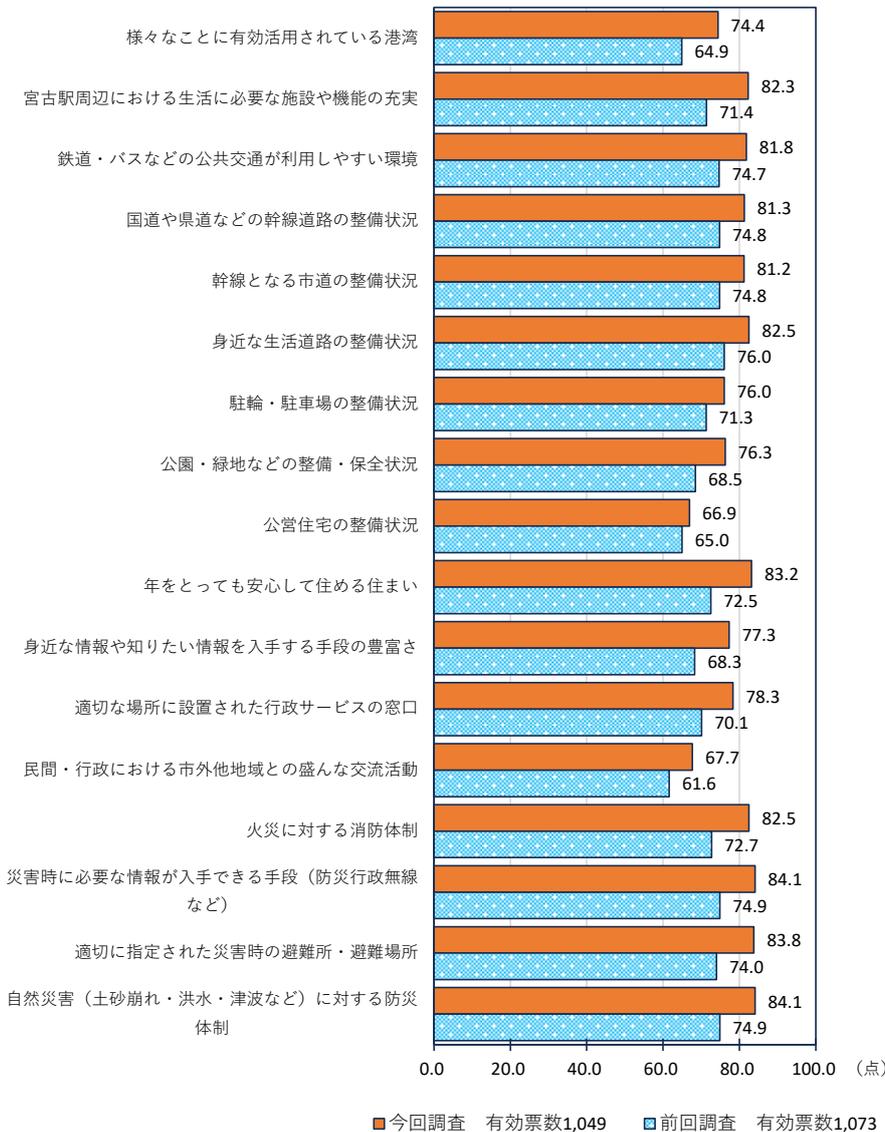
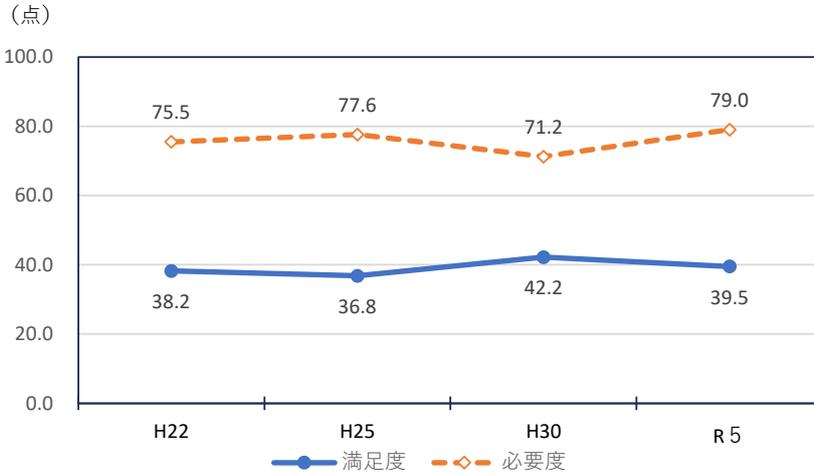
項目別にみると、今回の必要度の点数が最も高いのは前回と同様「食品や日用品などの買い物のしやすさ」で84.8点となった。一方、最も低いのは前回同様「魅力的な商業ゾーンである末広町、中央通などの地元商店街」で71.9点となった。

全項目で必要度が増加しており、前回と比べ最も増加した項目は「魚価の安定や消費拡大のための対策」(前回：68.8点、今回：81.4点)で12.6点増加している。



■「基盤整備」の必要度

基盤整備における必要度の平均点（H22：75.5点、H25：77.6点、H30：71.2点、今回：79.0点）をみると、前回と比べ7.8点増加している。



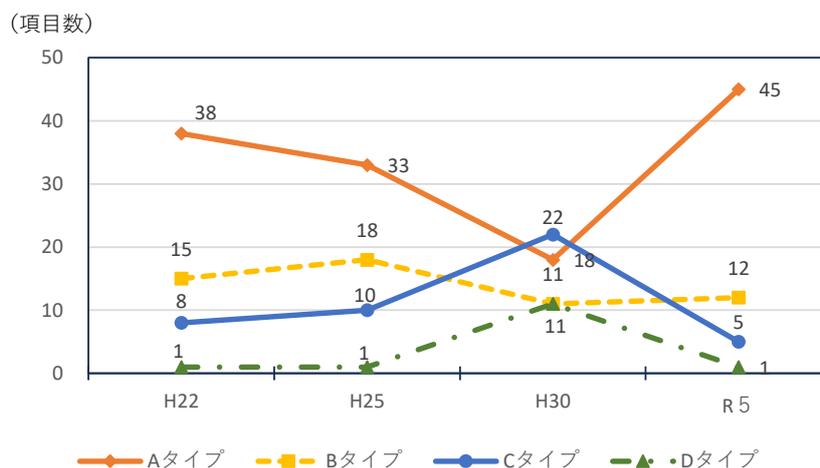
項目別にみると、今回の必要度の点数が最も高いのは前回と同様同数で「災害時に必要な情報が入手できる手段(防災行政無線など)」、「自然災害(土砂崩れ・洪水・津波など)に対する防災体制」で84.1点となった。一方、最も低いのは「様々なことに有効活用されている港湾」で74.4点となった。

全項目で必要度が増加しており、前回と比べ最も増加した項目は「宮古駅周辺における生活に必要な施設や機能の充実」(前回：71.4点、今回：82.3点)で10.9点増加している。

(3) 行政施策の類型化

前回Aタイプに属していた項目は18個あったが、今回は45個となった。Bタイプでは前回11個あったが、今回12個となった。Cタイプでは前回22個あったが、今回は5個となった。Dタイプでは前回11個で、今回は1個となった。

前回から大きく変化が見られ、A（充足度が低く、今後の対応が期待される施策群）、B（一定の水準は達成しており、今後も対応が期待される施策群）が増加し、C（充足度を達成していない施策群）、D（一定の水準を達成している施策群）は減少している。



Aタイプ：必要度（需要）が高く、満足度（評価）は低いもの
必要度 70 点以上、満足度 45 点未満

充足度が低く、今後の対応が期待される施策群

Bタイプ：必要度（需要）が高く、満足度（評価）も高いもの
必要度 70 点以上、満足度 45 点以上

一定の水準は達成しており、
今後も対応が期待される施策群

Cタイプ：必要度（需要）が低く、満足度（評価）も低いもの
必要度 70 点未満、満足度 45 点未満

充足度を達成していない施策群

Dタイプ：必要度（需要）が低く、満足度（評価）は高いもの
必要度 70 点未満、満足度 45 点以上

一定の水準を達成している施策群

項目別にみると、前回Bタイプに属していた11項目のうち2項目がAタイプとなり、前回Cタイプに属していた22項目のうち19項目がAタイプとなり、前回Dタイプに属していた11項目のうち5項目がAタイプに、3項目がBタイプになるなど、前回から変化があった大半は必要度が高くなっている傾向が分かる。

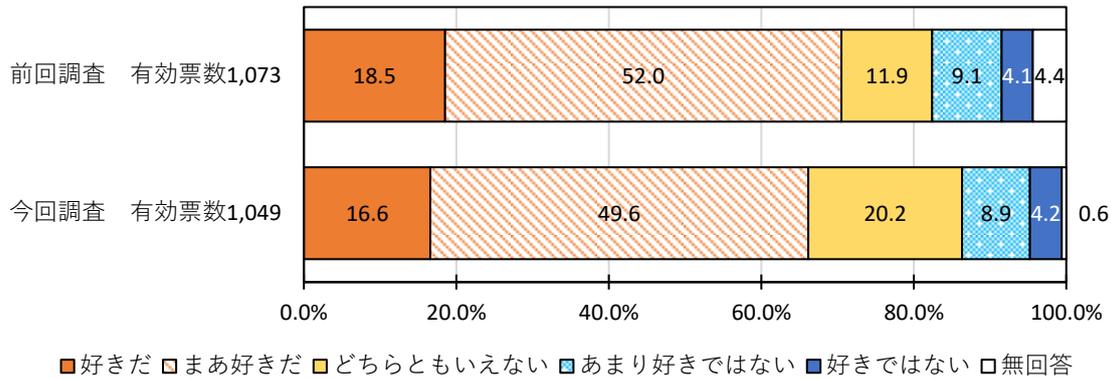
今回 \ 前回	A	B	C	D	合計（今回）
A	18	2	19	5	44
B	0	9	0	3	12
C	0	0	3	2	5
D	0	0	0	1	1
合計（前回）	18	11	22	11	62

※令和5年調査は1項目増加のため、H30年調査にある項目に合わせ合計は62項目とした

(4) 地域への愛着度

愛着度が若干低くなっているが、多くが地域を好きだと感じている。

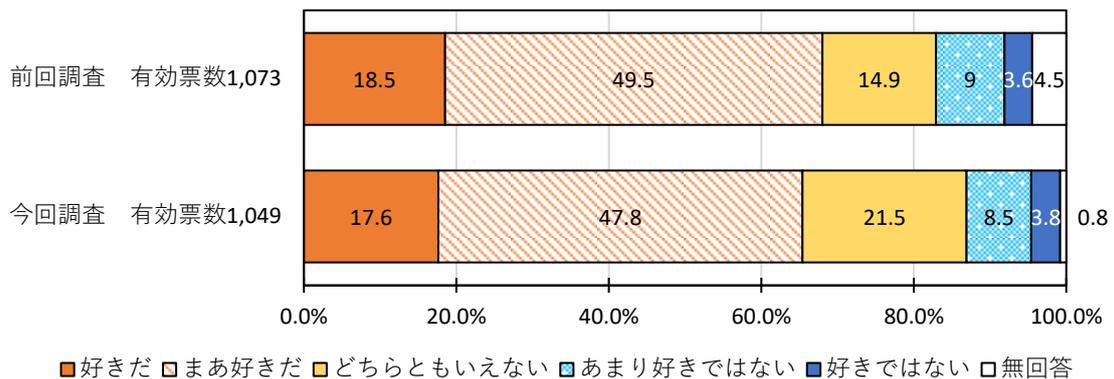
前回と比較すると、「好きだ」、「まあ好きだ」の合計値（前回：70.5%、今回：66.2%）が前回より低く、「好きではない」、「あまり好きではない」の合計値（前回：13.2%、今回：13.1%）はほぼ横ばいとなっており、前回より地域への愛着度が若干低くなっているが6割以上が地域への愛着を持っている。



(5) 市への愛着度

愛着度が若干低くなっているが、多くが市を好きだと感じている。

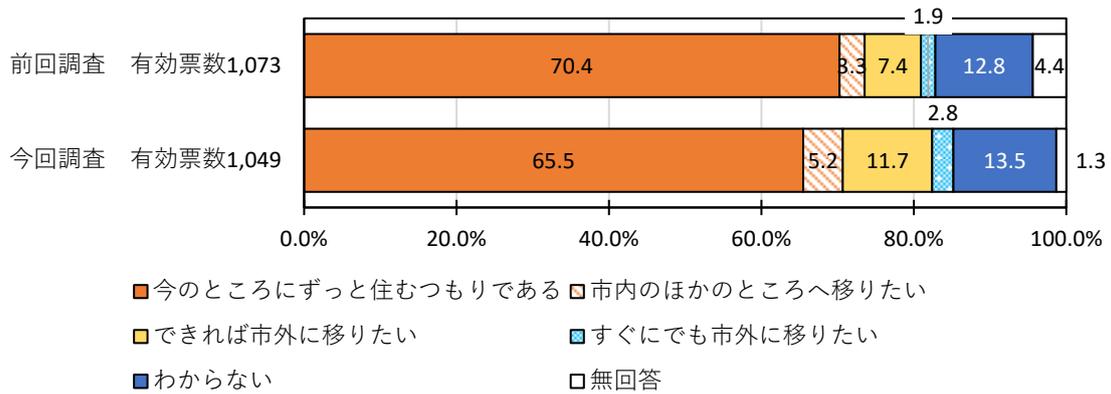
前回と比較すると、「好きだ」、「まあ好きだ」の合計値（前回：68.0%、今回：65.4%）が前回より低く、「好きではない」、「あまり好きではない」の合計値（前回：12.6%、今回：12.3%）は前回より若干低くなっているが、6割以上は市への愛着を持っている。



(6) 定住意向

市外移住の希望が増加しているが、多くが市内への定住を望んでいる。

前回と比較すると、「今のところにずっと住むつもりである」、「市内のほかのところへ移りたい」の合計値（前回：73.7%、今回：70.7%）が前回より若干低く、「できれば市外に移りたい」、「すぐにでも市外に移りたい」の合計値（前回：9.3%、今回：14.5%）が前回より高くなっており、前回より定住意向が減少しているが7割以上は市内への定住を望んでいる。



2 地域や社会とのかかわりに対する意識

(1) 地域や社会への参加意識

■地域活動への参加意識

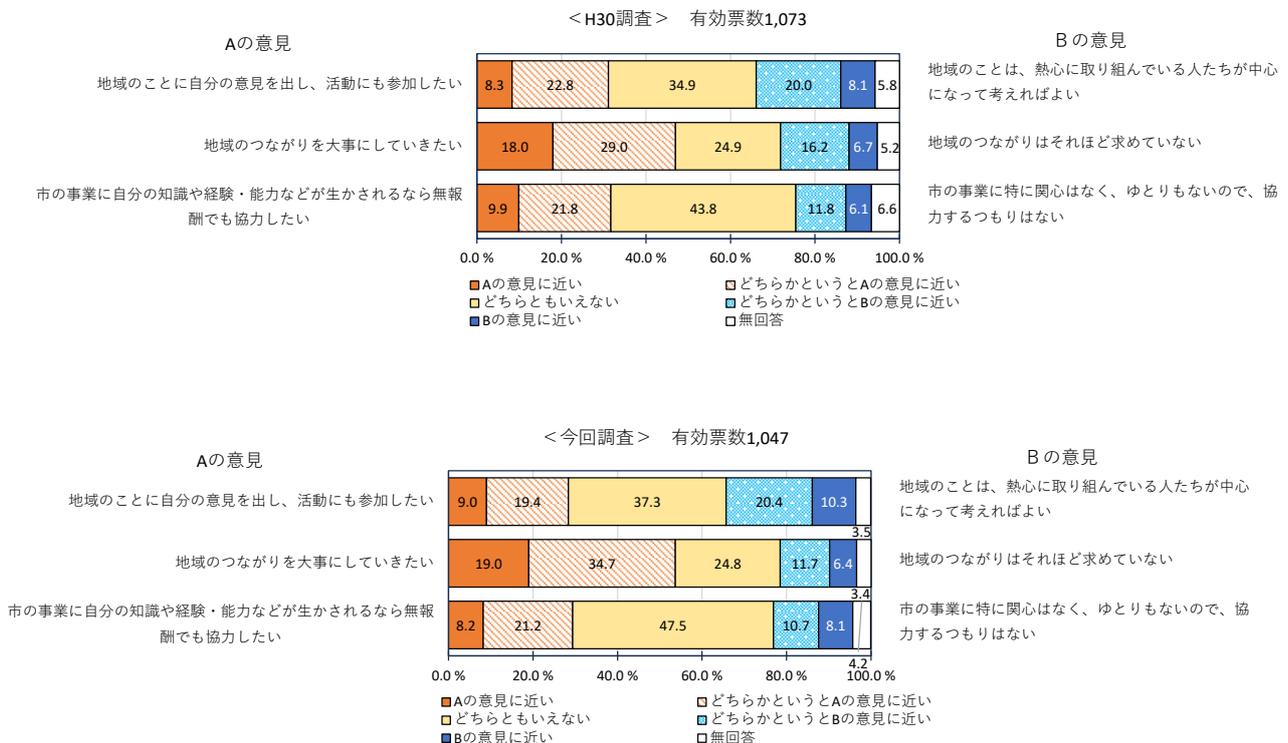
前回調査はAの意見がBの意見を上回ったが、今回調査ではBの意見がAの意見を若干上回った。また、前回調査ではAの意見とBの意見との差が、前はAの意見が3.0ポイント高かった（前回A：31.1%、前回B：28.1%）のに対し、今回調査はBの意見の方が2.3ポイント（今回A：28.4%、今回B：30.7%）高くなっている。

■人とのつながりに関する価値

前回調査と同様の結果が得られ、Aの意見がBの意見を上回った。また、前回調査ではAの意見とBの意見との差が、24.1ポイントだったのに対し、今回は35.6ポイントの差となり、その差は増加している。

■市の事業への協力意識

前回調査と同様の結果が得られ、Aの意見がBの意見を上回った。また、前回調査ではAの意見とBの意見との差が、13.8ポイントだったのに対し、今回は10.6ポイントの差となり、その差は減少した。Bの意見に近い方が前回から0.9ポイント（前回：17.9%、今回：18.8%）増加している。

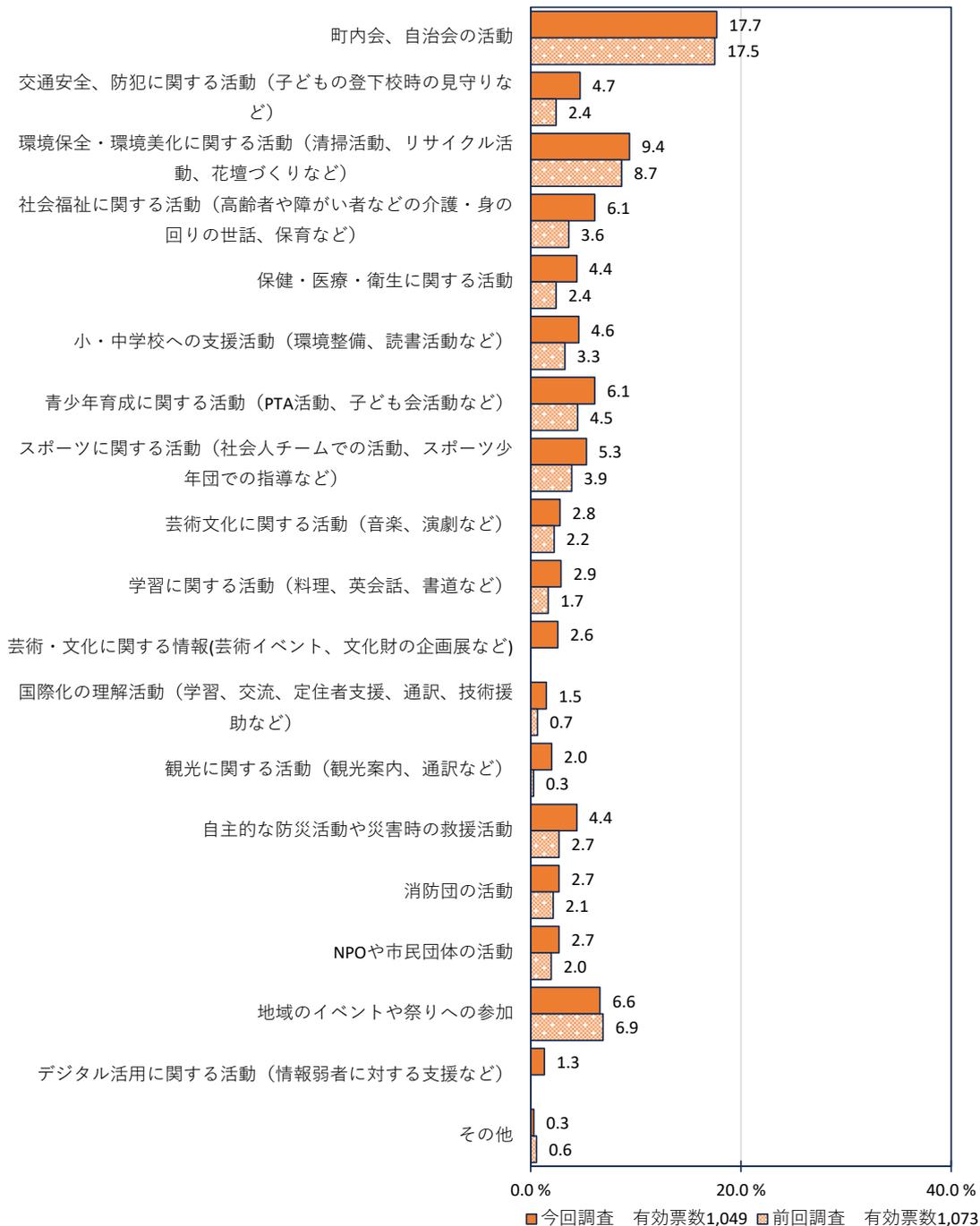


(2) 社会活動への参加状況

現在参加している活動をみると前回同様、最も高いのは「町内会、自治会の活動」、次いで「環境保全・環境美化に関する活動（清掃活動、リサイクル活動、花壇づくりなど）」、「地域のイベントや祭りへの参加」の順となっている。

項目別にみて、「地域のイベントや祭りへの参加」以外で参加割合が増加している。

<社会活動への参加状況 H30調査との比較>



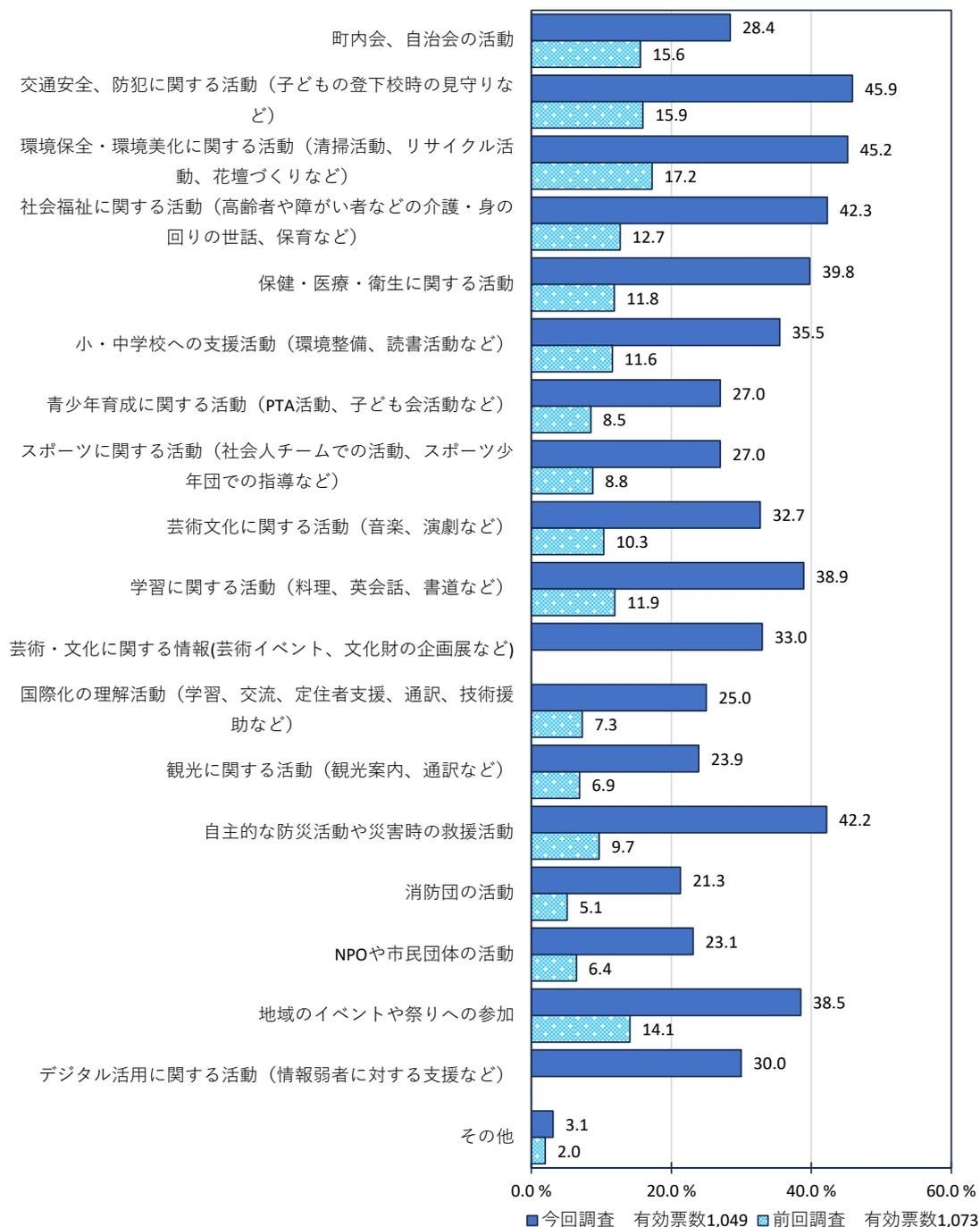
※「芸術・文化に関する情報(芸術イベント、文化財の企画展など)」「デジタル活用に関する活動（情報弱者に対する支援など）」は今回から新たに設定された質問のため、前回調査の結果の記載がない。

(3) 社会活動への参加意向

社会参加活動への参加意向では、今回最も参加意向が高かったのは「交通安全、防犯に関する活動（子どもの登下校時の見守りなど）」であり、次いで「環境保全・環境美化に関する活動（清掃活動、リサイクル活動、花壇づくりなど）」、「社会福祉に関する活動（高齢者や障がい者などの介護・身の回りの世話、保育など）」の順で高くなっている。

また、参加意向に関しては前回より全体的に高く、特に前回より参加意向が上がった項目は、「自主的な防災活動や災害時の救援活動」で32.5ポイント増加している。

<社会活動への参加意向 H30調査との比較>



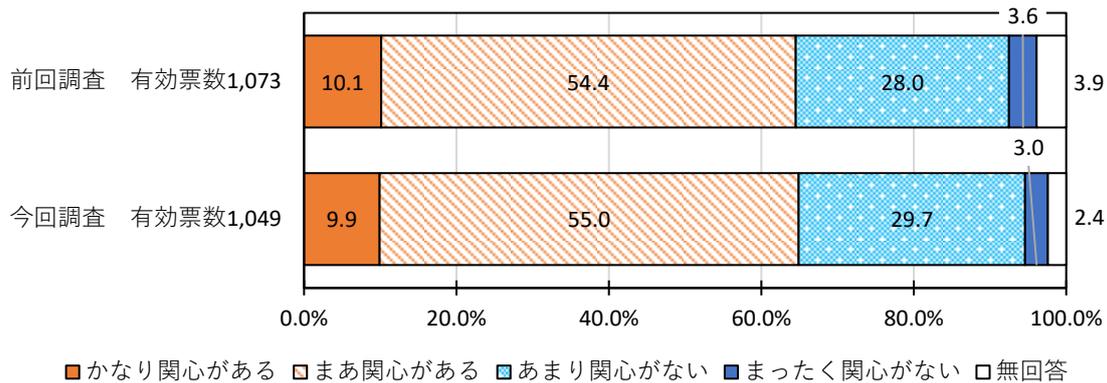
※前回調査時の選択肢は「参加してもよい」、今回は「機会があれば、参加したい」

3 市政への関心と行政サービス

(1) 市政への関心度

前回と同様の結果が得られ、多くが市政に関心があると回答している。

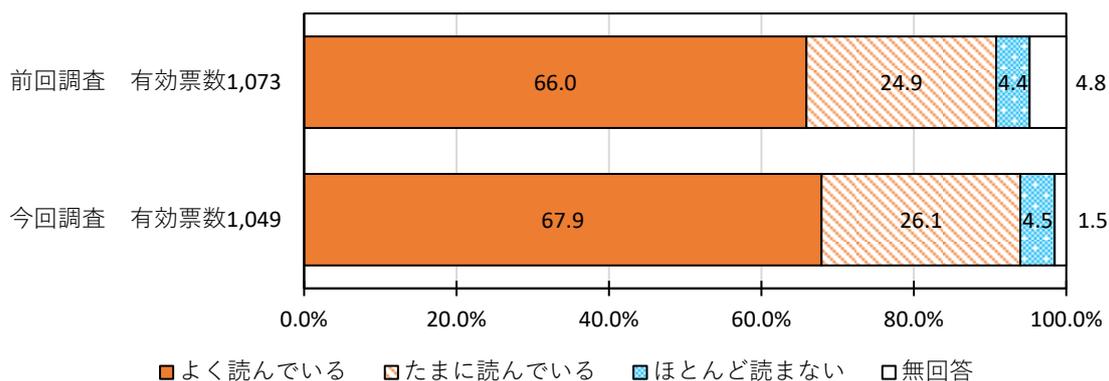
前回と比較すると、「かなり関心がある」、「まあ関心がある」の合計値（前回：64.5%、今回：64.9%）が前回より若干高く、「まったく関心がない」、「あまり関心がない」の合計値（前回：31.6%、今回：32.7%）も若干高くなっているが、6割以上が市政への関心を抱いている。



(2) 広報紙「広報みやこ」の利用状況

前回と同様の結果が得られ、多くが広報紙を読んでいる。

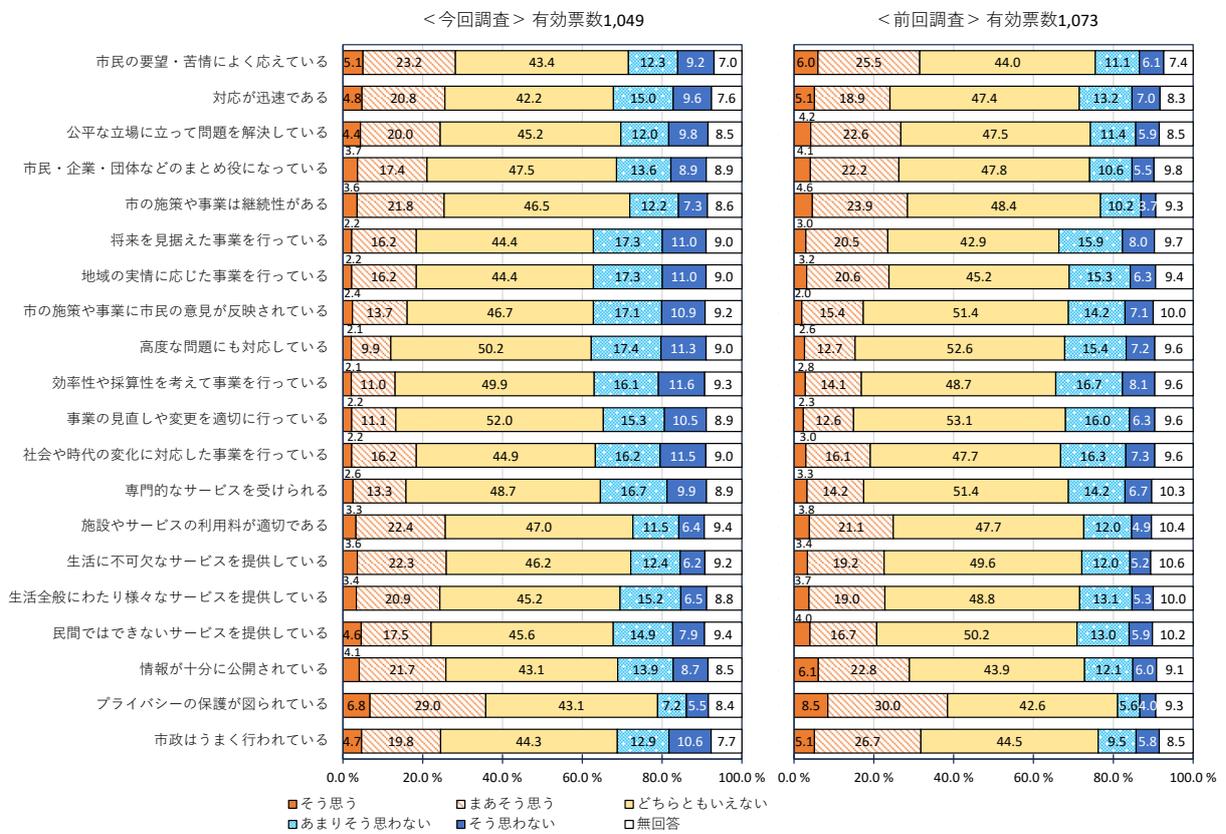
前回と比較すると、「よく読んでいる」、「たまに読んでいる」の合計値（前回：90.9%、今回：94.0%）が前回より高くなり、「ほとんど読まない」（4.5%）（前回：4.4%）が前回より若干高くなっているが、前回より広報紙を読んでいる人は増加している。



(3) 行政サービスについての感想

前回と同様に「そう思う」、「まあそう思う」の合計が最も高かったのは、「プライバシーの保護が図られている」となった。今回調査で次いで多い項目は「市民の要望・苦情によく応えている」、「生活に不可欠なサービスを提供している」となっている。

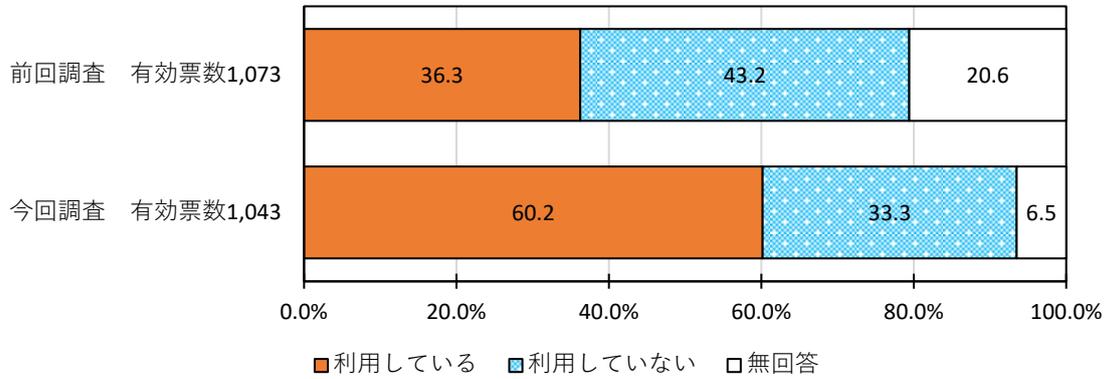
「対応が迅速である」、「施設やサービスの利用料が適切である」、「生活に不可欠なサービスを提供している」、「生活全般にわたり様々なサービスを提供している」、「民間ではできないサービスを提供している」を除いて、全ての項目で「そう思う」、「まあそう思う」の合計が減少し、全ての項目で「あまりそう思わない」「そう思わない」の合計が増加しているものの、「どちらともいえない」という感想も4割から5割と多くあり、判断できかねている様子も窺える。



(4) インターネットの利用状況

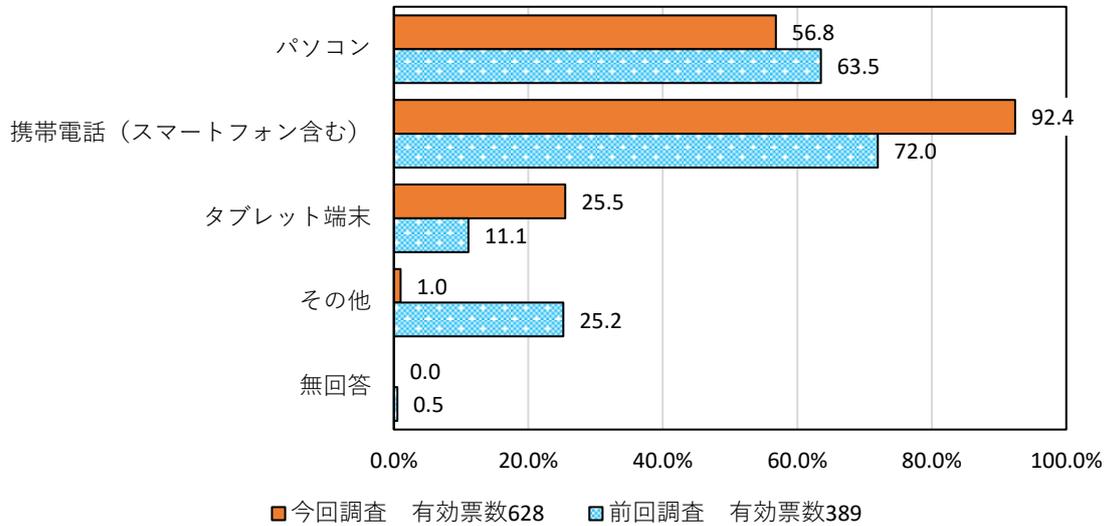
前回と比べてインターネットを利用している方が増加している。

前回と比べ、「利用している」(前回：36.3%、今回：60.2%)という回答が23.9ポイント増加している。



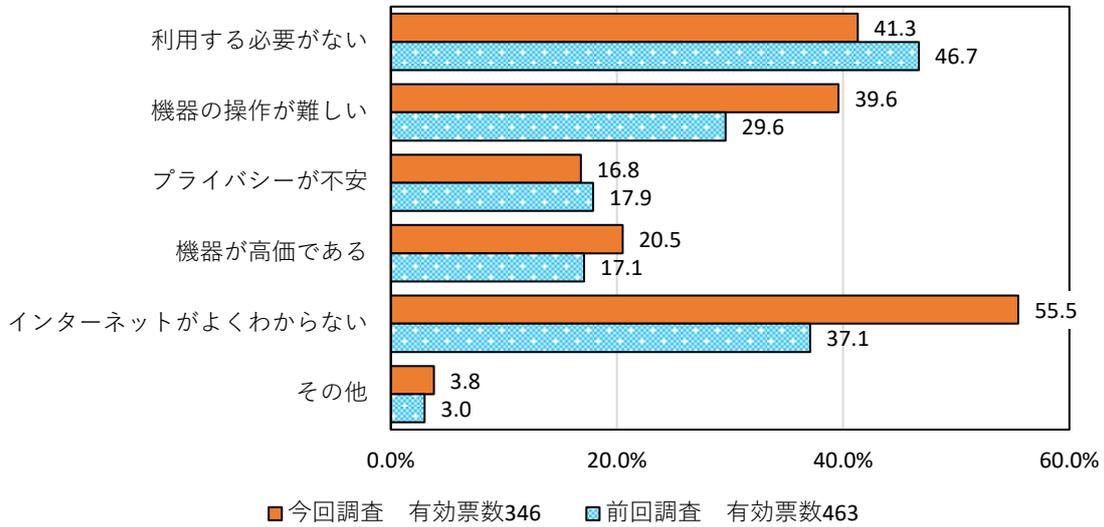
(5) インターネットの利用手段

前回に比べ、「パソコン」が6.7ポイント減、「携帯電話（スマートフォン含む）」は20.4ポイント、「タブレット端末」は14.4ポイント増加している。



(6) インターネットを利用しない理由

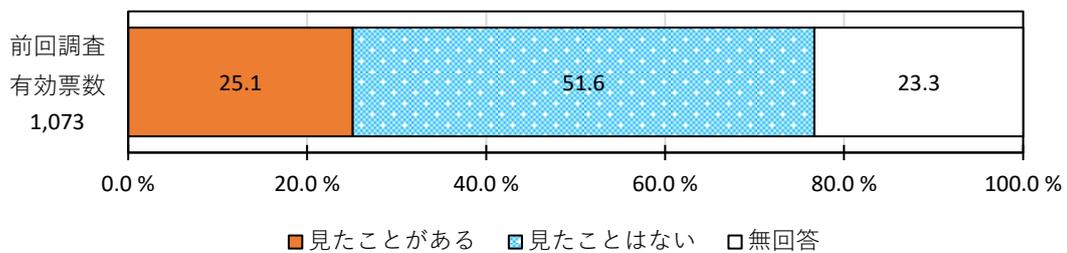
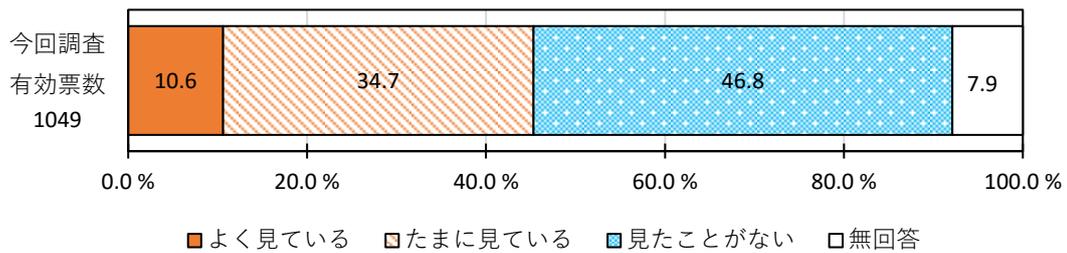
前回と最も高かった“利用する必要がない”（前回：46.7%、今回 41.3%）を上回り“インターネットがよくわからない”（前回：37.1%、今回：55.5%）が最も多い回答となっている。前回に比べ“利用する必要がない”、“プライバシーが不安”以外は増加している。



(7) 市のホームページの利用状況

前回調査時より市ホームページを見ている人が増加している。

「見たことがある」(前回：25.1%、今回：「よく見ている」(25.1%)、「たまに見ている」(34.7%)の合計 45.3%)が前回より 20.2 ポイント増加し、「見たことはない」(前回：51.6%、今回：46.8%)も前回より 4.8 ポイント減少している。



4 今後の宮古市のまちづくり

(1) 各種施策に対する意識

■施策は優先的対応か均等的対応か

前回と同様、Aの意見がBの意見を上回った。また、前回ではAの意見とBの意見との差が、5.1ポイントだったのに対し、今回は22.9ポイントの差となり、大きな課題に対して施策を展開すべきという意見が増加している。

■人口減少を抑制する取り組みか人口規模にあったまちづくりか

前回と同様、Aの意見がBの意見を上回った。また、前回ではAの意見とBの意見との差が、7.5ポイントだったのに対し、今回は14.6ポイントの差となり、人口減少を抑制する取り組みを進める意見が多かった。

■まちづくりは行政と市民の協働か否か

前回と同様の、Aの意見がBの意見を上回った。また、前回ではAの意見とBの意見との差が、48.6ポイントだったのに対し、今回は54.7ポイントの差となり、その差は増加したが、まちづくりは市民と行政が協働して進めるべきとの積極的な意見が多い。

■地域活動への公的支援は不要か必要か

前回と同様、Bの意見がAの意見を上回った。また、前回ではAの意見とBの意見との差が、45.0ポイントだったのに対し、今回は42.2ポイントの差となり、その差は減少したが、傾向に大きな変化はなかった。

■農地や森林保全への市の関与は必要か不要か

前回と同様、Aの意見がBの意見を上回った。また、前回ではAの意見とBの意見との差が、42.1ポイントだったのに対し、今回は49.7ポイントの差となり、その差は増加したが、環境資源の保全には、市からの財政的支援を望む意見が多い。

■窓口対応は休祝日・夜間等対応も必要か現状維持か

前回と同様の結果が得られ、Bの意見がAの意見を上回った。また、前回ではAの意見とBの意見との差が12.4ポイントだったのに対し、今回は22.9ポイントの差となり、その差は増加した。市の窓口対応は今のままでよいという傾向が見られた。

■公共施設は環境や景観に配慮すべきか経費削減を優先すべきか

前回と同様、Aの意見がBの意見を上回った。また、前回ではAの意見とBの意見との差が、35.9ポイントだったのに対し、今回は42.6ポイントの差となり、その差は増加したが、公共施設の整備には、経費削減よりも環境や景観への配慮を求める意見が多い。

■公共施設の料金は公的負担か受益者負担か

前回と同様、Aの意見がBの意見を上回った。また、前回ではAの意見とBの意見との差が、29.5ポイントだったのに対し、今回は30.2ポイントの差となり、その差は若干増加したが、大きな傾向に変化はなかった。

■公共施設老朽化の対応は長寿命化か集約化か

前回と同様、Bの意見がAの意見を上回った。また、前回ではAの意見とBの意見との差が、15.9ポイントだったのに対し、今回は16.2ポイントの差となり、長寿命化よりも施設の集約・統合に対する意識が高い。

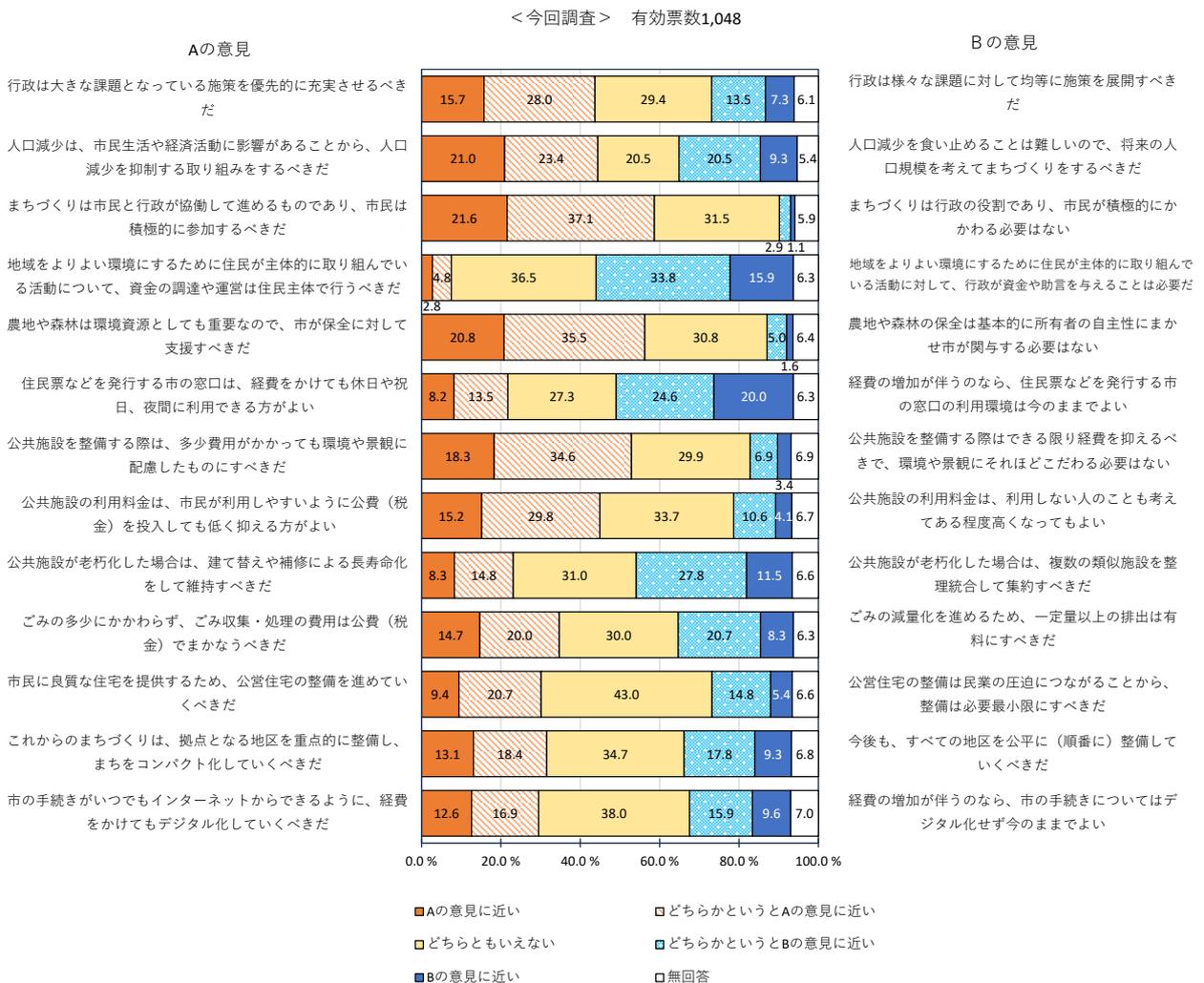
■ごみ収集・処理費用は公費負担か一部有料化か

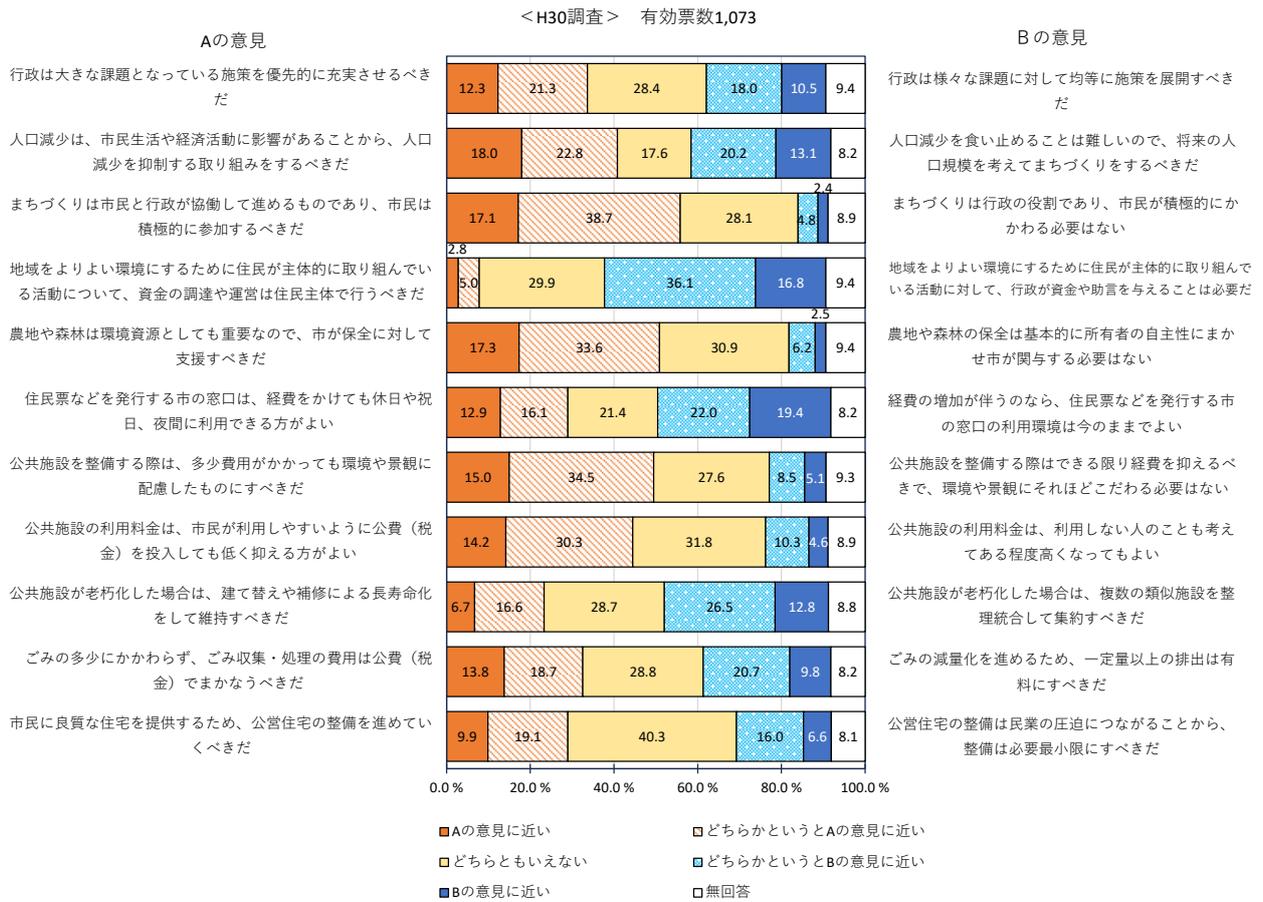
前回と同様、Aの意見がBの意見を上回った。また、前回ではAの意見とBの意見との差が、2.1ポイントだったのに対し、今回は5.7ポイントの差となり、その差は増加した。ごみ収集・処理費用の費用は公費でまかなうべきという意見が増加している。

■公営住宅の整備は推進すべきか必要最小限にすべきか

前回と同様、Aの意見がBの意見を上回った。また、前回ではAの意見とBの意見との差が、6.3ポイントだったのに対し、今回は9.9ポイントの差となり、その差は増加した。公営住宅の整備を推進すべきという意識が若干増加した。

※前回調査では「これからのまちづくりはコンパクトシティを目指すべきか」、「インターネット手続きが出来るようにデジタル化にすべきか」についての設問はなかった。





資料編

宮古市市民意識調査 ご協力をお願い

この調査は、宮古市総合計画に基づき市が行っている様々な取組について、市民の皆さまがどのようなご意見をお持ちなのかお聞きするものです。

調査の結果は、令和6年度に策定する宮古市総合計画後期基本計画（令和7年度～令和11年度）の各分野における施策の成果を図る指標として活用するほか、今後の市政や行政サービスの向上につなげてまいります。

お答えいただいた内容は、全て統計的に処理し、他の目的には一切使用いたしませんので、お考えのままをご記入ください。

より多くの皆さまのご意見を施策に反映したいと考えておりますので、ぜひ、ご協力くださいますようお願いいたします。

調査概要

調査対象：市内にお住まいの18歳以上の方の中から3,000人を無作為に抽出

調査方法：郵送による配布回収方式（インターネットからも回答可能）

回答期限：令和5年9月20日（水）

回答方法

次の①または②の方法により回答してください。**両方に回答することはできません。**

① 記入した調査票を同封の返信用封筒に入れ、切手を貼らずにポストへ投函する。

② 下記 URL または QR コードから回答フォームを開き、回答を入力して送信する。

<https://logoform.jp/form/4cHy/305810>

**記入にあたってのお願い**

- ・ **あて名のご本人が回答してください。**
- ・ 回答は、あてはまる番号を選び、その番号を○印で囲んでください。
- ・ 「○印は1つ」など回答が限られている質問では、あなたがもっともあてはまるとお考えになる回答を指定の数以内で選び、○印をつけてください。
- ・ 「その他」にあてはまる場合は、（ ）の中に、なるべく具体的にその内容をご記入ください。

この調査についてのお問合せ

宮古市企画部企画課 企画調整係 TEL：0193-68-9064（直通）

あなたの身の回りの生活環境についてお聞きします

問1 あなたは次のことがらについて、日頃の生活の中でどのように感じていますか。また、あなた自身の生活にとってどの程度必要なことですか。あてはまるところに○をつけてください。
(○印はそれぞれ1つずつ)

	満足度					必要度		
	満足している	まあ満足している	どちらともいえない	あまり満足していない	満足していない	必要である	どちらともいえない	必要でない
1 海や山などの恵まれた自然環境	1	2	3	4	5	1	2	3
2 自然に親しみ学ぶことのできる機会や場所	1	2	3	4	5	1	2	3
3 親しみがもてるまちの雰囲気	1	2	3	4	5	1	2	3
4 人情味や人とのふれあい	1	2	3	4	5	1	2	3
5 気軽に散歩やサイクリングを楽しめる環境	1	2	3	4	5	1	2	3
6 ごみやし尿の収集処理の状況	1	2	3	4	5	1	2	3
7 ごみの分別収集やリサイクルの状況	1	2	3	4	5	1	2	3
8 清掃や環境美化が行き届いた清潔感のあるまち	1	2	3	4	5	1	2	3
9 きれいで親しみがもてる河川	1	2	3	4	5	1	2	3
10 公害の少なさ	1	2	3	4	5	1	2	3
11 気軽に、自由な学習や文化活動が行える機会や場所	1	2	3	4	5	1	2	3
12 様々な芸術・文化や歴史的資産に触れられる機会や場所	1	2	3	4	5	1	2	3
13 身体を動かしたりスポーツができたりする場所	1	2	3	4	5	1	2	3
14 地域の集会施設の整備状況	1	2	3	4	5	1	2	3
15 自主的な活動を行う機会や場所	1	2	3	4	5	1	2	3
16 青少年をのびのびとすこやかに育む環境	1	2	3	4	5	1	2	3
17 学校における整った教育環境	1	2	3	4	5	1	2	3
18 充実した情操教育	1	2	3	4	5	1	2	3
19 市民に開放された学校	1	2	3	4	5	1	2	3
20 国際化の理解活動(学習、交流、定住者支援など)の状況	1	2	3	4	5	1	2	3
21 生活上の課題を相談できる機会や場所	1	2	3	4	5	1	2	3
22 必要なときに手助けをしてもらえる環境	1	2	3	4	5	1	2	3
23 高齢者に対する在宅サービス制度	1	2	3	4	5	1	2	3
24 老人ホームなどの介護施設の整備状況	1	2	3	4	5	1	2	3
25 障がい者が社会参加しやすい環境	1	2	3	4	5	1	2	3
26 保育園や幼稚園などの整備状況	1	2	3	4	5	1	2	3
27 子どもを預けたいときに預けられる場所(保育園など)	1	2	3	4	5	1	2	3
28 育児に関する悩みや不安を相談できる機会や場所	1	2	3	4	5	1	2	3
29 住民同士のつながりが広がる機会や場所	1	2	3	4	5	1	2	3
30 救急の場合も安心して利用できる医療機関	1	2	3	4	5	1	2	3
31 市民の健康づくりに対する活発な取り組み	1	2	3	4	5	1	2	3
32 仕事や地域活動などにおける女性の活動しやすさ	1	2	3	4	5	1	2	3

問1 つづき (○印はそれぞれ1つずつ)		満足度					必要度		
		満足している	まあ満足している	どちらかといえばいい	あまり満足していない	満足していない	必要である	どちらかといえばいい	必要でない
33	魅力的な商業ゾーンである末広町、中央通などの地元商店街	1	2	3	4	5	1	2	3
34	賑わいのある商業ゾーンである小山田や宮町、長町などの沿道沿い	1	2	3	4	5	1	2	3
35	娯楽やレジャー施設	1	2	3	4	5	1	2	3
36	おいしい店や楽しく飲食できる店	1	2	3	4	5	1	2	3
37	食品や日用品などの買い物のしやすさ	1	2	3	4	5	1	2	3
38	魅力ある観光スポットや特産品	1	2	3	4	5	1	2	3
39	魅力ある伝統文化や文化財	1	2	3	4	5	1	2	3
40	新しい産業や創造的な企業が生まれる土壌	1	2	3	4	5	1	2	3
41	パートやアルバイトを含めた多様な就労の場	1	2	3	4	5	1	2	3
42	担い手が多く、盛んな農業	1	2	3	4	5	1	2	3
43	担い手が多く、盛んな林業	1	2	3	4	5	1	2	3
44	担い手が多く、盛んな水産業	1	2	3	4	5	1	2	3
45	魚価の安定や消費拡大のための対策	1	2	3	4	5	1	2	3
46	多くの市民の就労の場となり、盛んな工業	1	2	3	4	5	1	2	3
47	様々なことに有効活用されている港湾	1	2	3	4	5	1	2	3
48	宮古駅周辺における生活に必要な施設や機能の充実	1	2	3	4	5	1	2	3
49	鉄道・バスなどの公共交通が利用しやすい環境	1	2	3	4	5	1	2	3
50	国道や県道などの幹線道路の整備状況	1	2	3	4	5	1	2	3
51	幹線となる市道の整備状況	1	2	3	4	5	1	2	3
52	身近な生活道路の整備状況	1	2	3	4	5	1	2	3
53	駐輪・駐車場の整備状況	1	2	3	4	5	1	2	3
54	公園・緑地などの整備・保全状況	1	2	3	4	5	1	2	3
55	公営住宅の整備状況	1	2	3	4	5	1	2	3
56	年をとっても安心して住める住まい	1	2	3	4	5	1	2	3
57	身近な情報や知りたい情報を入手する手段の豊富さ	1	2	3	4	5	1	2	3
58	適切な場所に設置された行政サービスの窓口	1	2	3	4	5	1	2	3
59	民間・行政における市外他地域との盛んな交流活動	1	2	3	4	5	1	2	3
60	火災に対する消防体制	1	2	3	4	5	1	2	3
61	災害時に必要な情報が入手できる手段（防災行政無線など）	1	2	3	4	5	1	2	3
62	適切に指定された災害時の避難所・避難場所	1	2	3	4	5	1	2	3
63	自然災害（土砂崩れ・洪水・津波など）に対する防災体制	1	2	3	4	5	1	2	3

問2 あなたは、今お住まいの地域をどの程度好きですか。(○印は1つ)

- | | | |
|--------------|-----------|--------------|
| 1. 好きだ | 2. まあ好きだ | 3. どちらともいえない |
| 4. あまり好きではない | 5. 好きではない | |

問3 あなたは、宮古市をどの程度好きですか。(○印は1つ)

- | | | |
|--------------|-----------|--------------|
| 1. 好きだ | 2. まあ好きだ | 3. どちらともいえない |
| 4. あまり好きではない | 5. 好きではない | |

問4 あなたは、宮古市内に今後も住み続けたいと思いますか。(○印は1つ)

- | | |
|----------------------|-------------------|
| 1. 今のところにずっと住むつもりである | 2. 市内のほかのところへ移りたい |
| 3. できれば市外に移りたい | 4. すぐにでも市外に移りたい |
| 5. わからない | |

問5 宮古市が暮らしやすくなるために、必要なことは何だと思えますか。(○印は3つまで)

- | | | | |
|---------------------|-----------|-------------------|------------|
| 1. 住居の確保 | 2. 働く場の確保 | 3. 子育て環境の充実 | 4. 教育環境の充実 |
| 5. 医療や福祉の充実 | | 6. 老後の生活(介護)の充実 | |
| 7. 自然環境 | | 8. 公共交通機関の充実や道路整備 | |
| 9. イベントや交流の場 | | 10. 商業施設や娯楽施設 | |
| 11. 災害に強く治安が良い安全なまち | | | |
| 12. その他 () | | | |
| 13. わからない | | | |

地域や社会とのかかわりについてお聞きします

問6 以下のようなA・Bの異なる意見があるとして、あなたはA・Bどちらの意見に近いお考えをお持ちですか。あてはまるところに○をつけてください。(○印はそれぞれ1つずつ)

Aの意見	Aの意見に近い	Aどちらかというところ Aの意見に近いところ どちらともいえない	どちらともいえない	Bの意見に近いところ Bの意見に近いところ	Bの意見に近い	Bの意見
地域のことに自分の意見を出し、活動にも参加したい	1	2	3	4	5	地域のことは、熱心に取り組んでいる人たちが中心になって考えればよい
地域のつながりを大事にしていきたい	1	2	3	4	5	地域のつながりはそれほど求めていない
市の事業に自分の知識や経験・能力などが活かされるなら無報酬でも協力したい	1	2	3	4	5	市の事業に特に関心はなく、ゆとりもないので、協力するつもりはない

問7 あなたは、本来の仕事・学業とは別に次のような活動に関心がありますか。あてはまるものに○をつけてください。(○印は1つ)

	活動に関心があり すでに参加している	活動に関心があり 機会があれば参加したい	活動に関心がない
1 町内会、自治会の活動	1	2	3
2 交通安全、防犯に関する活動(子どもの登下校時の見守りなど)	1	2	3
3 環境保全・環境美化に関する活動(清掃活動、リサイクル活動、花壇づくりなど)	1	2	3
4 社会福祉に関する活動(高齢者や障がい者などの介護・身の回りの世話、保育など)	1	2	3
5 保健・医療・衛生に関する活動	1	2	3
6 小・中学校への支援活動(環境整備、読書活動など)	1	2	3
7 青少年育成に関する活動(PTA活動、子ども会活動など)	1	2	3
8 スポーツに関する活動(社会人チームでの活動、スポーツ少年団での指導など)	1	2	3
9 芸術文化に関する活動(音楽、演劇など)	1	2	3
10 学習に関する活動(料理、英会話、書道など)	1	2	3
11 芸術・文化に関する情報(芸術イベント、文化財の企画展など)	1	2	3
12 国際化の理解活動(学習、交流、定住者支援、通訳、技術援助など)	1	2	3
13 観光に関する活動(観光案内、通訳など)	1	2	3
14 自主的な防災活動や災害時の救援活動	1	2	3
15 消防団の活動	1	2	3
16 NPO や市民団体の活動	1	2	3
17 地域のイベントや祭りへの参加	1	2	3
18 デジタル活用に関する活動(情報弱者に対する支援など)	1	2	3
19 その他(具体的に)	1	2	3

問8 あなたは、普段近所の人とどのような付き合いをしていますか。(○印は1つ)

1. 日頃から家族ぐるみの付き合いがある
2. 困っているときに相談をしたり、助けあったりする
3. 留守をする時に声をかけあう
4. たまに立ち話をする程度
5. 付き合いがほとんどない
6. その他()

問9 地域住民がお互いに力をあわせて、住みよい地域社会を実現していくうえで、問題になることは何だと思いませんか。(〇印はいくつでも)

1. 近所付き合いが減っていること
2. 町内会・自治会の活動などに参加しにくい雰囲気があること
3. 日中、仕事などで地域を離れている人が多いこと
4. 地域に関心のない人が多いこと
5. 地域活動への若い人の参加が少ないこと
6. 地域での交流機会が少ないこと
7. その他()

問10 災害の避難の際に心配なことがありますか。(〇印はいくつでも)

1. 自分で避難できる自信がない
2. 周りに助けてくれる人がいない
3. 避難する場所がわからない
4. 特にない
5. その他()

市役所や行政サービスについてお聞きます

問11 あなたは、市政に関して日頃から関心をお持ちですか。(〇印は1つ)

1. かなり関心がある 2. まあ関心がある 3. あまり関心がない 4. まったく関心がない

問12 あなたは、市が発行している広報紙「広報みやこ」をどの程度読んでいますか。
(〇印は1つ)

1. よく読んでいる 2. たまに読んでいる 3. ほとんど読まない

問12-1 広報紙の内容について、ご意見・ご感想などがありましたらお書きください。

問 13 あなたは、市のホームページや市公式SNSなどを見たことがありますか。また、その内容についてどのように考えていますか。あてはまるところに○をつけてください。 (○印はそれぞれ1つずつ)	利用度			満足度		
	よく知っている	たまに見ている	見たことがない	十分である	充実してほしい	必要としていない
1 ホームページ	1	2	3	1	2	3
2 フェイスブック (facebook)	1	2	3	1	2	3
3 ツイッター (twitter)	1	2	3	1	2	3
4 ライン (LINE)	1	2	3	1	2	3
5 インスタグラム (Instagram)	1	2	3	1	2	3
6 ユーチューブ (YouTube)	1	2	3	1	2	3

問 13-1 市のホームページや市公式SNSに対する意見がありましたらお書きください。

問 14 あなたは、コミュニティエフエム放送 (82.6MHz・みやこハーバーラジオ) を聴いたことがありますか。(○印は1つ)

1. ある (問 14-1 にお進みください) 2. ない (問 15 にお進みください)

問 14-1 どれくらいの頻度で聴いていますか。(○印は1つ)

1. 毎日 2. 週4～6日 3. 週1～3日
4. ほとんど聴かない 5. その他 ()

問 14-2 どこで聴いていますか。(○印は1つ)

1. 自宅 2. 職場 3. 車内 4. その他 ()

問15 あなたは、現在の市の行政サービスについて、どのような感想をお持ちですか。あてはまるところに○をつけてください。
(○印はそれぞれ1つずつ)

	そう思う	まあそう思う	どちらともいえない ambivalent	あまり そう思わない	そう思わない
1 市民の要望・苦情によく応えている	1	2	3	4	5
2 対応が迅速である	1	2	3	4	5
3 公平な立場に立って問題を解決している	1	2	3	4	5
4 市民・企業・団体などのまとめ役になっている	1	2	3	4	5
5 市の施策や事業は継続性がある	1	2	3	4	5
6 将来を見据えた事業を行っている	1	2	3	4	5
7 地域の実情に応じた事業を行っている	1	2	3	4	5
8 市の施策や事業に市民の意見が反映されている	1	2	3	4	5
9 高度な問題にも対応している	1	2	3	4	5
10 効率性や採算性を考えて事業を行っている	1	2	3	4	5
11 事業の見直しや変更を適切に行っている	1	2	3	4	5
12 社会や時代の変化に対応した事業を行っている	1	2	3	4	5
13 専門的なサービスを受けられる	1	2	3	4	5
14 施設やサービスの利用料が適切である	1	2	3	4	5
15 生活に不可欠なサービスを提供している	1	2	3	4	5
16 生活全般にわたり様々なサービスを提供している	1	2	3	4	5
17 民間ではできないサービスを提供している	1	2	3	4	5
18 情報が十分に公開されている	1	2	3	4	5
19 プライバシーの保護が図られている	1	2	3	4	5
20 市政はうまく行われている	1	2	3	4	5

デジタル技術の活用についてお聞きます

問16 あなたは、ご自宅や職場などでインターネットを利用されていますか。(○印は1つ)

1. 利用している(問16-1にお進みください)

2. 利用していない(問16-2にお進みください)

問16-1 どのような手段で利用されていますか。(○印はいくつでも)

1. パソコン
2. 携帯電話(スマートフォン含む)
3. タブレット端末
4. その他

[]

問16-2 利用していない理由は何ですか。(○印はいくつでも)

1. 利用する必要がない
2. 機器の操作が難しい
3. プライバシーが不安
4. 機器が高価である
5. インターネットがよくわからない
6. その他

[]

問 16-3 (問 16-1、2 共通) 利用するために必要な支援があれば教えてください。(○印はいくつでも)

1. パソコン・スマートフォン教室や、情報セキュリティに関する学習の場
2. すぐに相談できる環境の整備
3. その他 ()

問 17 あなたは、キャッシュレス決済を利用されていますか。(○印は1つ)

1. 利用している(問 17-1にお進みください)

2. 利用していない(問 17-2にお進みください)

問 17-1 利用されているサービスを教えてください。(○印はいくつでも)

1. 電子マネー
(Suica, WAON, nanaco など、
後払い式: id, QUICPay など)
2. バーコード・QRコード
(d払い, auPAY, PayPay, LINEPay,
楽天 Pay など)
3. クレジットカード
4. その他

[]

問 17-2 利用していない理由は何ですか。(○印はいくつでも)

1. 利用する必要がない
2. 機器の操作が難しい
3. プライバシーが不安
4. キャッシュレス決済がよくわからない
5. 利用できる店舗が少ない
6. その他

[]

問 18 デジタル技術を活用したほうがよいと考える行政サービスがありましたらお書きください。

これからの宮古市のまちづくりについてお聞きます

問 19 これからのまちづくりや市の施策について、以下の点でA・Bの異なった意見があるとして、あなたはどちらに近いお考えをお持ちですか。あてはまるところに○をつけてください。(○印はそれぞれ1つずつ)

Aの意見	Aの意見に近い	Aの意見に近い どちらかという ところ	いえない	Bの意見に近い どちらかという ところ	Bの意見に近い	Bの意見
行政は大きな課題となっている施策を優先的に充実させるべきだ	1	2	3	4	5	行政は様々な課題に対して均等に施策を展開すべきだ
人口減少は、市民生活や経済活動に影響があることから、人口減少を抑制する取り組みをするべきだ	1	2	3	4	5	人口減少を食い止めることは難しいので、将来の人口規模を考えてまちづくりをするべきだ
まちづくりは市民と行政が協働して進めるものであり、市民は積極的に参加するべきだ	1	2	3	4	5	まちづくりは行政の役割であり、市民が積極的にかかわる必要はない

Aの意見	Aの意見に近い	Aの意見に近い Aの意見に近い 意見に近い	Aの意見に近い 意見に近い	Bの意見に近い	Bの意見に近い	Bの意見
地域をよりよい環境にするために住民が主体的に取り組んでいる活動について、資金の調達や運営は住民主体で行うべきだ	1	2	3	4	5	地域をよりよい環境にするために住民が主体的に取り組んでいる活動に対して、行政が資金や助言を与えることは必要だ
農地や森林は環境資源としても重要なので、市が保全に対して支援すべきだ	1	2	3	4	5	農地や森林の保全は基本的に所有者の自主性にまかせ市が関与する必要はない
住民票などを発行する市の窓口は、経費をかけても休日や祝日、夜間に利用できる方がよい	1	2	3	4	5	経費の増加が伴うのなら、住民票などを発行する市の窓口の利用環境は今のままでよい
公共施設を整備する際は、多少費用がかかっても環境や景観に配慮したものにすべきだ	1	2	3	4	5	公共施設を整備する際はできる限り経費を抑えるべきで、環境や景観にそれほどこだわる必要はない
公共施設の利用料金は、市民が利用しやすいように公費(税金)を投入しても低く抑える方がよい	1	2	3	4	5	公共施設の利用料金は、利用しない人のことも考えてある程度高くなってもよい
公共施設が老朽化した場合は、建て替えや補修による長寿命化をして維持すべきだ	1	2	3	4	5	公共施設が老朽化した場合は、複数の類似施設を整理統合して集約すべきだ
ごみの多少にかかわらず、ごみ収集・処理の費用は公費(税金)でまかなうべきだ	1	2	3	4	5	ごみの減量化を進めるため、一定量以上の排出は有料にすべきだ
市民に良質な住宅を提供するため、公営住宅の整備を進めていくべきだ	1	2	3	4	5	公営住宅の整備は民業の圧迫につながることから、整備は必要最小限にすべきだ
これからのまちづくりは、拠点となる地区を重点的に整備し、まちをコンパクト化していくべきだ	1	2	3	4	5	今後も、すべての地区を公平に(順番に)整備していくべきだ
市の手続きがいつでもインターネットからできるように、経費をかけてもデジタル化していくべきだ	1	2	3	4	5	経費の増加が伴うのなら、市の手続きについてはデジタル化せず今のままでよい

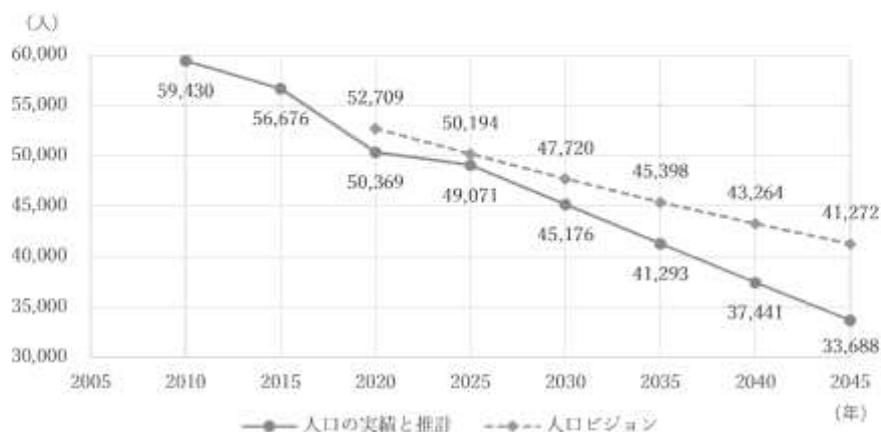
問20 「安全な地域づくり」を進めるため、今後、取り組むことが特に大切であると思う施策はどれですか。(○印は3つまで)

- | | |
|------------------|---------------------|
| 1. 災害に強いまちづくりの推進 | 2. 災害に強い交通ネットワークの形成 |
| 3. 地域防災力の向上 | 4. 防災・危機管理体制の強化と再構築 |
| 5. 災害記憶の後世への継承 | |

問21 今後のまちづくりについてご意見などがありましたら、なんでも結構ですので、ご自由にお書きください。

人口を増やすための取り組みについてお聞きます

◎宮古市の人口の推計と、「だれもが、いつまでも住み続けたい」と思える環境をつくり、人口減少の速度をおさえた場合(=人口ビジョン)の「将来の人口の予想」



問 28 今後、人口が減少し続けた場合、特に問題だと思うものを教えてください。(○印は3つまで)

1. 子どもが少なくなる
2. まちの賑わい・活気がなくなる
3. 地区・集落が維持できない
4. 地域産業の担い手が不足し、地域経済が衰退する
5. 店舗・商業施設が減る
6. 医療機関が減る
7. 地域から学校が無くなる
8. 自治会・地域組織の運営が成り立たない
9. 伝統芸能・文化の担い手が不足する
10. 空家が増加する
11. 公共サービスが低下する
12. 特に問題とは思わない
13. その他 ()

問 29 人口増に向けた取り組みについて、ご意見などがありましたら、なんでも結構ですのでご自由にお書きください。

Q7 あなたは結婚されていますか。(○印は1つ)

- | | |
|-----------------|------------------|
| 1. 未婚 | 2. 既婚(共働きをしていない) |
| 3. 既婚(共働きをしている) | 4. 離別・死別 |

Q8 あなたが現在一緒にお住まいのご家族の構成は、次のうちのどれにあたりますか。(○印は1つ)

- | | |
|-------------------------------|-------------------------|
| 1. 単身世帯(1人で住んでいる世帯) | 2. 一世代世帯(夫婦で住んでいる世帯) |
| 3. 二世代世帯(親と子で住んでいる世帯) | 4. 三世代世帯(親と子と孫で住んでいる世帯) |
| 5. その他の世帯(1~4のいずれにもあてはまらない世帯) | |

Q9 あなたは、お子さんがいらっしゃいますか。(○印は1つ)

- | | |
|-------------------------|-------------------------|
| 1. 子どもがいる(Q9-1にお進みください) | 2. 子どもはいない(Q10にお進みください) |
|-------------------------|-------------------------|



Q9-1 あなたの一番下のお子さんは、現在どのような成長段階にありますか。(○印は1つ)

- | | | | |
|--------------------------|-----------|--------|--------|
| 1. 小学校就学前 | 2. 小学生 | 3. 中学生 | 4. 高校生 |
| 5. 大学生・大学院生(短大・専修学校等を含む) | | | |
| 6. 学校教育終了 | 7. その他() | | |

Q10 あなたの主な通勤・通学先はどちらですか。(○印は1つ)

- | | | |
|--------------|--------------|---------------|
| 1. 自宅(自営業など) | 2. 同じ地区内 | 3. 1・2以外の宮古市内 |
| 4. 近隣市町村 | 5. 通勤・通学先はない | 6. その他() |

Q11 あなたは健康だと思いますか。(○印は1つ)

- | | | |
|-------------|------------|--------------|
| 1. 健康である | 2. まあ健康である | 3. どちらともいえない |
| 4. あまり健康でない | 5. 健康でない | |

Q12 市政全般についてご提案・アイデア・ご意見などがありましたら、なんでも結構ですのご自由にお書きください。

ご協力ありがとうございました。お手数ですが、記入もれがないかもう一度ご確認ください。

9/20(水)まで

聞かせてください将来のために

宮古市市民意識調査への

回答をお願いしています。



この調査は、

森・川・海 と ひと が

調和し共生する安らぎのまち

の実現に向けてまちづくりを進めていくための計画（宮古市総合計画後期基本計画）策定の基礎資料とするものです。



問合せ先

宮古市企画部企画課 企画調整係 電話：0193-68-9064（直通）

- この調査の内容は、統計的に処理しますので、個人が特定されることはありません。
- WEB でご回答される方は、お手持ちのスマートフォンなどで上記の二次元コードを読み取り、入力画面を立ち上げてからご回答ください。
PC でのアクセスはこちら URL <https://logofom.jp/form/4cHy/305810>
- 紙のアンケート用紙が届いた方も WEB で回答できます。
- 最初の質問から1問ずつ、全部の質問にお答えください。
- アンケートの集計結果は、施策に役立てるとともに市のHPでお知らせする予定です。